

Ⅱ 市民意識・実態調査

1. 回答者の属性

(1) 性別

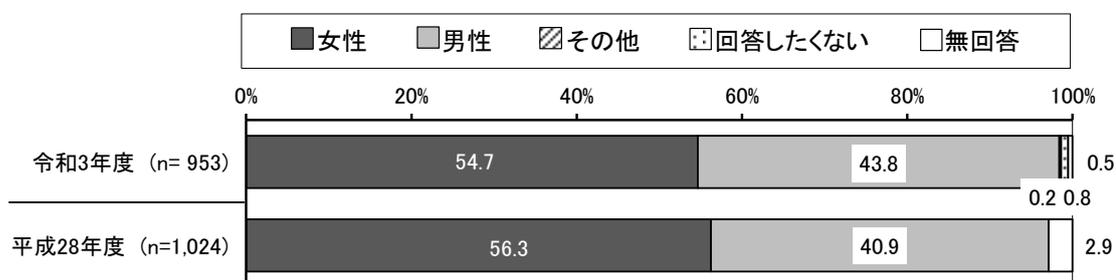
F1 性別をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

性別は、「女性」が54.7%、「男性」が43.8%と、女性が男性を上回ります。また、「回答したくない」が0.8%（8人）、「その他」が0.2%（2人）となっています。

【経年比較】

選択肢の数が増えたため、数値の正確な比較はできませんが、前回調査と比較すると、「男性」の割合が上昇しています（2.9ポイント差）。

図F1-1 性別【全体・経年比較】



※前回調査では「その他」「回答したくない」の選択肢はなし。

(2) 年齢

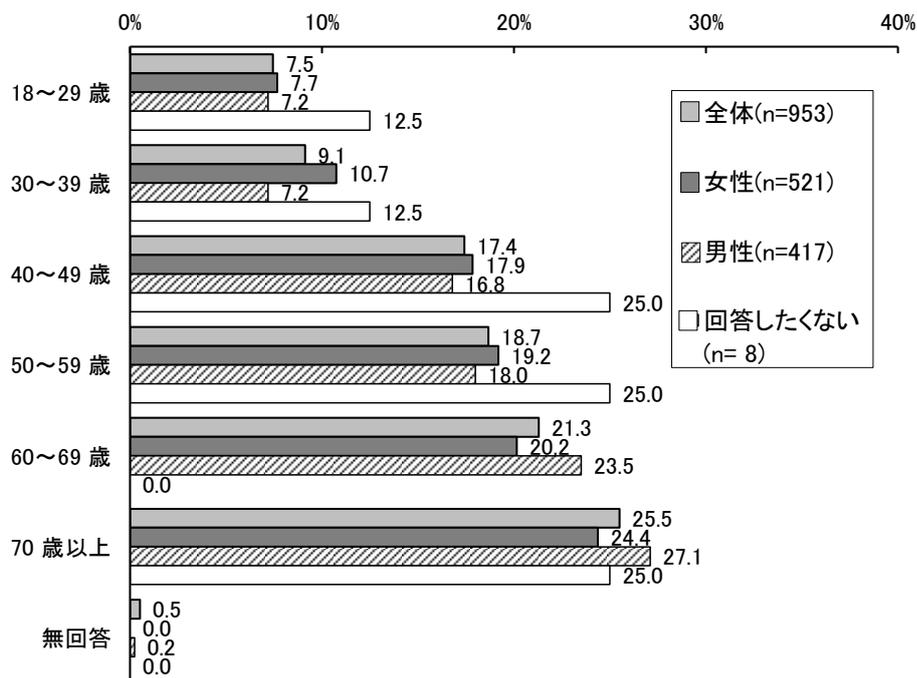
F2 令和3年10月1日現在の、あなたの年齢をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

年齢は、「70歳以上」が25.5%と最も高く、次いで「60～69歳」が21.3%、「50～59歳」18.7%、「40～49歳」17.4%となっています。

【性別】

性別にみると、特に、「30～39歳」では女性が男性を上回り（3.5ポイント差）、「60～69歳」や「70歳以上」では、男性が女性をやや上回ります（各3.3/2.7ポイント差）。

図F2-1 年齢【全体・性別】



(3) 職業

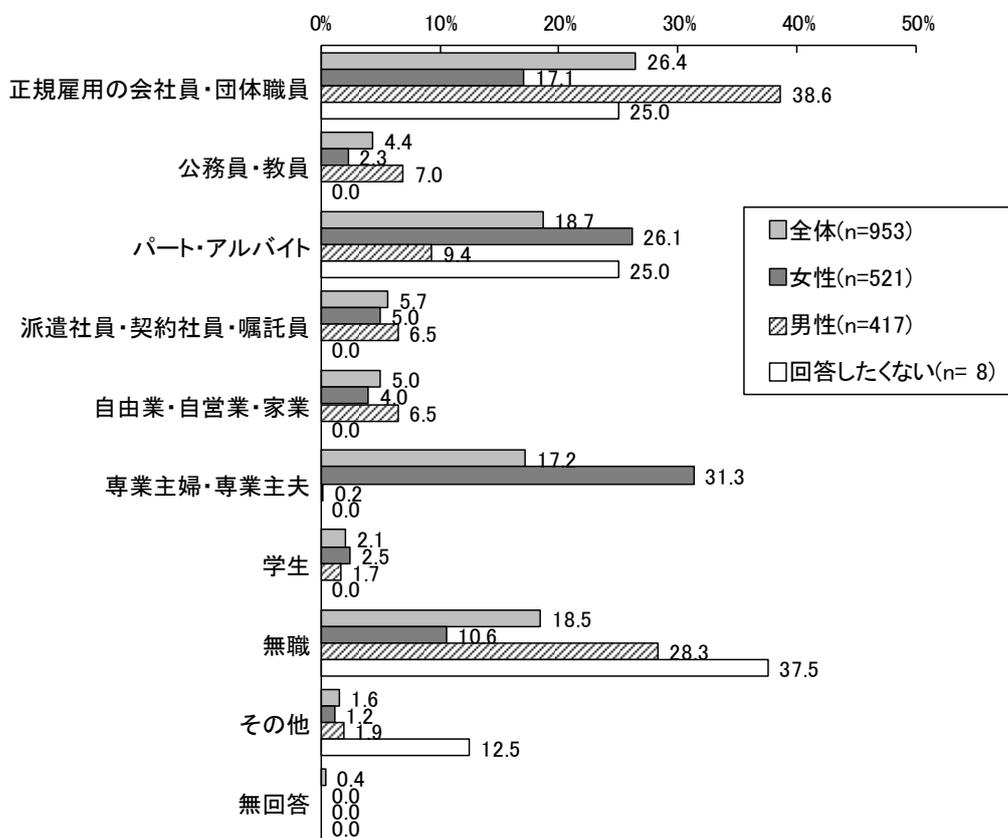
F3 あなたのご職業をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

職業は、「正規雇用の会社員・団体職員」が26.4%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が18.7%、「無職」が18.5%、「専業主婦・専業主夫」が17.2%となっています。

【性別】

性別にみると、女性は「専業主婦・専業主夫」が31.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が26.1%、「正規雇用の会社員・団体職員」が17.1%となっています。男性では、「正規雇用の会社員・団体職員」が38.6%と最も高く、次いで「無職」が28.3%、「パート・アルバイト」が9.4%となっています。

図F3-1 職業【全体・性別】



●その他回答
シルバー人材センター、会社役員 等

(4) 通勤・通学先への所要時間

【F3-1～2は、就業または就学している方にうかがいます。】

F3-1 あなたは通勤先または通学先までの所要時間はどのくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

通勤先または通学先への所要時間は、「30分未満」が42.0%と最も高く、次いで「30分以上1時間未満」が22.2%、「1時間以上1時間30分未満」が18.4%など、短い所要時間ほど高くなっています。

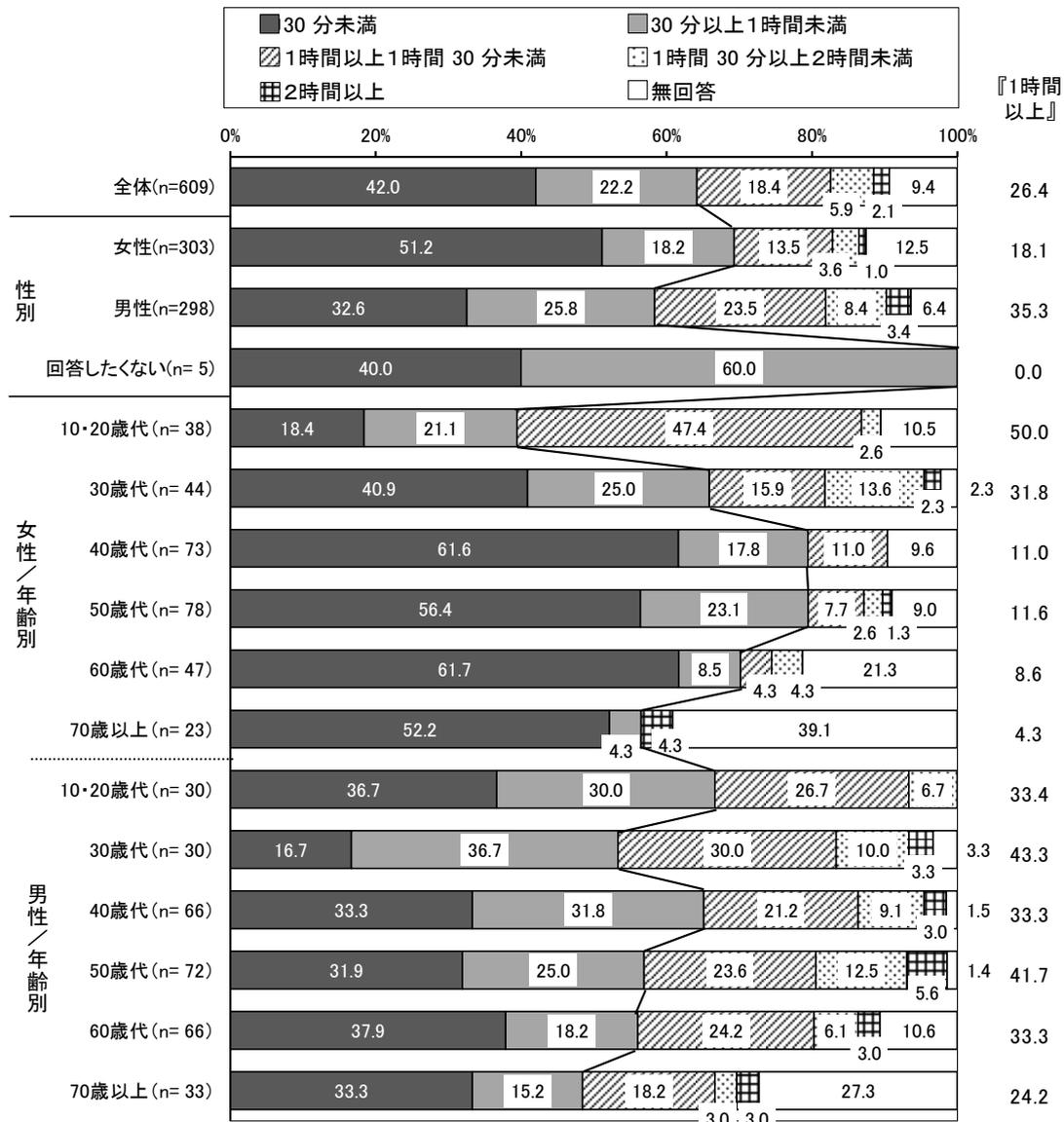
【性別】

性別にみると、男女とも「30分未満」が最も高くなっています。一方で、「1時間以上1時間30分未満」から「2時間以上」までを合計した『1時間以上』は男性で高くなっています。

【性/年齢別】

性/年齢別にみると、女性は10・20歳代、男性は30歳代と50歳代で『1時間以上』が4割以上と高くなっています。

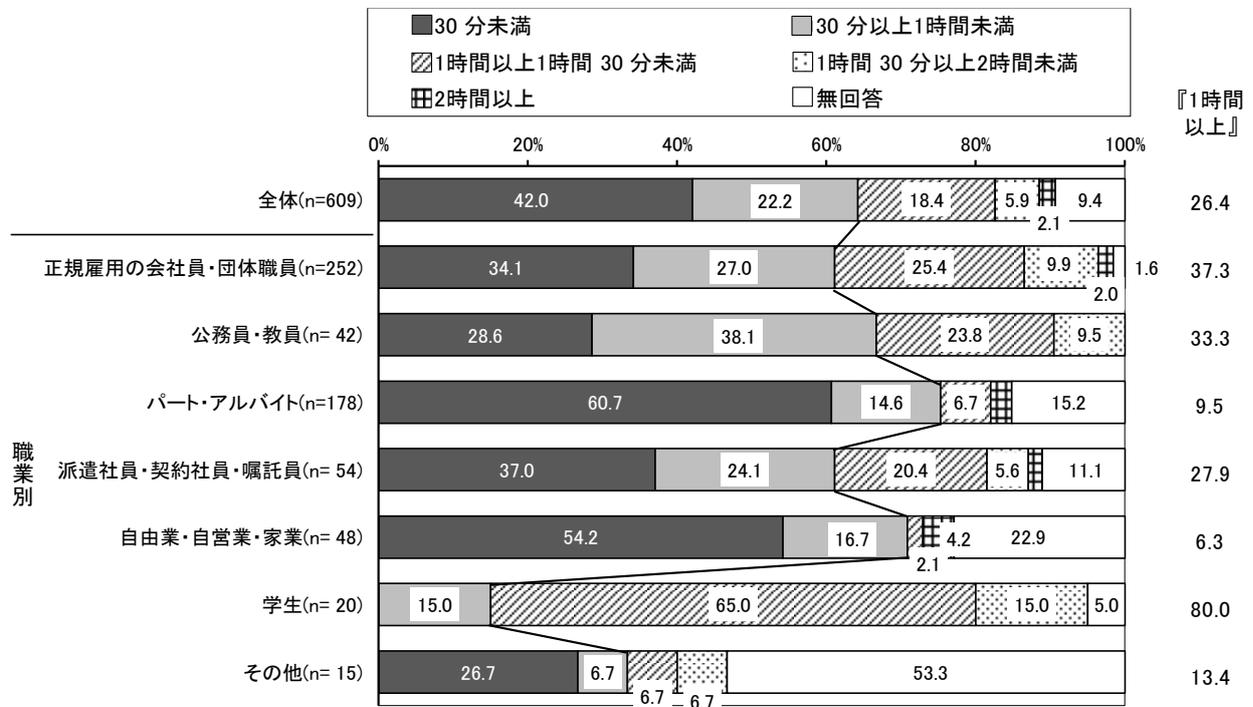
図 F3-1-1 通勤・通学先への所要時間【全体・性別・性/年齢別】



【職業別】

職業別にみると、パート・アルバイトと自由業・自営業・家業では「30分未満」が5～6割と他の職業に比べ高くなっています。また、正規雇用の会社員・団体職員と公務員・教員ではともに『1時間以上』が3割台となっています。

図 F3-1-2 通勤・通学先への所要時間【職業別】



(5) 通勤・通学先

F3-2 あなたの通勤先または通学先はどちらですか。(あてはまる番号1つに○)

通勤先または通学先は、「市外」が66.0%と半数以上を占め、「市内」は23.5%、「市外と市内の両方」は2.3%となっています。

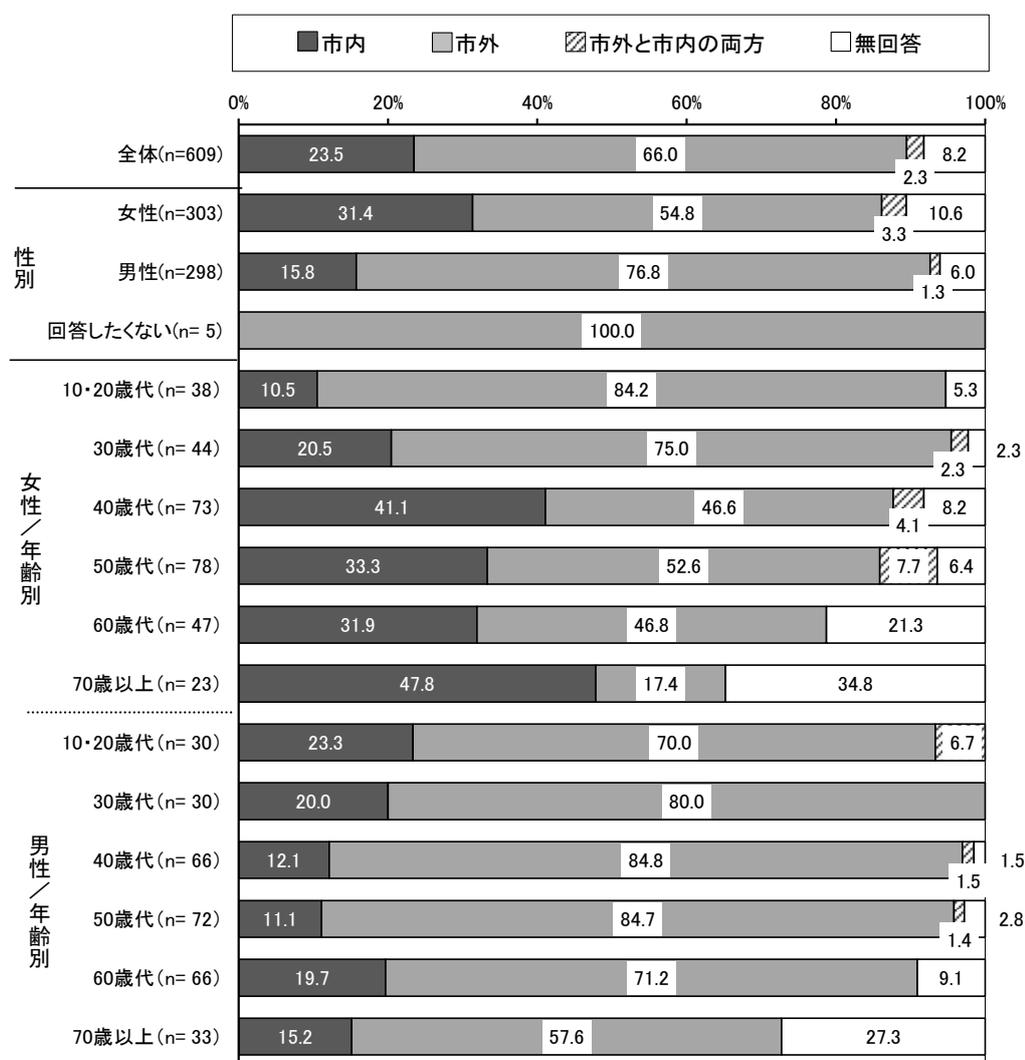
【性別】

性別にみると、男女とも「市外」が最も高くなっていますが、その割合は男性が女性を上回ります(22.0ポイント差)。

【性/年齢別】

性/年齢別にみると、「市外」について、女性は10~30歳代では7割を超えています。40~60歳代では5割前後となっています。男性は、10~60歳代で7割を超えています。

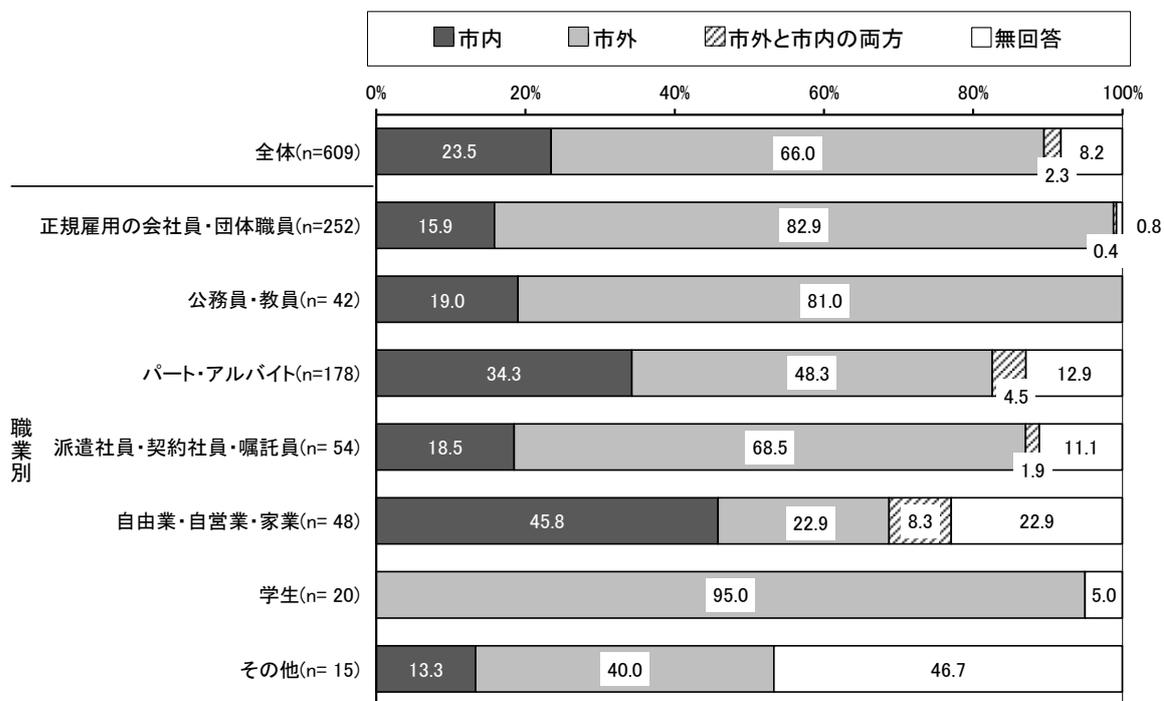
図F3-2-1 通勤先・通学先【全体・性別・性/年齢別】



【職業別】

職業別にみると、パート・アルバイトと自由業・自営業・家業では「市内」が3～4割台と他の職業に比べ高くなっています。また、正規雇用の会社員・団体職員、公務員・教員、学生ではともに「市外」が8割を超えています。

図 F3-2-2 通勤先・通学先【職業別】



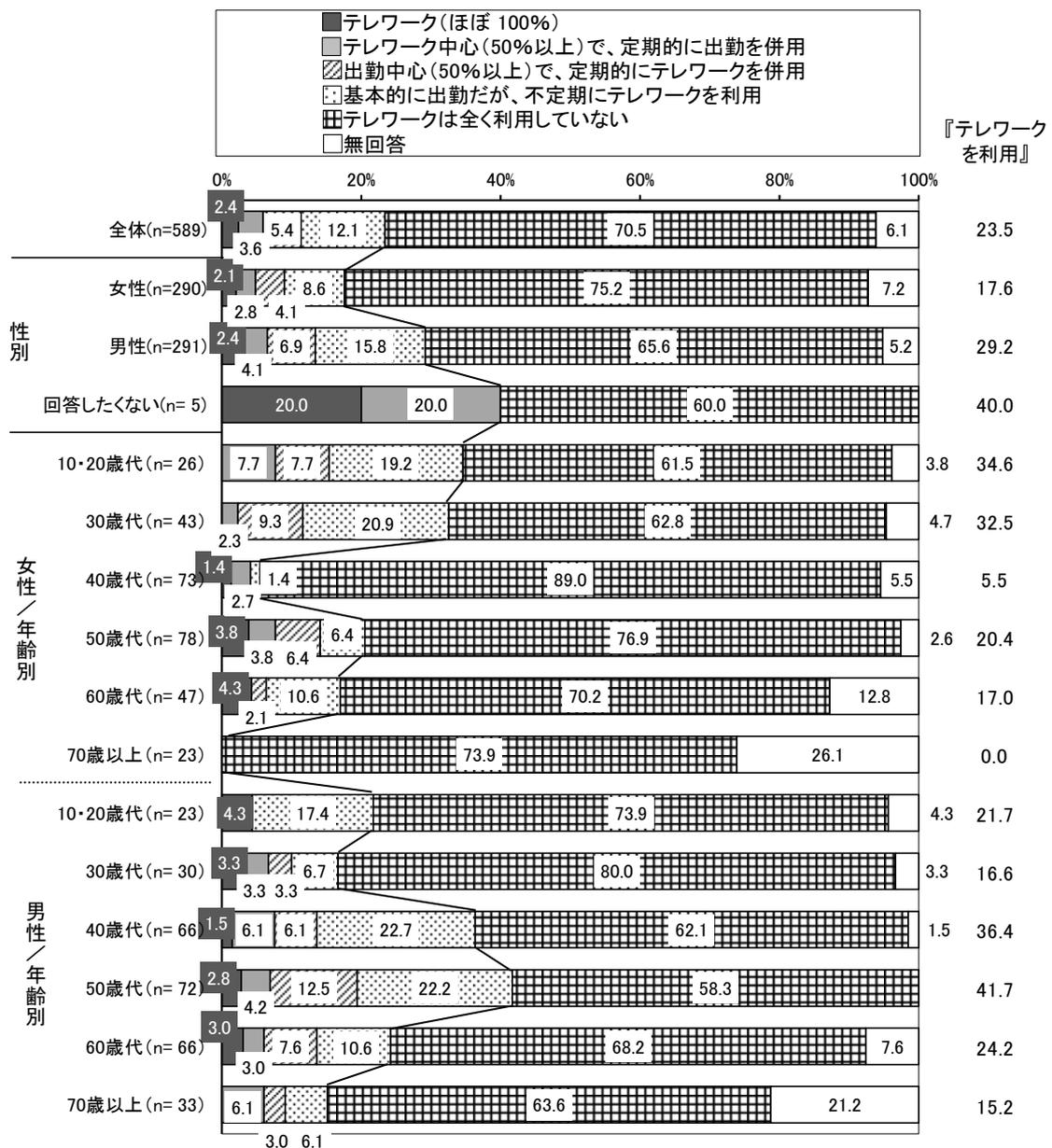
(6) テレワークの実施状況

【F3-3は、就業している方にかがいます。】

F3-3 あなたの勤め先では、テレワークを実施していますか。現在のテレワーク利用状況に近いものを選びお答えください。(あてはまる番号1つに○)

テレワークの実施状況について、「テレワークを全く利用していない」が70.5%と最も高く、次いで「基本的に出勤だが、不定期にテレワークを利用」が12.1%であり、「テレワーク(ほぼ100%)」から「基本的に出勤だが、不定期にテレワークを利用」までを合計した『テレワークを利用』は全体の2割程度となっています。

図F3-3-1 テレワークの実施状況【全体・性別・性/年齢別】



【性別】

性別にみると、男女とも「テレワークを全く利用していない」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回っています（9.6ポイント差）。（図F3-3-1）

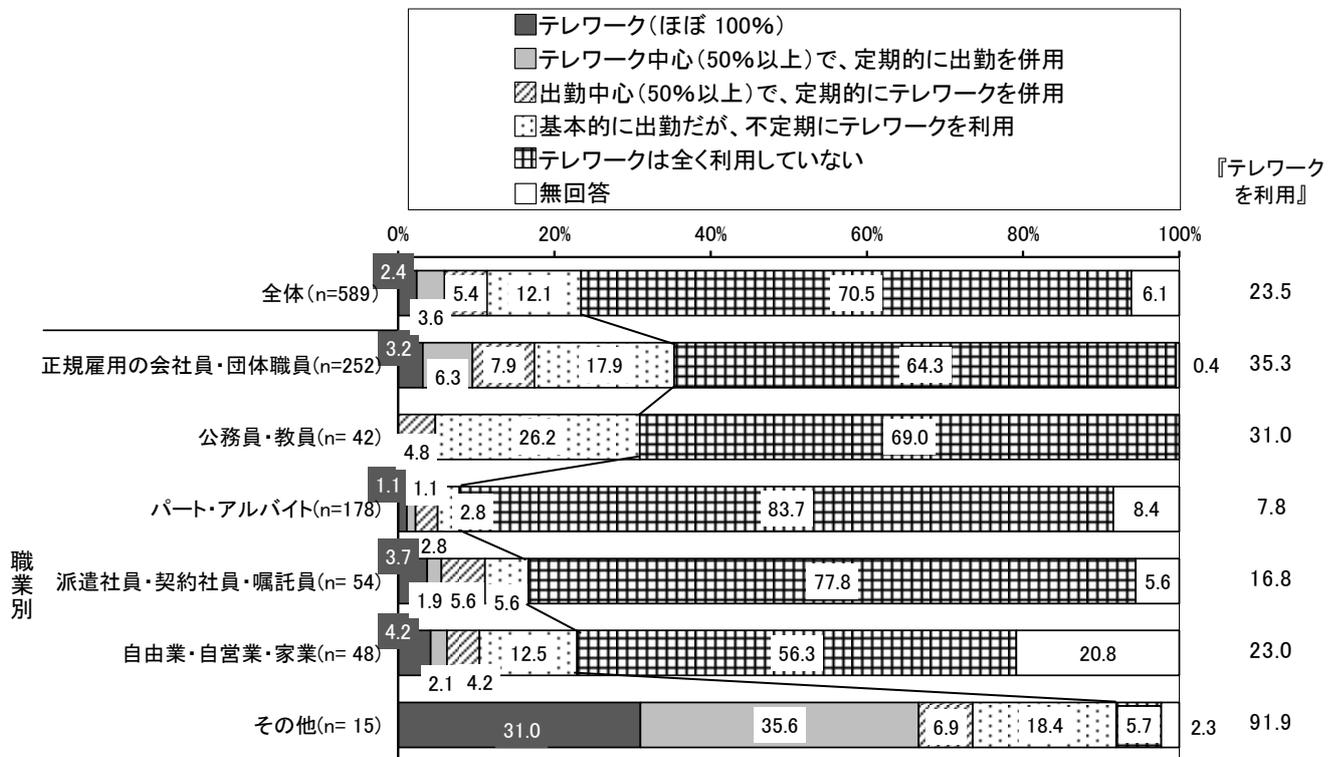
【性／年齢別】

性／年齢別にみると、『テレワークを利用』は女性の20～30歳代と男性の40～50歳代で3割以上と高くなっています。（図F3-3-1）

【職業別】

職業別にみると、『テレワークを利用』は正規雇用の会社員・団体職員と公務員・教員で3割以上と高くなっています。

図F3-3-2 テレワークの実施状況【職業別】



(7) パート・アルバイト等の働き方を選んだ理由

【F3-4、F3-5は、F3で「3. パート・アルバイト」「4. 派遣社員等」とお答えの方にうかがいます。】

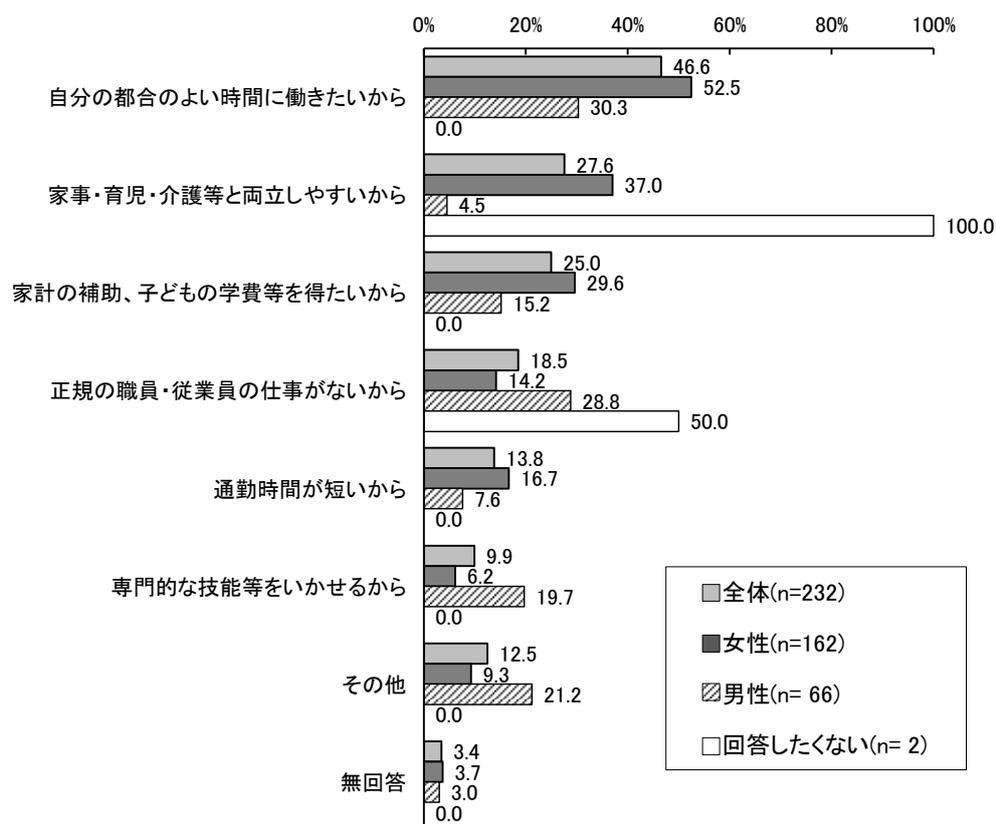
F3-4 あなたが非正規雇用で働く理由は何ですか。(あてはまる番号3つまでに○)

パート・アルバイト等の働き方を選んだ理由については、「自分の都合のよい時間に働きたいから」が46.6%と最も高く、次いで「家事・育児・介護等と両立しやすいから」が27.6%、「家計の補助、子どもの学費等を得たいから」が25.0%、「正規の職員・従業員の仕事がないから」が18.5%となっています。

【性別】

性別にみると、男女ともに「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回っています(22.2ポイント差)。また、女性は「家事・育児・介護等と両立しやすいから」や「家計の補助、子どもの学費等を得たいから」、男性は「正規の職員・従業員の仕事がないから」などの順となっています。

図F3-4-1 パート・アルバイト等の働き方を選んだ理由 【全体・性別】



●その他回答

- ・配偶者の扶養の範囲内で働きたいから
- ・体調不良や障がいのため正規雇用での勤務が難しい
- ・60歳以上の延長雇用が非正規雇用だったため 等

(8) 正規雇用への転換希望

F3-5 あなたは、正規雇用（労働契約の期間の定めがなく、労働時間がフルタイムのもの）で働きたいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

パートタイム等の方に正規雇用で働きたいと思うかたずねたところ、「いいえ」が62.5%、「はい」が34.1%となっています。

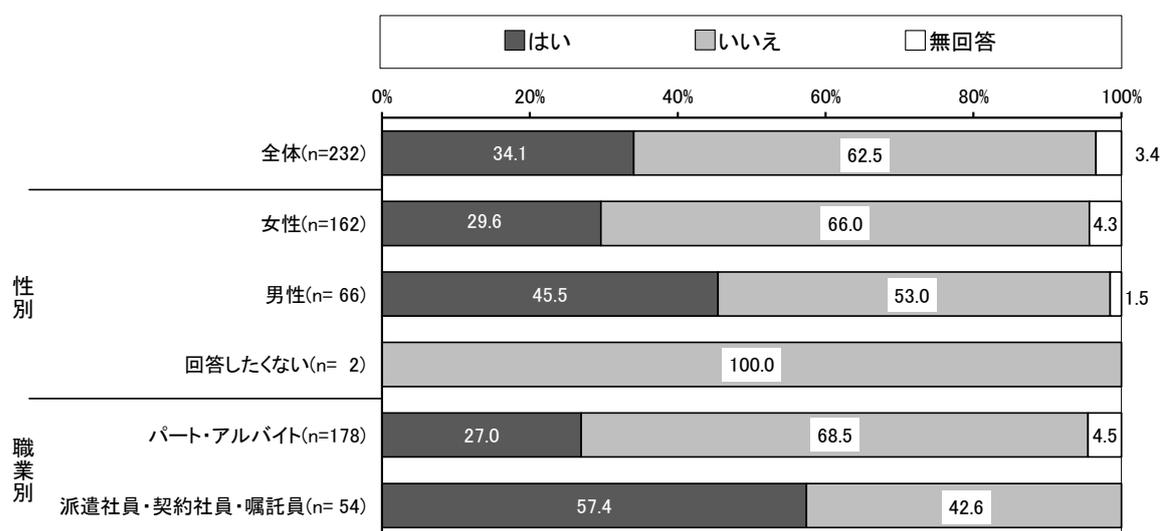
【性別】

性別にみると、「はい」は男性が女性を上回っています（15.9ポイント差）。

【職業別】

職業別にみると、「はい」は派遣社員・契約社員・嘱託員がパート・アルバイトを大きく上回っています（30.4ポイント差）。

図F3-5-1 正規雇用への希望【全体・性別・職業別】



(9) 正規雇用で働きたい理由

【F3-6は、F3-5で「1. はい」とお答えの方のうちがいます。】

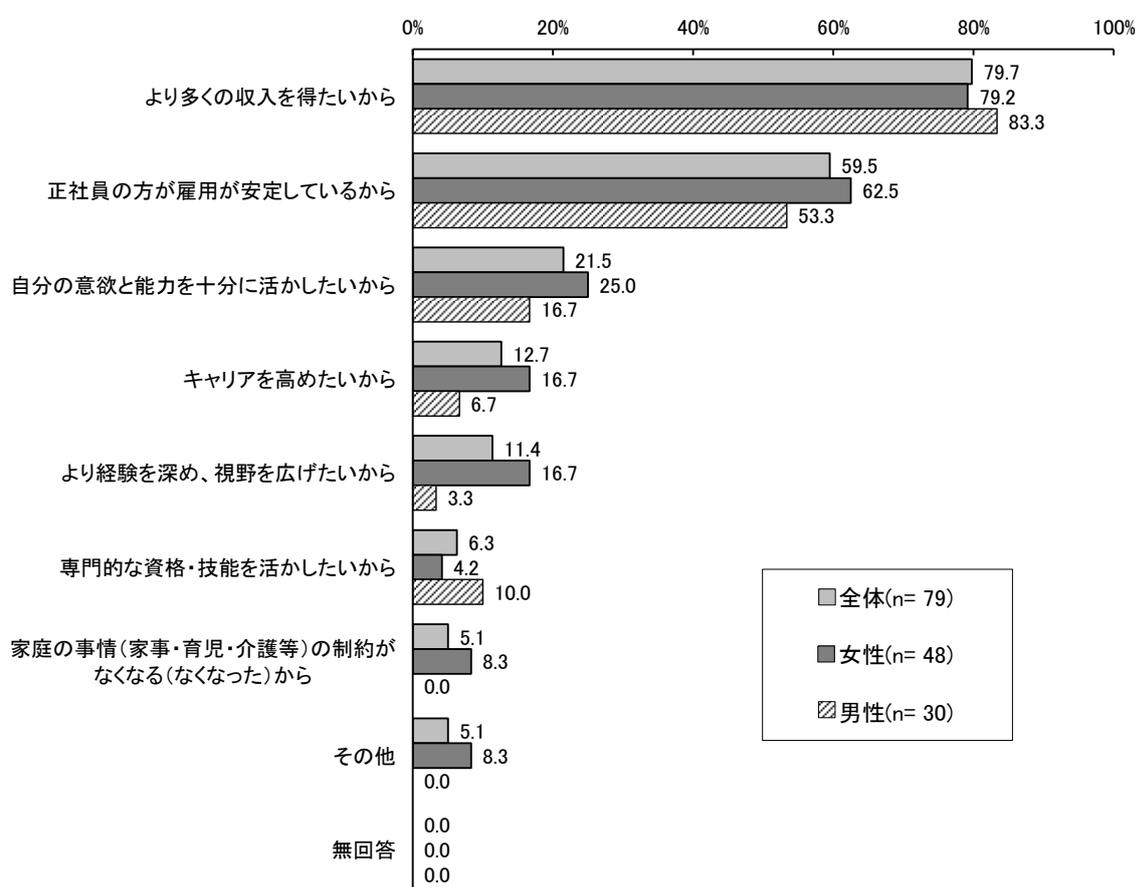
F3-6 あなたが正規雇用で働きたい理由は何ですか。(あてはまる番号3つまでに○)

正規雇用を希望する理由について、「より多くの収入を得たいから」が79.7%で最も高く、次いで「正社員の方が雇用が安定しているから」が59.5%、「自分の意欲と能力を十分に活かしたいから」が21.5%となっています。

【性別】

性別にみると男女ともに、「より多くの収入を得たいから」が最も高くなっています。また、「より経験を深め、視野を広げたいから」と「キャリアを高めたいから」が女性とともに16.7%と男性に比べて高くなっています(各13.4/10.0ポイント差)。

図3-6-1 正規雇用で働きたい理由【全体・性別】



●その他回答

- ・賞与があるから
- ・年金、保険の負担が少ないから
- ・離婚したいが、パート収入ではこの先やっていけないことが明確だから 等

(10) 婚姻状況

F4 あなたは結婚をしていますか。※結婚には生計を共にするパートナーとの同居を含めます。(あてはまる番号1つに○)

婚姻状況について、「結婚している」68.2%、「結婚していない」18.7%、「結婚していたが、離別・死別した」11.1%となっています。

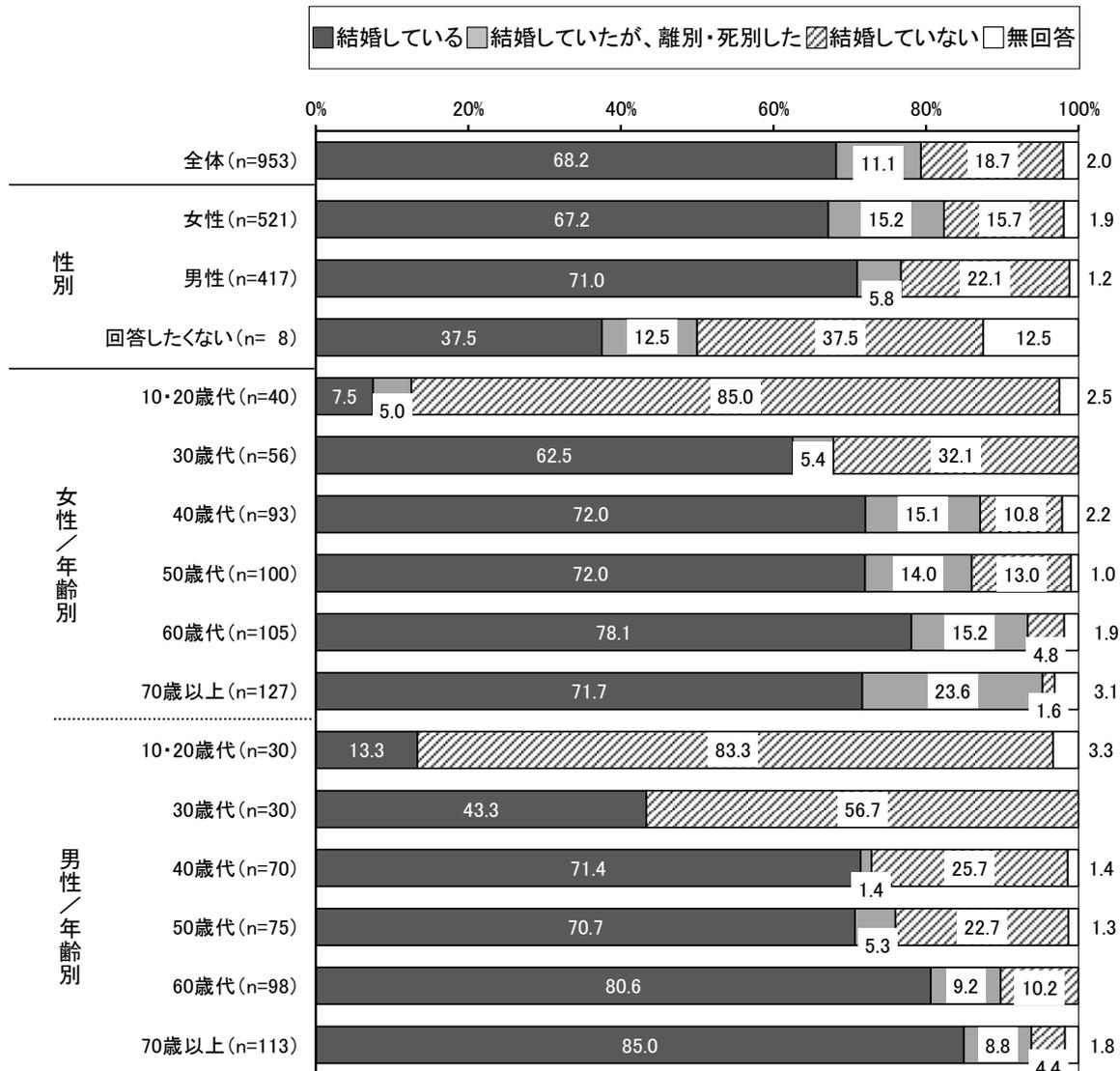
【性別】

性別にみると、「結婚していたが、離別・死別した」が女性で15.2%と、男性に比べて高くなっています(9.4ポイント差)。一方で、「結婚していない」は男性で22.1%と、女性に比べて高くなっています(6.4ポイント差)。

【性/年齢別】

性/年齢別にみると、「結婚していたが、離別・死別した」は女性70歳以上のみ2割を超え高くなっています。また、30歳代の「結婚していない」は、男性が女性を大きく上回ります(24.6ポイント差)。

図F4-1 婚姻(事実婚を含む)状況【全体・性別・性/年齢別】



(11) 配偶者・パートナーの職業

【F4で「1. 結婚している」とお答えの方にかがいます。】

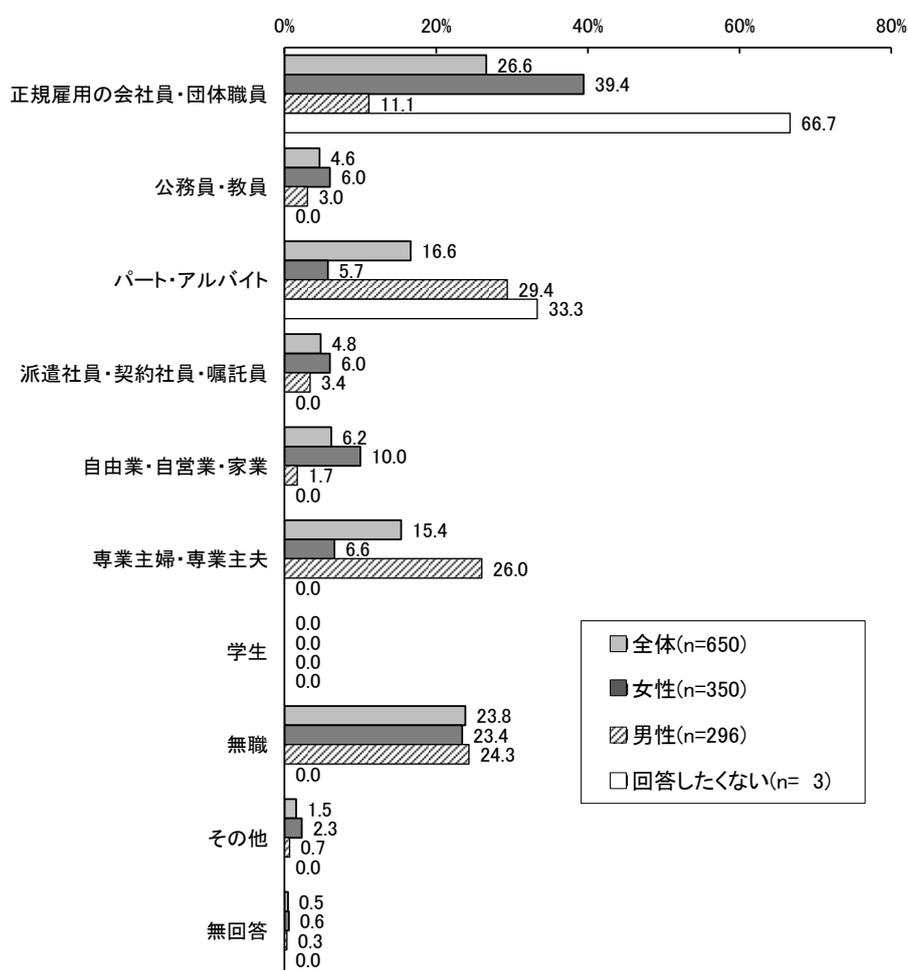
F5 あなたの配偶者・パートナーのご職業をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

配偶者・パートナーの職業については、「正規雇用の会社員・団体職員」が26.6%、「無職」が23.8%、「パート・アルバイト」16.6%、「専業主婦・専業主夫」15.4%などの順となっています。

【性別】

性別にみると、女性の配偶者・パートナーは「正規雇用の会社員・団体職員」、男性の配偶者・パートナーは「パート・アルバイト」「専業主婦・専業主夫」の割合が高くなっています。

図F5-1 配偶者・パートナーの職業【全体・性別】



●その他回答

・シルバー人材センター、別居しているので不明 等

【性・職業別】

性・職業別にみると、女性では正規雇用の会社員等やパート・アルバイト、派遣社員等で「正規雇用の会社員・団体職員」が、公務員・教員、自由業・自営業・家業、無職では、配偶者・パートナーの職業も同一のものが、それぞれ最も高くなっています。専業主婦では「正規雇用の会社員・団体職員」と「無職」が同程度となっています。

男性では正規雇用の会社員等や派遣社員等で「パート・アルバイト」が、公務員・教員やパート・アルバイト、自由業等で「専業主婦・専業主夫」が、無職で「無職」がそれぞれ最も高くなっています。

表F5-2 配偶者・パートナーの職業【性／職業別】

	合計(人)	配偶者・パートナーの職業 (%)									
		正規雇用の会社員・団体職員	公務員・教員	パート・アルバイト	派遣社員・契約社員・嘱託員	自由業・自営業・家業	専業主婦・専業主夫	学生	無職	その他	無回答
女性／職業別											
正規雇用の会社員・団体職員	37	56.8	10.8	2.7	5.4	16.2	2.7	0.0	5.4	0.0	0.0
公務員・教員	7	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パート・アルバイト	103	59.2	5.8	5.8	8.7	4.9	0.0	0.0	10.7	3.9	1.0
派遣社員・契約社員・嘱託員	15	53.3	13.3	6.7	6.7	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
自由業・自営業・家業	12	16.7	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
専業主婦・専業主夫	144	28.5	3.5	6.3	6.3	8.3	15.3	0.0	29.9	1.4	0.7
学生	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無職	28	7.1	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	89.3	0.0	0.0
その他	4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
男性／職業別											
正規雇用の会社員・団体職員	113	18.6	1.8	38.1	6.2	0.0	25.7	0.0	8.8	0.0	0.9
公務員・教員	25	8.0	24.0	28.0	0.0	0.0	36.0	0.0	4.0	0.0	0.0
パート・アルバイト	20	15.0	0.0	20.0	0.0	0.0	45.0	0.0	20.0	0.0	0.0
派遣社員・契約社員・嘱託員	18	5.6	0.0	44.4	11.1	0.0	27.8	0.0	11.1	0.0	0.0
自由業・自営業・家業	23	13.0	0.0	21.7	0.0	21.7	30.4	0.0	13.0	0.0	0.0
専業主婦・専業主夫	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学生	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無職	92	3.3	1.1	20.7	1.1	0.0	18.5	0.0	54.3	1.1	0.0
その他	5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0

(12) 子育て・介護の状況

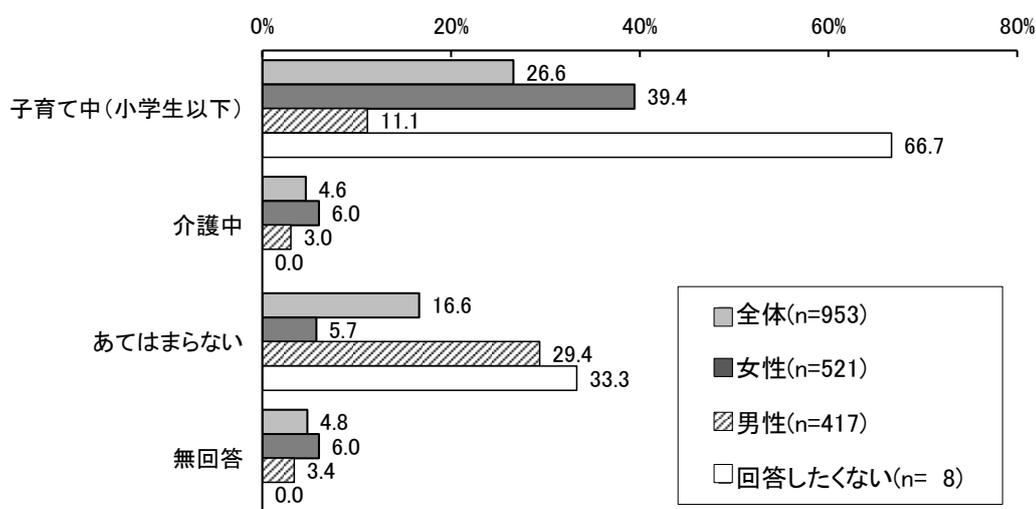
F 6 子育て、介護の状況についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

子育て・介護の状況について、「あてはまらない」が72.8%と最も高く、「子育て中（小学生以下）」は12.4%、「介護中」は6.5%となっています。

【性別】

性別にみると、男女ともに「あてはまらない」が最も高くなっていますが、「子育て中（小学生以下）」「介護中」ともに女性が男性をやや上回ります（各1.7/3.1ポイント差）。

図F6-1 子育て・介護の状況【全体・性別】



※回答者においては、「子育て中(小学生以下)」「介護中」を同時に選択する、ダブルケアの状態にある人はいなかった。

(13) 世帯構成

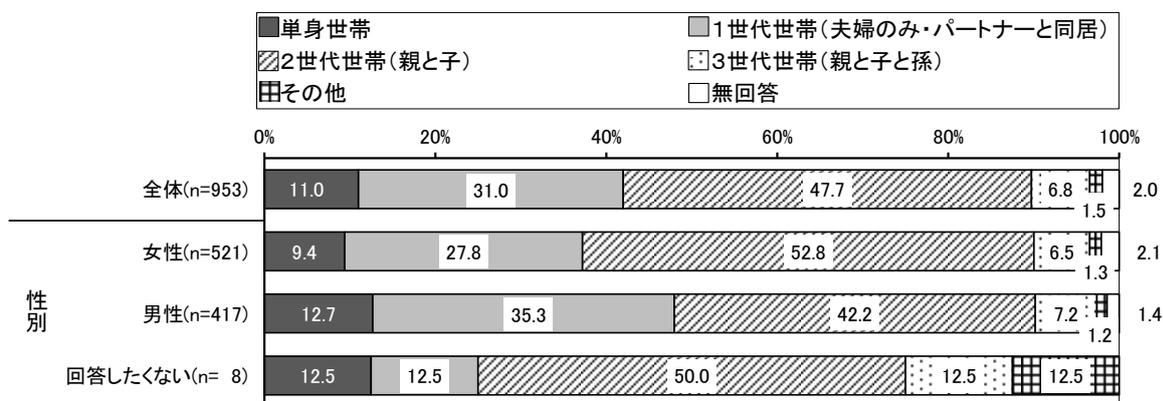
F 7 あなたの現在の世帯構成は次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○)

世帯構成は、「2世代世帯(親と子)」が47.7%で最も高く、次いで「1世代世帯(夫婦のみ・パートナーと同居)」が31.0%、「単身世帯」が11.0%、「3世代世帯(親と子と孫)」が6.8%となっています。

【性別】

「1世代世帯(夫婦のみ・パートナーと同居)」は男性で高くなっており、「2世代世帯(親と子)」は女性で高くなっていきます(各7.5/10.6ポイント差)。

図F7-1 世帯構成【全体・性別】

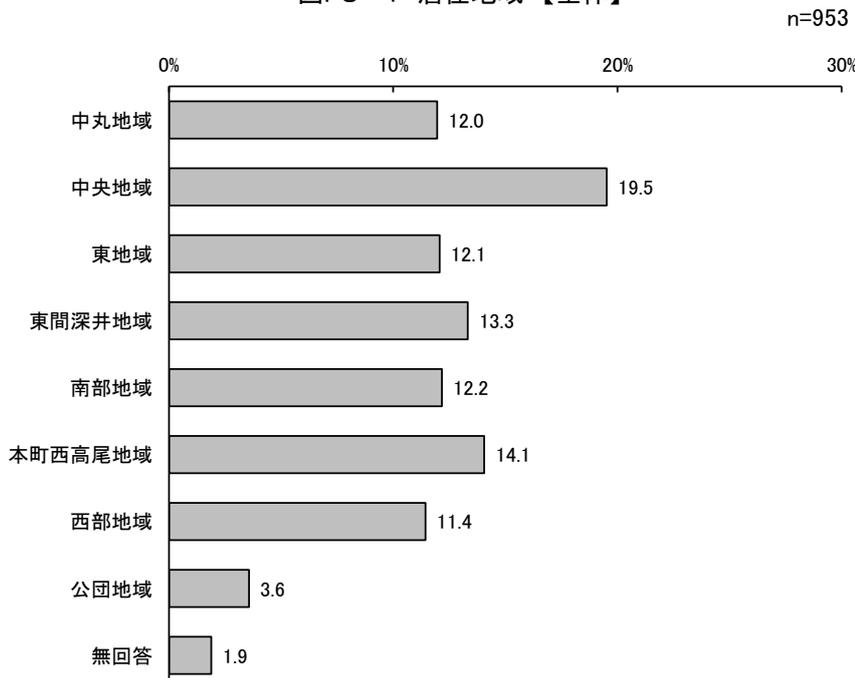


(14) 居住地

F 8 あなたの居住地は、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○)

居住地は、「中央地域」19.5%と最も高く、次いで「本町西高尾地域」14.1%、「東間深井地域」13.3%、「南部地域」12.2%、「東地域」12.1%、「中丸地域」12.0%となっています。

図F8-1 居住地【全体】



2. 男女平等に関する意識について

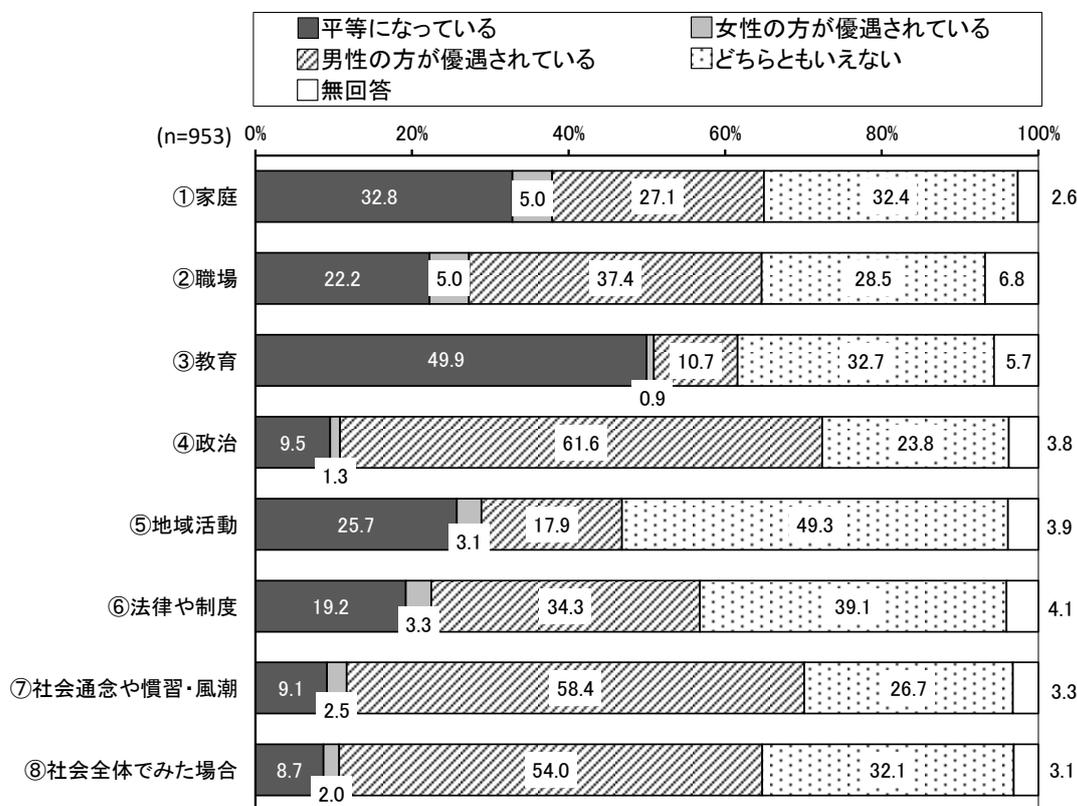
(1) 各分野での男女の地位の平等

問1 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(項目ごとに、あてはまる番号1つに○)

各分野での男女の地位の平等については、「平等になっている」が〔③教育〕で49.9%と最も高く、次いで〔①家庭〕で32.8%、〔⑤地域活動〕で25.7%、〔②職場〕で22.2%となっています。

一方で、「男性の方が優遇されている」は、〔④政治〕〔⑦社会通念や慣習・風潮〕〔⑧社会全体でみた場合〕などの分野で5割を超え高くなっています。

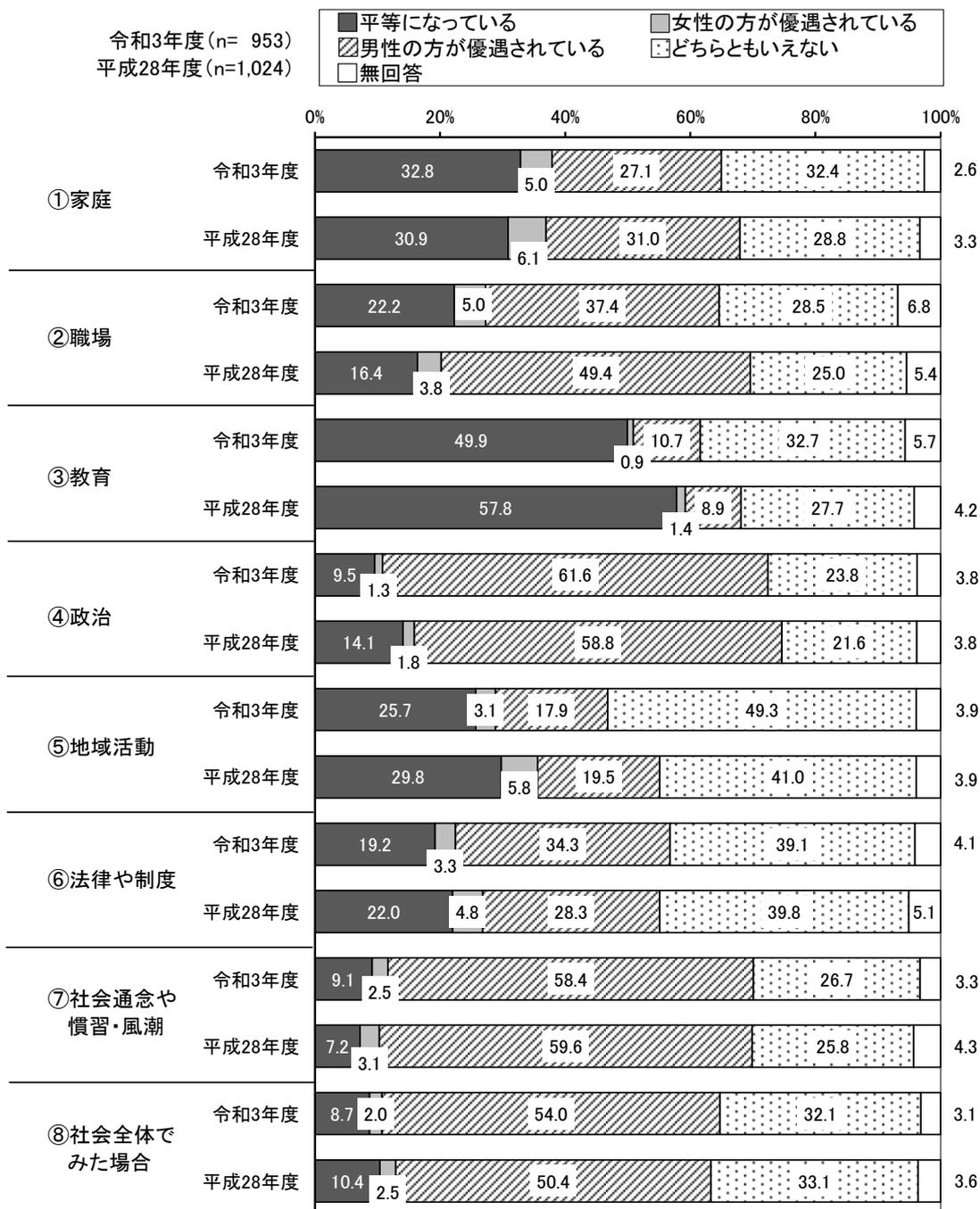
図1-1 各分野での男女の地位の平等【全体】



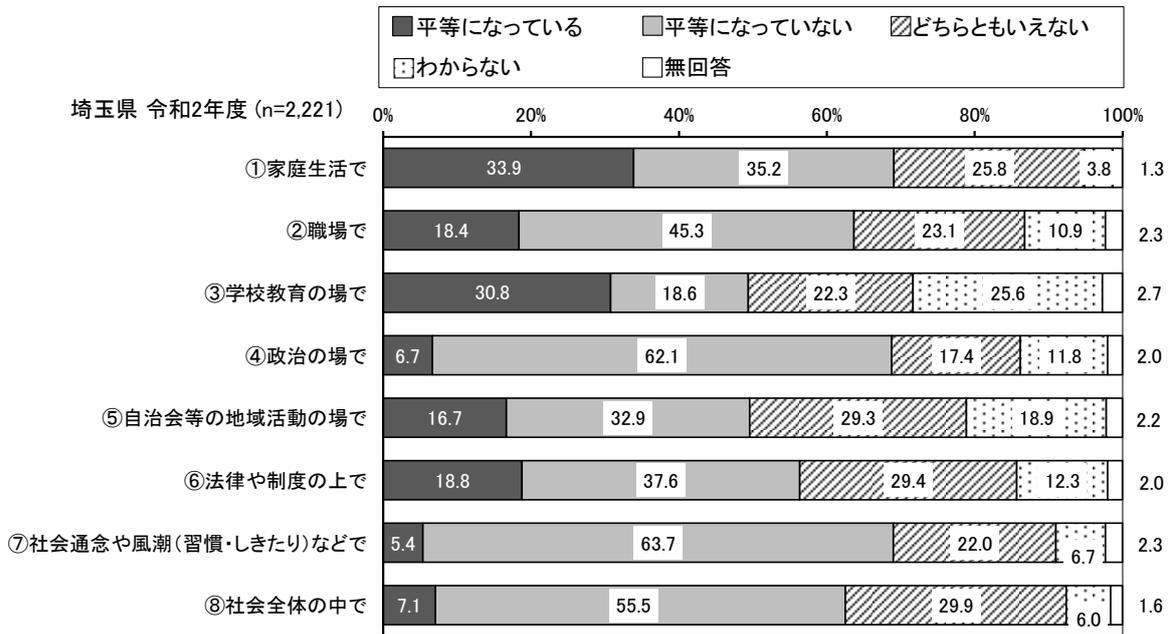
【経年比較】

前回調査と比較すると、「平等になっている」割合は、〔①家庭〕や〔②職場〕、〔⑦社会通念や慣習・風潮〕を除き、多くの分野で低下しています。特に〔③教育〕では7.9ポイントの低下となっています。

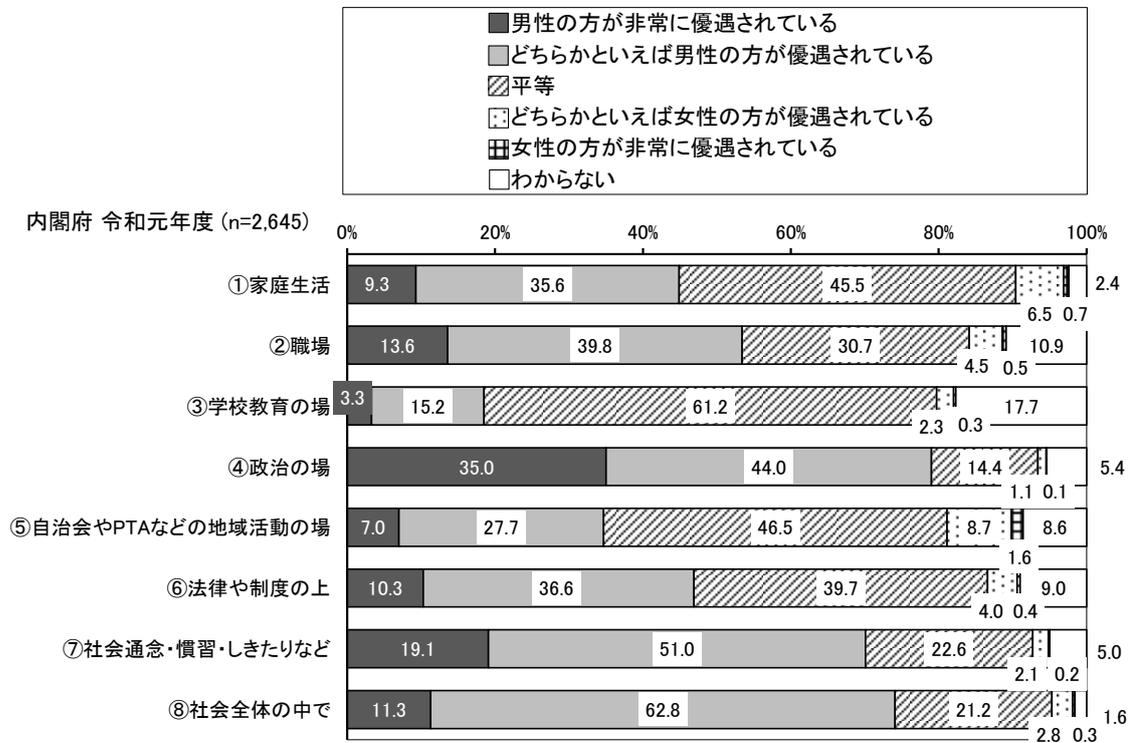
図1-2 各分野での男女の地位の平等【経年比較】



参考 各分野での男女の地位の平等【埼玉県調査】



参考 各分野での男女の地位の平等【内閣府調査】



① 家庭

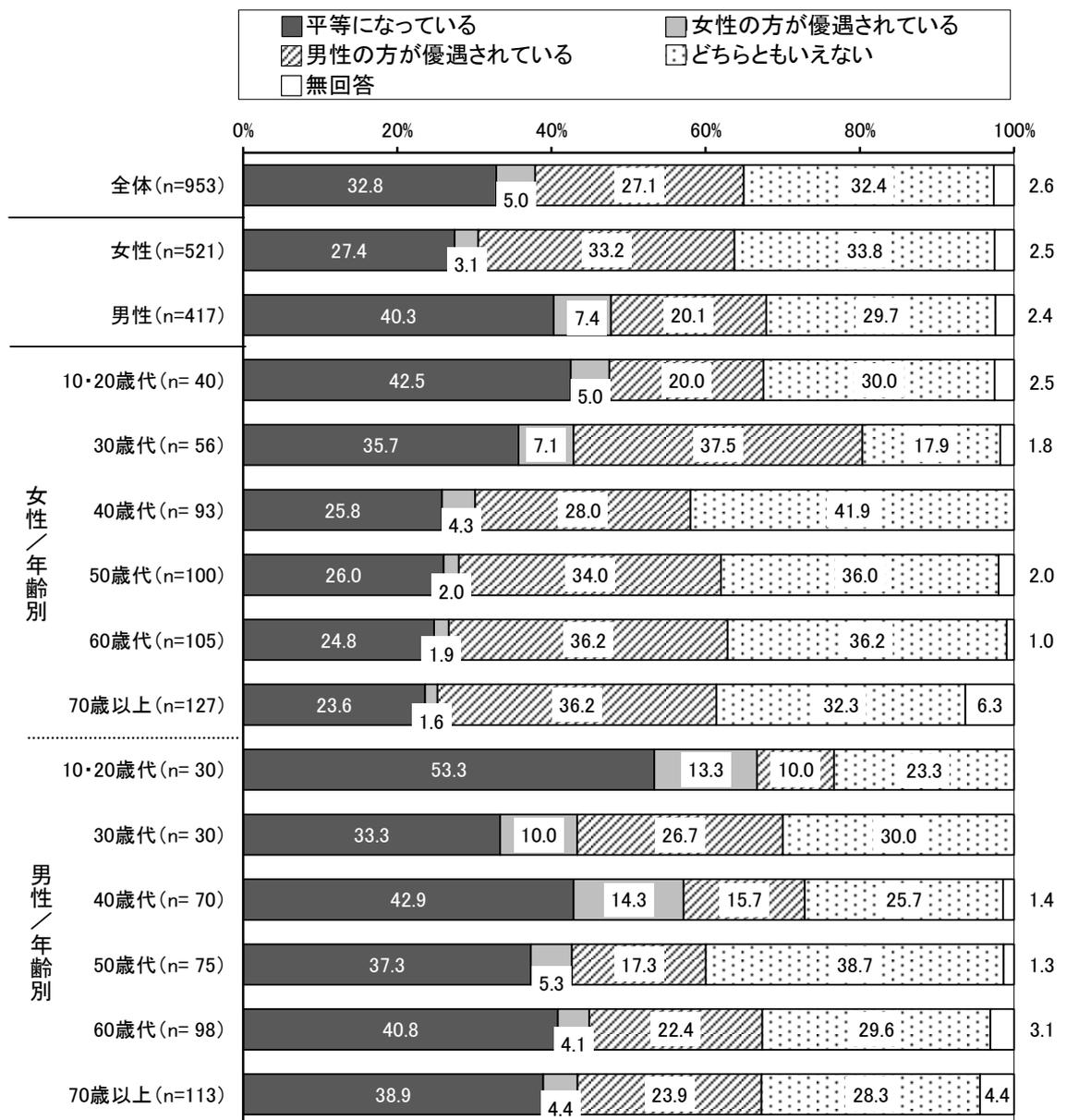
【性別】

〔家庭〕について性別にみると、「平等になっている」は男性が女性を上回り、「男性の方が優遇されている」は女性が男性を上回ります（各 12.9/13.1 ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別にみると、「平等になっている」は、女性の 40 歳以上で 2 割台と低くなっています。女性の 30 歳代では、「平等になっている」と「男性の方が優遇されている」がともに 3 割台後半となっています。

図1-3 家庭における男女の地位の平等【全体・性別・性／年齢別】



② 職場

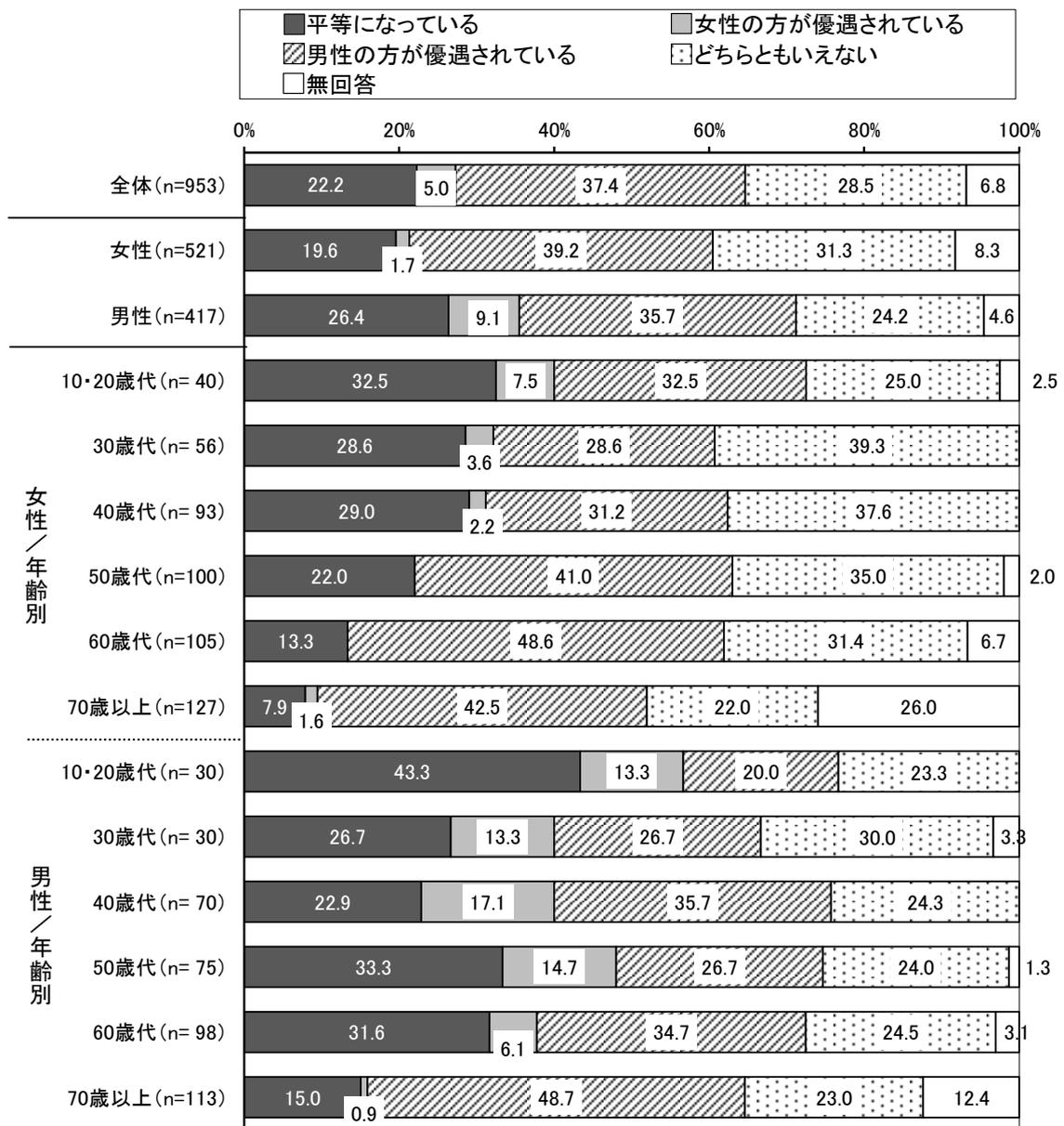
【性別】

〔職場〕について性別にみると、「平等になっている」は男性が女性を上回ります（6.8ポイント差）。女性は「どちらともいえない」が男性よりも高くなっています（7.1ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別にみると、女性では「平等になっている」は若い世代で高い傾向にあり、女性の10・20歳代で3割台となっています。

図1-4 職場における男女の地位の平等【全体・性別・性／年齢別】



③ 教育

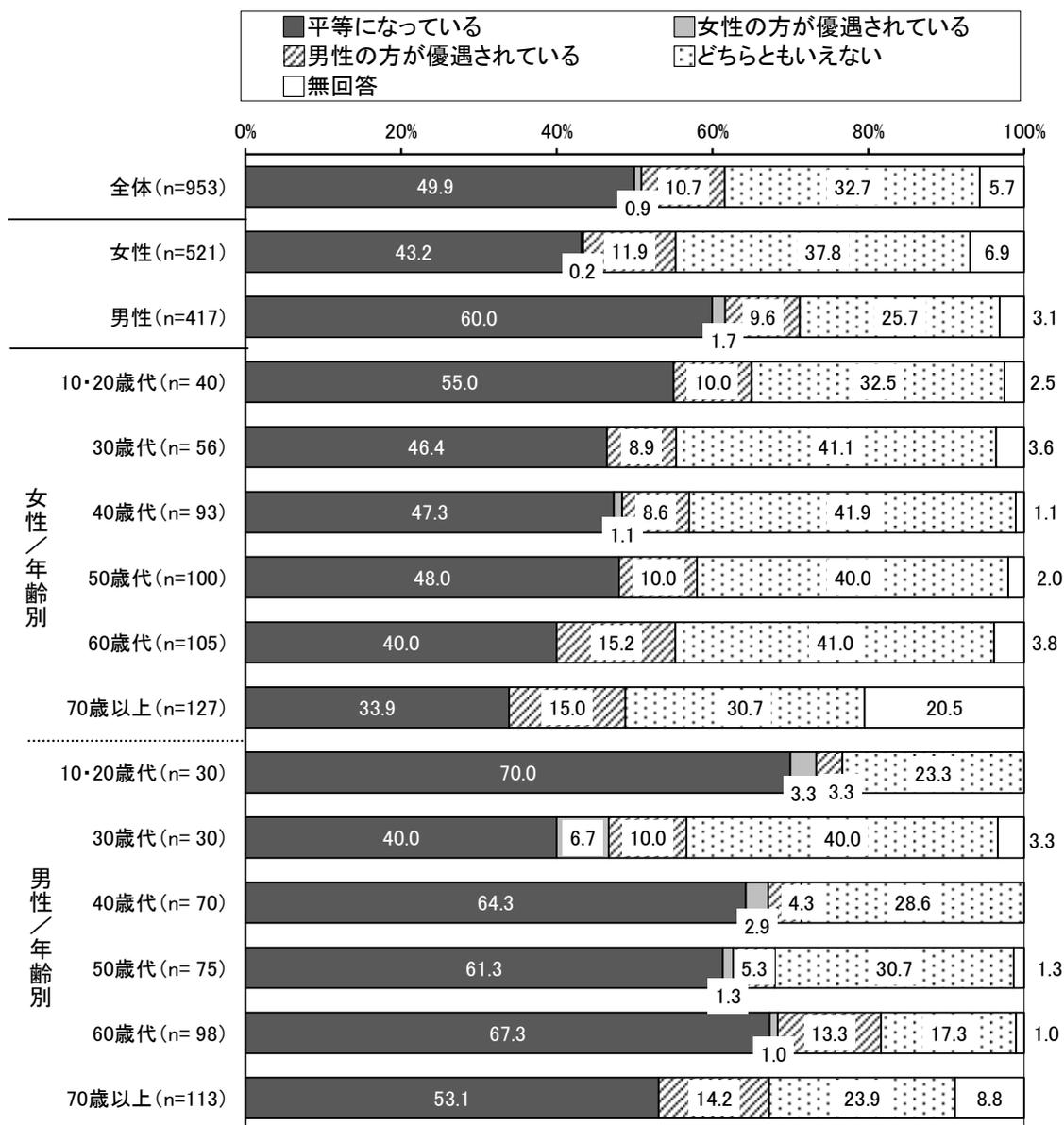
【性別】

〔教育〕について性別にみると、「平等になっている」は男性が女性を上回ります（16.8ポイント差）。女性は「どちらともいえない」が男性よりも高くなっています（12.1ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別にみると、男女ともに「平等になっている」は10・20歳代が最も高く、女性で55.0%、男性で70.0%となっています。

図1-5 教育における男女の地位の平等【全体・性別・性／年齢別】



④ 政治

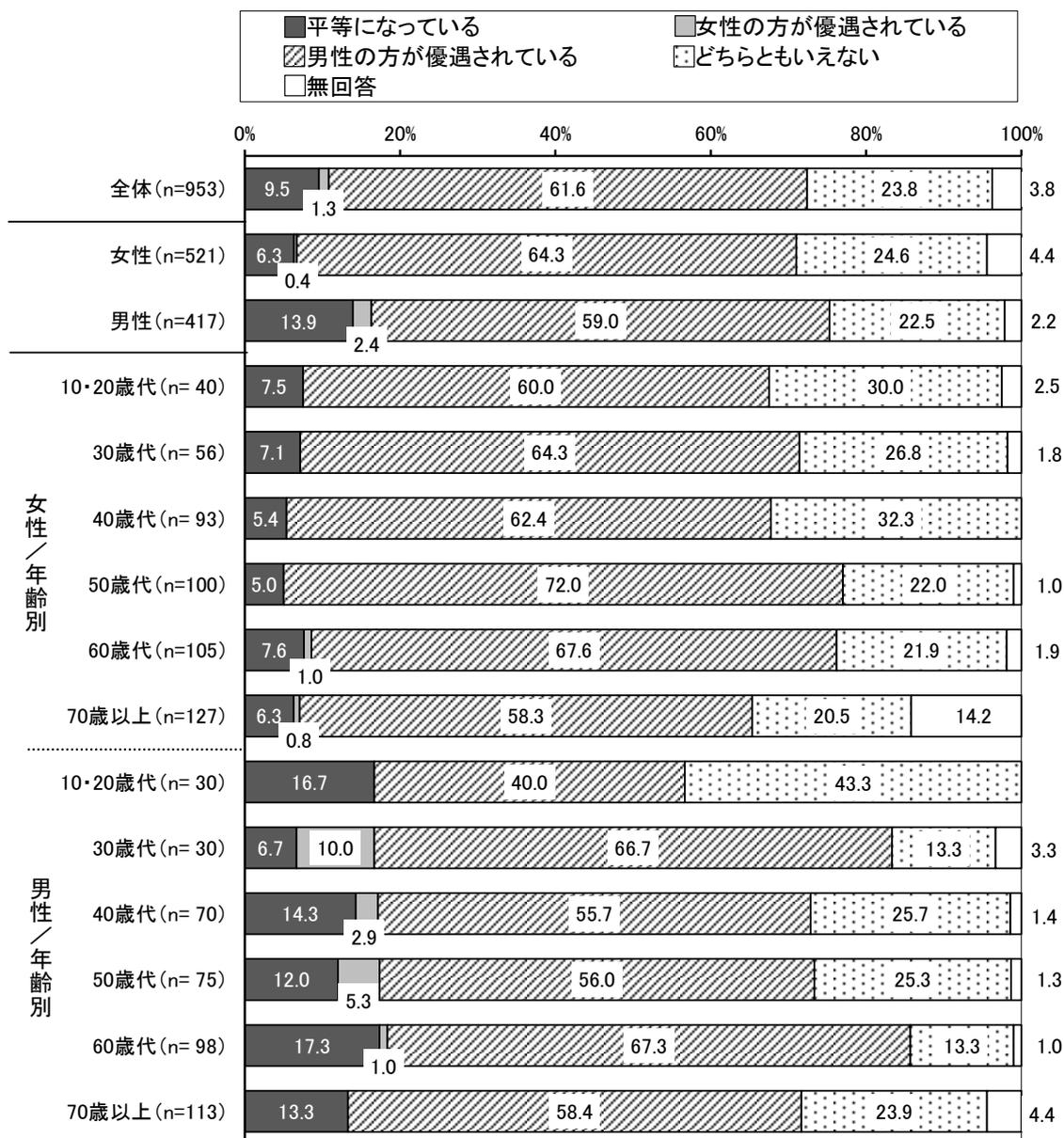
【性別】

〔政治〕について性別にみると、男女ともに「男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回ります（5.3ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別にみると、男性の10・20歳代を除き「男性の方が優遇されている」が5割を超えています。

図1-6 政治における男女の地位の平等【全体・性別・性／年齢別】



⑤ 地域活動

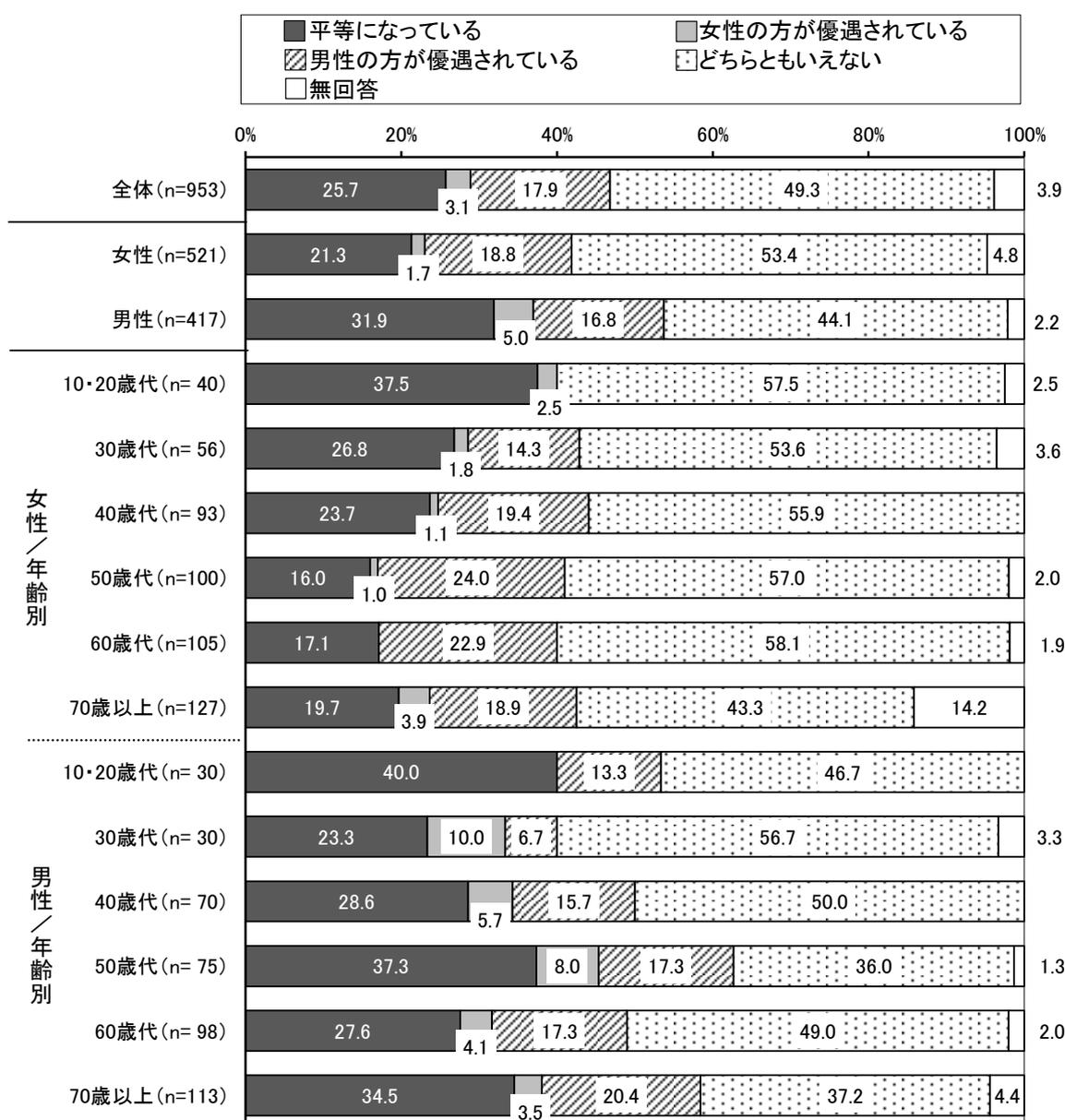
【性別】

〔地域活動〕について性別にみると、「平等になっている」は男性が女性を上回ります（10.6ポイント差）。女性は「どちらともいえない」が男性よりも高くなっています（9.3ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別にみると、男女ともに10・20歳代、男性の50歳代、70歳以上で「平等になっている」が3割を超え、他の年代に比べ高くなっています。

図1-7 地域活動における男女の地位の平等【全体・性別・性／年齢別】



⑥ 法律や制度

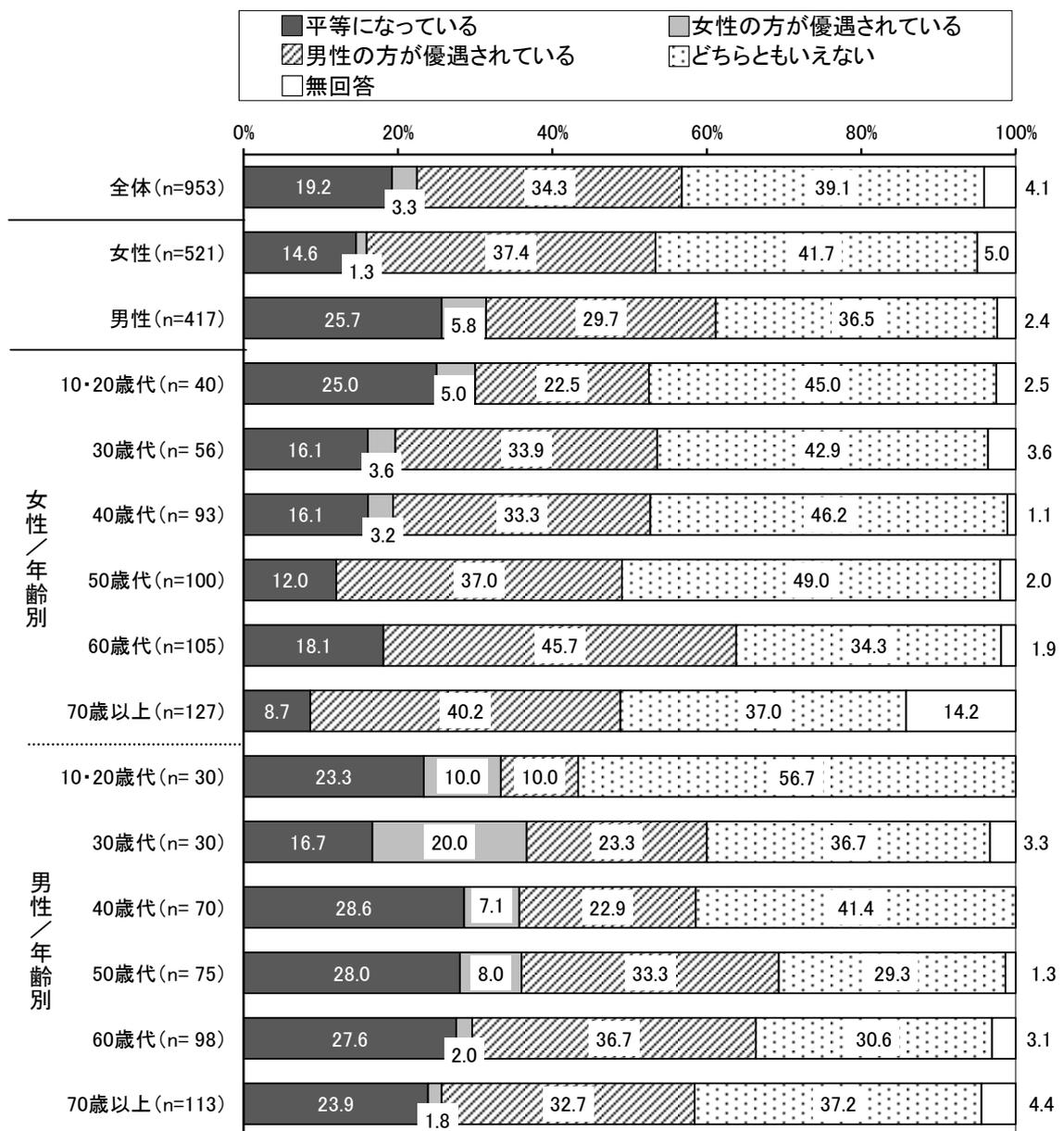
【性別】

〔法律や制度〕について性別にみると、「平等になっている」は男性が女性を上回り（11.1ポイント差）、「男性の方が優遇されている」は女性が男性を上回ります（7.7ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別にみると、女性の70歳以上で「平等になっている」が8.7%と他の年代に比べて低くなっています。「男性の方が優遇されている」は女性の60歳代で45.7%と、他の年代を上回ります。

図1-8 法律や制度における男女の地位の平等【全体・性別・性／年齢別】



⑦ 社会通念や慣習・風潮

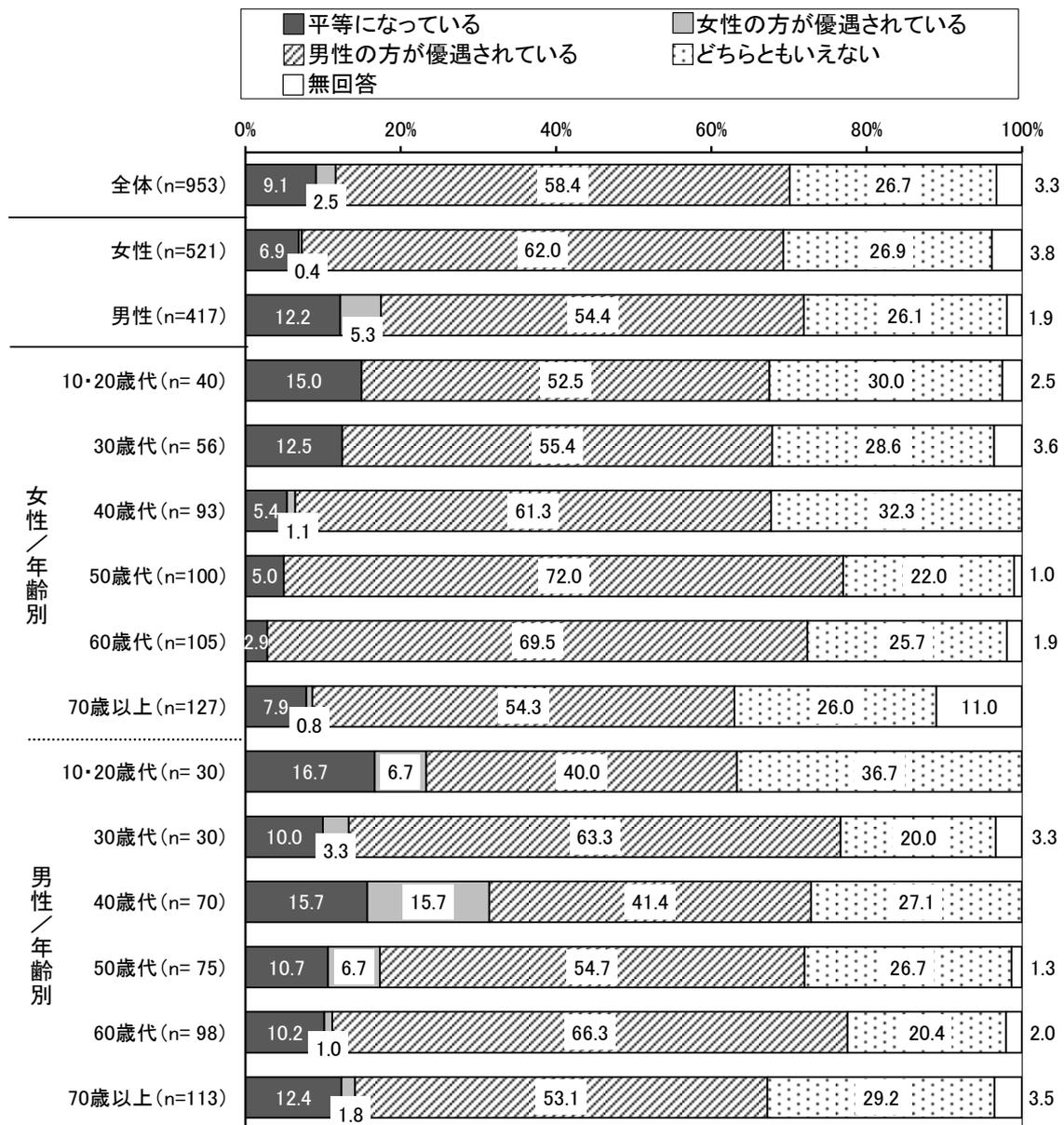
【性別】

〔社会通念や慣習・風潮〕について性別にみると、男女ともに「男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回ります（7.6ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別にみると、女性の40歳以上では「平等になっている」が1割を下回っています。また、男性の10・20歳代と40歳代を除き、「男性の方が優遇されている」が5割を超え、女性の50歳代では7割台と特に高くなっています。

図1-9 社会通念や慣習・風潮における男女の地位の平等【全体・性別・性／年齢別】



⑧ 社会全体でみた場合

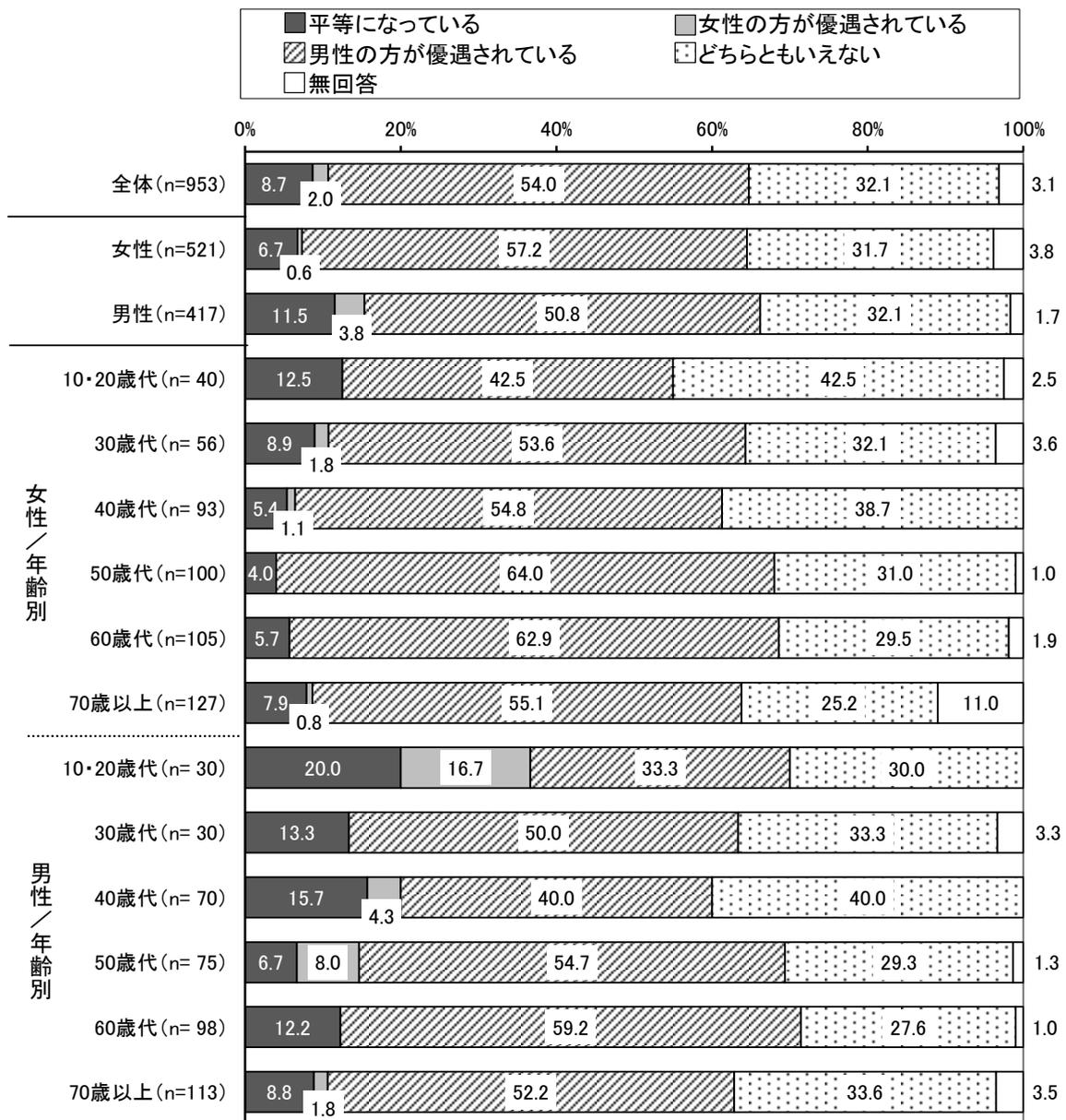
【性別】

〔社会全体でみた場合〕について性別にみると、男女ともに「男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回ります（6.4ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別にみると、女性の30歳以上では「平等になっている」が1割を下回っている一方で、男性の10・20歳代では20.0%と高くなっています。また、男女ともに10・20歳代と男性の40歳代を除き、「男性の方が優遇されている」が5割を超えています。

図1-10 社会全体でみた場合における男女の地位の平等【全体・性別・性／年齢別】



(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(あてはまる番号1つに○)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感する」は9.2%、「同感しない」は56.6%、「どちらともいえない」は30.2%となっています。

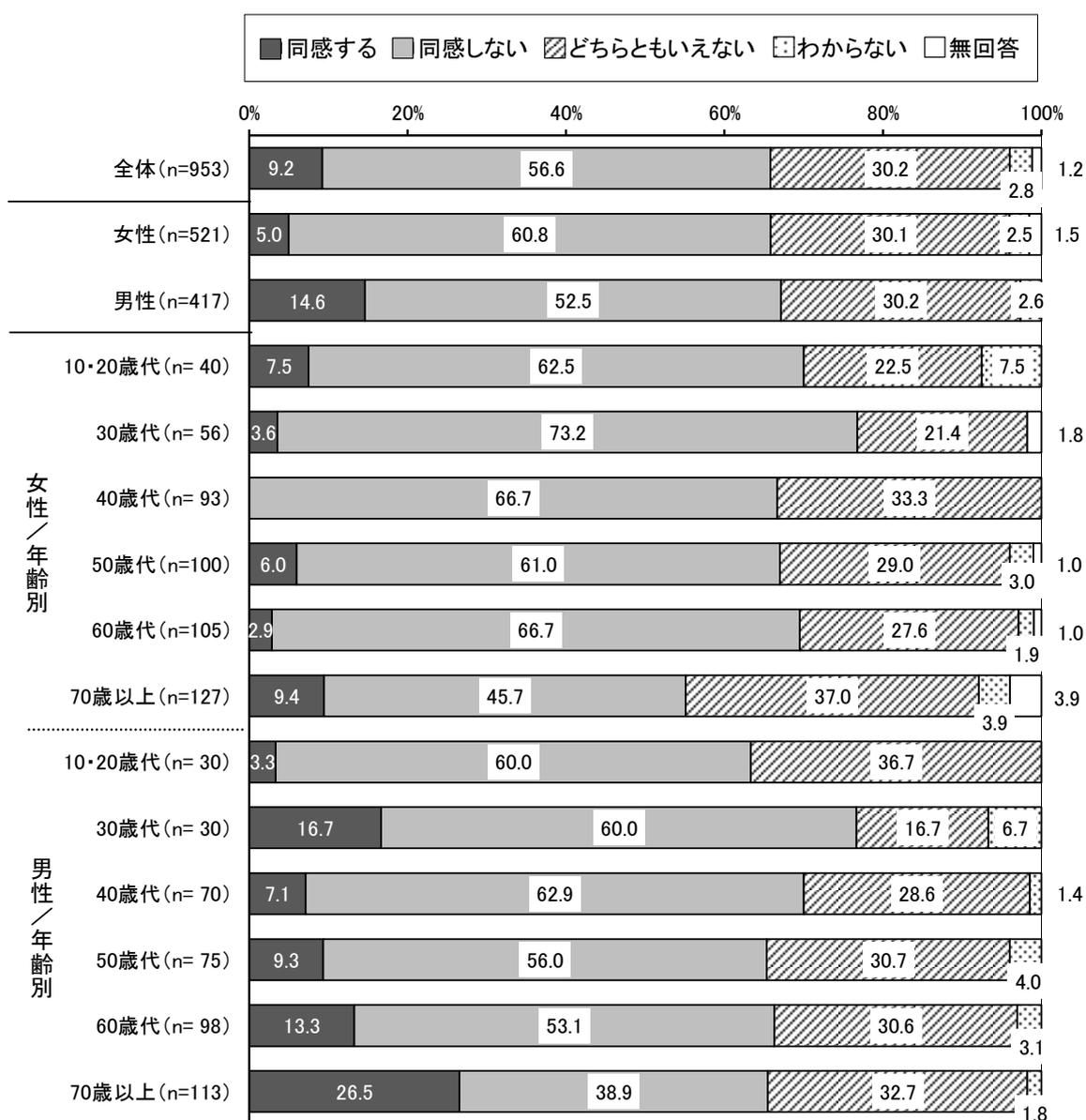
【性別】

性別にみると、男女ともに「同感しない」が「同感する」を大きく上回ります。一方で、「同感する」は男性が女性を上回ります(9.6ポイント差)。

【性/年齢別】

性/年齢別にみると、「同感する」は、男性30歳代で16.7%、70歳以上で26.5%と特に高くなっています。

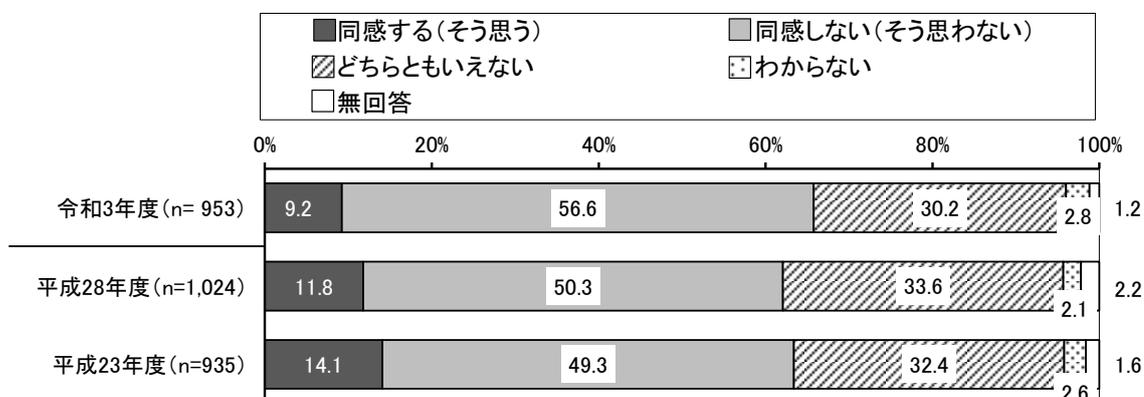
図2-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について【全体・性別・性/年齢別】



【経年比較】

時系列で比較すると、「同感する」は年々低下し、令和3年度では1割を下回っています。それに符合するように「同感しない」は年々上昇しています。

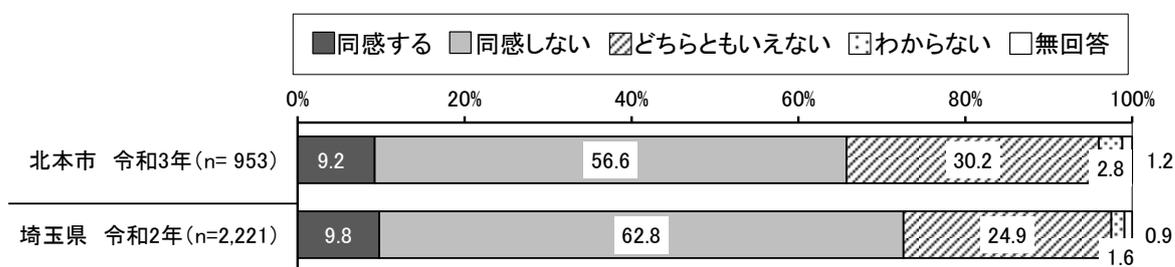
図2-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について【経年比較】



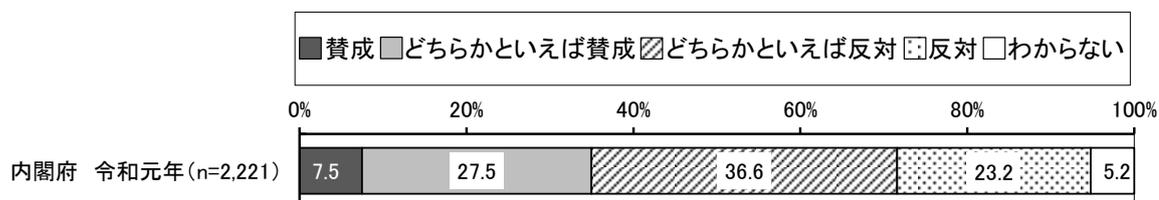
【国・県調査との比較】

埼玉県調査と比較すると、「同感しない」は県に比べて低いものの(6.2ポイント差)、「同感する」は同程度となっています。

図2-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について【埼玉県調査との比較】



参考 「男は仕事、女は家庭」という考え方について【内閣府調査】



(3) 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由

【問2で「1. 同感する」と回答した方にうかがいます。】

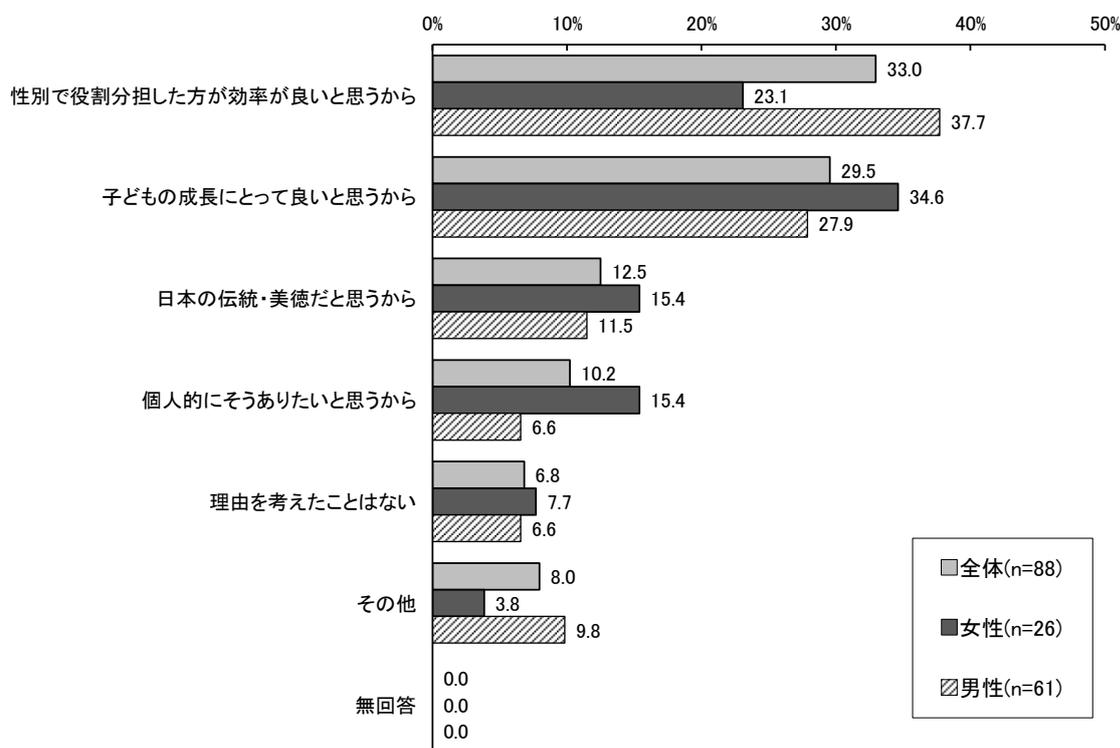
問2-1 同感する主な理由を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由については、「性別で役割分担した方が効率が良いと思うから」が33.0%、次いで「子どもの成長にとって良いと思うから」が29.5%、「日本の伝統・美德だと思うから」が12.5%、「個人的にそうありたいと思うから」が10.2%となっています。

【性別】

性別にみると、「性別で役割分担した方が効率が良いと思うから」は男性が女性を上回り(14.6ポイント差)、「子どもの成長にとって良いと思うから」と「個人的にそうありたいと思うから」は女性が男性を上回っています(各6.7/8.8ポイント差)。

図2-1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由【全体・性別】



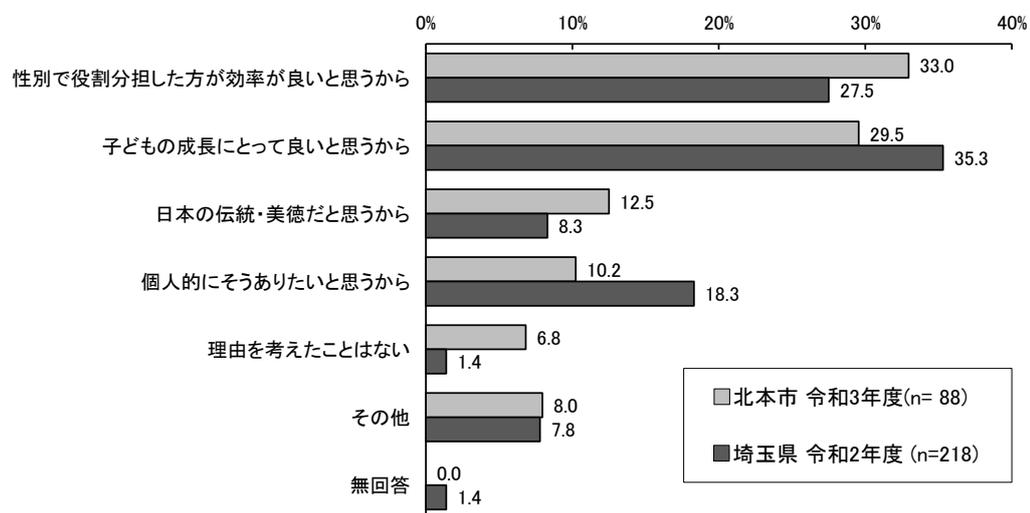
●その他回答

- ・ 出産できるのは女性だけだから
- ・ 家族の成長の過程で必要性が異なる
- ・ 女性が職種に関係無く男性と同等以上の報酬を得るには、日本ではあと数十年かかると思うため 等

【県調査との比較】

埼玉県調査と比較すると、「性別で役割分担した方が効率が良いと思うから」や「理由を考えたことはない」や「日本の伝統・美德だと思うから」が県に比べて高くなっています（各5.5/5.4/4.2ポイント差）。

図2-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感する理由【埼玉県調査との比較】



(4) 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない理由

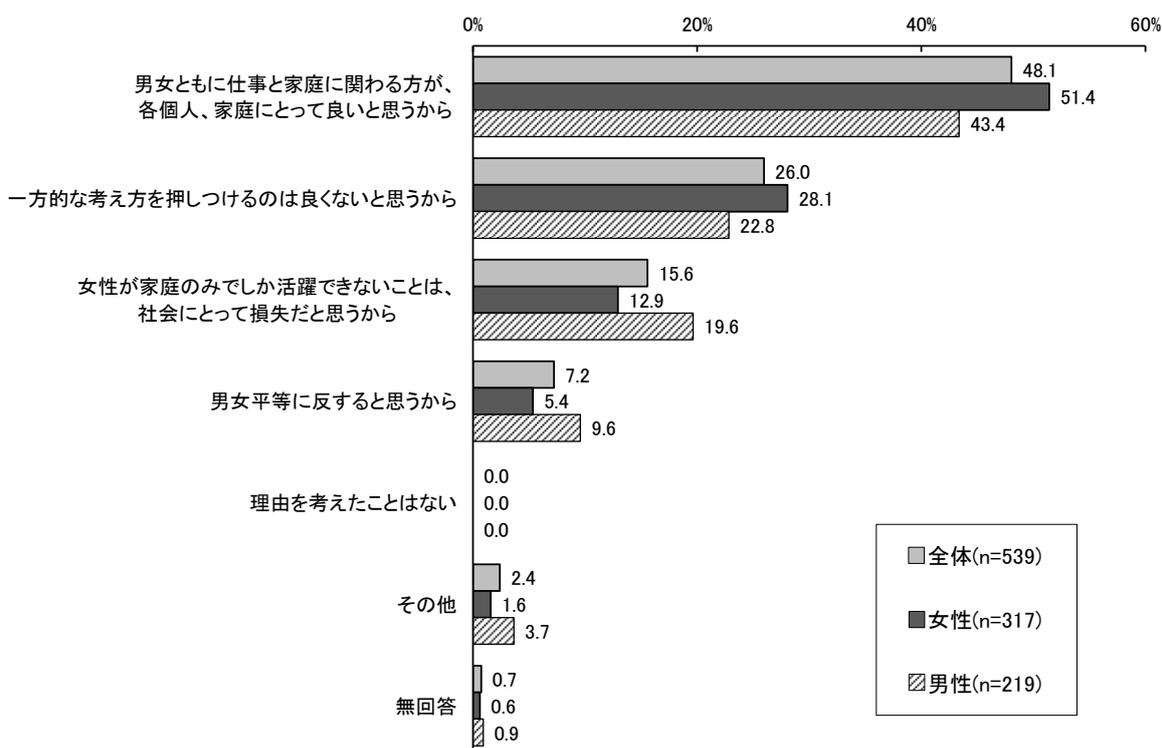
【問2で「2. 同感しない」と回答した方にうかがいます。】
 問2-2 同感しない主な理由を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない理由について、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が48.1%と最も高く、次いで「一方的な考え方を押しつけるのは良くないと思うから」が26.0%、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは社会にとって損失だと思うから」が15.6%となっています。

【性別】

性別にみると、男女ともに「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回っています。(8.0ポイント差)。反対に、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは社会にとって損失だと思うから」は、男性が女性を上回っています(6.7ポイント差)。

図2-2-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない理由 【全体】



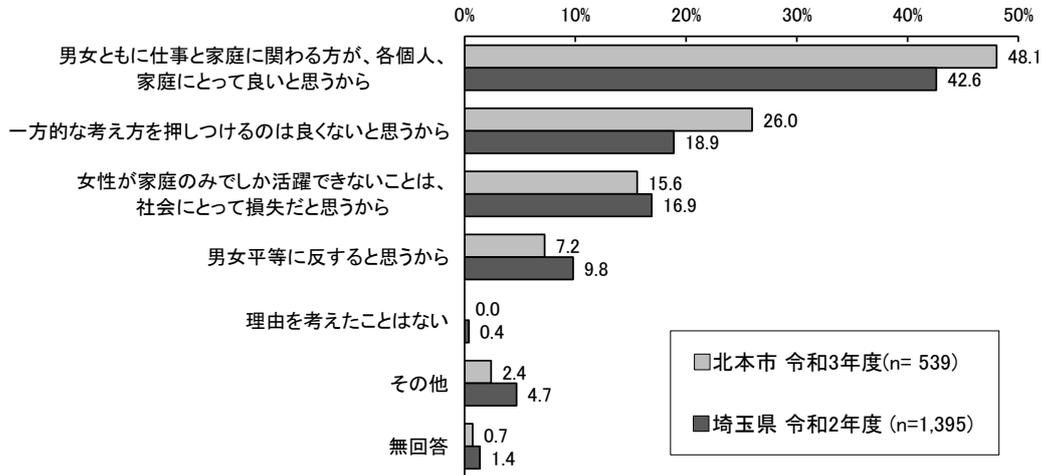
●その他回答

- ・夫婦で仕事をしないと生活ができない
- ・男女がどうこうではなく、できる時にできる人が仕事なり、家庭なりの事をやれば良いと思う(無理なくできる事をやる) 等

【県調査との比較】

埼玉県調査と比較すると、「一方的な考え方を押しつけるのは良くないと思うから」や「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が県に比べて高くなっています（各 7.1/5.5 ポイント差）。

図2-2-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない理由 【埼玉県調査との比較】



※県調査では「少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから」との選択肢を含む。

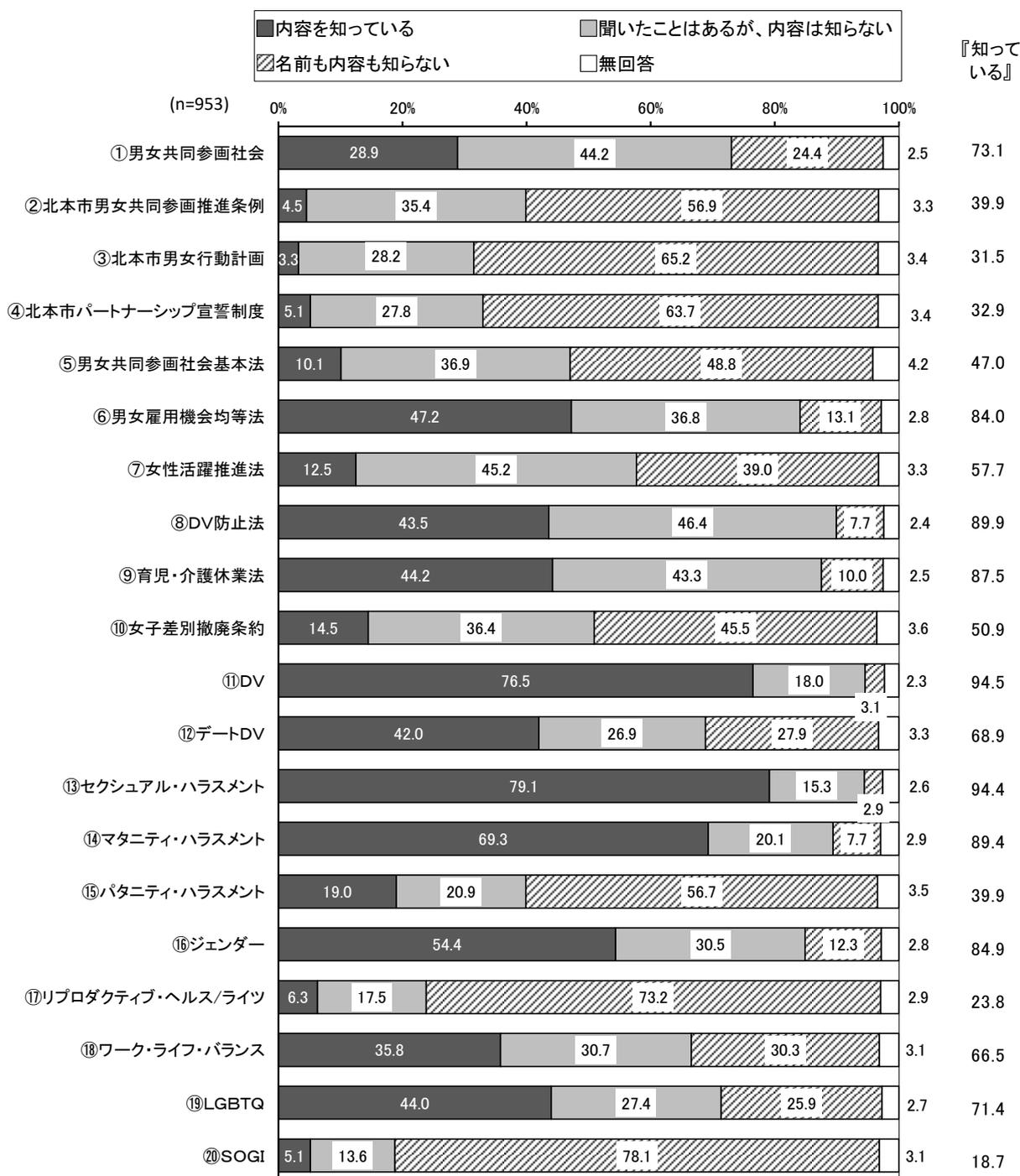
(5) 男女共同参画に関する用語等の認知度や関心度

問3 あなたは、次にあげる言葉をご存じですか。また、それぞれの内容について関心をお持ちですか。(項目ごとに、あてはまる番号1つに○)

男女共同参画に関する用語等の認知度について、「内容を知っている」は、〔セクシュアル・ハラスメント〕の79.1%が最も高く、次いで〔DV〕が76.5%、〔マタニティ・ハラスメント〕が69.3%となっています。

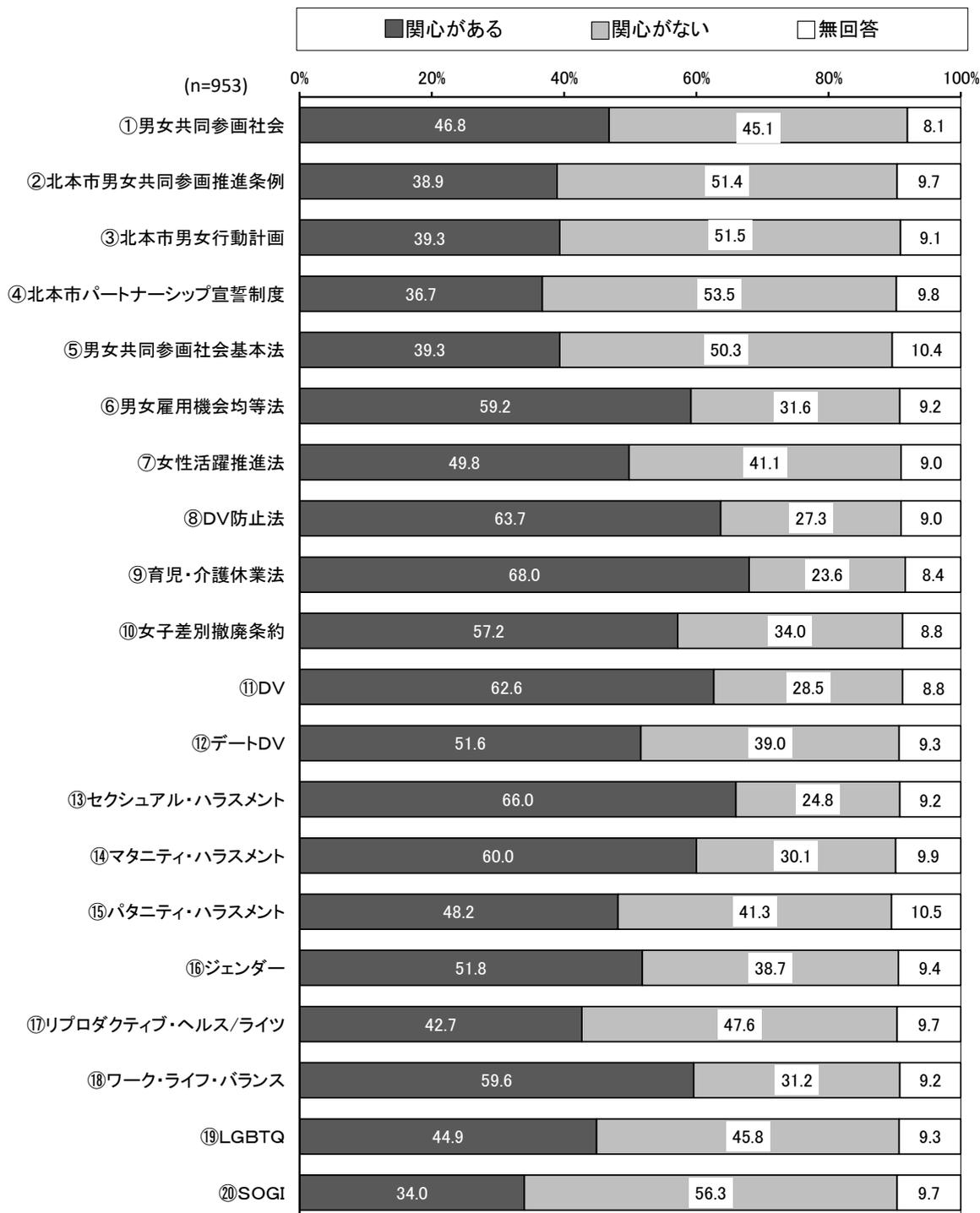
一方で、「名前も内容も知らない」は、〔SOGI〕や〔リプロダクティブ・ヘルス/ライツ〕で7割台、〔北本市男女行動計画〕や〔北本市パートナーシップ宣誓制度〕で6割を超えています。

図3-1 男女共同参画に関する用語等の認知度【全体】



男女共同参画に関する用語等への関心度について、「関心がある」は〔育児・介護休業法〕や〔セクシュアル・ハラスメント〕で6割台後半と特に高くなっています。そのほか、〔DV防止法〕、〔DV〕や〔マタニティ・ハラスメント〕なども6割を超えています。

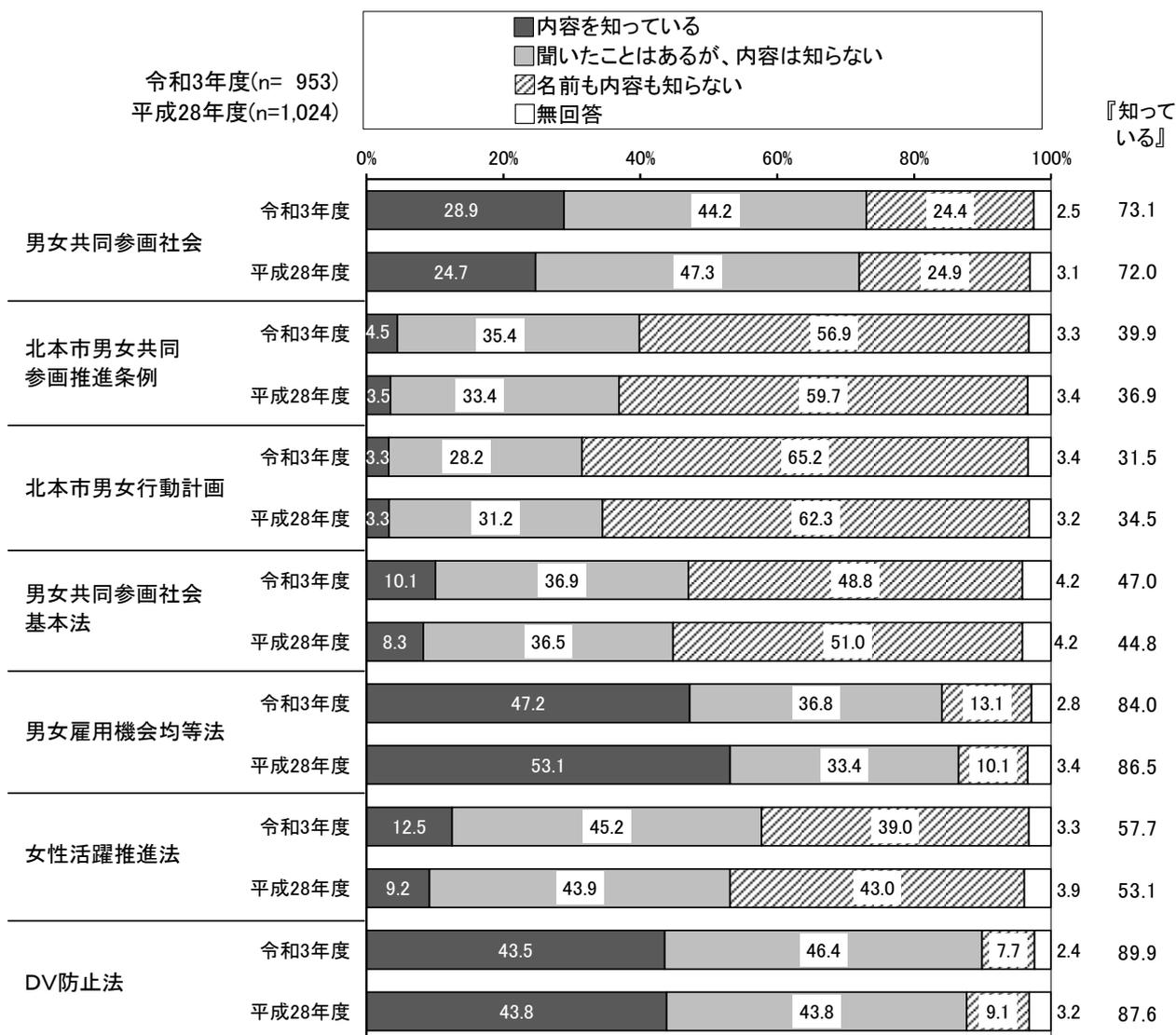
図3-2 男女共同参画に関する用語等への関心度【全体】

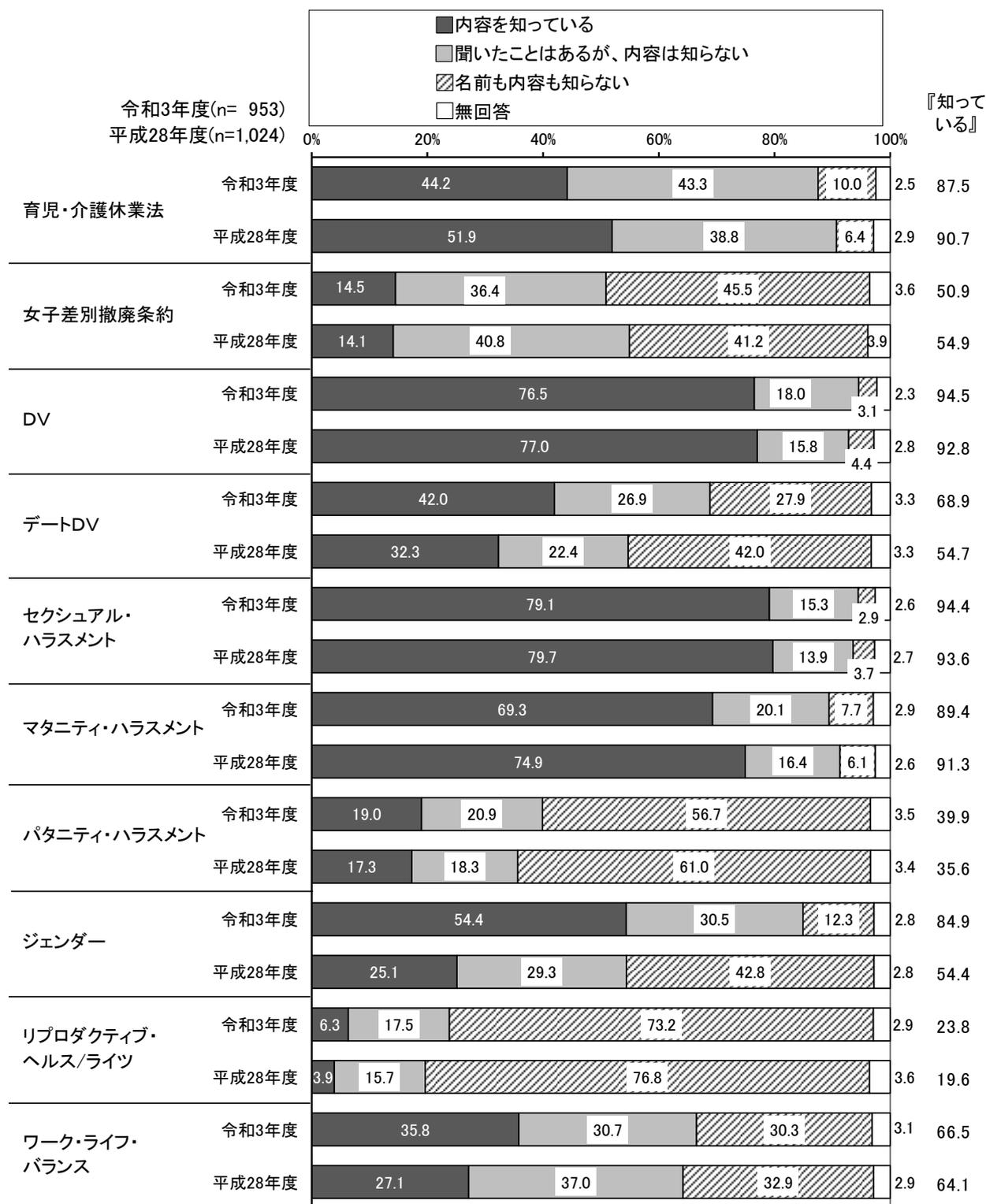


【経年比較】

前回調査と比較すると、「内容を知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた『知っている』は〔ジェンダー〕と〔デートDV〕で大きく上昇しています（各30.5/14.2ポイント差）。〔ジェンダー〕については、「内容を知っている」が約2倍となっています。同様に〔ワーク・ライフ・バランス〕も「内容を知っている」が上昇しています（8.7ポイント差）。

図3-3 男女共同参画に関する用語等の認知度【経年比較】





① 男女共同参画社会

【性別】

〔男女共同参画社会〕の認知度を性別にみると、『知っている』は、男性が女性を上回ります（5.6ポイント差）。

関心度について、「関心がある」は男性が女性をやや上回ります（2.6ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、10・20歳代のみ8割を超えています。

関心度について、「関心がある」は10・20歳代と60歳代で5割台と他の年代に比べて高くなっています。

図3-3 男女共同参画社会の認知度【全体・性別・年齢別】

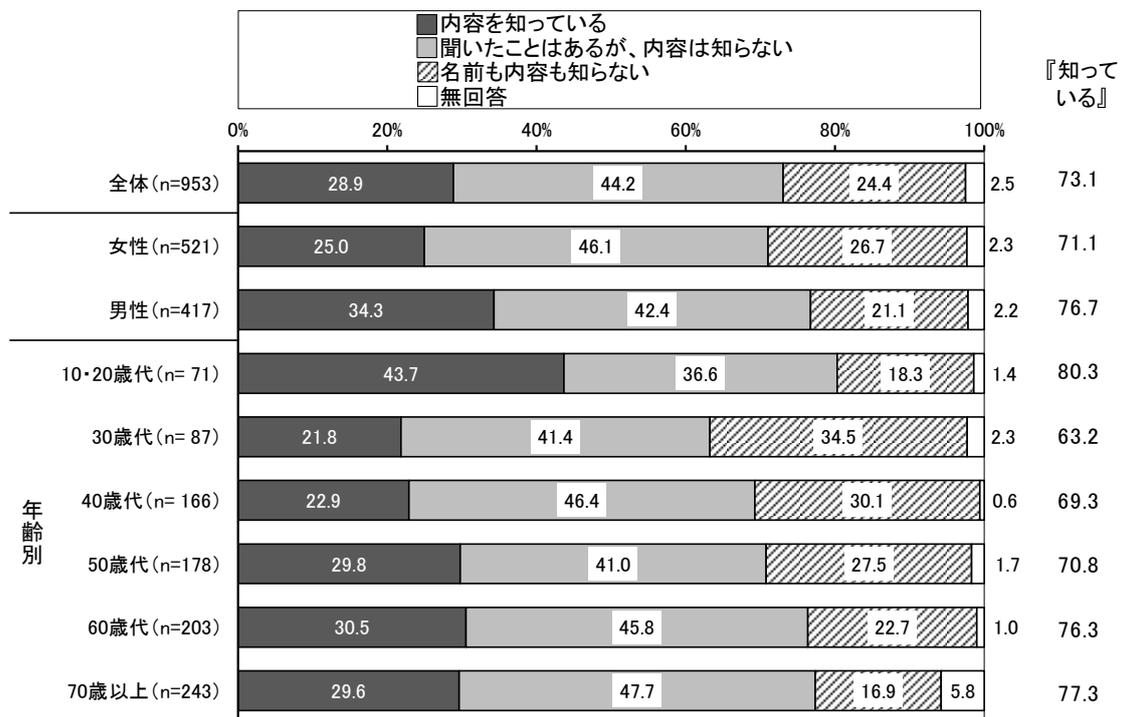
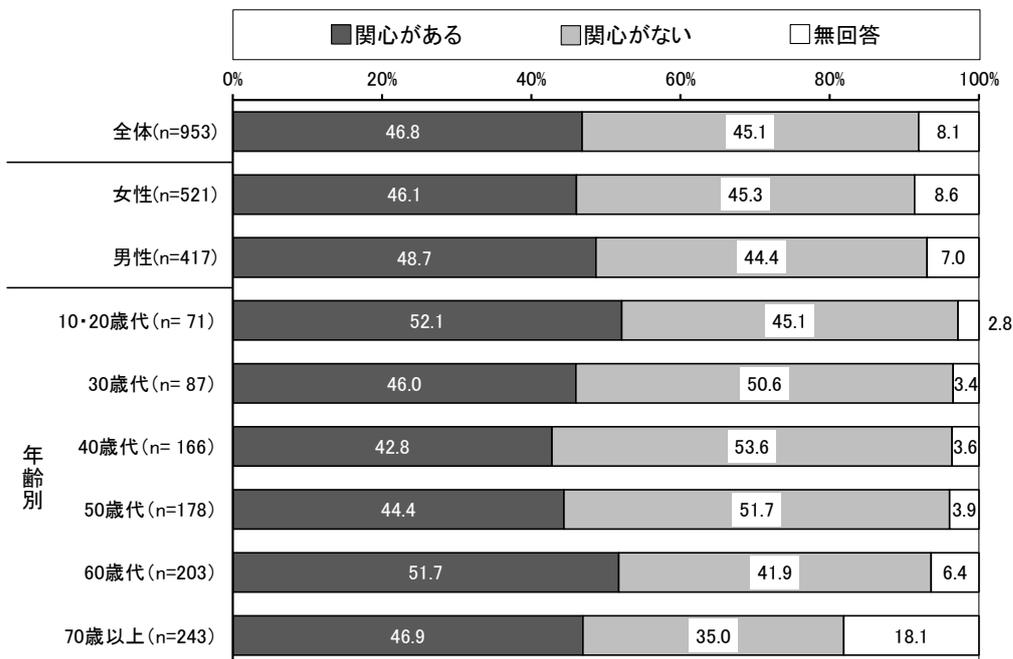


図3-4 男女共同参画社会の関心度【全体・性別・年齢別】



② 北本市男女共同参画推進条例

【性別】

〔北本市男女共同参画推進条例〕の認知度を性別にみると、『知っている』は、女性が男性を上回ります（4.2ポイント差）。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回っています（3.3ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、年代が上がるほど高い傾向にあります。

関心度について、「関心がある」は10・20歳代と30歳代で4割台と若い世代で高くなっています。

図3-5 北本市男女共同参画推進条例の認知度【全体・性別・年齢別】

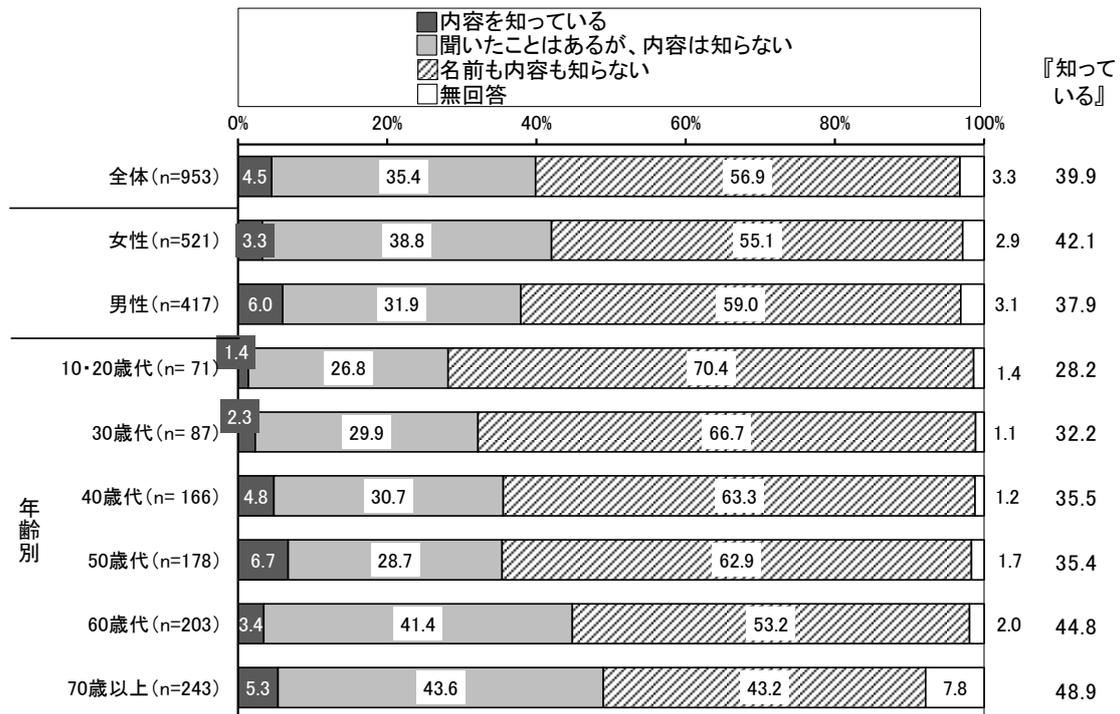
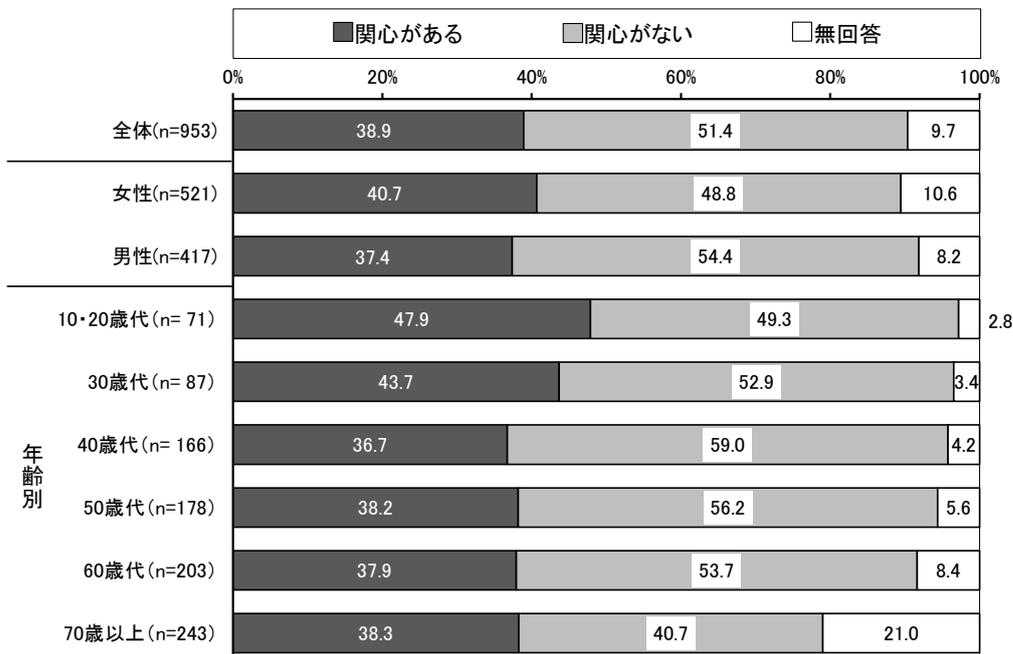


図3-6 北本市男女共同参画推進条例の関心度【全体・性別・年齢別】



③ 北本市男女行動計画

【性別】

〔北本市男女行動計画（北本市男女共同参画プラン）〕の認知度を性別にみると、『知っている』は男女ともに3割前半となっています。

関心度について、「関心がない」は男性が女性を上回っています（4.5ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、年代が上がるほど高くなっています。

関心度について、「関心がある」は10・20歳代と30歳代で4割台と若い世代で高くなっています。

図3-7 北本市男女行動計画の認知度【全体・性別・年齢別】

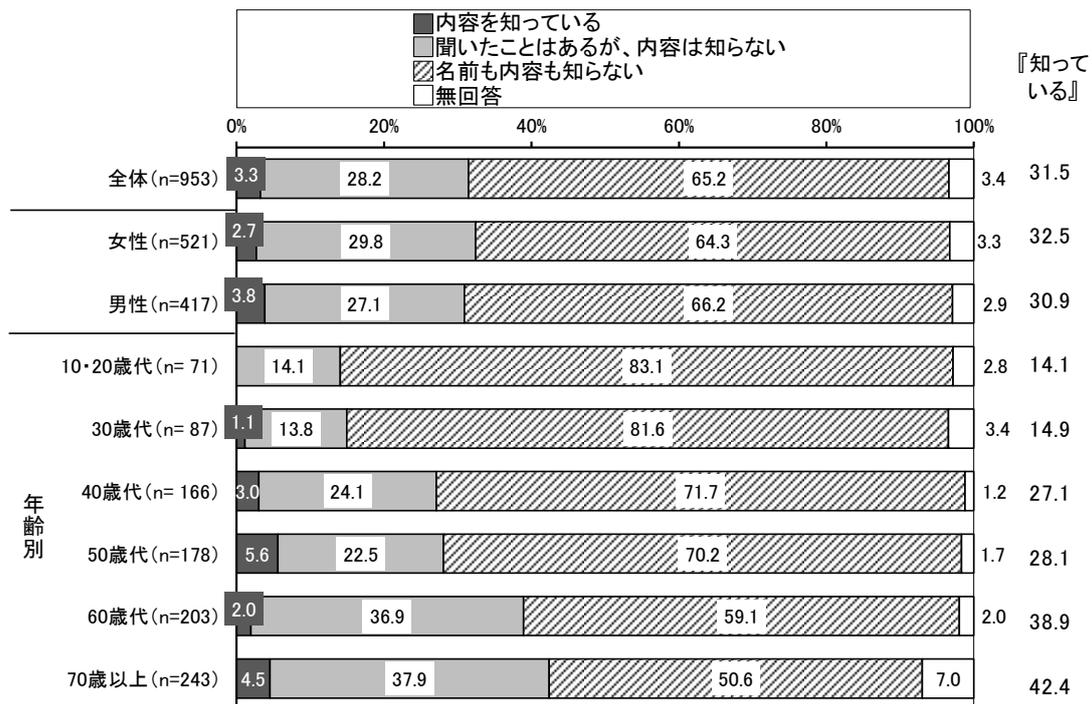
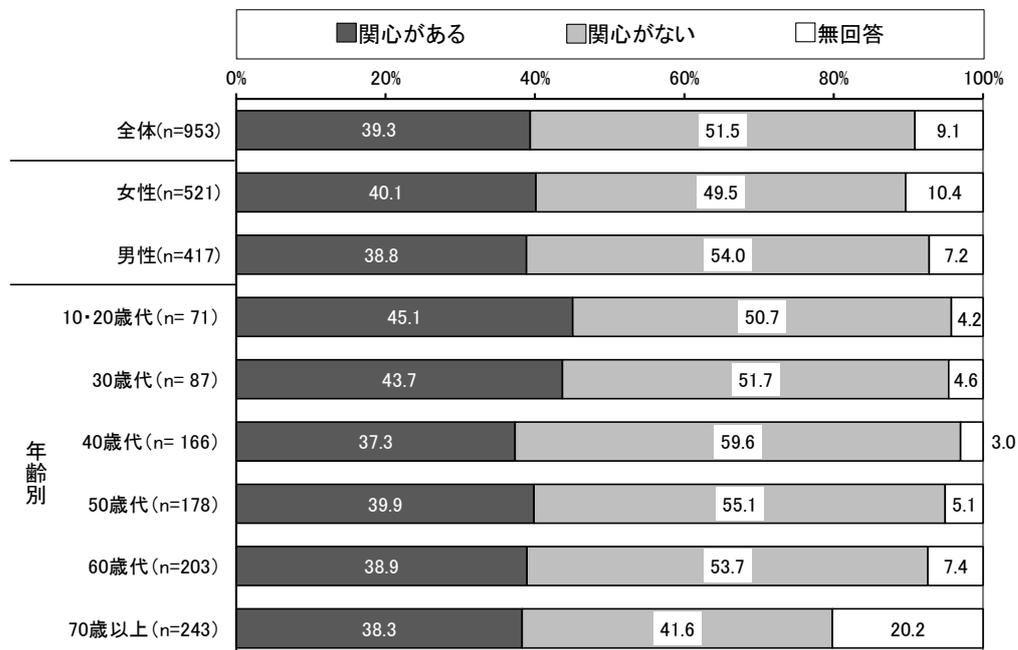


図3-8 北本市男女行動計画の関心度【全体・性別・年齢別】



④ 北本市パートナーシップ宣誓制度

【性別】

〔北本市パートナーシップ宣誓制度〕の認知度を性別にみると、『知っている』は、女性が男性を上回ります（7.8ポイント差）。

関心度についても、「関心がある」は女性が男性を上回っています（6.3ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、40歳代と50歳代が最も高く3割台後半となっています。

関心度について、「関心がある」は10・20歳代と30歳代で4割台と若い世代で高くなっています。

図3-9 北本市パートナーシップ宣誓制度の認知度【全体・性別・年齢別】

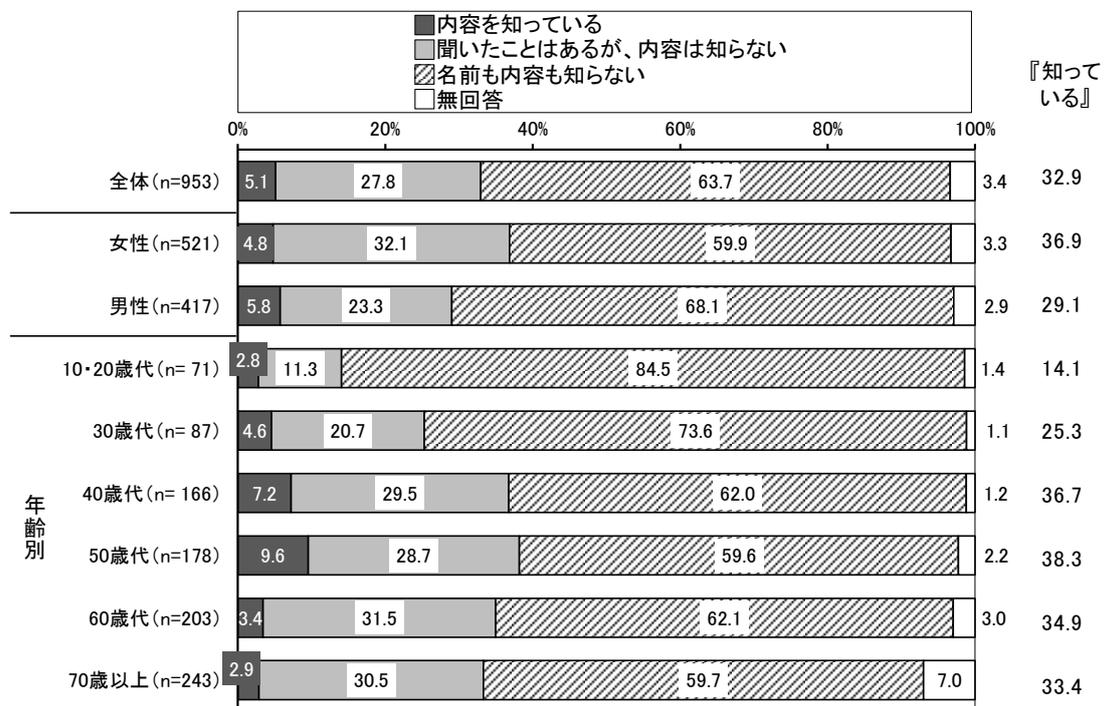
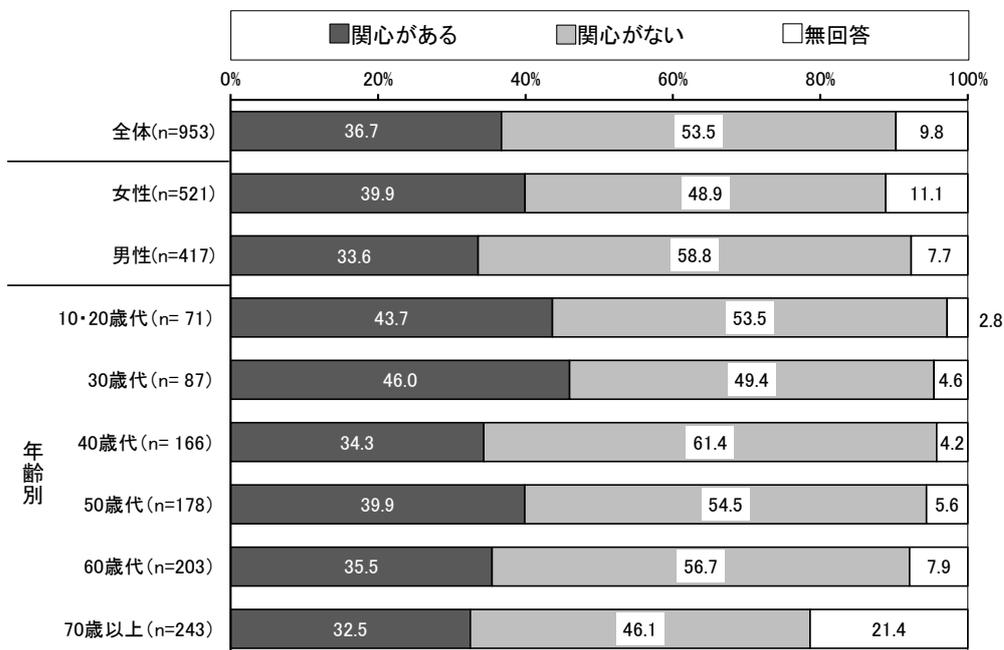


図3-10 北本市パートナーシップ宣誓制度の関心度【全体・性別・年齢別】



⑤ 男女共同参画社会基本法

【性別】

〔男女共同参画社会基本法〕の認知度を性別にみると、『知っている』は、男性が女性を上回ります（8.2ポイント差）。

関心度について、ほぼ同様の結果となっています。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、10・20歳代のみ6割台と他の年代を大きく上回っています。

関心度について、「関心がある」は10・20歳代と30歳代の若い世代と60歳代で4割台と高くなっています。

図3-11 男女共同参画社会基本法の認知度【全体・性別・年齢別】

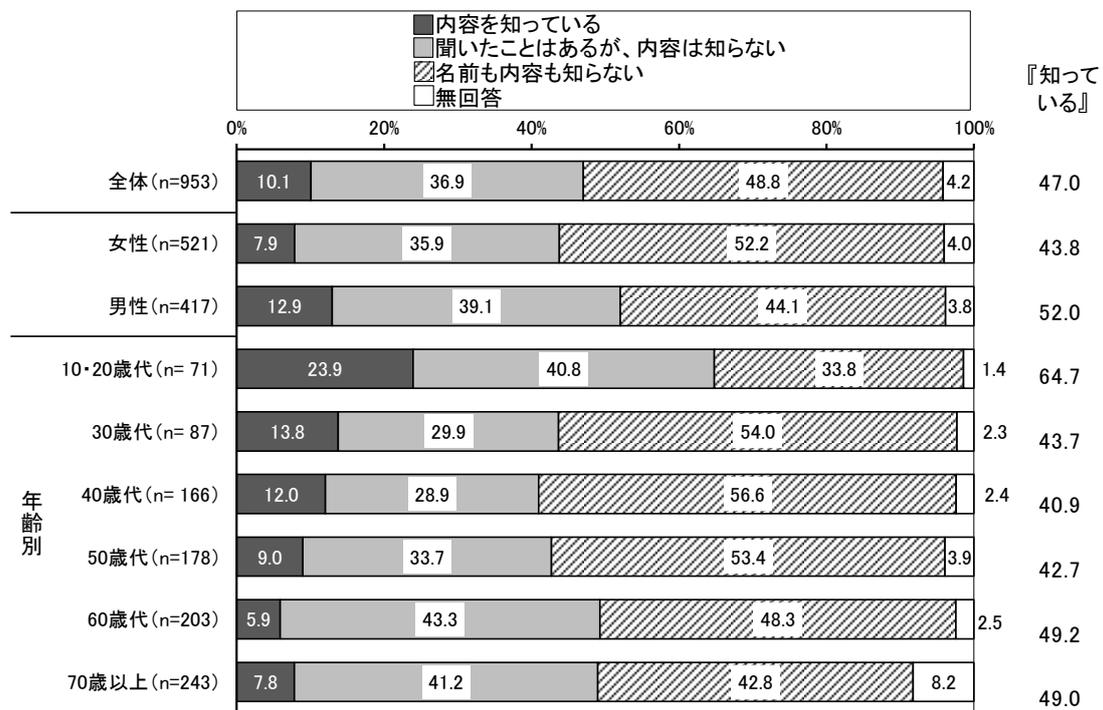
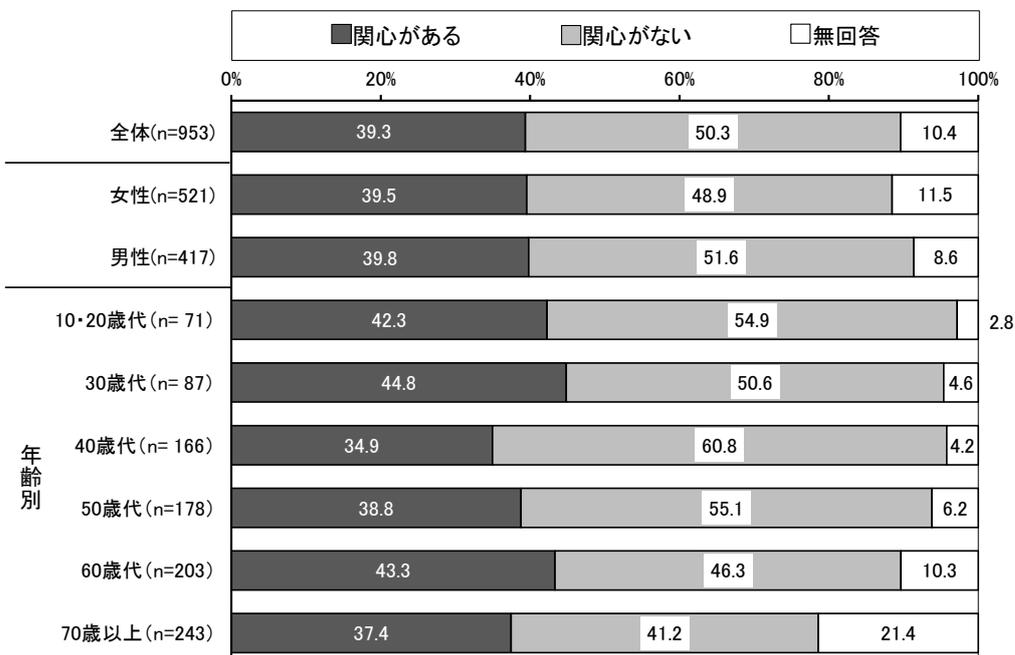


図3-12 男女共同参画社会基本法の関心度【全体・性別・年齢別】



⑥ 男女雇用機会均等法

【性別】

〔男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)〕の認知度を性別にみると、『知っている』は、男性が女性を上回ります(5.9ポイント差)。

関心度について、性別による大きな差は見られません。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの世代も7割を超え高くなっていますが、40歳代では9割台に達しています。

関心度について、「関心がある」は40～60歳代で6割台と高くなっています。

図3-13 男女雇用機会均等法の認知度【全体・性別・年齢別】

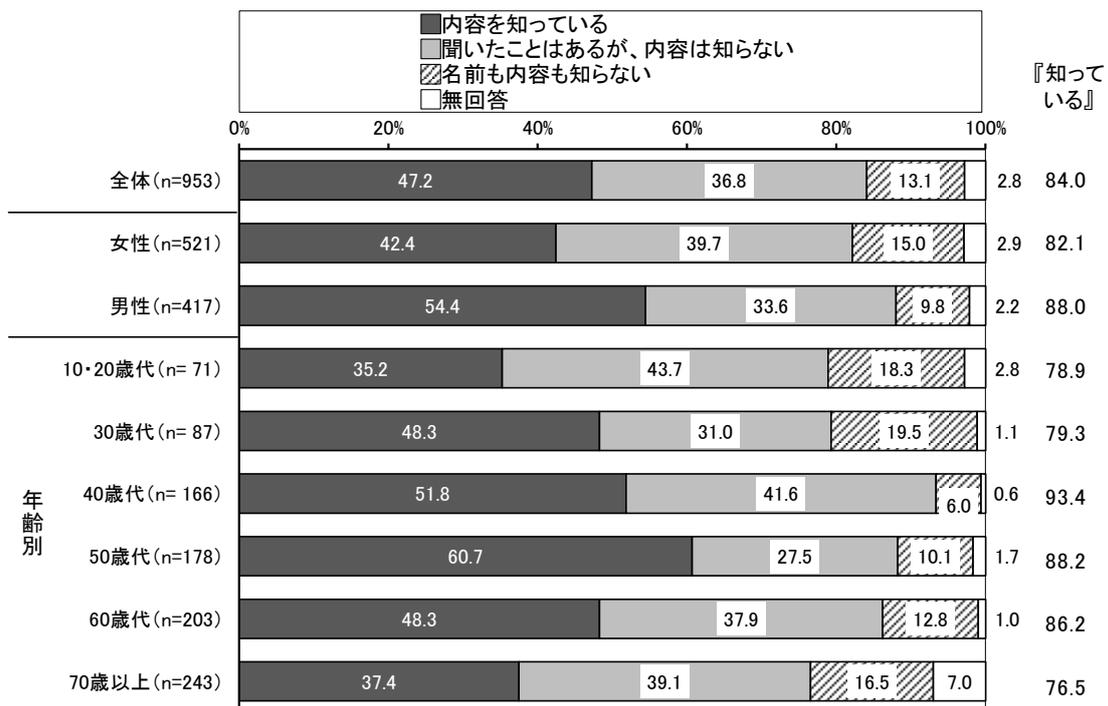
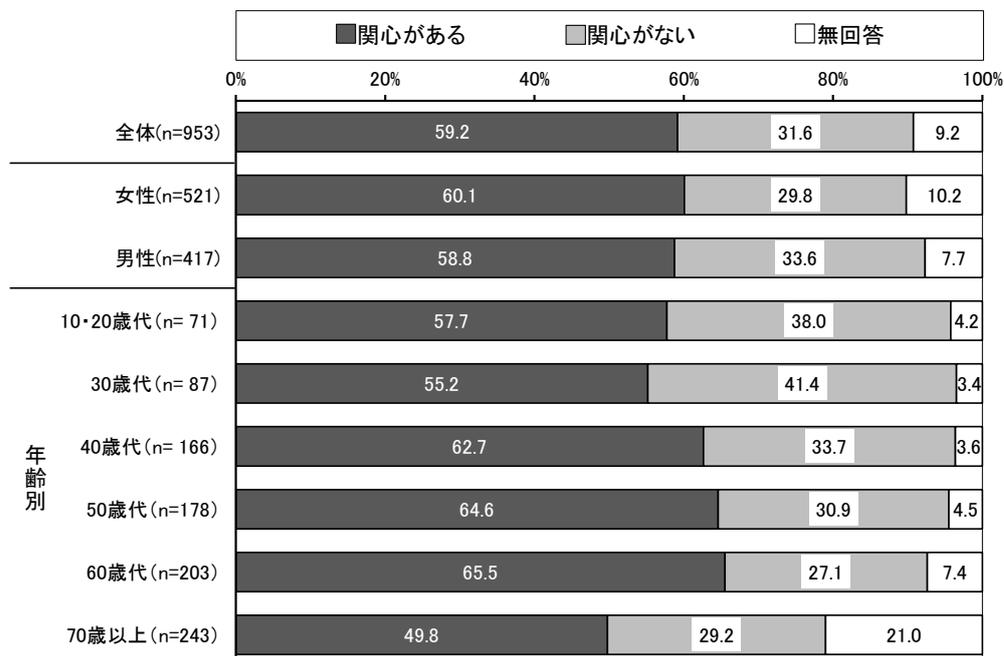


図3-14 男女雇用機会均等法の関心度【全体・性別・年齢別】



⑦ 女性活躍推進法

【性別】

〔女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）〕の認知度を性別にみると、「内容を知っている」は男性が女性をやや上回るものの（2.4ポイント差）、『知っている』はほぼ同様の結果となっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（12.1ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの世代も5割を超えています。30～40歳代では6割台と特に高くなっています。

関心度について、「関心がある」は30歳代が5割後半と最も高くなっています。

図3-15 女性活躍推進法の認知度【全体・性別・年齢別】

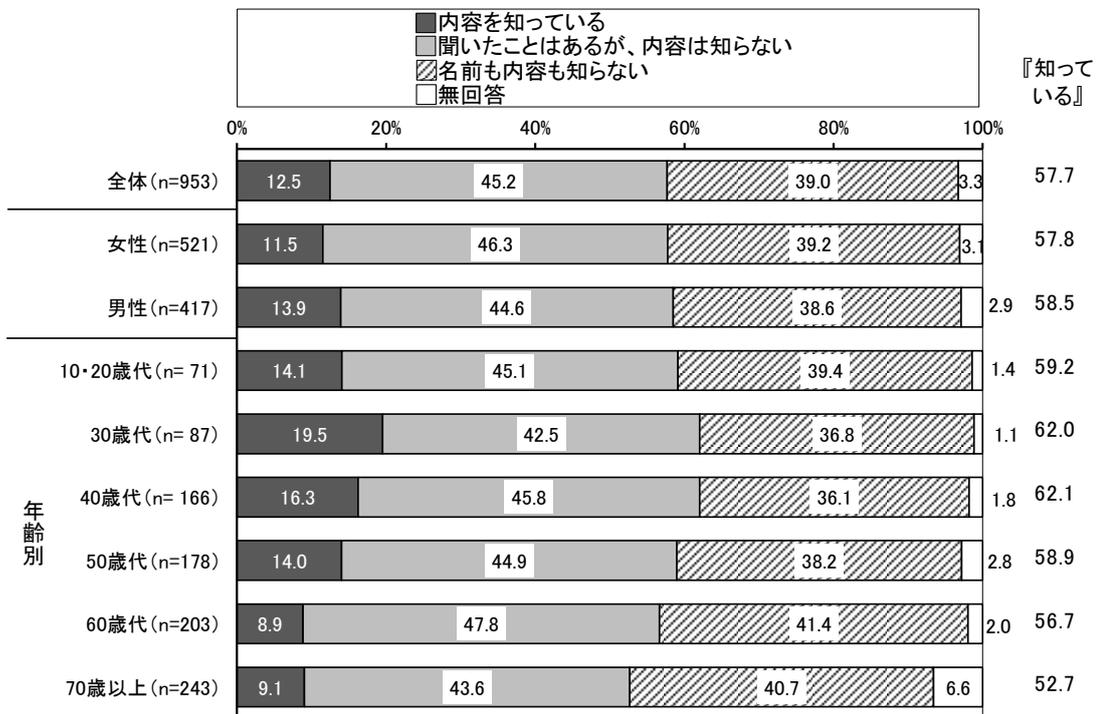
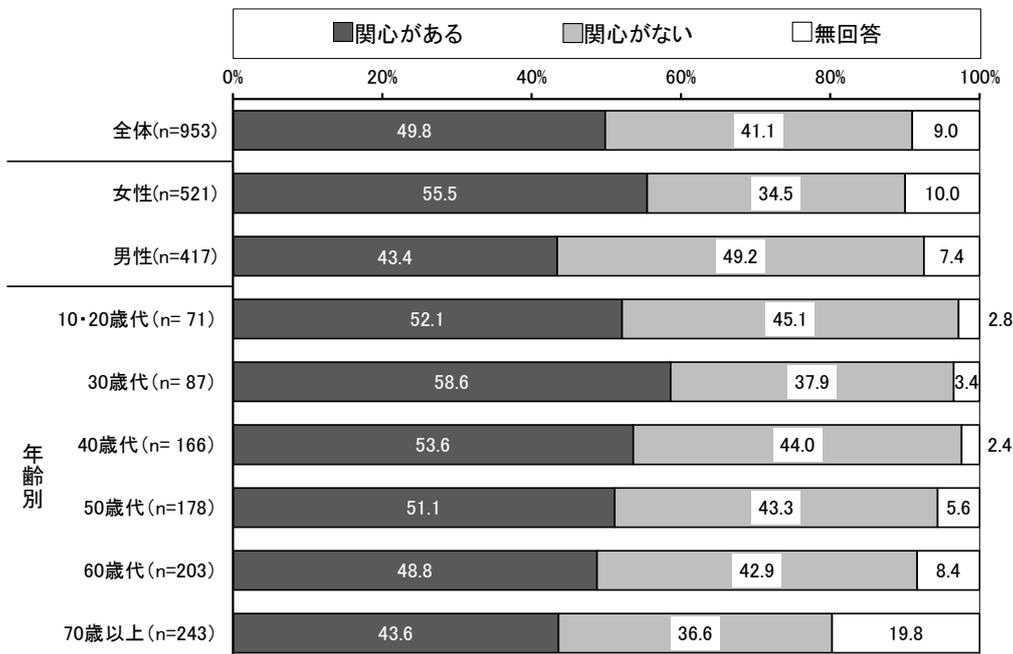


図3-16 女性活躍推進法の関心度【全体・性別・年齢別】



⑧ DV防止法

【性別】

〔DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）〕の認知度を性別にみると、「内容を知っている」は男性が女性を上回りますが（5.0ポイント差）、『知っている』は男女ともに約9割となっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（5.7ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの世代も8割を超え高くなっていますが、40～60歳代では9割台と特に高くなっています。

関心度について、「関心がある」は70歳以上を除きいずれの世代も6割台と高くなっています。

図3-17 DV防止法の認知度【全体・性別・年齢別】

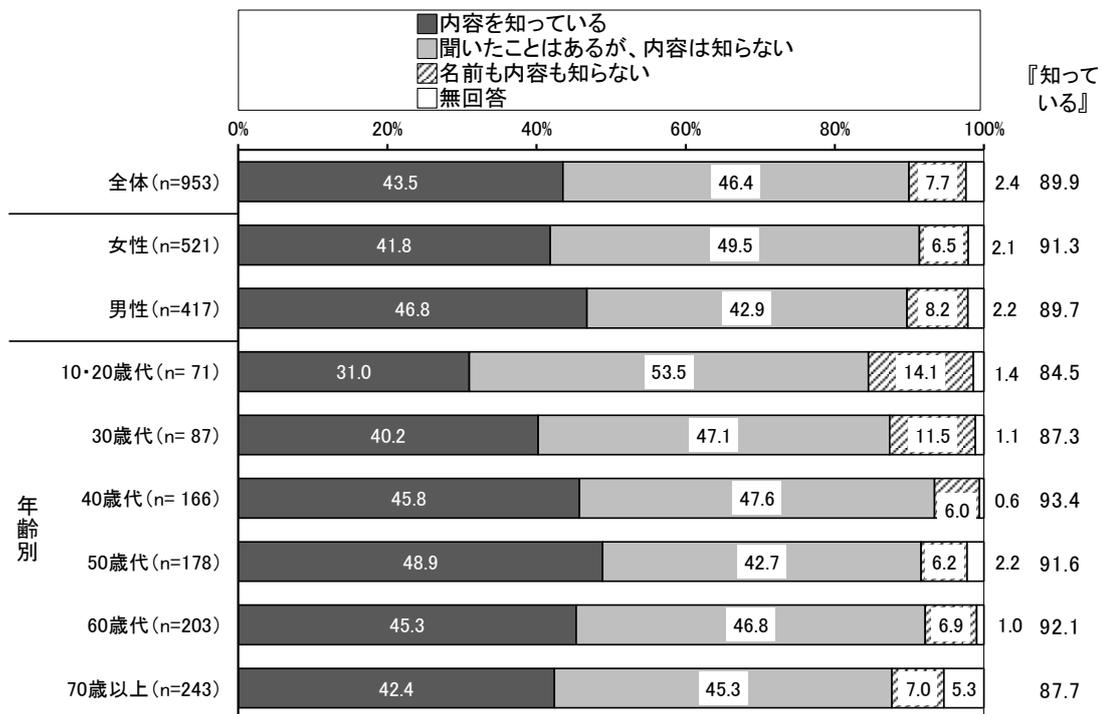
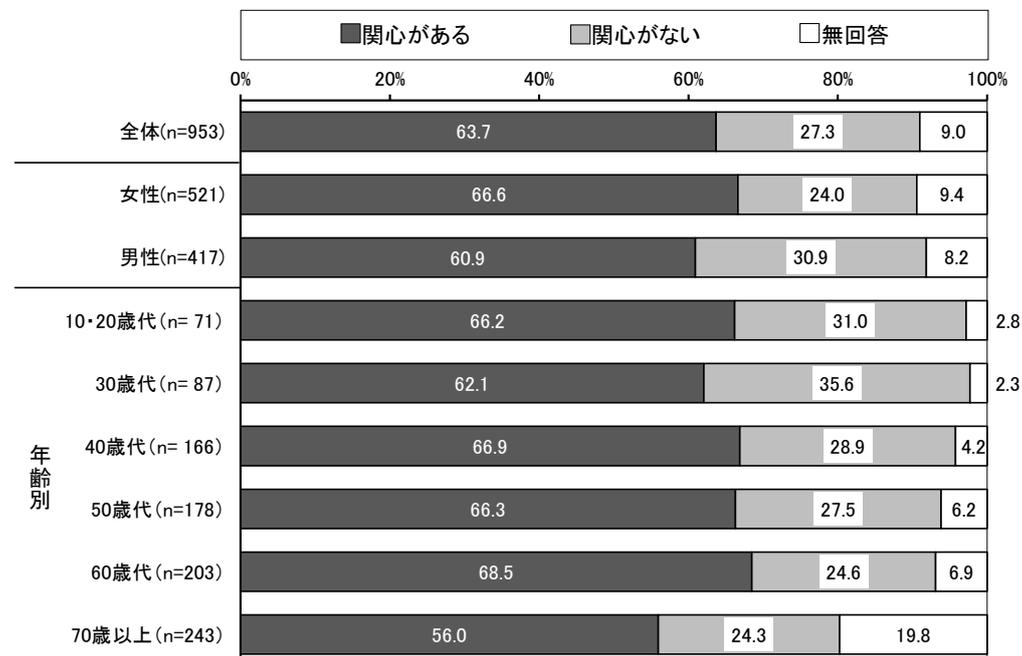


図3-18 DV防止法の関心度【全体・性別・年齢別】



⑨ 育児・介護休業法

【性別】

〔育児・介護休業法（育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律）〕の認知度を性別にみると、性別による「内容を知っている」は男性が女性をやや上回るものの（3.1ポイント差）、『知っている』は男女ともに8割台後半となっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（6.2ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの世代も8割を超え高くなっていますが、40歳代と60歳代では9割台と特に高くなっています。

関心度について、「関心がある」は子育て世代の30歳代で8割台と最も高くなっています。

図3-19 育児・介護休業法の認知度【全体・性別・年齢別】

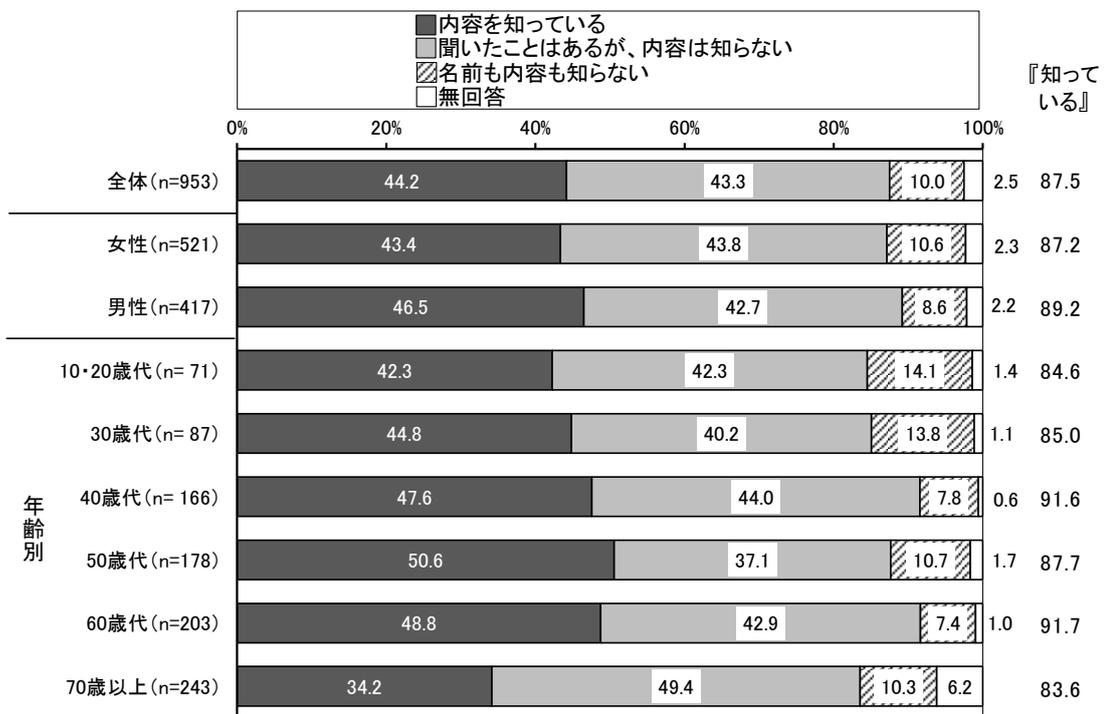
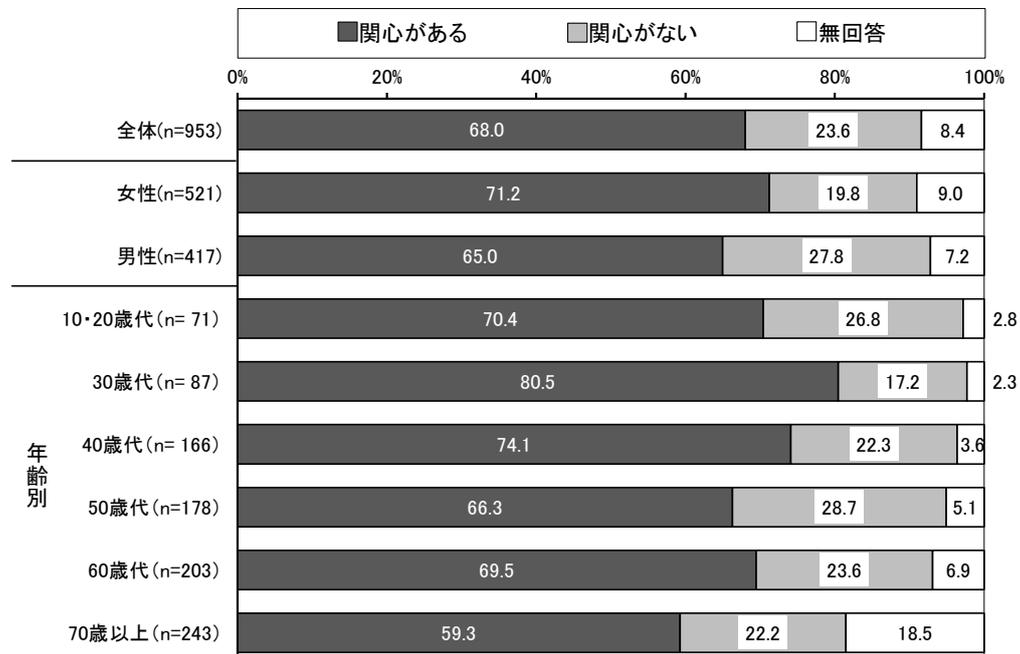


図3-20 育児・介護休業法の関心度【全体・性別・年齢別】



⑩ 女子差別撤廃条約

【性別】

〔女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）〕の認知度を性別にみると、ほぼ同様の結果となっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を大きく上回ります（14.9ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの年代も4割台後半～5割台となっています。

関心度について、「関心がある」は70歳以上を除きいずれの世代も5割台後半～6割台となっています。

図3-21 女子差別撤廃条約の認知度【全体・性別・年齢別】

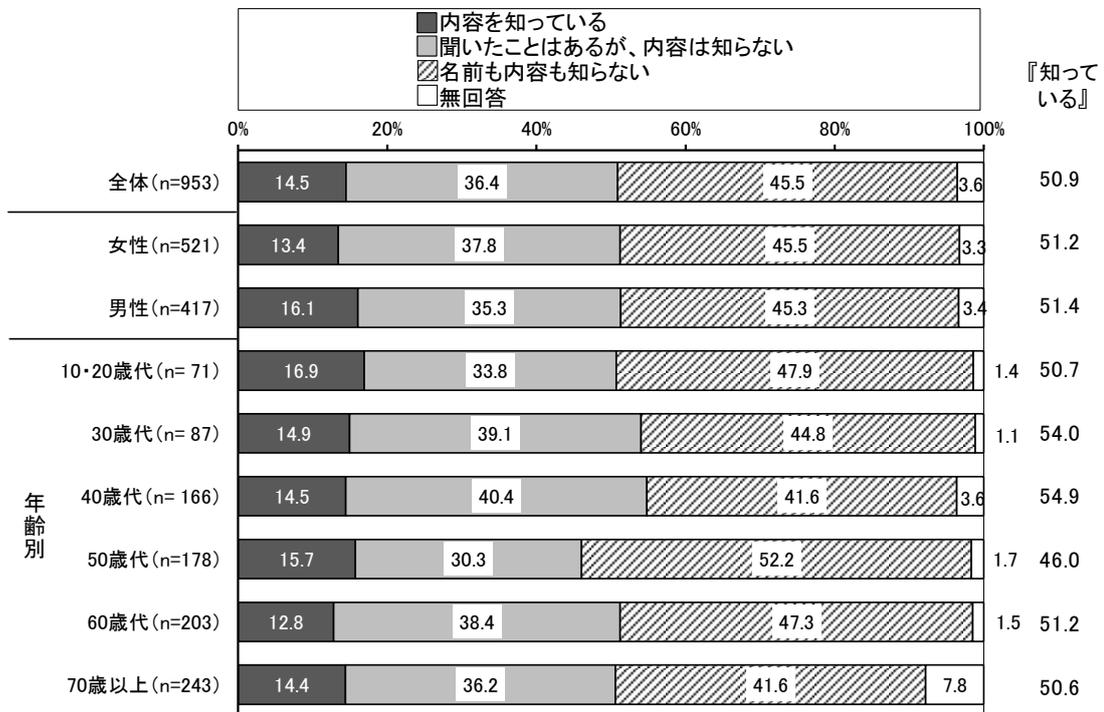
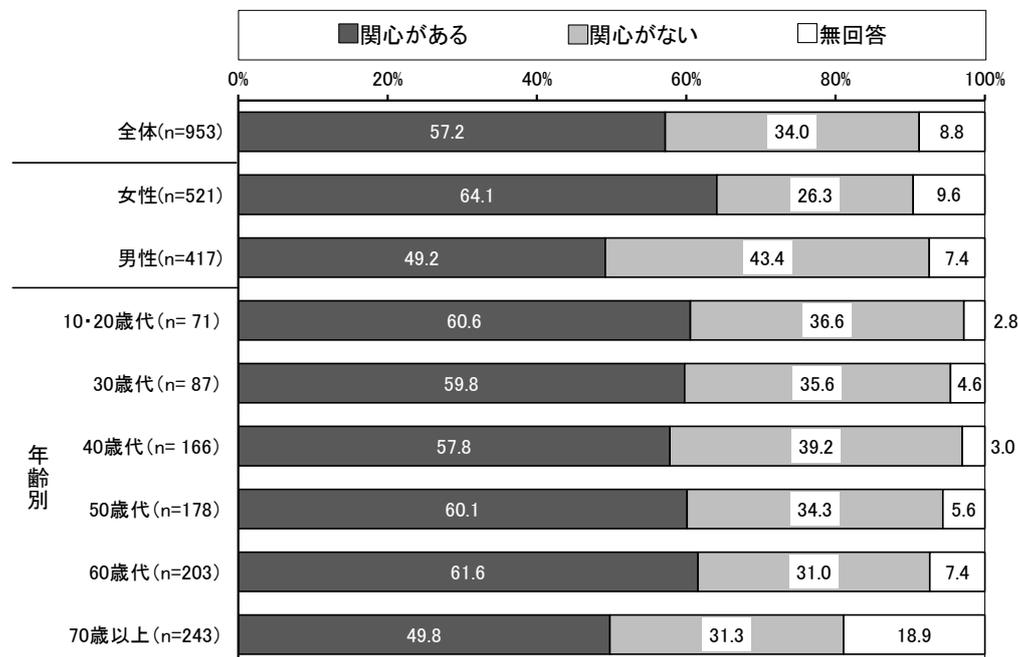


図3-22 女子差別撤廃条約の関心度【全体・性別・年齢別】



⑪ DV

【性別】

〔DV（ドメスティック・バイオレンス）〕の認知度を性別にみると、「内容を知っている」は女性が男性を上回るものの（5.4ポイント差）、『知っている』は男女ともに9割台半ばとなっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（5.5ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの年代も8割を超え高くなっています。

関心度について、「関心がある」は70歳以上を除きいずれの世代も6割台と高くなっています。

図3-23 DVの認知度【全体・性別・年齢別】

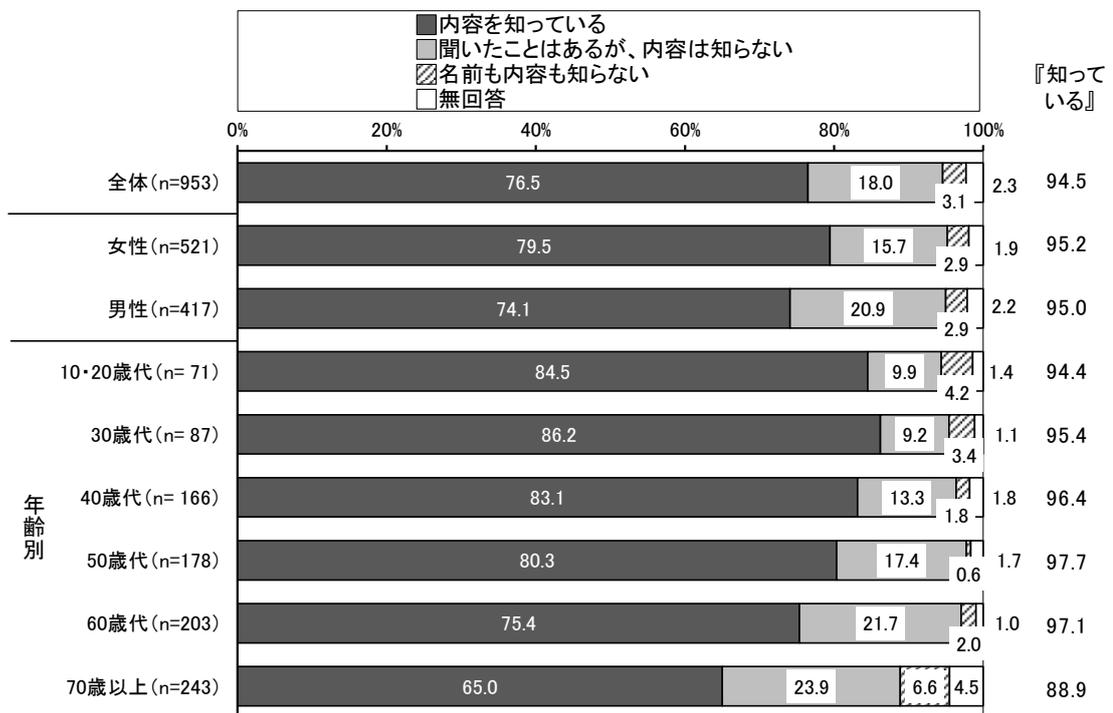
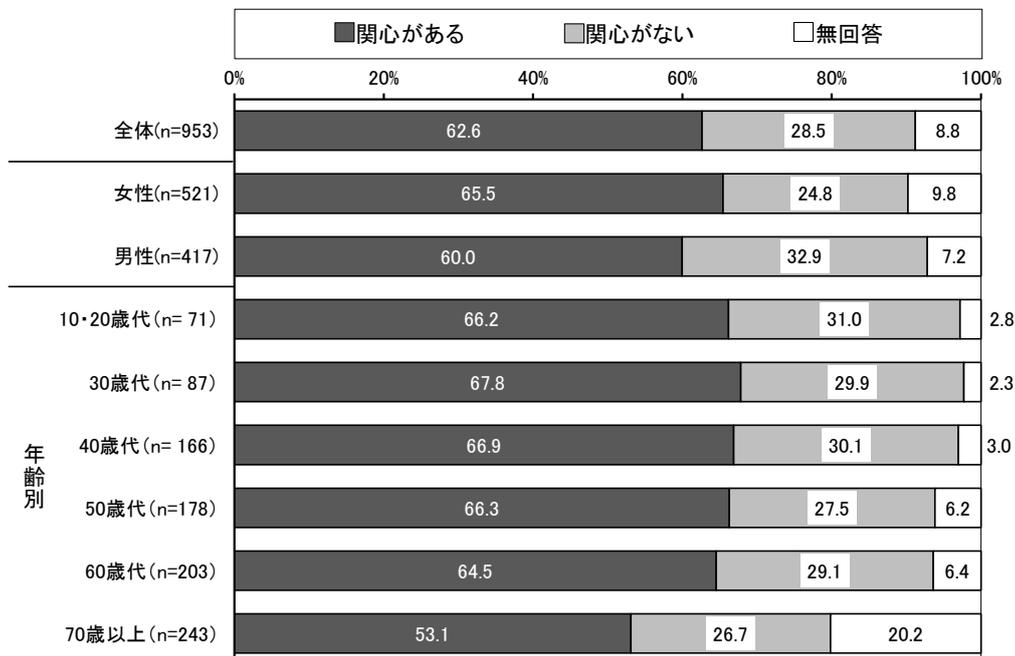


図3-24 DVの関心度【全体・性別・年齢別】



⑫ デートDV

【性別】

〔デートDV（交際相手からの暴力）〕の認知度を性別にみると、「内容を知っている」は女性が男性を上回っています（9.2ポイント差）。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（11.9ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、10・20歳代が最も高く7割台後半であり、若い世代で高い傾向にあります。

関心度についても、「関心がある」は10・20歳代が最も高く6割台となっています。

図3-25 デートDVの認知度【全体・性別・年齢別】

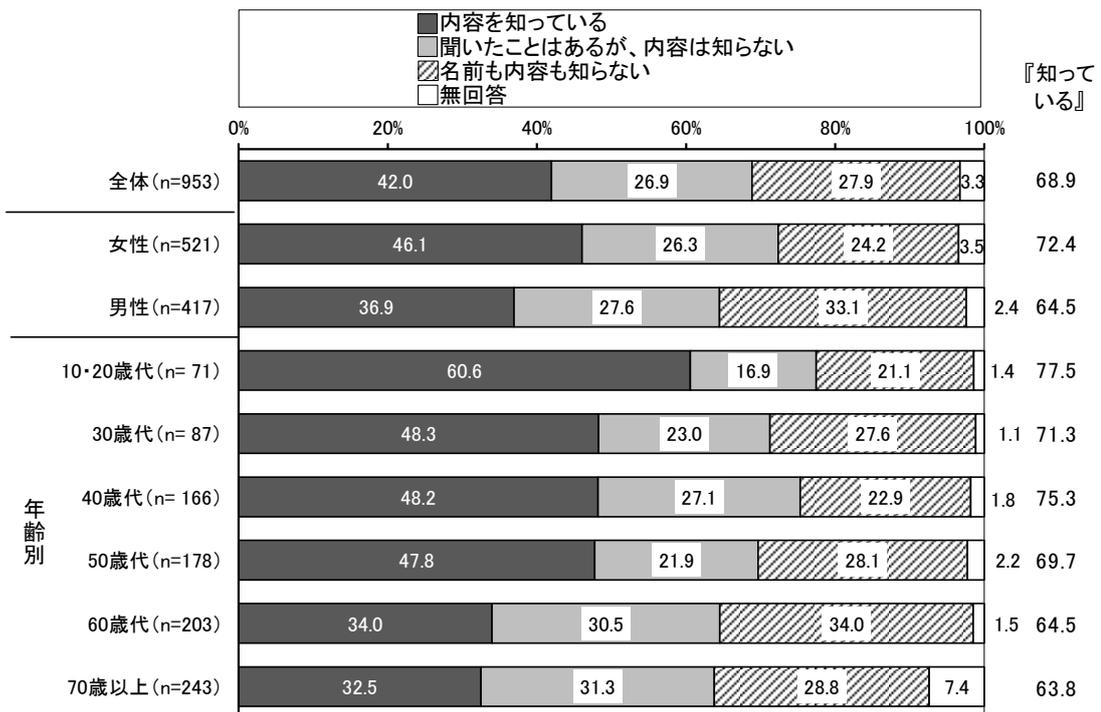
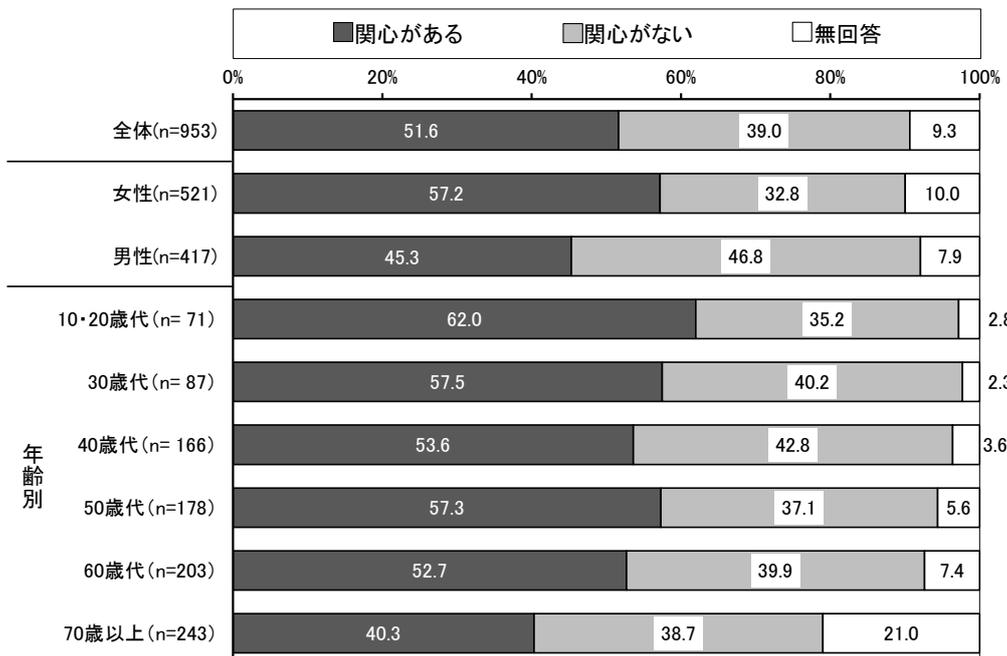


図3-26 デートDVの関心度【全体・性別・年齢別】



⑬ セクシュアル・ハラスメント

【性別】

〔セクシュアル・ハラスメント〕の認知度を性別にみると、男女ともに「内容を知っている」が約8割であり、『知っている』は9割を超えています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（3.4ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの年代も8割を超え高くなっています。

関心度について、「関心がある」は70歳代を除きいずれの年代も7割程度と高くなっています。

図3-27 セクシュアル・ハラスメントの認知度【全体・性別・年齢別】

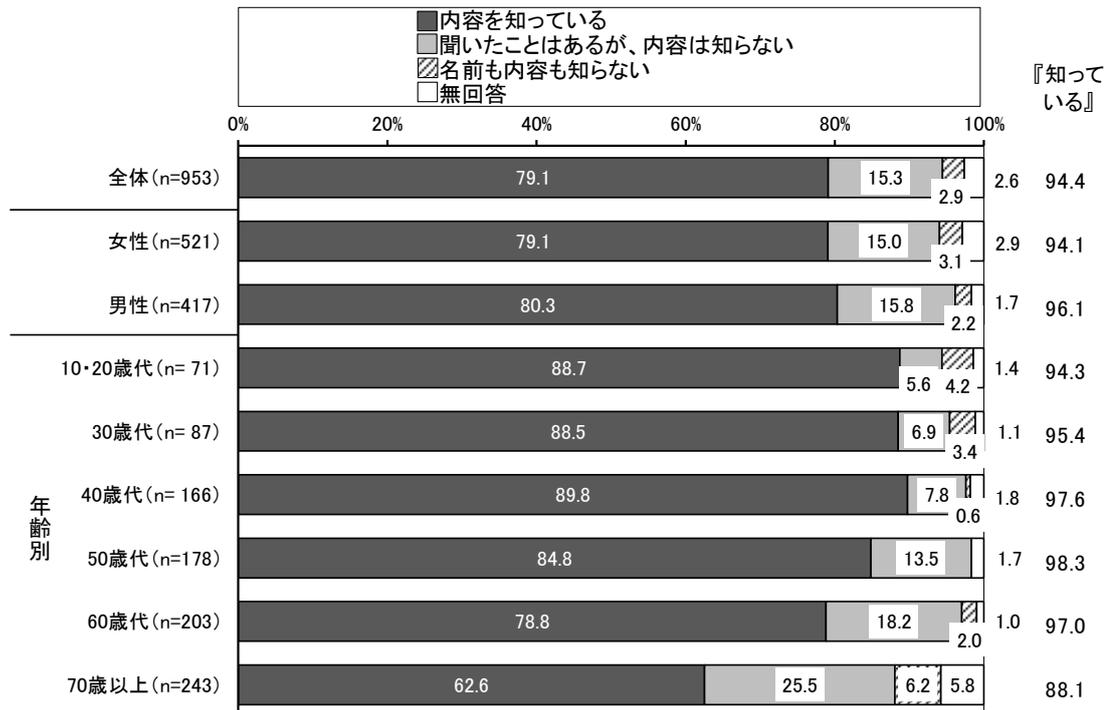
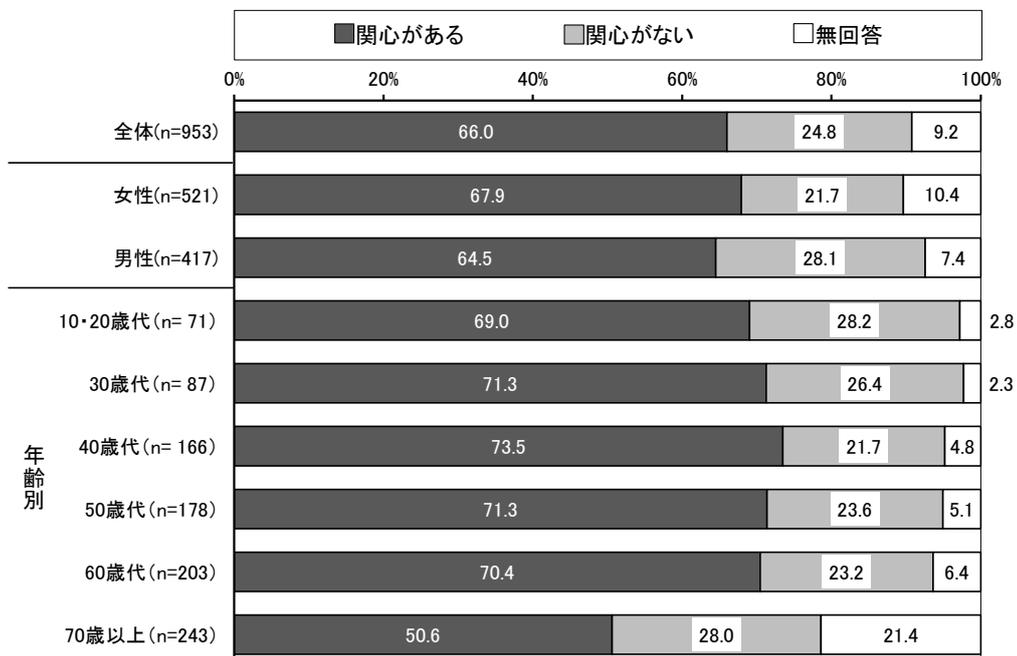


図3-28 セクシュアル・ハラスメントの関心度【全体・性別・年齢別】



⑭ マタニティ・ハラスメント

【性別】

〔マタニティ・ハラスメント〕の認知度を性別にみると、「内容を知っている」は女性が男性を上回ります（9.0ポイント差）。一方で、『知っている』は男女ともに9割近くとなっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（5.0ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの年代も8割を超え高くなっています。

関心度について、「関心がある」は70歳代を除きいずれの年代も6割を超え、子育て世代である30歳代では7割台と特に高くなっています。

図3-29 マタニティ・ハラスメントの認知度【全体・性別・年齢別】

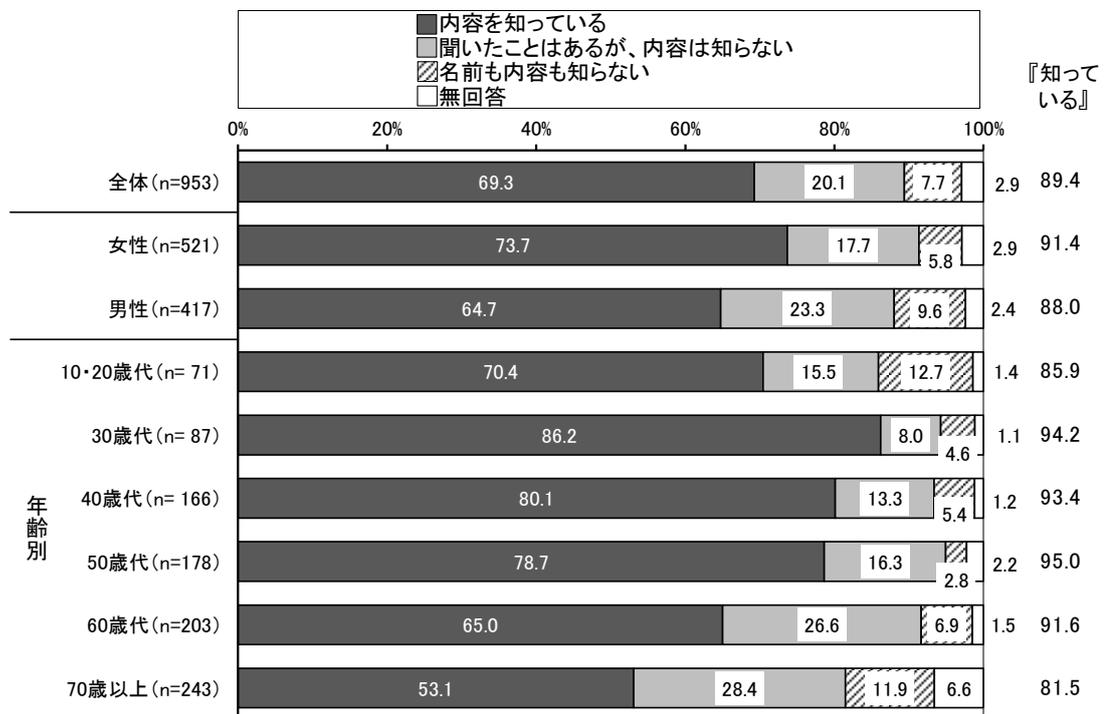
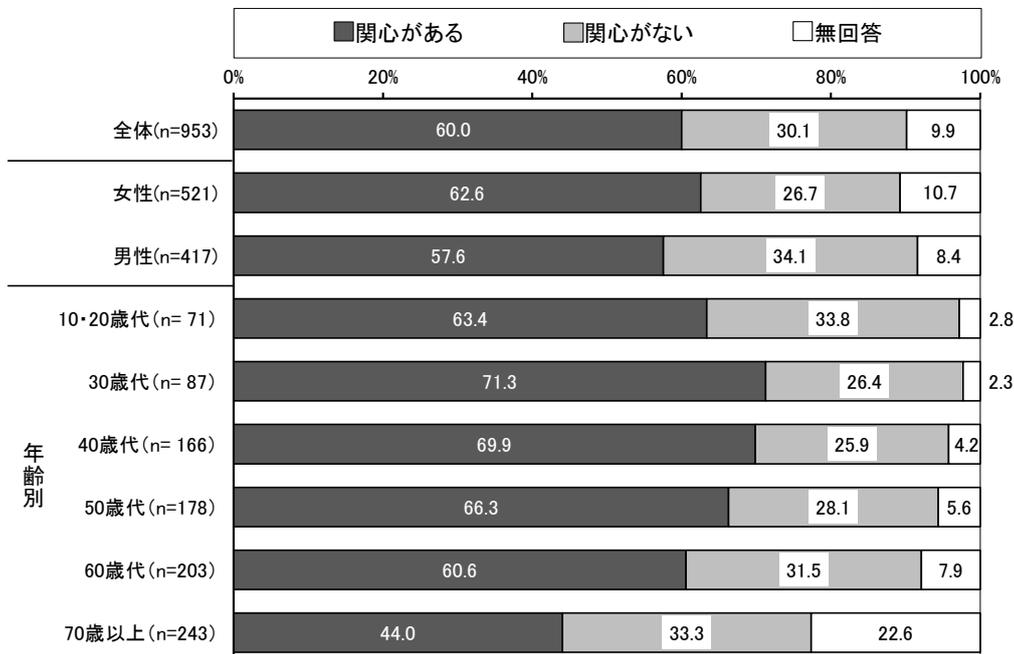


図3-30 マタニティ・ハラスメントの関心度【全体・性別・年齢別】



⑮ パタニティ・ハラスメント

【性別】

〔パタニティ・ハラスメント〕の認知度を性別にみると、『知っている』は男性が女性をやや上回ります（3.3ポイント差）。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（5.4ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、30歳代のみ5割を超えていますが、その他の年代ではいずれも3割後半～4割台となっています。

関心度について、「関心がある」は10・20歳代と30歳代で6割台と、若い世代で高くなっています。

図3-31 パタニティ・ハラスメントの認知度【全体・性別・年齢別】

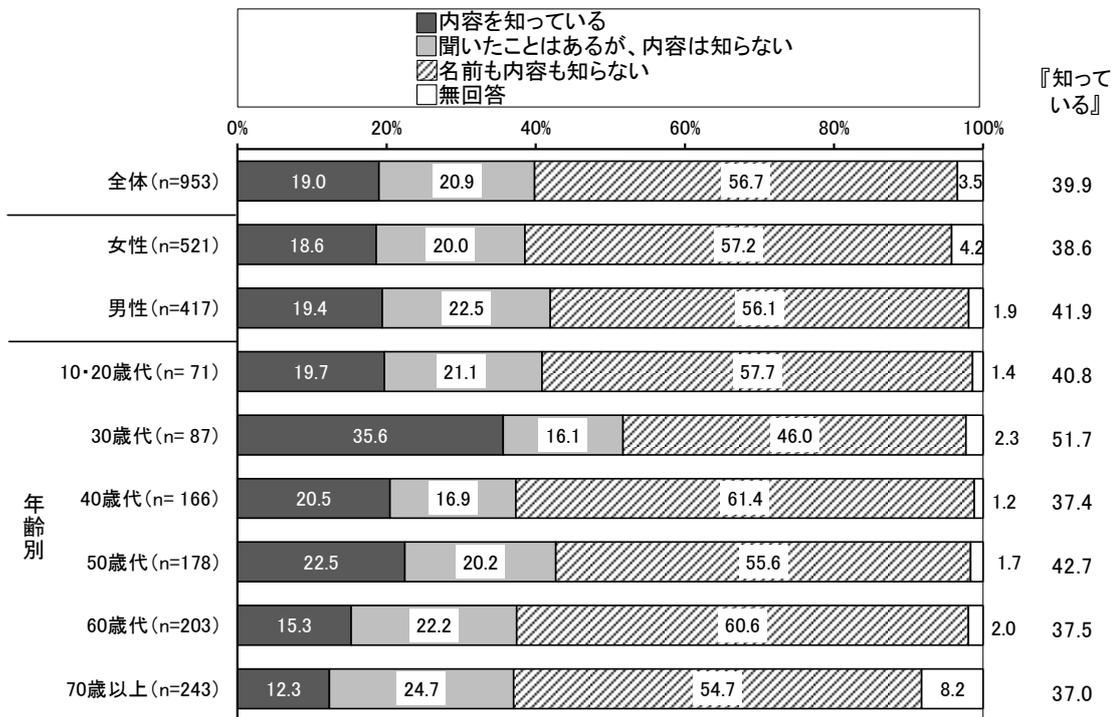
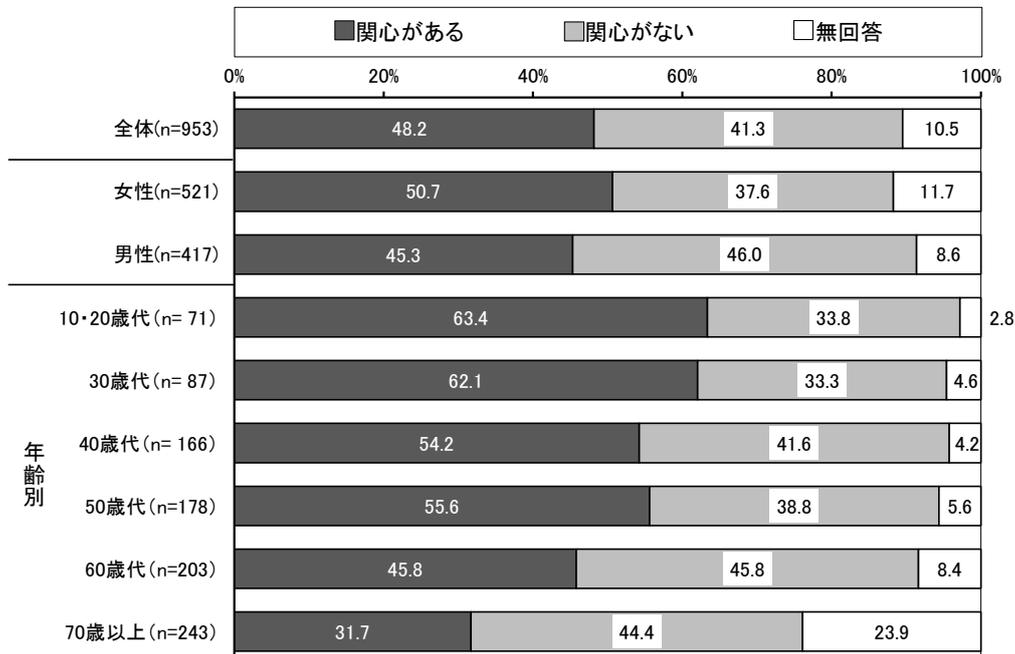


図3-32 パタニティ・ハラスメントの関心度【全体・性別・年齢別】



⑩ ジェンダー

【性別】

〔ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）〕の認知度を性別にみると、「内容を知っている」は女性が男性を上回ります（4.5ポイント差）。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（12.0ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、70歳以上を除きいずれの年代も8割を超え高くなっています。

関心度について、「関心がある」は10・20歳代が7割台と最も高く、若い世代ほど高い傾向にあります。

図3-33 ジェンダーの認知度【全体・性別・年齢別】

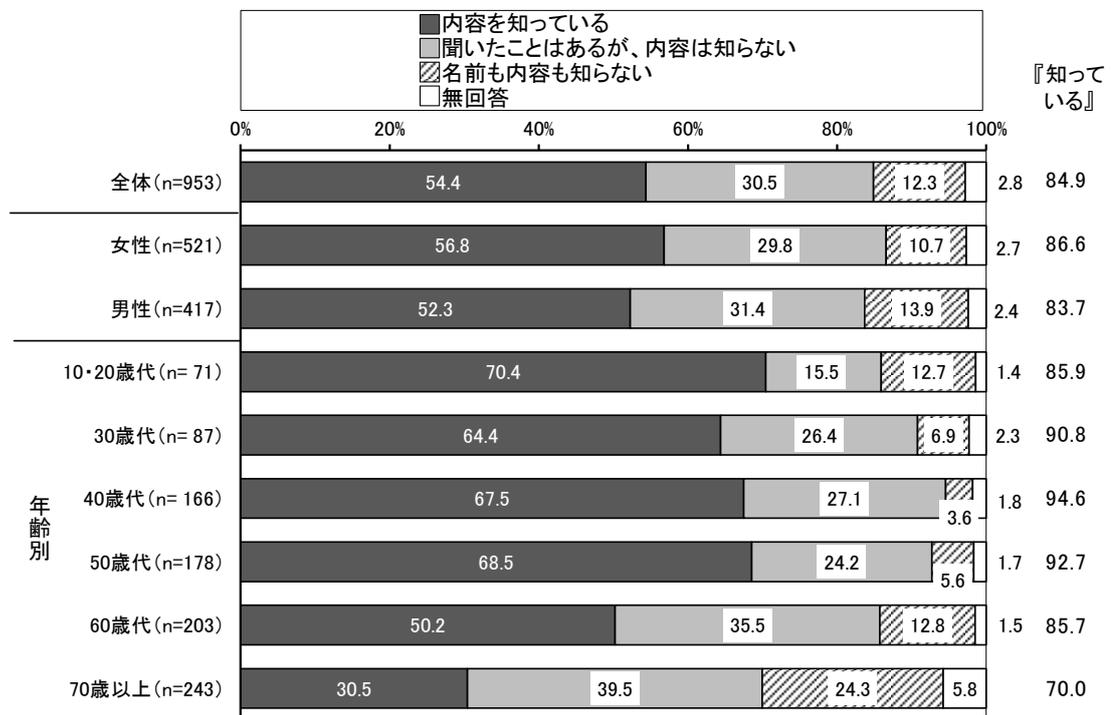
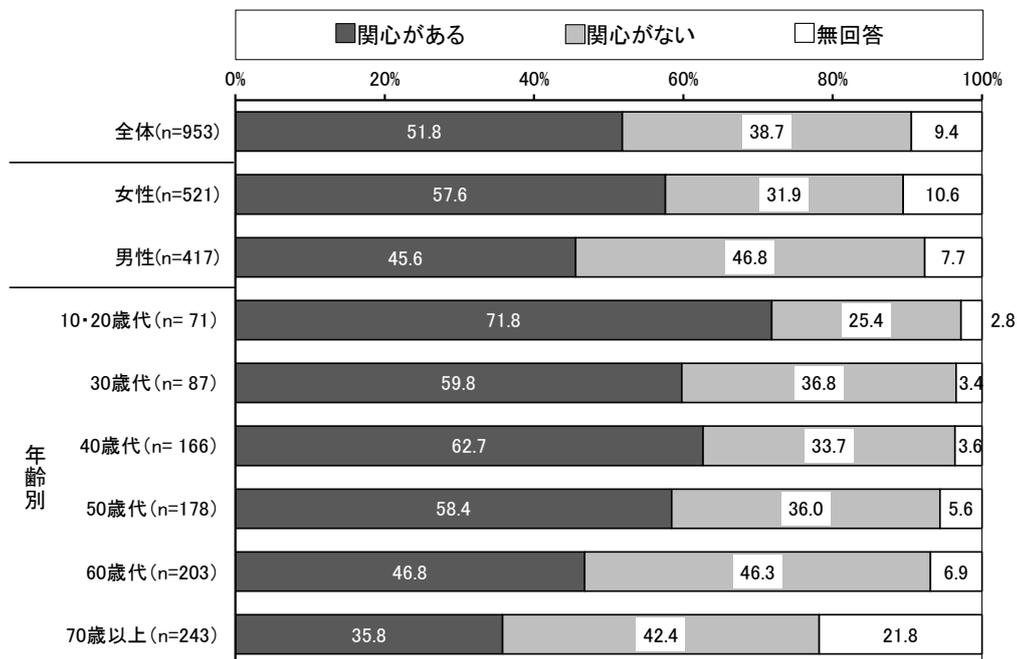


図3-34 ジェンダーの関心度【全体・性別・年齢別】



⑰ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

【性別】

〔リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）〕の認知度を性別にみると、男女ともに「名前も内容も知らない」が7割台で最も高くなっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（7.6ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、いずれの年代も約2割～2割台にとどまります。

関心度について、「関心がある」は10・20歳代と30歳代で5割台後半と、若い世代ほど高くなっています。

図3-35 リプロダクティブ・ヘルス/ライツの認知度【全体・性別・年齢別】

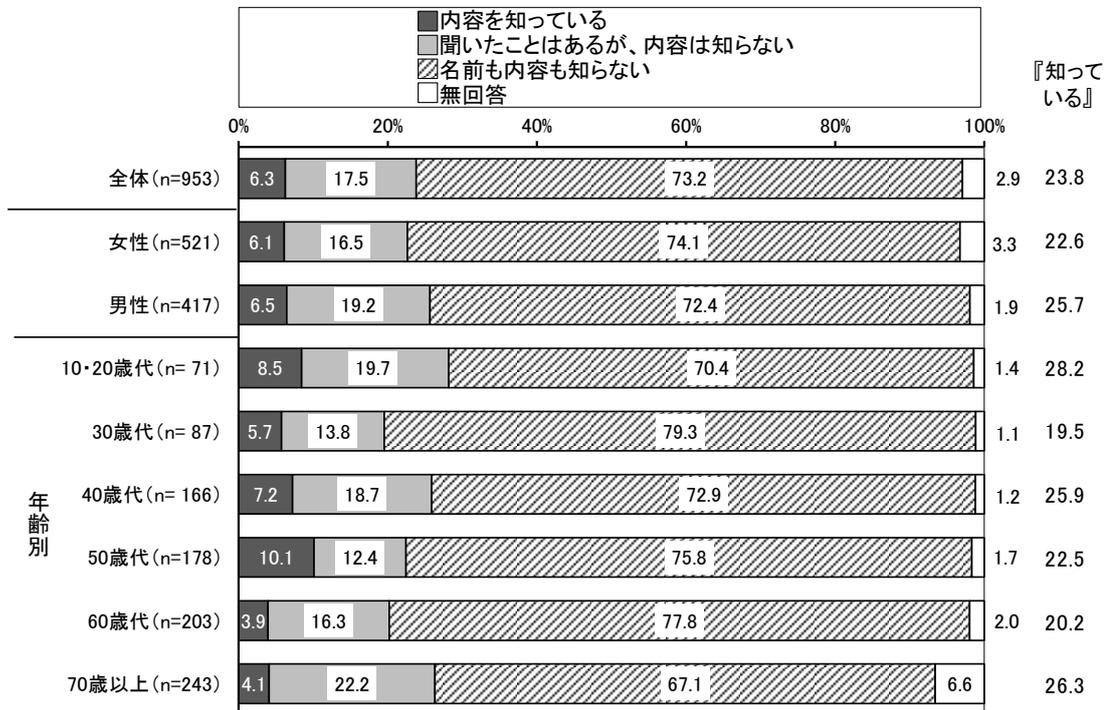
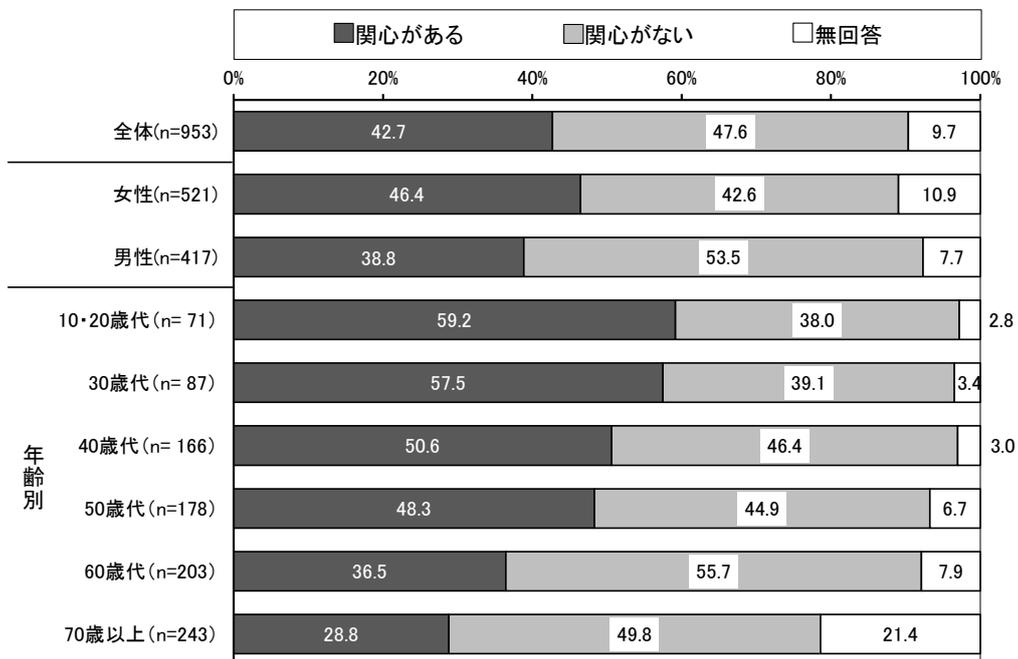


図3-36 リプロダクティブ・ヘルス/ライツの関心度【全体・性別・年齢別】



⑱ ワーク・ライフ・バランス

【性別】

〔ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）〕の認知度を性別にみると、「内容を知っている」は男性が女性を上回ります（8.4ポイント差）。

関心度について、「関心がある」は女性が男性をやや上回ります（2.2ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、10・20歳代で8割を超えるなど、若い世代ほど高くなっています。

関心度についても、「関心がある」は10・20歳代と30歳代で7割台後半と、若い世代ほど高くなっています。

図3-37 ワーク・ライフ・バランスの認知度【全体・性別・年齢別】

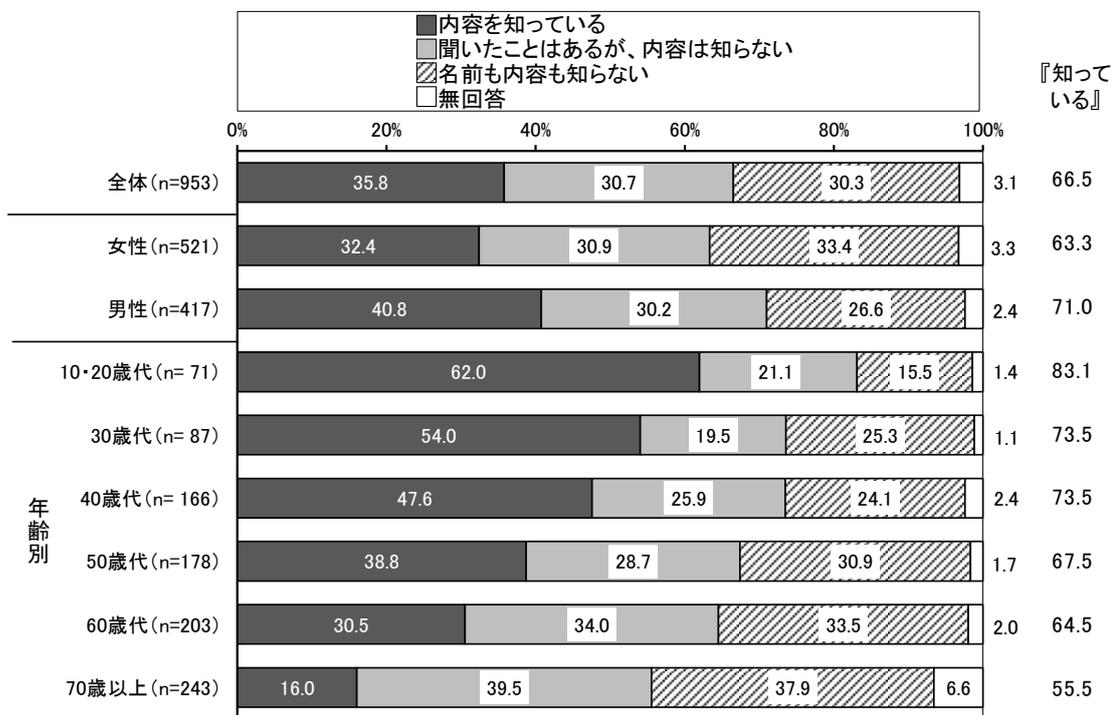
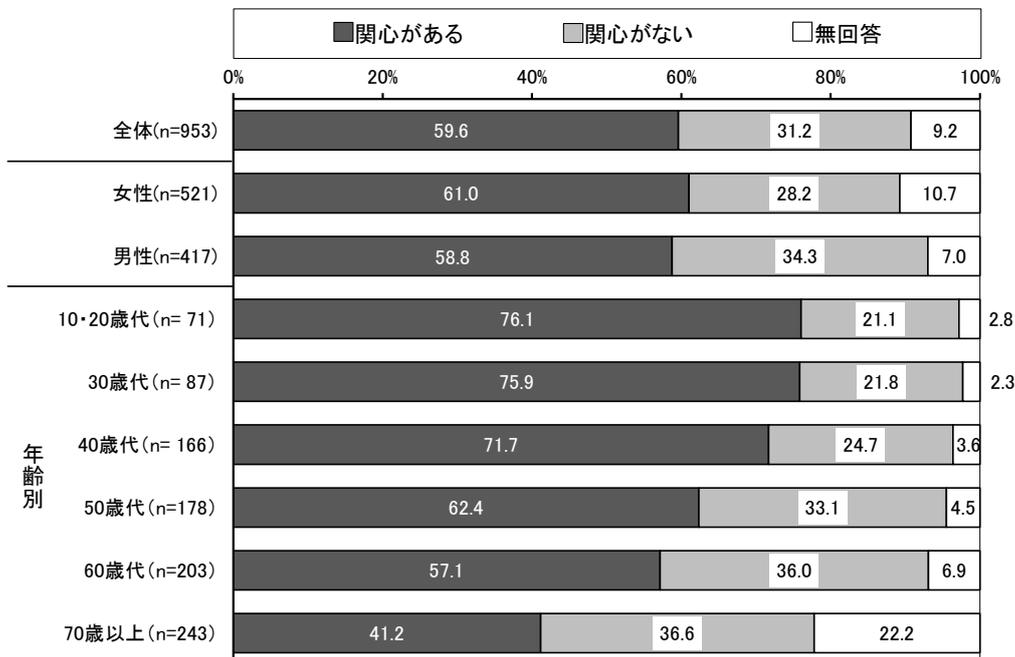


図3-38 ワーク・ライフ・バランスの関心度【全体・性別・年齢別】



①⑨ L G B T Q

【性別】

〔LGBTQ（性的少数者の方を表す総称のひとつ）〕の認知度を性別にみると、「内容を知っている」は女性が男性を上回るものの（2.6ポイント差）、『知っている』は男女ともに7割台前半となっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（12.6ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、30歳代が8割台後半と最も高くなっています。

関心度についても、「関心がある」は30歳代が6割台と最も高く、若い世代を中心に高くなっています。

図3-39 LGBTQの認知度【全体・性別・年齢別】

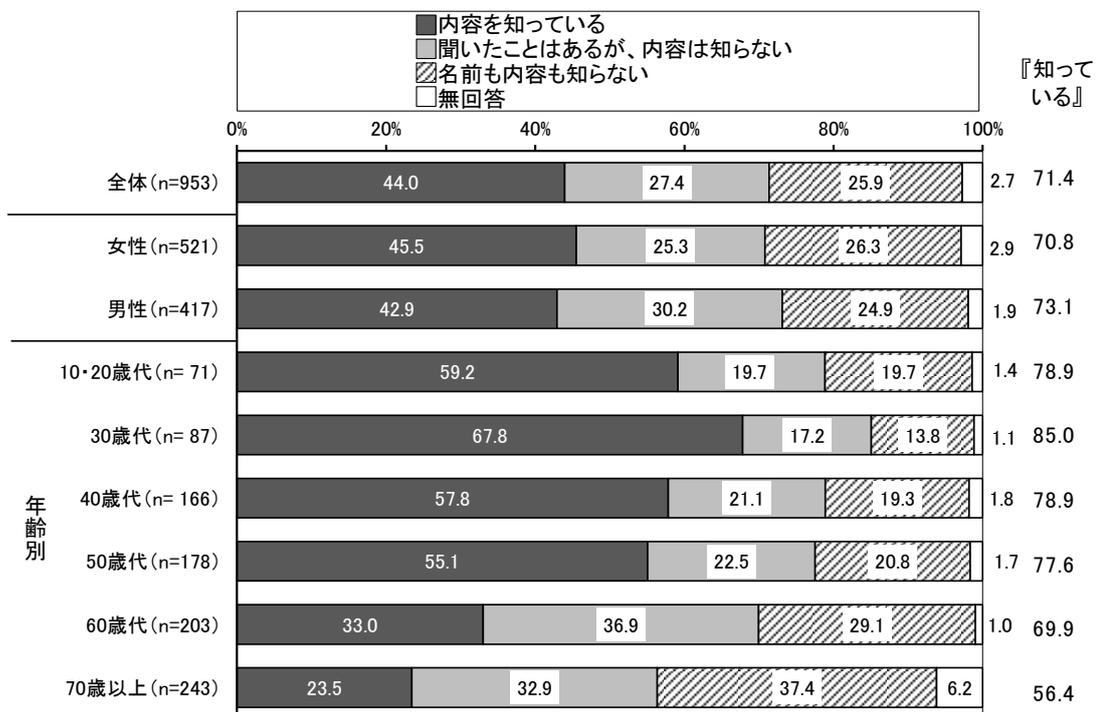
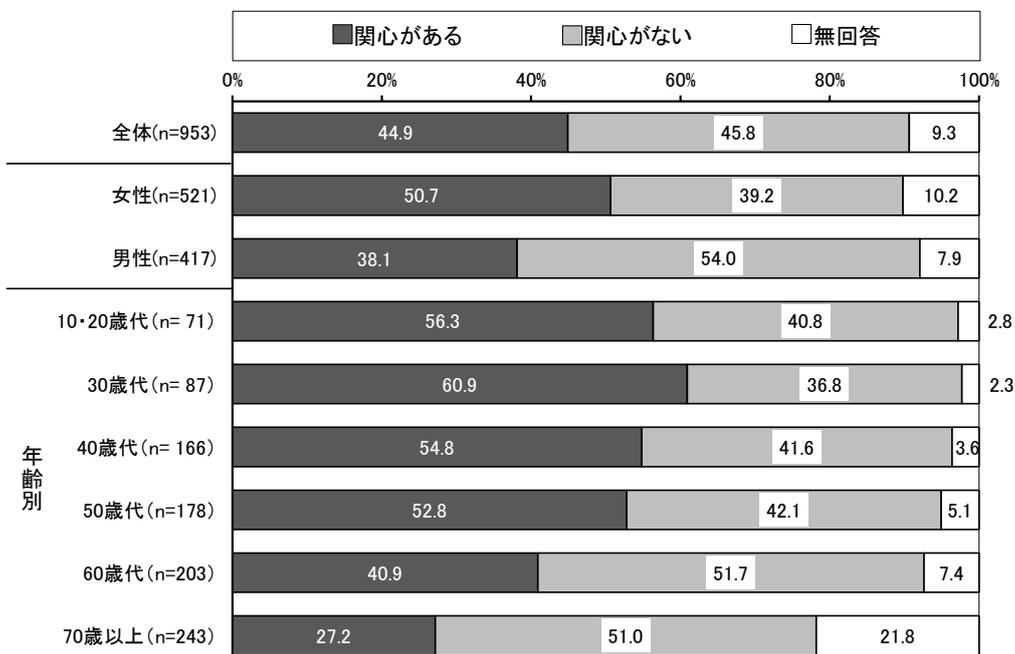


図3-40 LGBTQの関心度【全体・性別・年齢別】



② SOGI

【性別】

〔SOGI（性的指向と性自認を指す略称）〕の認知度を性別にみると、「名前も内容も知らない」が女性 80.0%、男性 76.0%で最も高くなっています。

関心度について、「関心がある」は女性が男性を上回ります（10.7ポイント差）。

【年齢別】

認知度を年齢別にみると、『知っている』は、10・20歳代が2割台後半と最も高いものの、その他の年代ではいずれも2割を下回ります。

関心度について、「関心がある」は30歳代が5割台と最も高く、若い世代を中心に高くなっています。

図3-41 SOGIの認知度【全体・性別・年齢別】

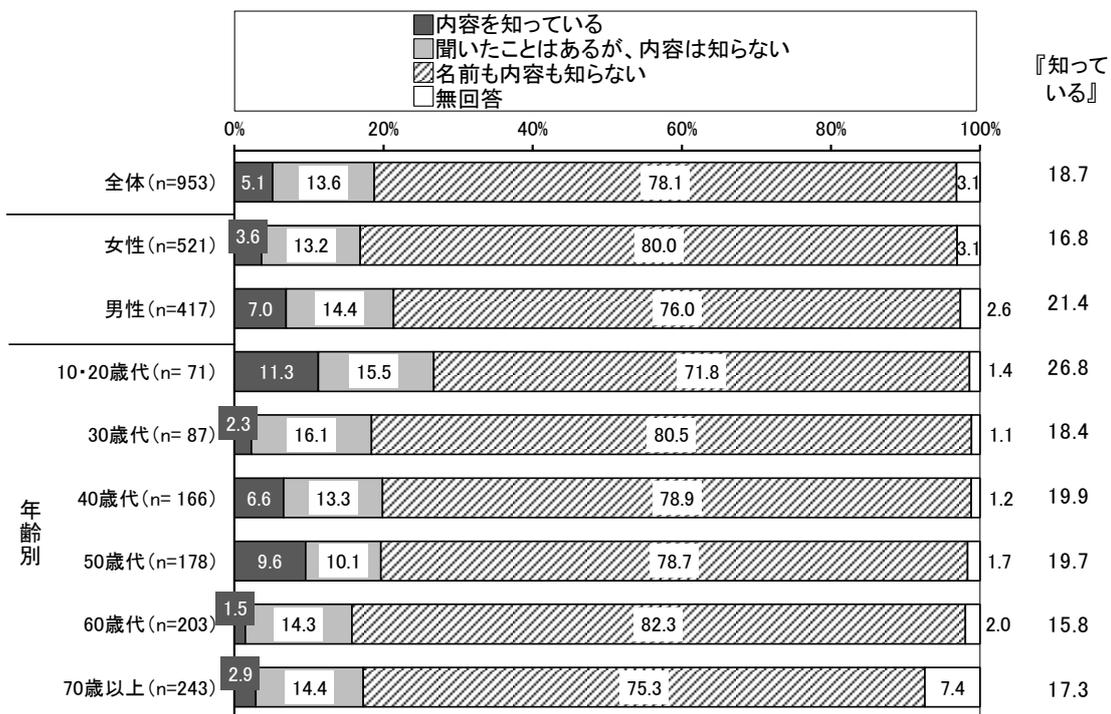
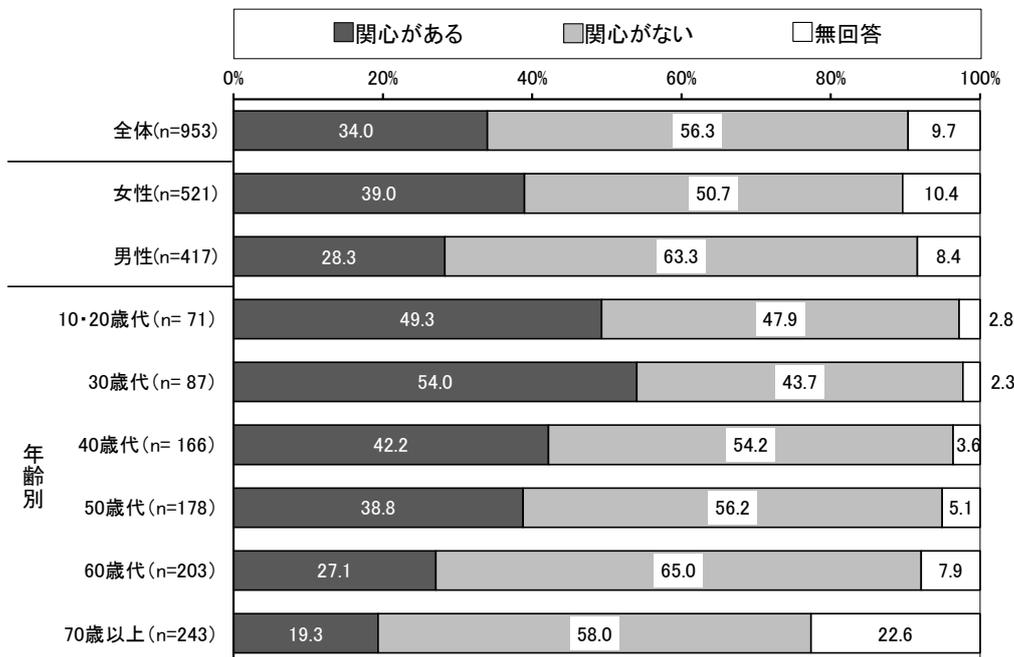


図3-42 SOGIの関心度【全体・性別・年齢別】



3. 家庭生活（家事・育児・介護）と地域活動について

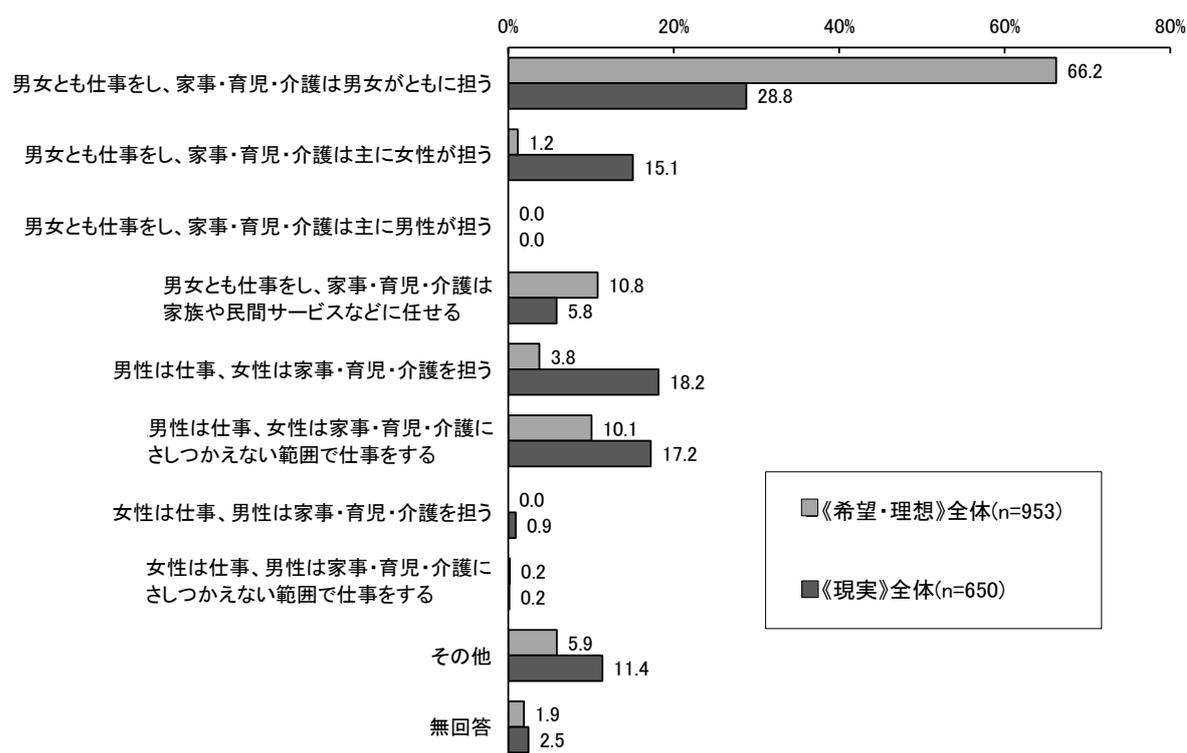
(1) 家庭における男女の役割分担について

問4 家庭における男女の役割分担について、(1) 理想はどうあるべきだと思いますか。
また、(2) 実際に結婚している方や、パートナーと同居している方の状況はどうか。

家庭における男女の役割分担について、《希望・理想》では、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は男女がともに担う」が66.2%で最も高く、次いで、大きく差があり「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は家族や民間サービスなどに任せる」が10.8%、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にさしつかえない範囲で仕事をする」が10.1%となっています。

一方、《現実》では、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女がともに担う」が28.8%、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児・介護を担う」が18.2%、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にさしつかえない範囲で仕事をする」が17.2%、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が担う」が15.1%となっています。

図4-1 家庭における男女の役割分担の《希望・理想》と《現実》【全体】



●その他回答

《希望・理想》

- ・性差関係なく、出来る人が出来ることをやる
- ・パートナーや家庭（環境）によると思うので、相談して決定するべき
- ・ケースバイケースで本人達の自由 等

《現実》

- ・その時の家庭の状況で決める
- ・現在の生活様式に当てはまる回答が無い 等

【性別】

性別にみると《希望・理想》では、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女がともに担う」が女性 69.7%、男性 62.8%でそれぞれ最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回ります（6.9ポイント差）。

《現実》では、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女がともに担う」が男女いずれも最も高いものの、その割合は2割台後半～約3割にとどまります。「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が担う」は女性が男性を、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護を担う」は男性が女性をそれぞれ上回ります。（各 6.8/6.9ポイント差）

図4-2 家庭における男女の役割分担の《希望・理想》【性別】

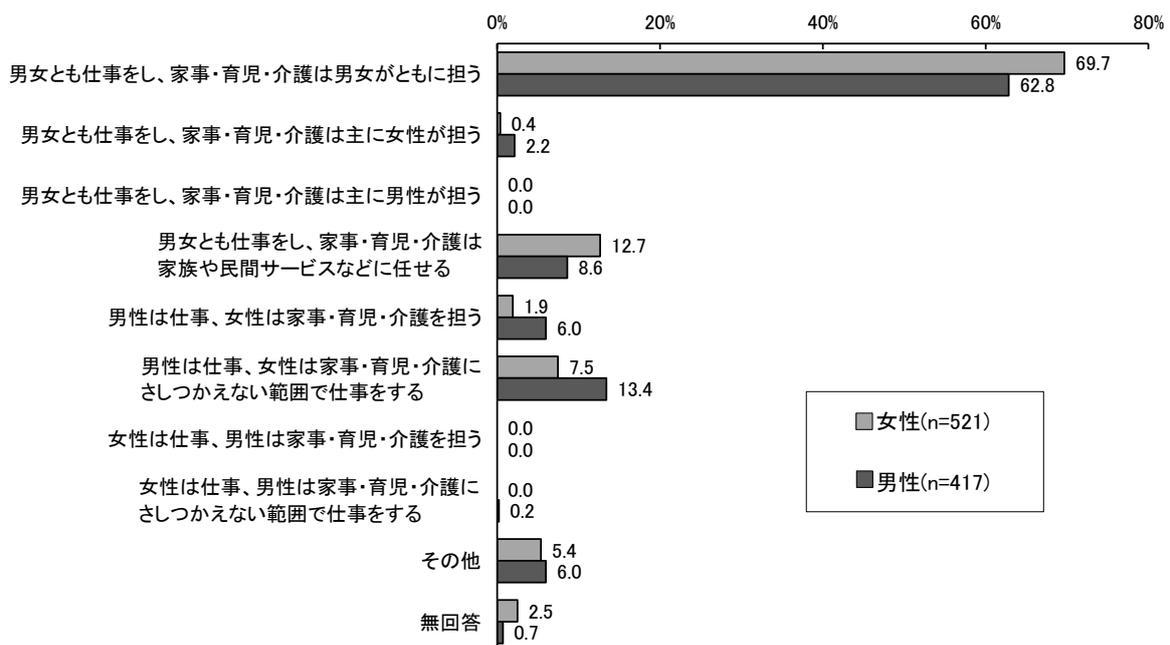
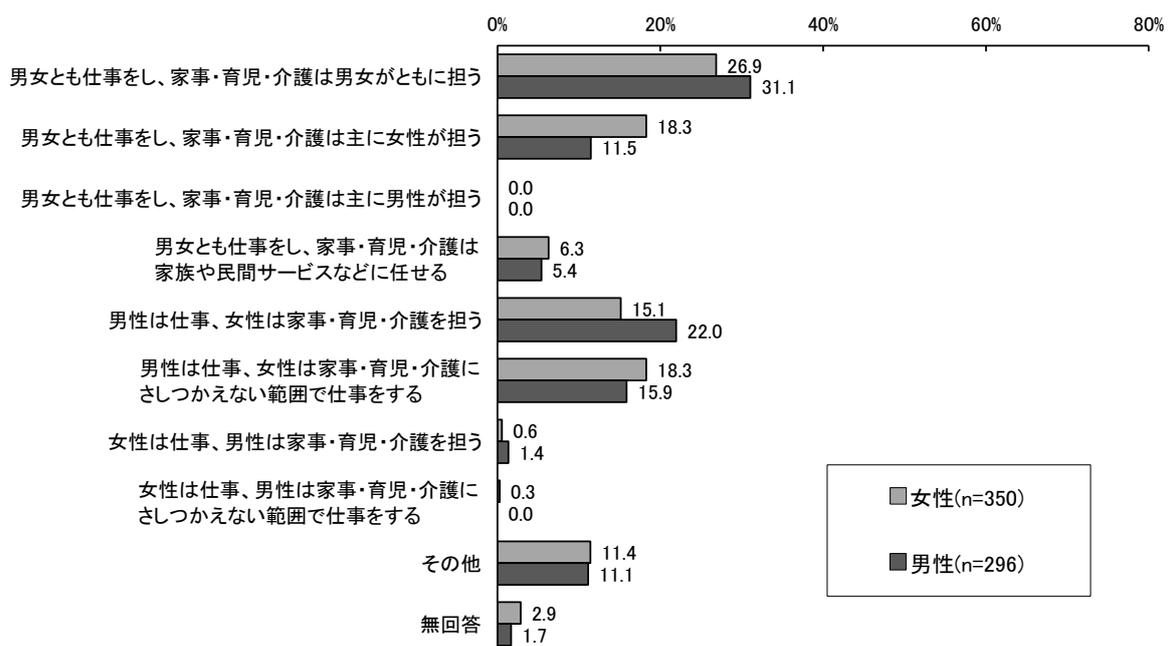


図4-3 家庭における男女の役割分担の《現実》【性別】



【経年比較】

前回調査と比較すると、《希望・理想》では、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女がともに担う」が上昇しています（10.0ポイント差）。また、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護を担う」と「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にさしつかえない範囲で仕事をする」は低下しています（各3.8/2.8ポイント差）。

《現実》においても、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女がともに担う」は大きく上昇しています（16.4ポイント差）。また、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にさしつかえない範囲で仕事をする」や「男性は仕事、女性は家事・育児・介護を担う」「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が担う」は低下しています。（各7.3/7.1/5.6ポイント差）

図4-4 家庭における男女の役割分担の《希望・理想》【経年比較】

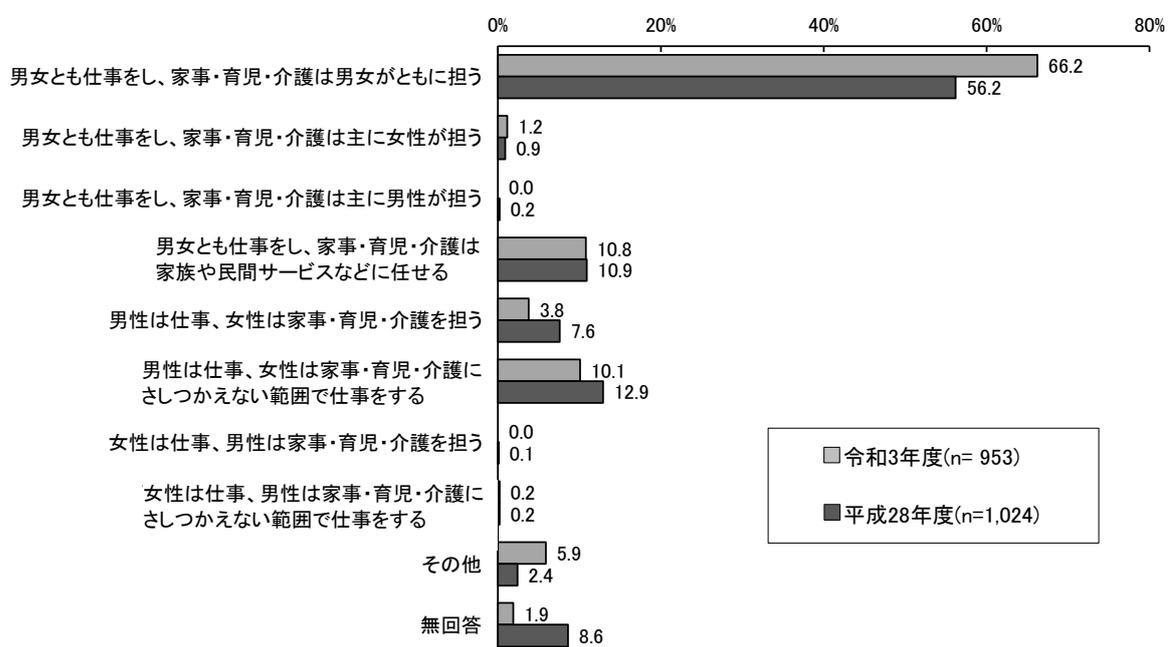
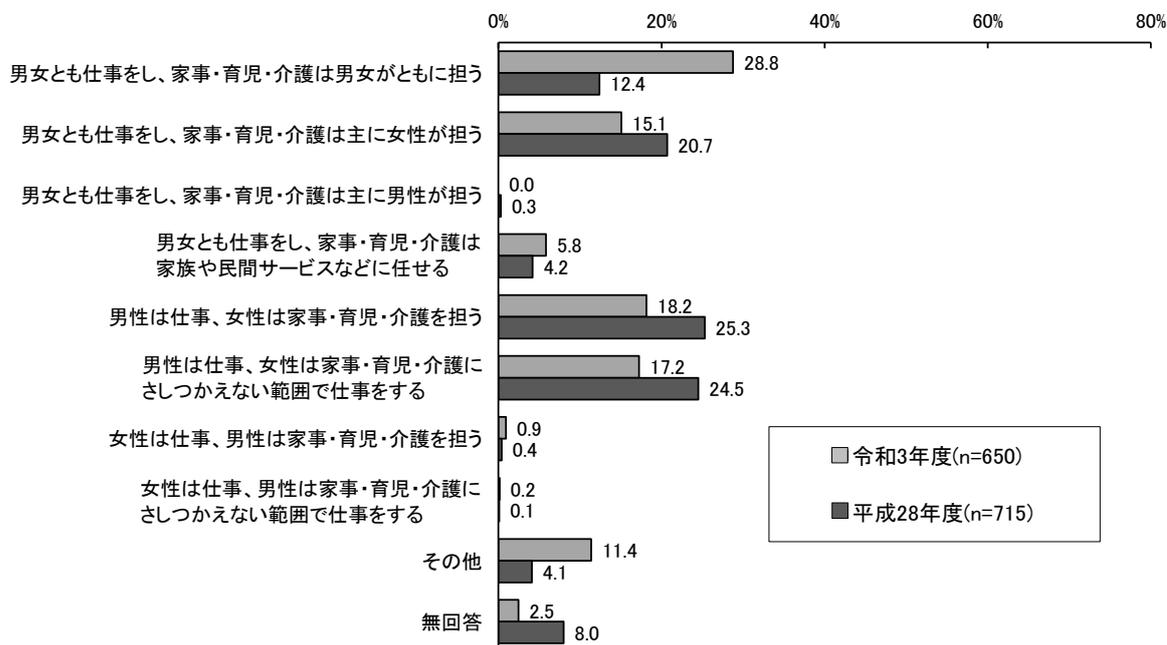


図4-5 家庭における男女の役割分担の《現実》【経年比較】

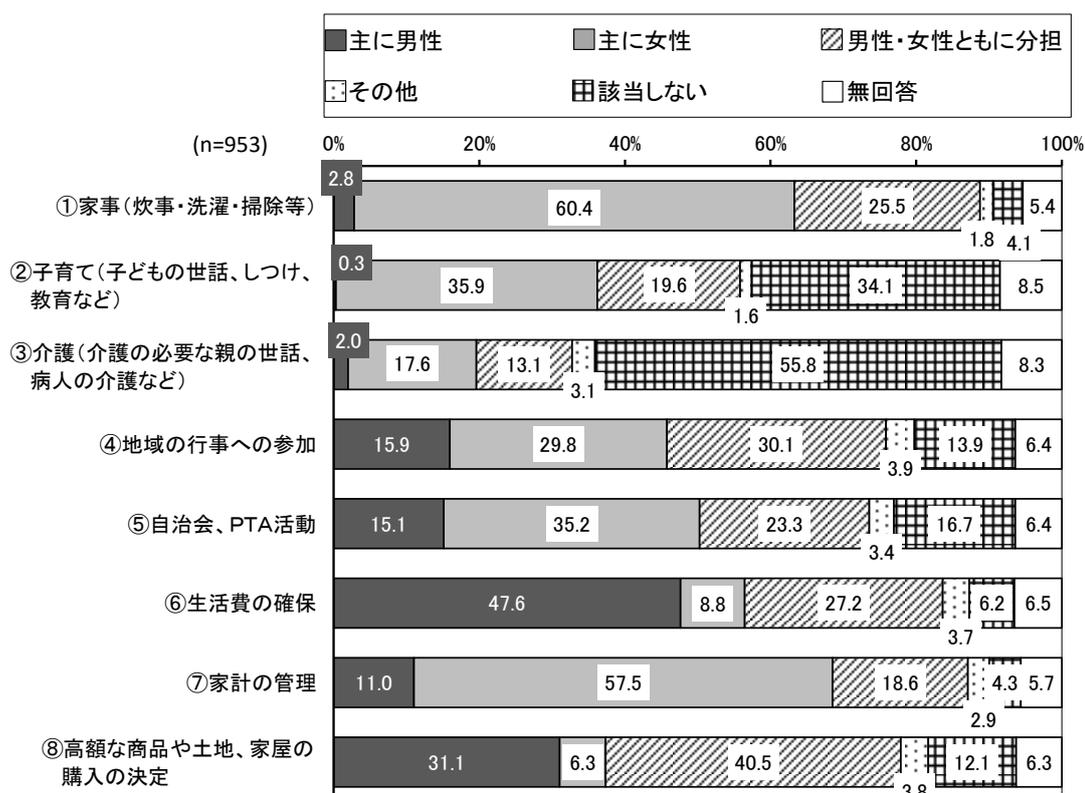


(2) 家事・育児・介護等の役割分担

問5 あなたの家庭では、次の(1)～(8)のことについて、主にどなたが行っていますか。
(項目ごとに、あてはまる番号1つに○)

家庭での家事・育児・介護等の役割分担について、「主に男性」が高い項目は、「生活費の確保」の47.6%、「主に女性」が高い項目は「家事(炊事・洗濯・掃除等)」の60.4%、「家計の管理」の57.5%となっています。「男性・女性ともに分担」は、「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」の40.5%、「地域の行事への参加」の30.1%などで高くなっています。

図5-1 家事・育児・介護等の役割分担【全体】

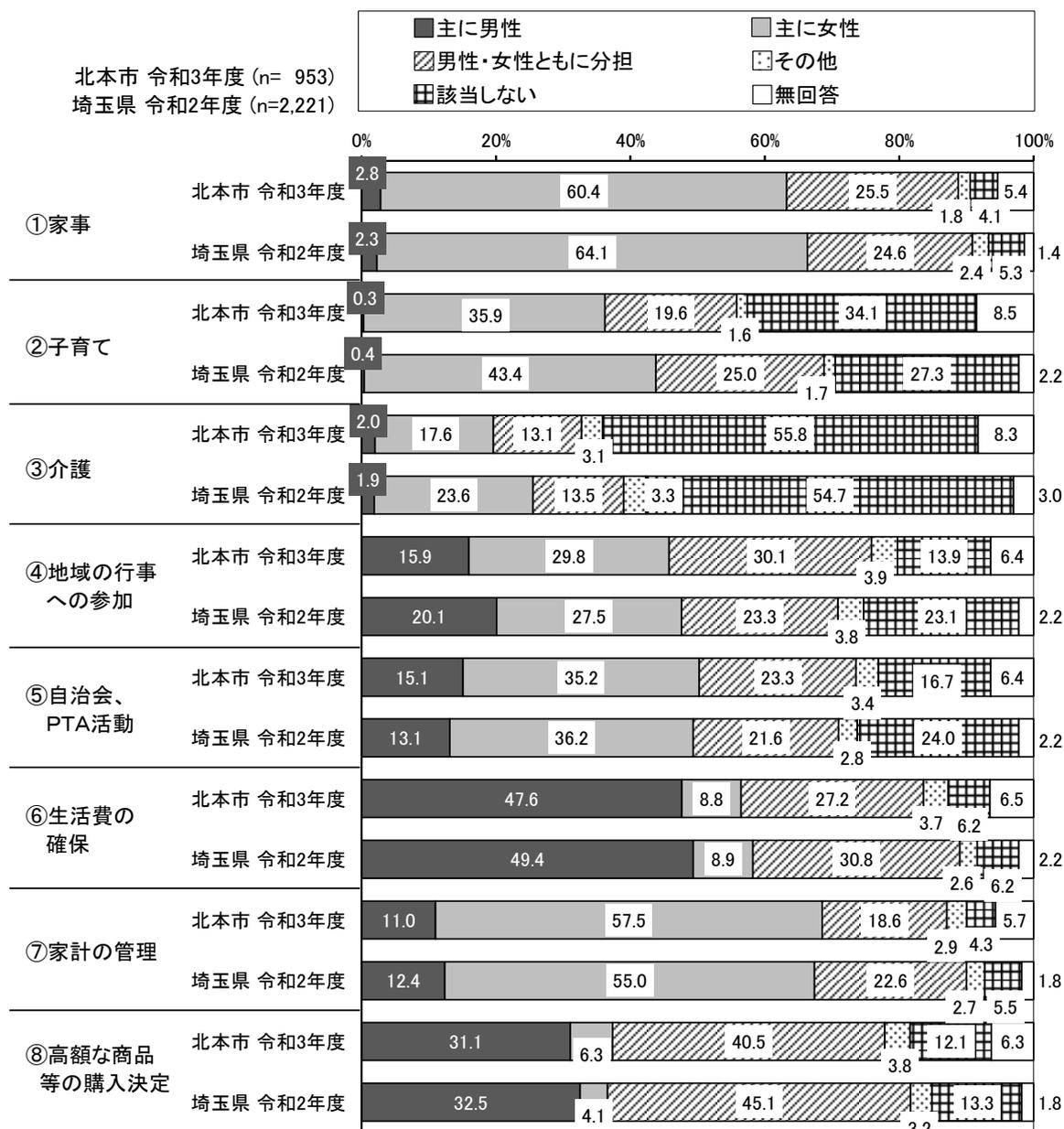


【県調査との比較】

埼玉県調査と比較すると、「家事（炊事・洗濯・掃除等）」や「家計の管理」では「主に女性」、
「生活費の確保」では「主に男性」、
「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」では「男性・女性ともに分担」の割合が高いなど、
多くの項目で県調査と同様の傾向を示しています。

一方で「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」において、「該当しない」が県調査を上回っています（6.8ポイント差）。
また、「地域の行事への参加」において、「男性・女性ともに分担」が県調査を上回っています（6.8ポイント差）。

図5-2 家事・育児・介護等の役割分担【埼玉県調査との比較】

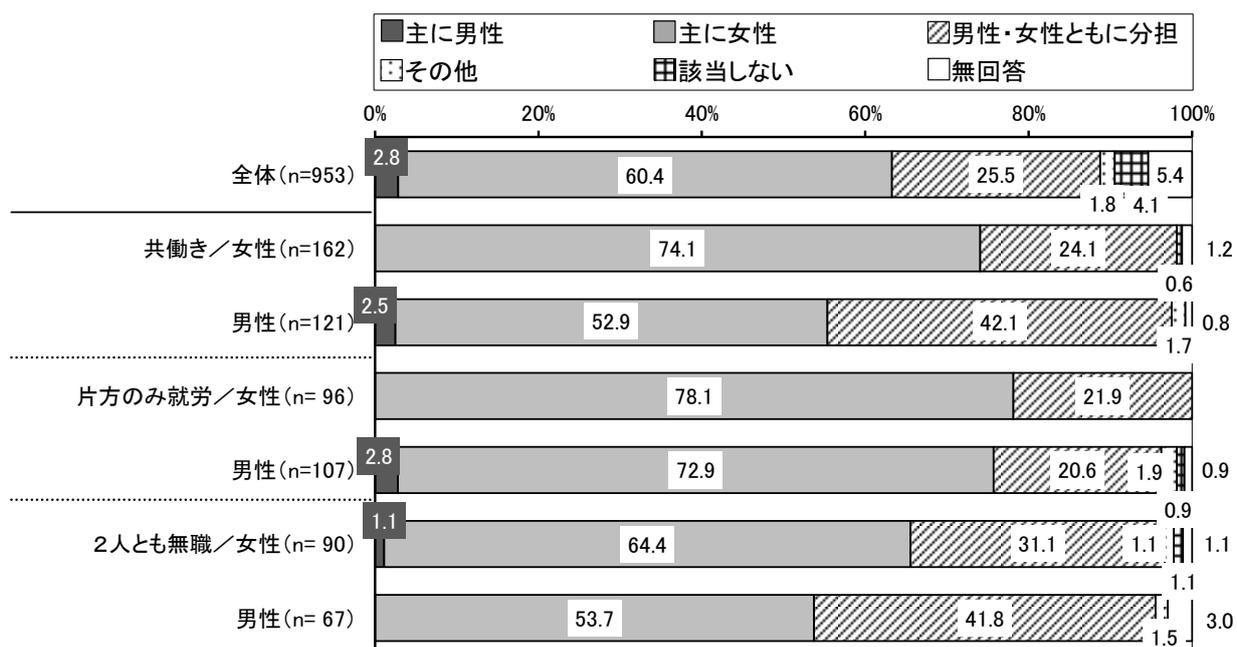


① 家事（炊事・洗濯・掃除等）

【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、「家事（炊事・洗濯・掃除等）」において、共働きの女性で「主に女性」が74.1%と、共働きの男性の割合を20ポイント以上上回ります。「男性・女性ともに分担」は、共働きの男性が42.1%と共働きの女性の割合を18ポイント上回っています。一方で、片方のみ就労の男女では、いずれも「主に女性」が7割台であり、性別による大きな差は見られません。

図5-3 家事（炊事・洗濯・掃除等）【全体・性／就労別の状況】

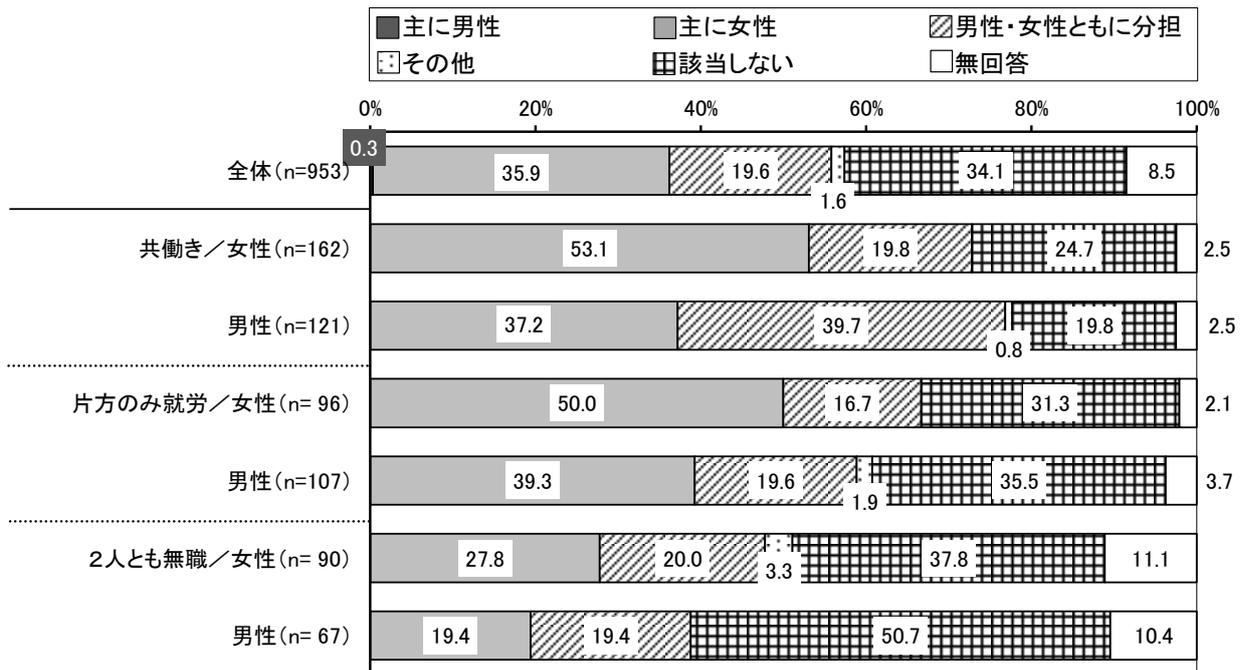


② 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）

【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」において、共働きの女性で「主に女性」が53.1%と、共働きの男性の割合を15.9ポイント上回っています。「男性・女性ともに分担」は共働き男性が39.7%と共働き女性を20ポイント以上上回ります。片方のみ就労の男女においても、「主に女性」は女性の50.0%が男性39.3%を10.7ポイント上回ります。「男性・女性ともに分担」はいずれも1割台にとどまります。

図5-4 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）【全体・性／就労別の状況】

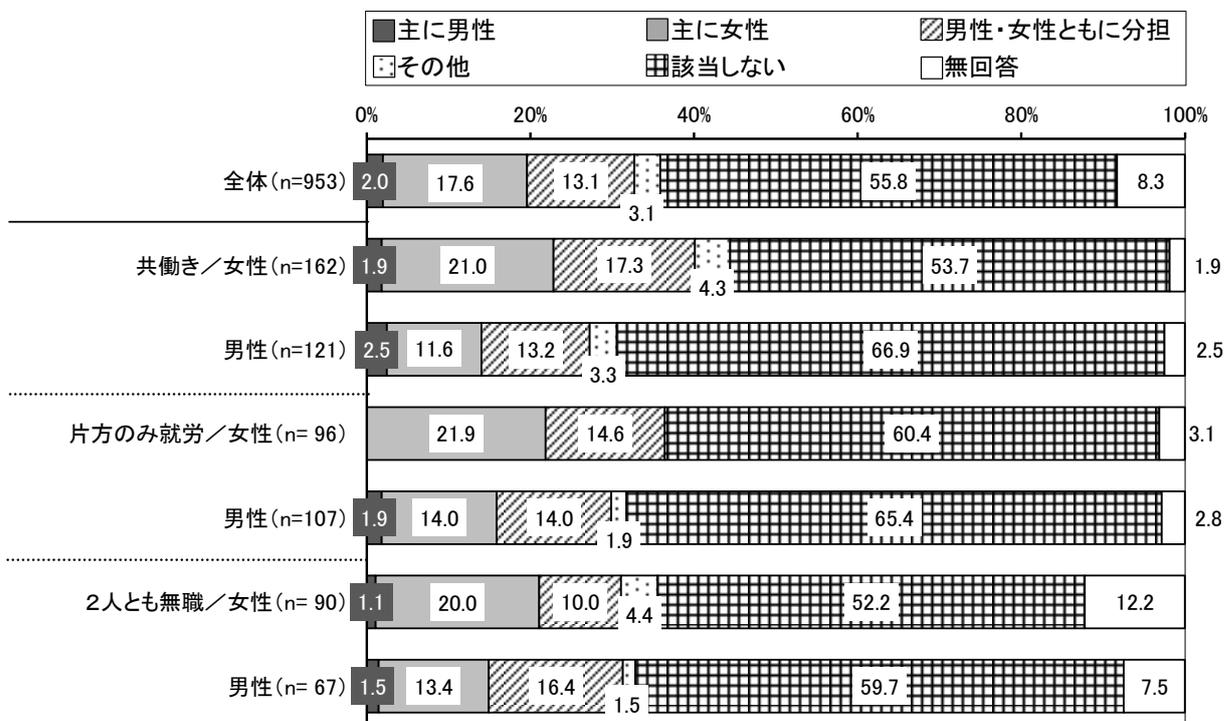


③ 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）

【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、「介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）」においては、「該当しない」を除き、女性で「主に女性」との回答が2割台と高くなっています。

図5-5 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）【全体・性／就労別の状況】

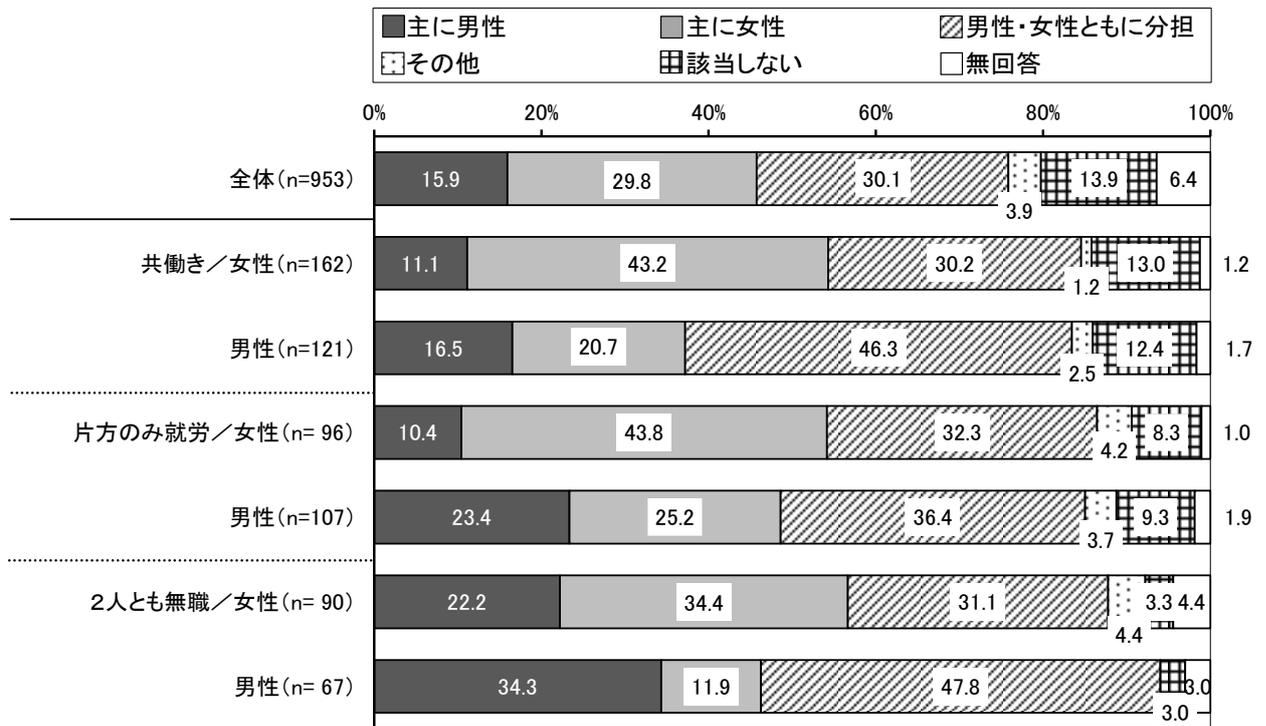


④ 地域の行事への参加

【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、「地域の行事への参加」においては、いずれも女性で「主に女性」の割合が男性を上回っています。一方、共働きと2人とも無職の男性で女性に比べ「男性・女性ともに分担」が高くなっています。

図5-6 地域の行事への参加【全体・性／就労別の状況】

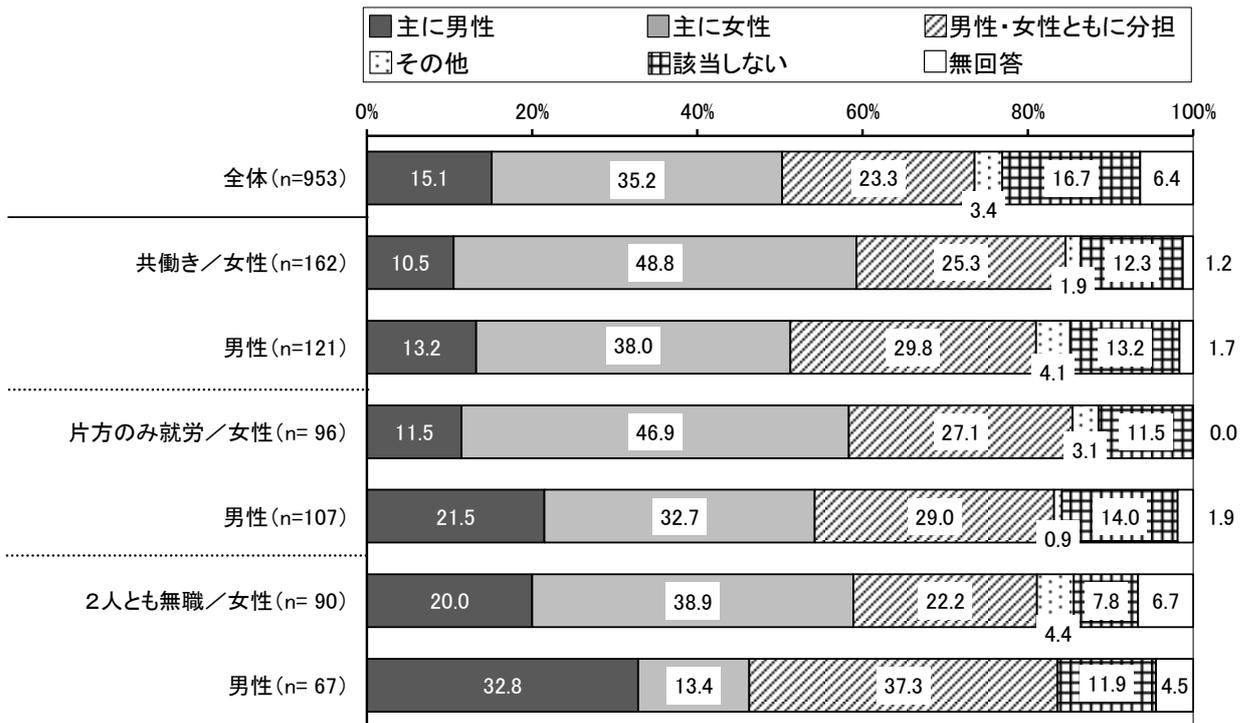


⑤ 自治会、PTA活動への参加

【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、「自治会、PTA活動」においては、2人とも無職の男性を除き「主に女性」が最も高くなっています。2人とも無職の男性では「男性・女性ともに分担」と「主に男性」がともに3割台となっています。

図5-7 自治会、PTA活動への参加【全体・性／就労別の状況】

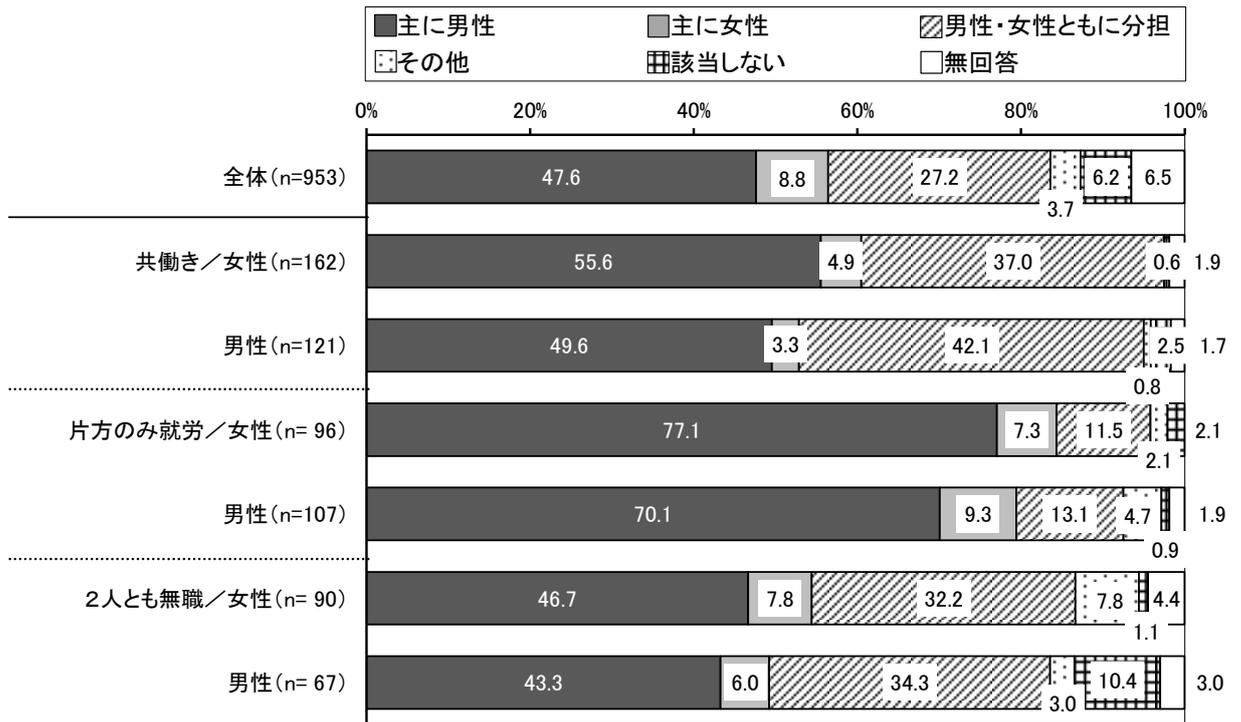


⑥ 生活費の確保

【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、「生活費の確保」においては、片方のみ就労の男女はともに「主に男性」が7割台と高くなっています。共働きの男女では「主に男性」「男性・女性ともに分担」の順で高くなっていますが、「主に男性」は女性が男性を上回ります（6.0ポイント差）。反対に「男性・女性ともに分担」は男性が女性を上回ります（5.1ポイント差）。

図5-8 生活費の確保【全体・性／就労別の状況】

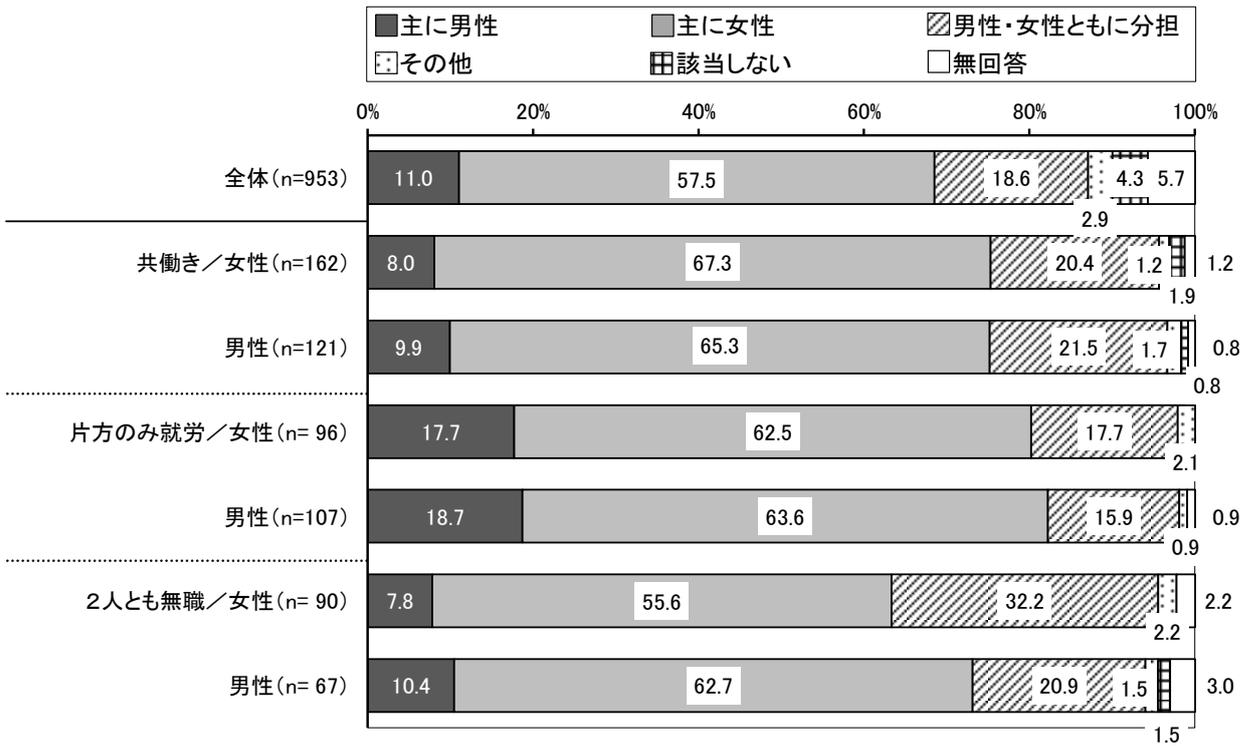


⑦ 家計の管理

【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、「家計の管理」においては、いずれも「主に女性」が最も高くなっています。2人とも無職の女性のみ「男性・女性ともに分担」が3割台と高くなっています。

図5-9 家計の管理【全体・性／就労別の状況】

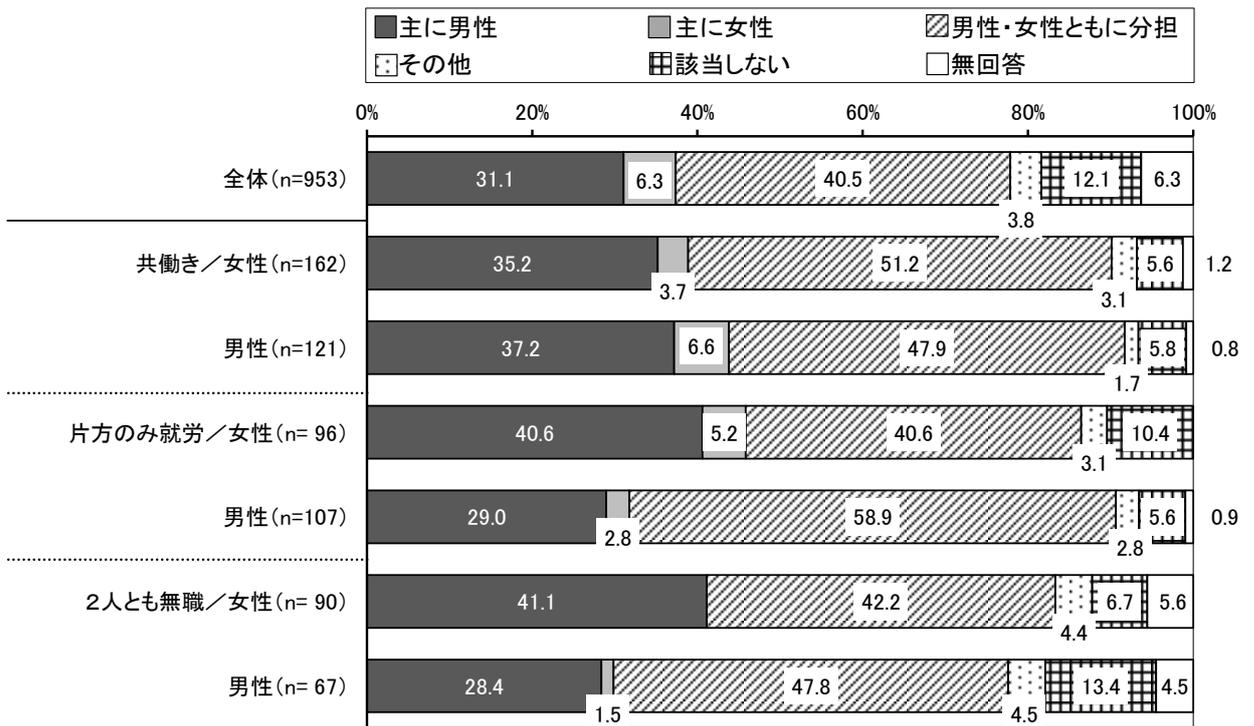


⑧ 高額な商品や土地、家屋の購入の決定

【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」においては、いずれも「主に男性」が「主に女性」を大きく上回ります。また、共働きでは男女ともに「男性・女性ともに分担」が最も高くなっています。一方で、片方のみ就労、2人とも無職の女性では、男性に比べ「主に男性」が10ポイント以上高くなっています。片方のみ就労、2人とも無職の男性は女性に比べ「男性・女性ともに分担」が高くなっています。

図5-10 高額な商品や土地、家屋の購入の決定 【全体・性／就労別の状況】



(3) 感染症拡大に伴う夫婦間の役割分担の変化

【問6～7は、現在結婚（事実婚を含む。）している方にうかがいます。

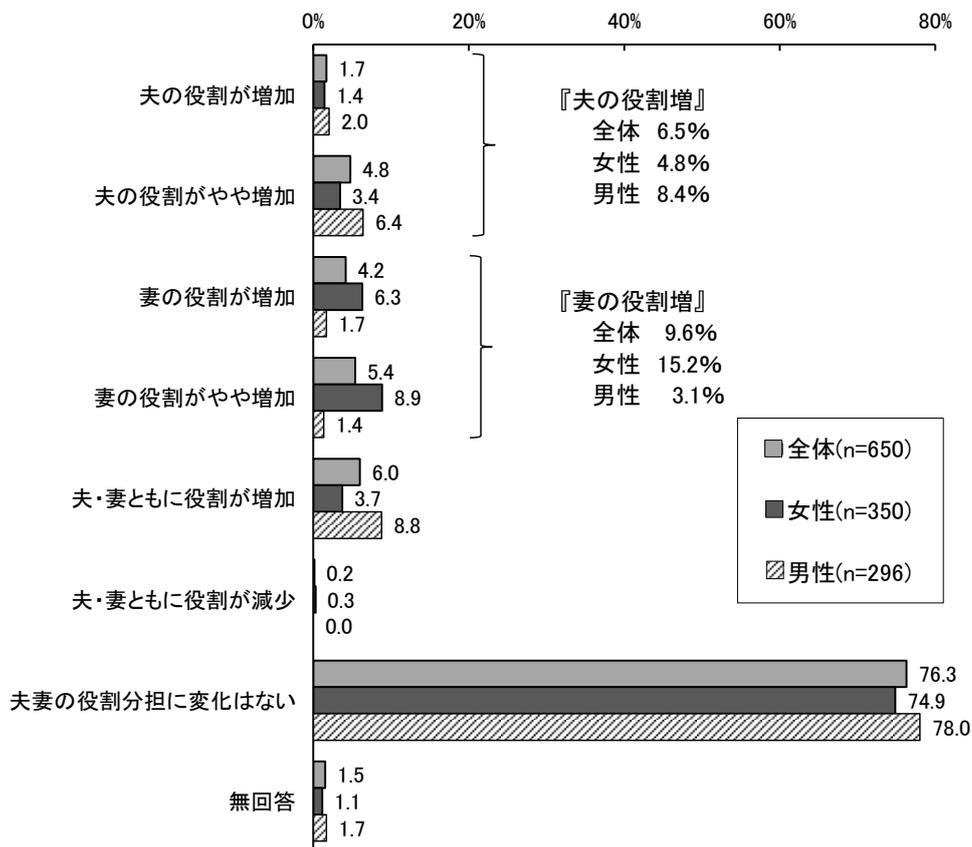
問6 新型コロナウイルス感染症拡大前（2019年12月）と比べて、家庭生活に関する夫妻間の役割分担はどのように変化しましたか。（あてはまる番号1つに○）

感染症拡大に伴う夫婦間の役割分担の変化について、「夫婦の役割分担に変化はない」が76.3%で主な回答となっています。「妻の役割が増加」と「妻の役割がやや増加」を合計した『妻の役割増』9.6%が、「夫の役割が増加」と「夫の役割がやや増加」を合計した『夫の役割増』6.5%をやや上回ります。

【性別】

性／共働きの状況別にみると、『夫の役割増』は男性が女性を、『妻の役割増』は女性が男性を上回ります（各3.6／12.1ポイント差）

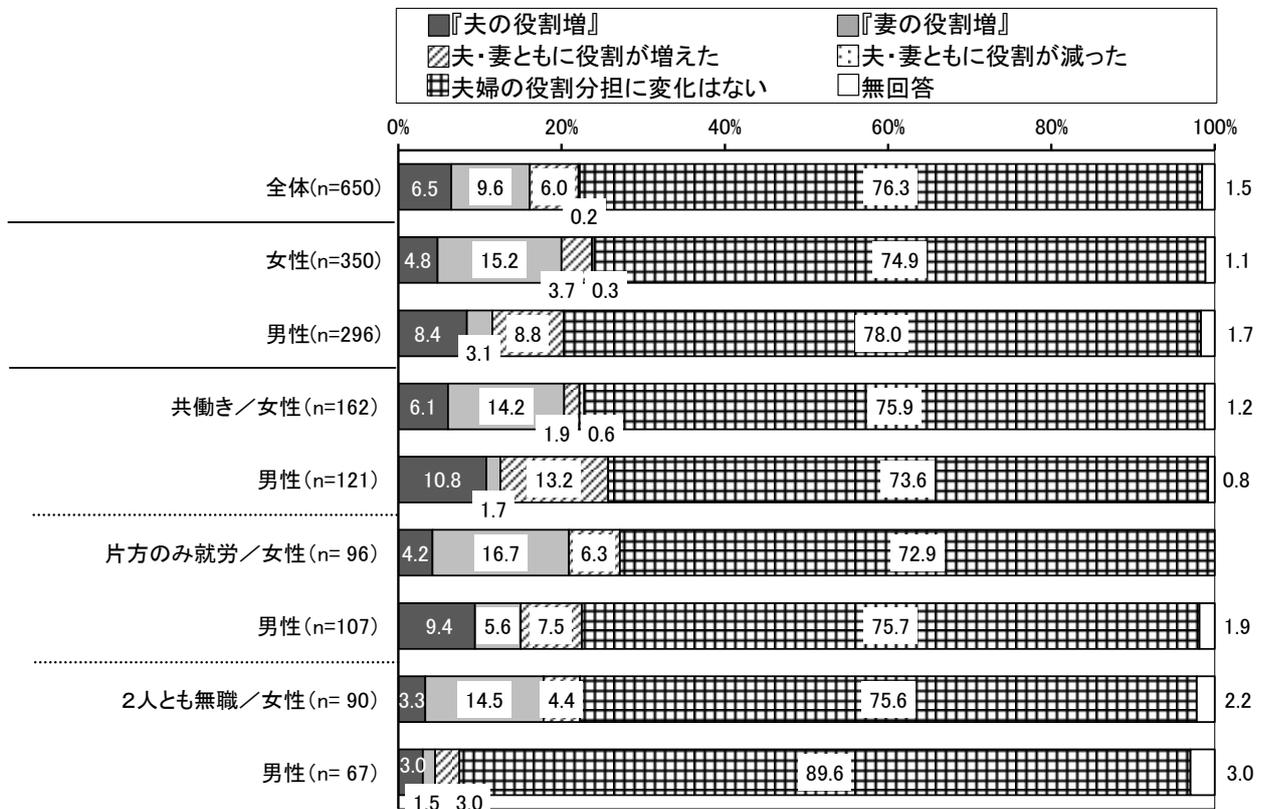
図6-1 感染症拡大に伴う夫婦間の役割分担の変化【全体・性別】



【性／就労別の状況】

性／就労別の状況別にみると、いずれも「夫婦の役割分担に変化はない」が7割以上を占め、男性に比べ女性で『妻の役割増』の割合が高くなっています。また、「夫・妻ともに役割が増加」については、共働きの男性で特に割合が高くなっています。

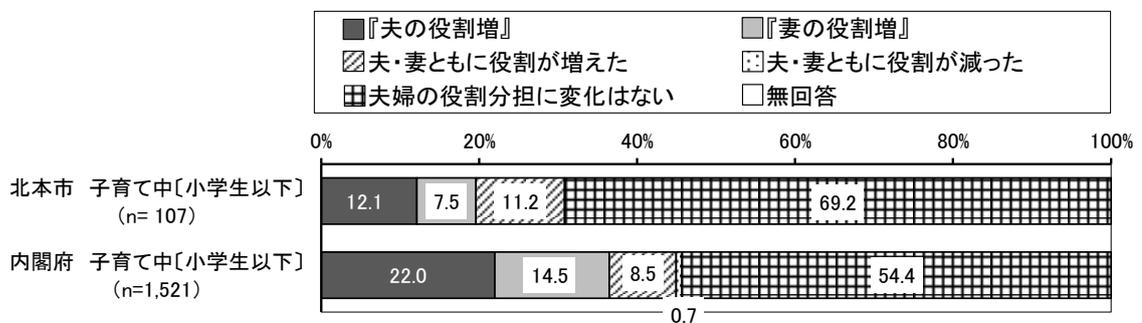
図6-2 感染症拡大に伴う夫婦間の役割分担の変化【全体・性別・性／就労別の状況】



【国調査との比較】

子育て中の人の状況について、内閣府調査と比較すると、「夫婦の役割分担に変化はない」が国に比べて高くなっています（14.8ポイント差）。

図6-3 感染症拡大に伴う夫婦間の役割分担の変化〔子育て中〕【内閣府調査との比較】



(4) 家庭内での役割分担の満足度

問7 あなたは、問5でお答えのような家庭内での役割分担について、満足していますか。(あてはまる番号1つに○)

家庭内での役割分担の満足度について、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合計した『満足』は67.7%と、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合計した『不満』21.2%を大きく上回ります。

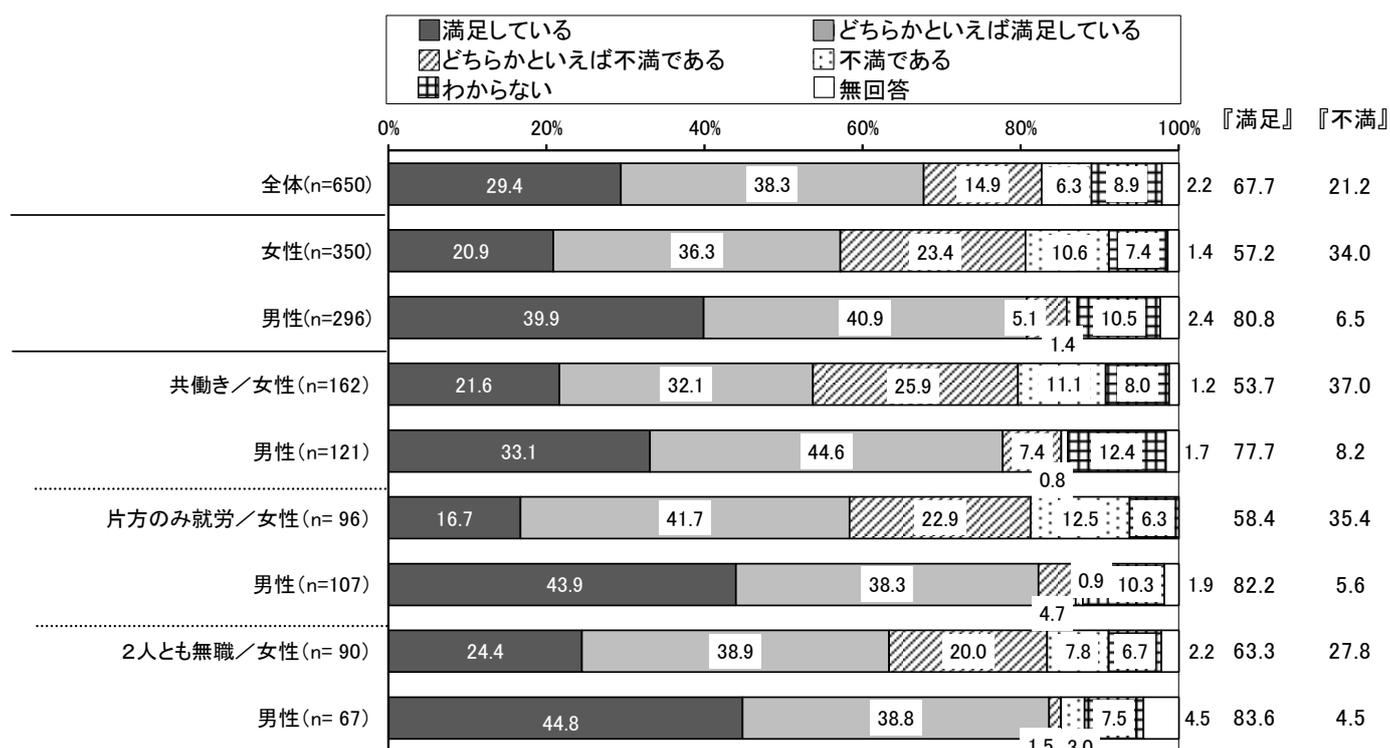
【性別】

性別にみると、女性で『不満』が男性を大きく上回っています(27.5ポイント差)。

【性/就労別の状況】

性/就労別の状況別にみると、いずれも女性で『不満』が男性を大きく上回っています。特に共働きと片方のみ就労の女性で『不満』が男性を30ポイント近く上回ります。

図7-1 役割分担の満足度【全体・性別・性/就労別の状況】

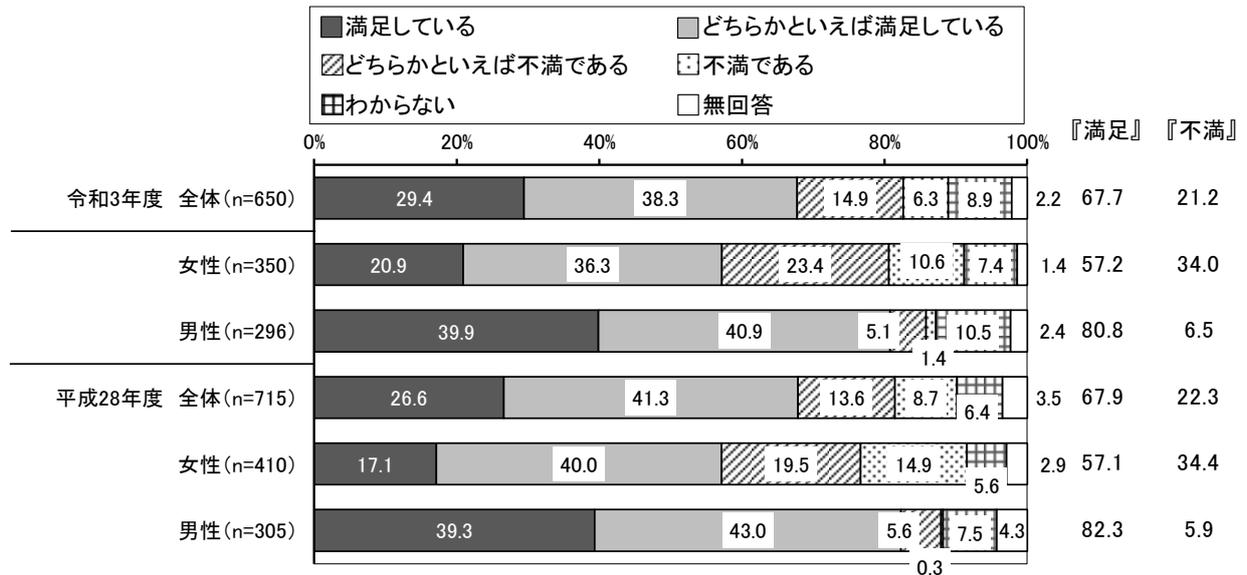


【経年比較】

前回調査と比較すると、全体では『満足』がともに6割台後半、『不満』が約2割とほぼ同様の結果となっています。

性別でも、『満足』は男性がともに8割台であるのに対し、女性は5割台後半にとどまるなど、大きな変化は見られません。

図7-2 役割分担の満足度【経年比較・性別】



(5) 男女がともに家事・育児等に参加するために必要なこと

問8 家事、子育て、介護、地域活動への参加などは、現状では女性の割合が高くなっています。男性と女性がともにこれらに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

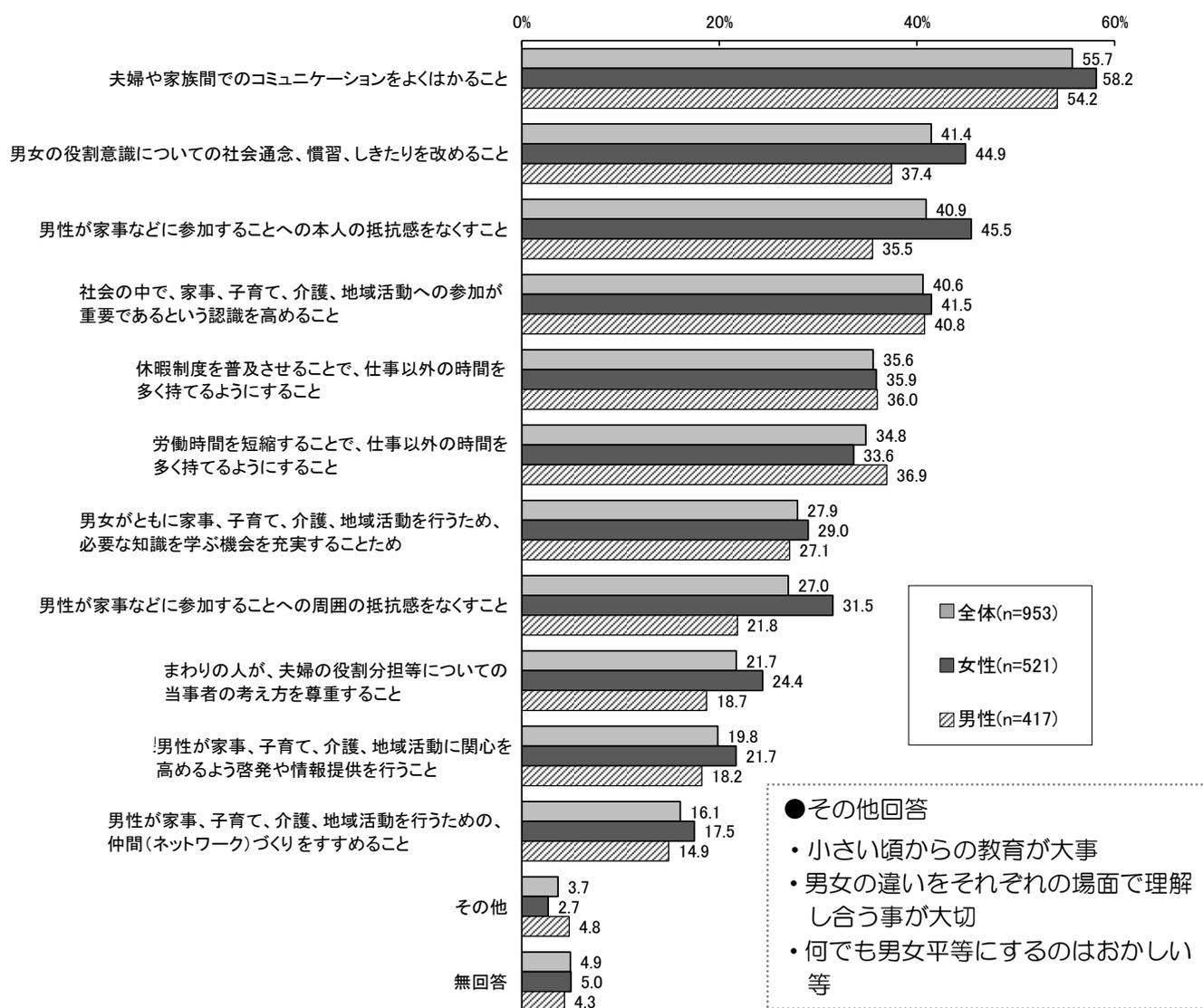
男女がともに家事・育児等に参加するために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が55.7%で最も高く、次いで「男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が41.4%、「男性が家事などに参加することへの周囲の抵抗感をなくすこと」が40.9%、「社会の中で、家事、子育て、介護、地域活動への参加が重要であるという認識を高めること」が40.6%となっています。

【性別】

性別で見ると、多くの項目で女性の割合が男性を上回っていますが、特に、「男性が家事などに参加することへの本人の抵抗感をなくすこと」や「男性が家事などに参加することへの周囲の抵抗感をなくすこと」で、差が見られます(各10.0/9.7ポイント差)。

一方で、「労働時間を短縮することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」については、男性が女性を上回ります(3.3ポイント差)。

図8-1 男女がともに家事・育児等に参加するために必要なこと【全体・性別】



(6) 地域活動の参加状況

問9 あなたはこの1年間で、地域活動に参加しましたか。(あてはまる番号1つに○)

地域活動の参加状況について、「参加していない」63.6%が「参加した・参加している」31.4%を大きく上回ります。(32.2ポイント差)

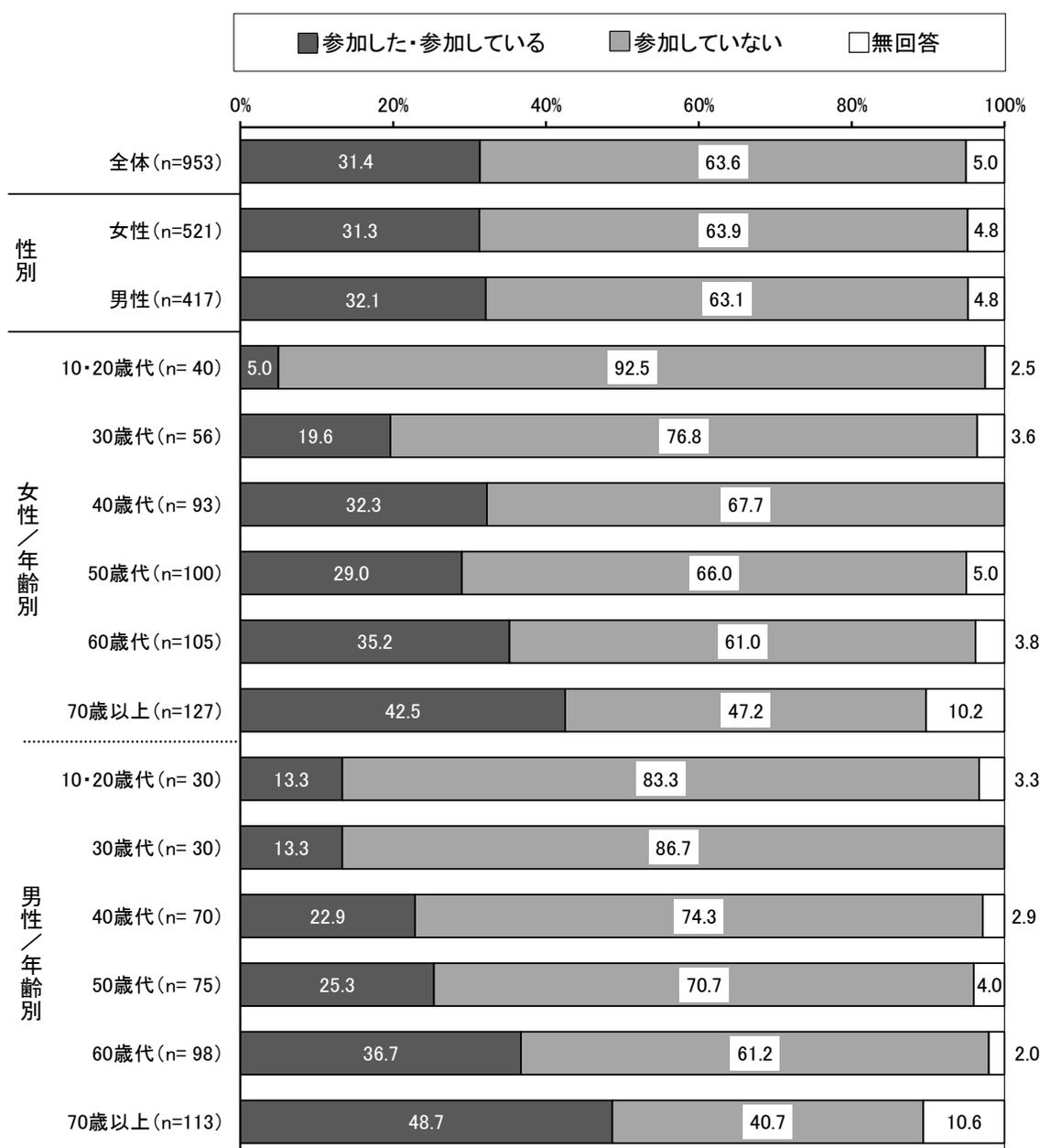
【性別】

性別でみると、「参加した・参加している」は男女ともに3割台であり、ほぼ同様の結果となっています。

【性／年齢別】

性／年齢別でみると、年齢が高いほど「参加した・参加している」割合が高い傾向にあり、男女とも70歳以上で4割を超えています。

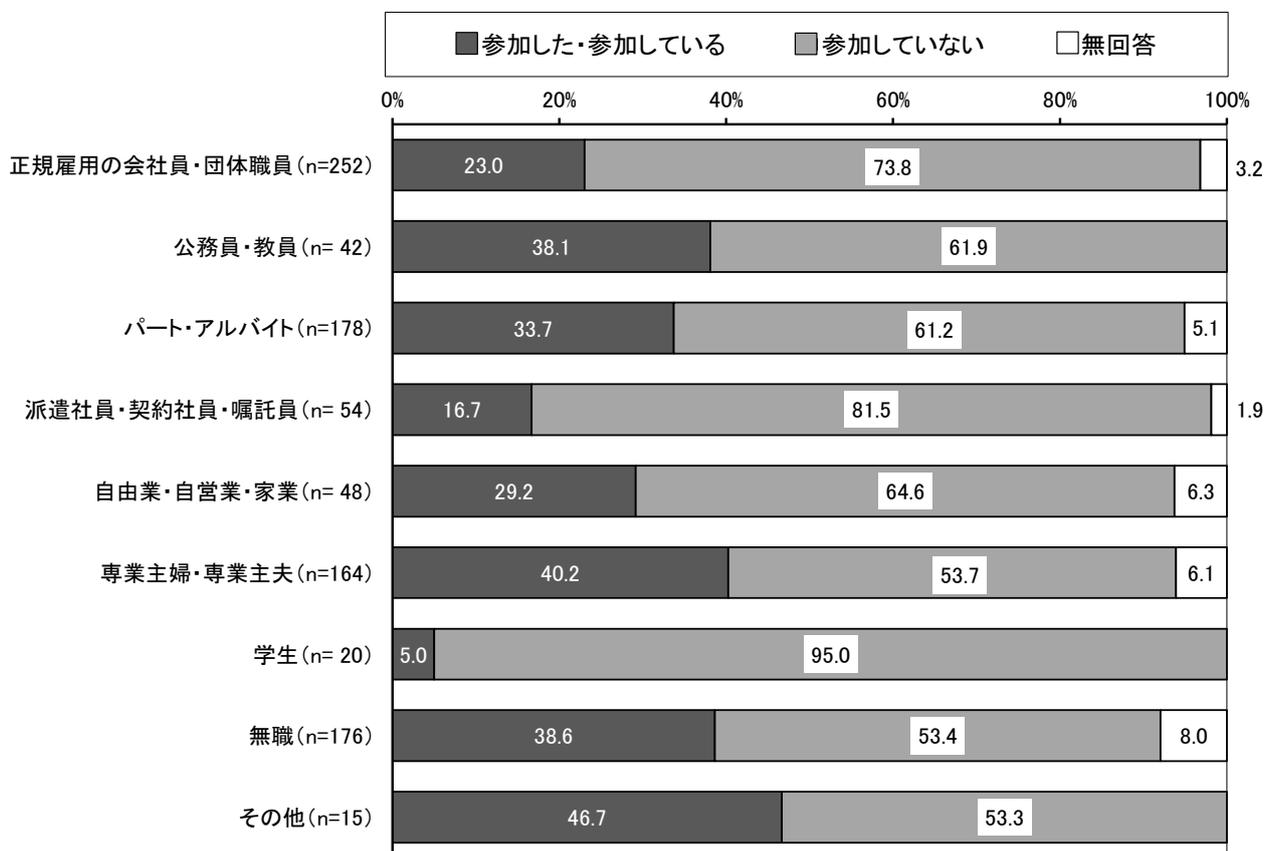
図9-1 地域活動の参加状況【全体・年齢別】



【職業別】

職業別でみると、いずれの職業も「参加していない」が「参加した・参加している」を上回っています。一方で、専業主婦・専業主夫と公務員・教員において「参加した・参加している」が約4割と高くなっています。

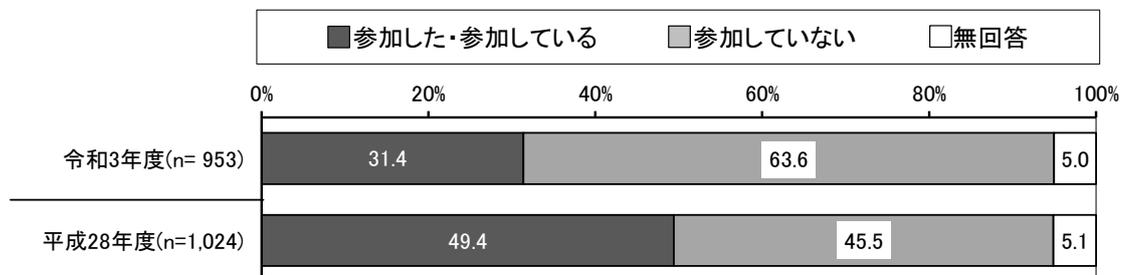
図9-2 地域活動の参加状況【職業別】



【経年比較】

前回調査と比較すると、「参加した・参加している」は大きく低下しています（18.0ポイント差）

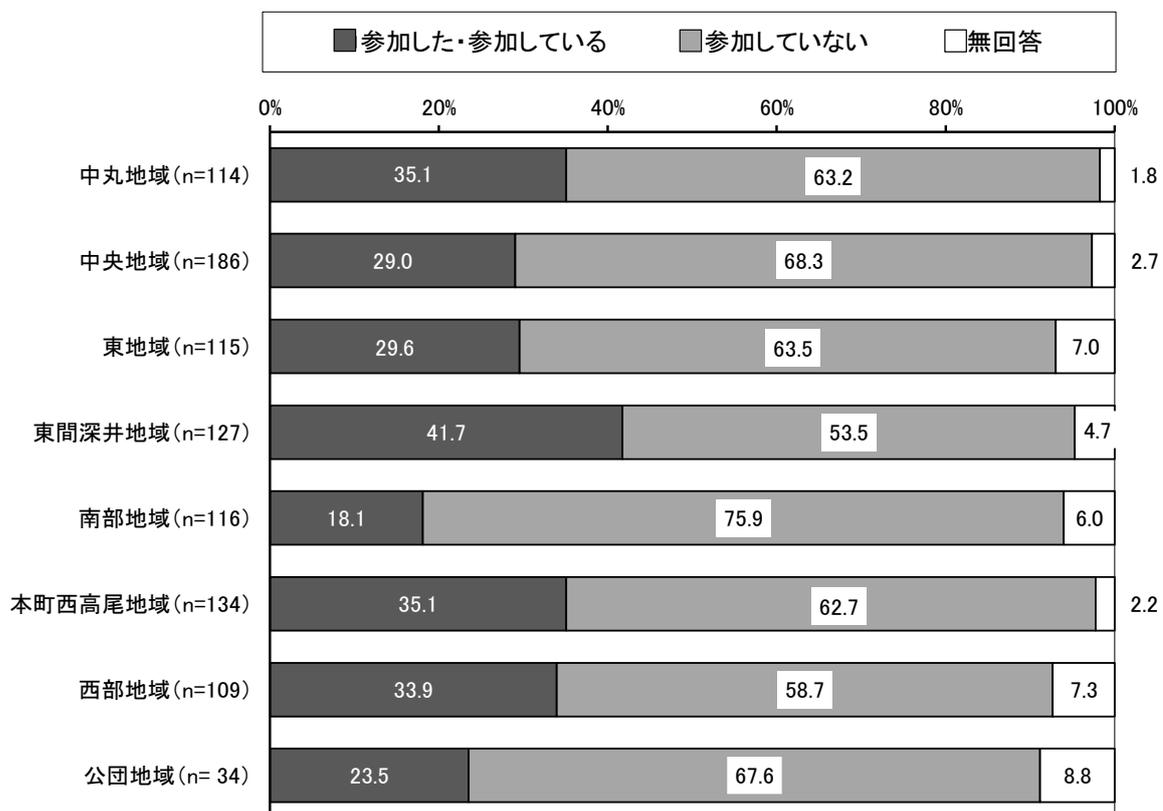
図9-3 地域活動の参加状況【経年比較】



【居住地域別】

居住地域でみると、いずれの地域も「参加していない」が「参加した・参加している」を上回っています。一方で、東間深井地域において「参加した・参加している」が約4割と高くなっています。

図9-4 地域活動の参加状況【職業別】



4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

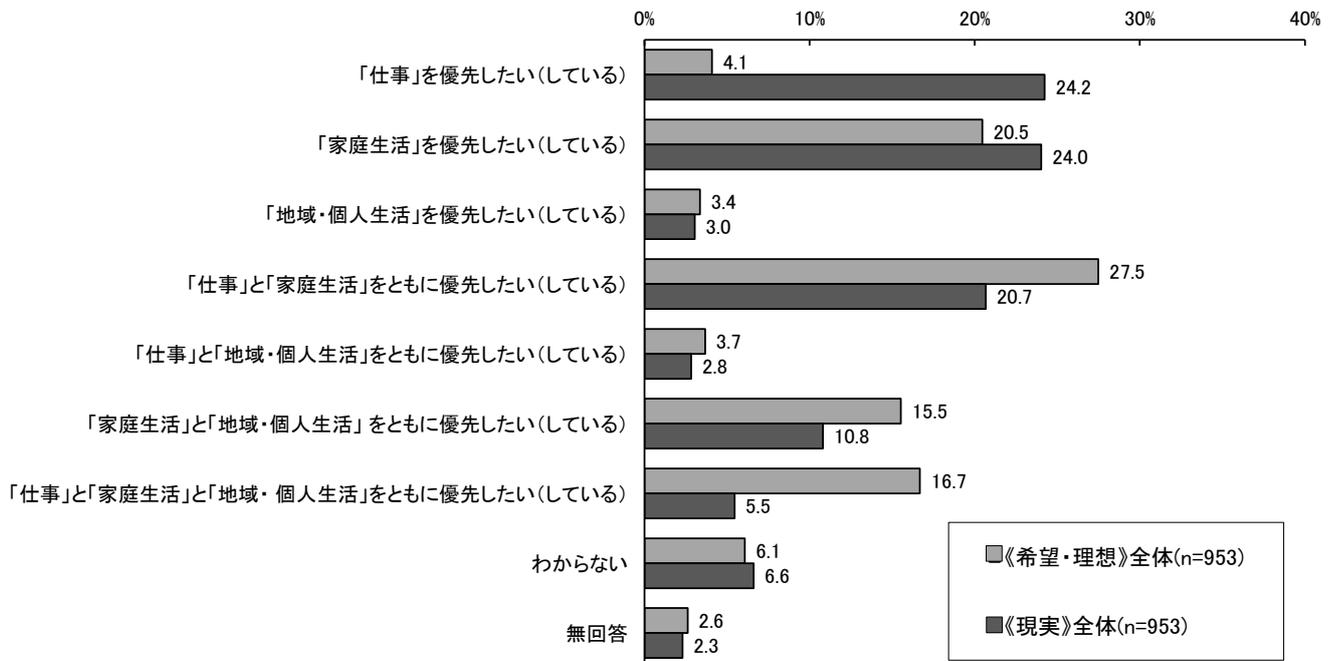
（1）ワーク・ライフ・バランスの理想と現実

問 10 あなたの生活の中における「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についておうかがいします。

ワーク・ライフ・バランスについて、《希望・理想》では、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 27.5%で最も高く、次いで『家庭生活』を優先したい」が 20.5%、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人生活』をともに優先したい」が 16.7%、『家庭生活』と『地域・個人生活』をともに優先したい」が 15.5%となっています。

《現実》では、『仕事』を優先している」が 24.2%、『家庭生活』を優先している」が 24.0%、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 20.7%となっています。

図 10-1 ワーク・ライフ・バランスの《希望・理想》と《現実》【全体】



【性別】

性別にみると《希望・理想》では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が、男女ともに最も高くなっています。「『仕事』を優先したい」は、男性が女性を上回る（4.4ポイント差）一方で、「『家庭生活』を優先したい」は女性が男性を上回ります（5.9ポイント差）。

《現実》では、特に、「『仕事』を優先している」で、男性が女性を上回り（17.8ポイント差）、「『家庭生活』を優先している」で、女性が男性を上回ります（16.6ポイント差）。

図 10-2 ワーク・ライフ・バランスの《希望・理想》【性別】

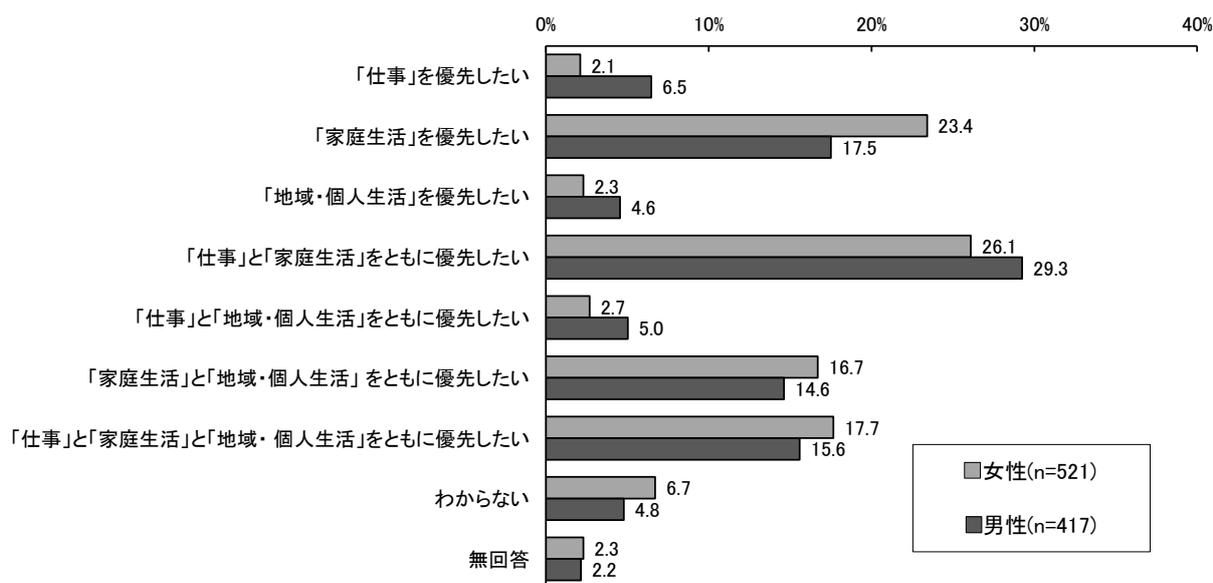
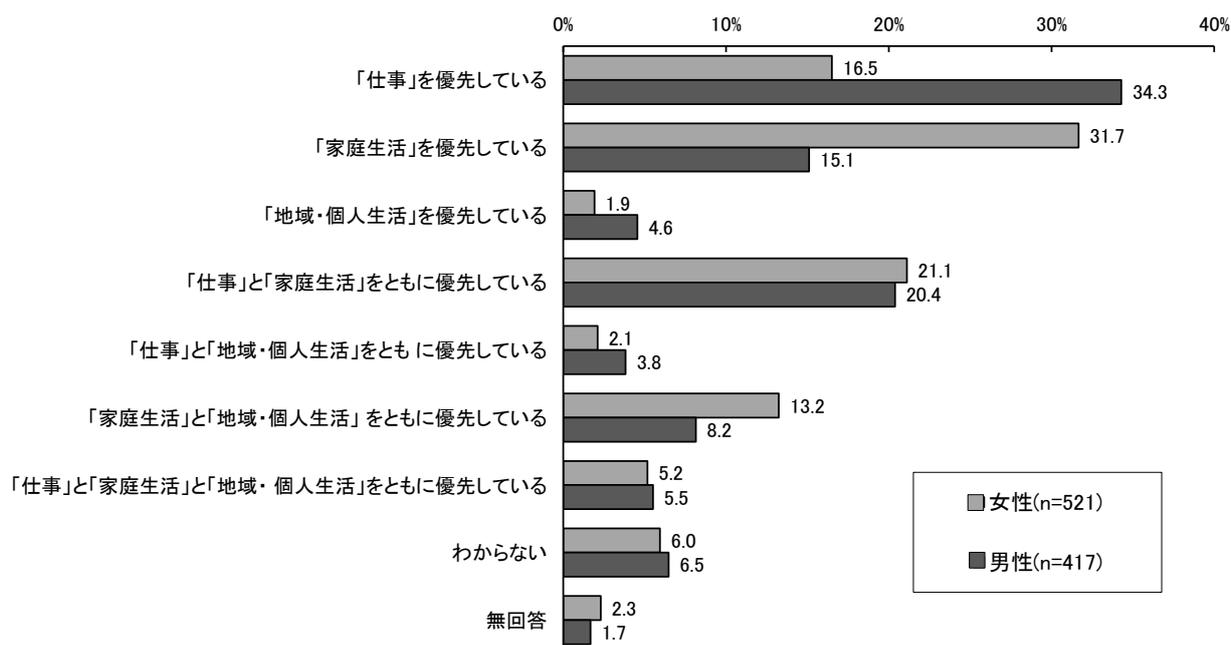


図 10-3 ワーク・ライフ・バランスの《現実》【性別】



【経年比較】

前回調査と比較すると、《希望・理想》では、特に、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人生活』をともに優先したい」が低下し（9.7ポイント差）、『家庭生活』と『地域・個人生活』をともに優先したい」と「『家庭生活』を優先したい」が上昇しています（各 7.6 / 7.5ポイント差）。

《現実》では、特に、「『仕事』を優先している」が低下し（11.2ポイント差）、「『家庭生活』を優先している」や「『家庭生活』と『地域・個人生活』をともに優先している」は上昇しています（各 7.0 / 5.7ポイント差）。

図 10-4 ワーク・ライフ・バランスの《希望・理想》【経年比較】

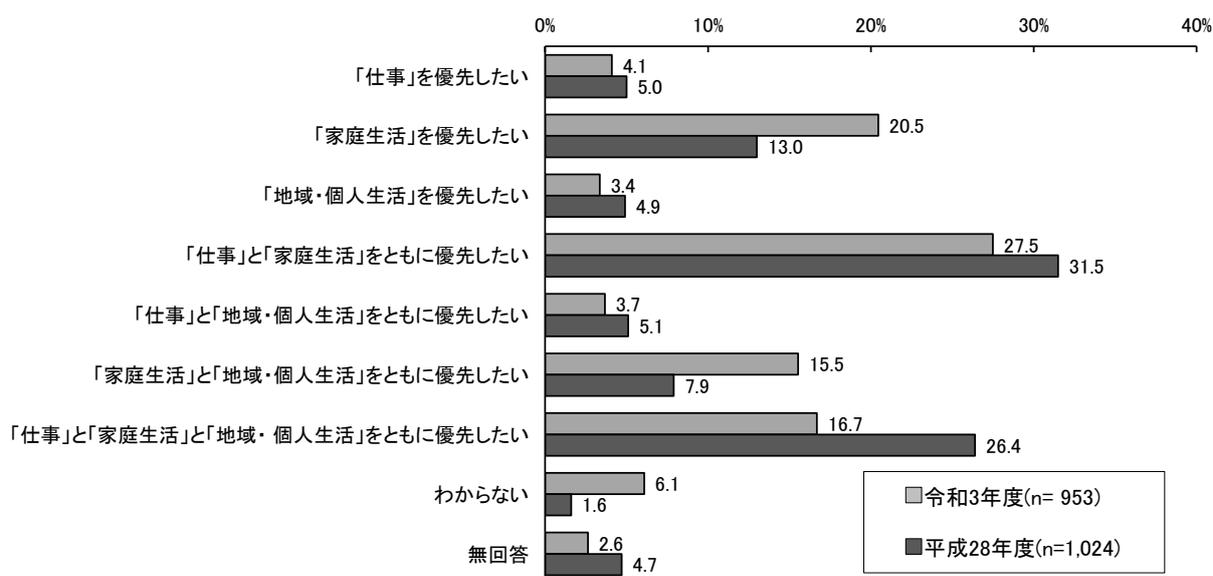
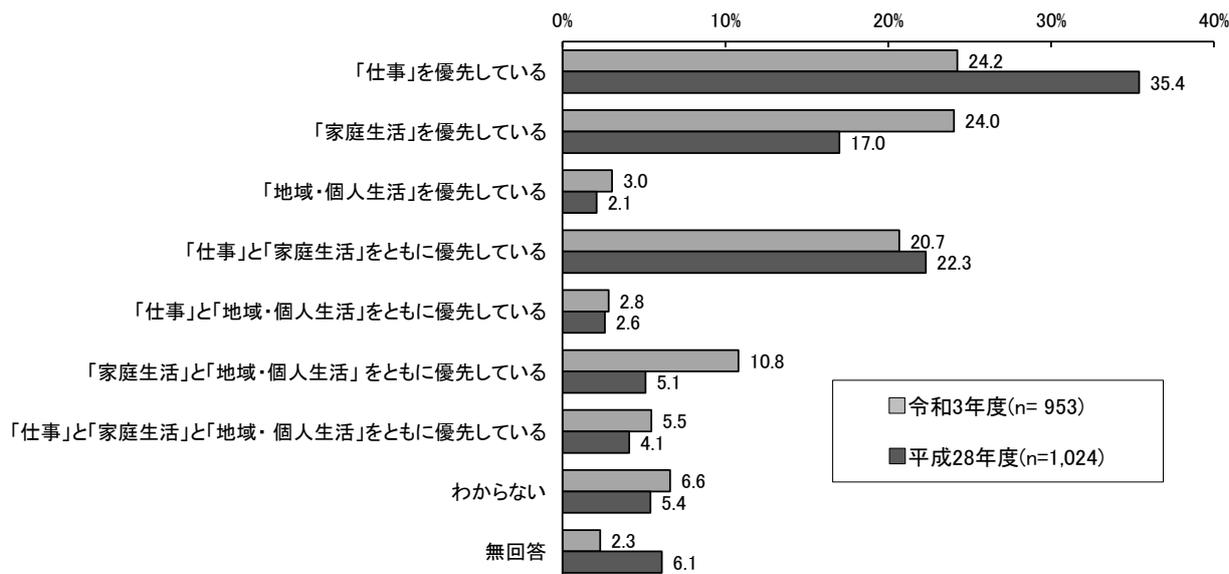


図 10-5 ワーク・ライフ・バランスの《現実》【経年比較】



【国調査との比較】

内閣府調査と比較すると、《希望・理想》では、特に、「『家庭生活』を優先したい」と「『仕事』を優先したい」については、市が国を下回り（各 7.9/5.8 ポイント差）、「『家庭生活』と『地域・個人生活』をともに優先したい」については、市が国を上回ります。（5.4 ポイント差）。

《現実》では、「『家庭生活』を優先している」については、市が国を下回ります（6.3 ポイント差）。

図 10-6 ワーク・ライフ・バランスの《希望・理想》【内閣府調査との比較】

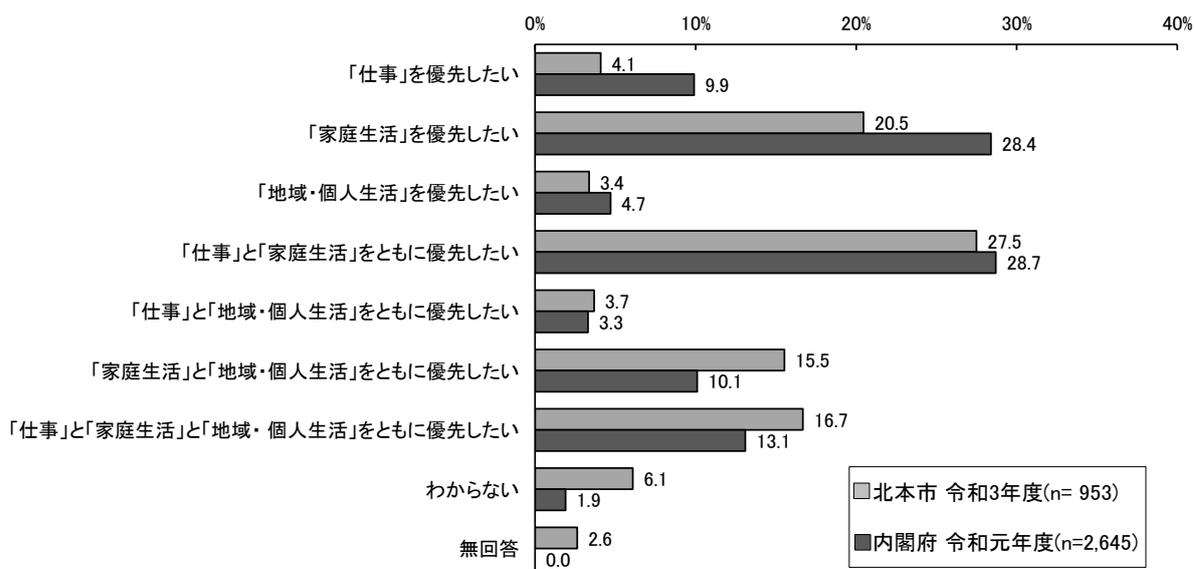
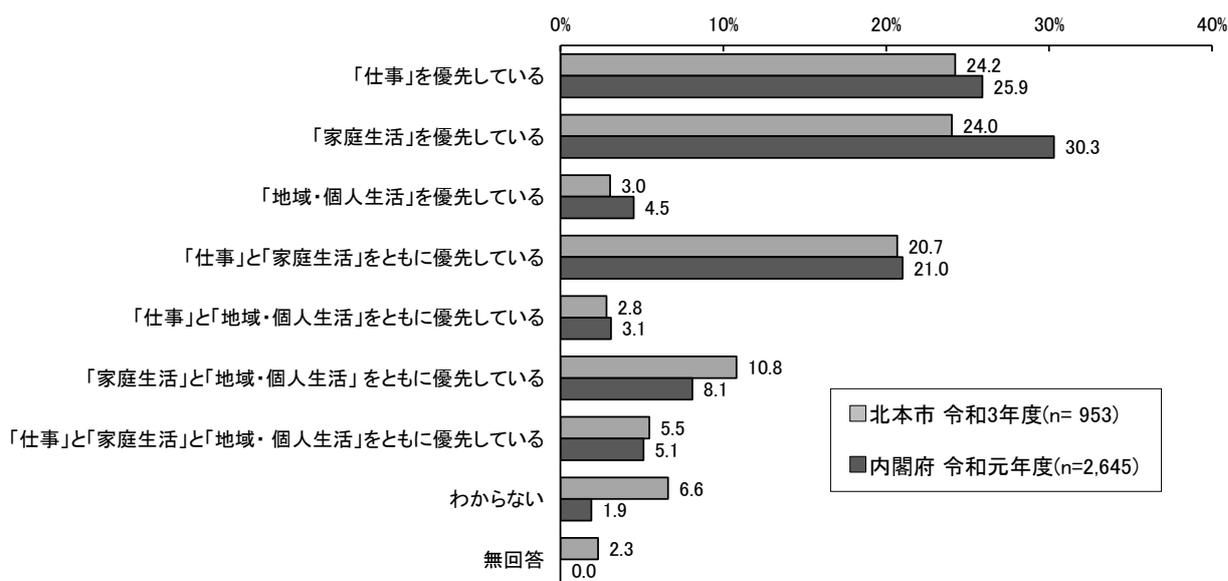


図 10-7 ワーク・ライフ・バランスの《現実》【内閣府調査との比較】



(2) 男女が仕事と家庭を両立するために必要な条件

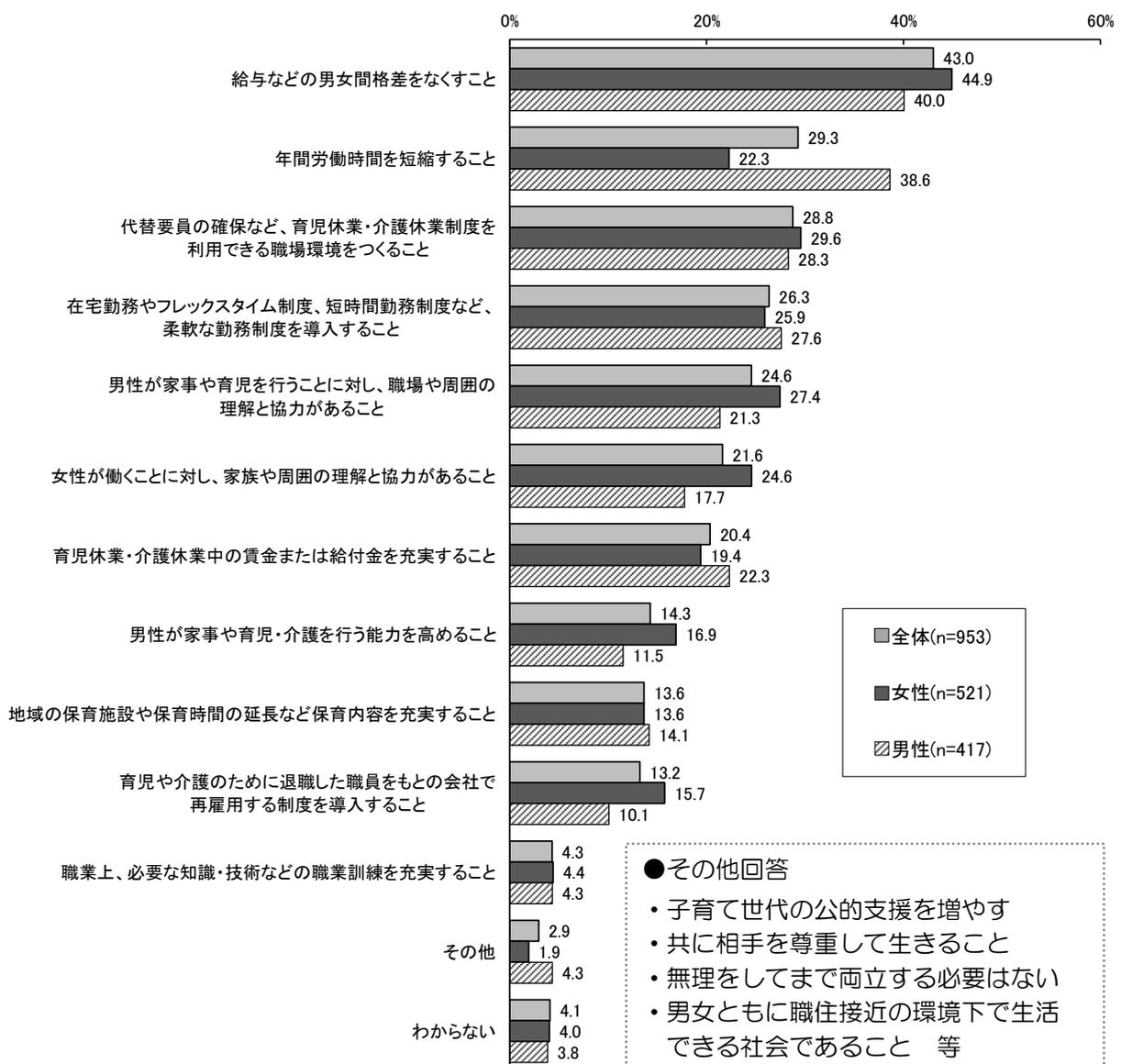
問11 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。(あてはまる番号3つまでに○)

仕事と家庭を両立するために必要な条件については、「給与などの男女間格差をなくすこと」が43.0%で最も高く、次いで「年間労働時間を短縮すること」が29.3%、「代替要員の確保、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が28.8%、「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度を導入すること」が26.3%、「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」が24.6%となっています。

【性別】

性別にみると、「給与などの男女間格差をなくすこと」は男女ともに4割台で最も高くなっています。「年間労働時間を短縮すること」は男性が女性を大きく上回ります(16.3ポイント差)。

図11-1 仕事と家庭を両立するために必要な条件【全体・性別】



5. 職業生活について

(1) 女性の働き方に対する考え

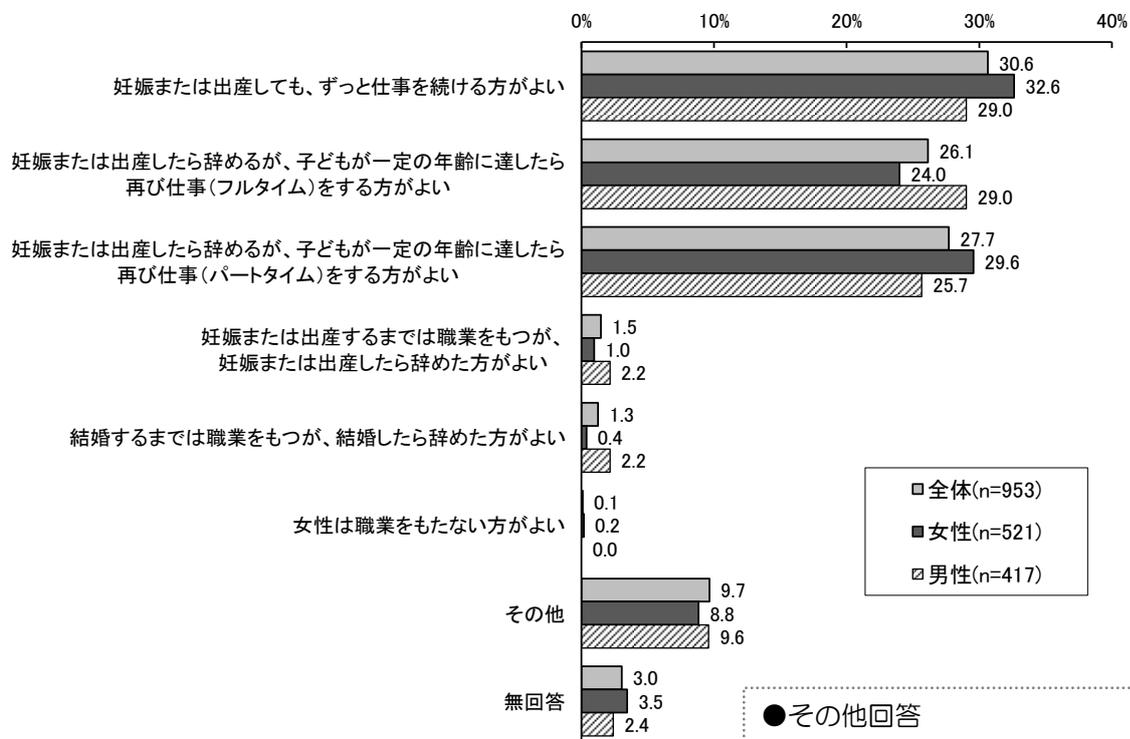
問12 あなたは、女性の働き方について、どう思いますか。(あてはまる番号1つに○)

女性の働き方については、「妊娠または出産しても、ずっと仕事を続ける方がよい」が30.6%と最も高く、次いで「妊娠または出産したら辞めるが、子どもが一定の年齢に達したら再び仕事(パートタイム)をする方がよい」が27.7%、「妊娠または出産したら辞めるが、子どもが一定の年齢に達したら再び仕事(フルタイム)をする方がよい」が26.1%となっています。

【性別】

性別にみると、「妊娠または出産しても、ずっと仕事を続ける方がよい」や「妊娠または出産したら辞めるが、子どもが一定の年齢に達したら再び仕事(パートタイム)をする方がよい」は女性が男性を上回り(各3.6/3.9ポイント差)、「妊娠または出産したら辞めるが、子どもが一定の年齢に達したら再び仕事(フルタイム)をする方がよい」は男性が女性を上回ります(5.0ポイント差)。

図12-1 女性の働き方に対する考え【全体・性別】



【性／年齢別】

性／年齢別でみると、「妊娠または出産しても、ずっと仕事を続ける方がよい」は男女ともに 30 歳代で最も高く 4 割台となっています。また、「妊娠または出産したら辞めるが、子どもが一定の年齢に達したら再び仕事（パートタイム）をする方がよい」は女性の 40 歳代と男性の 60 歳代で 3 割台後半～4 割と高くなっています。

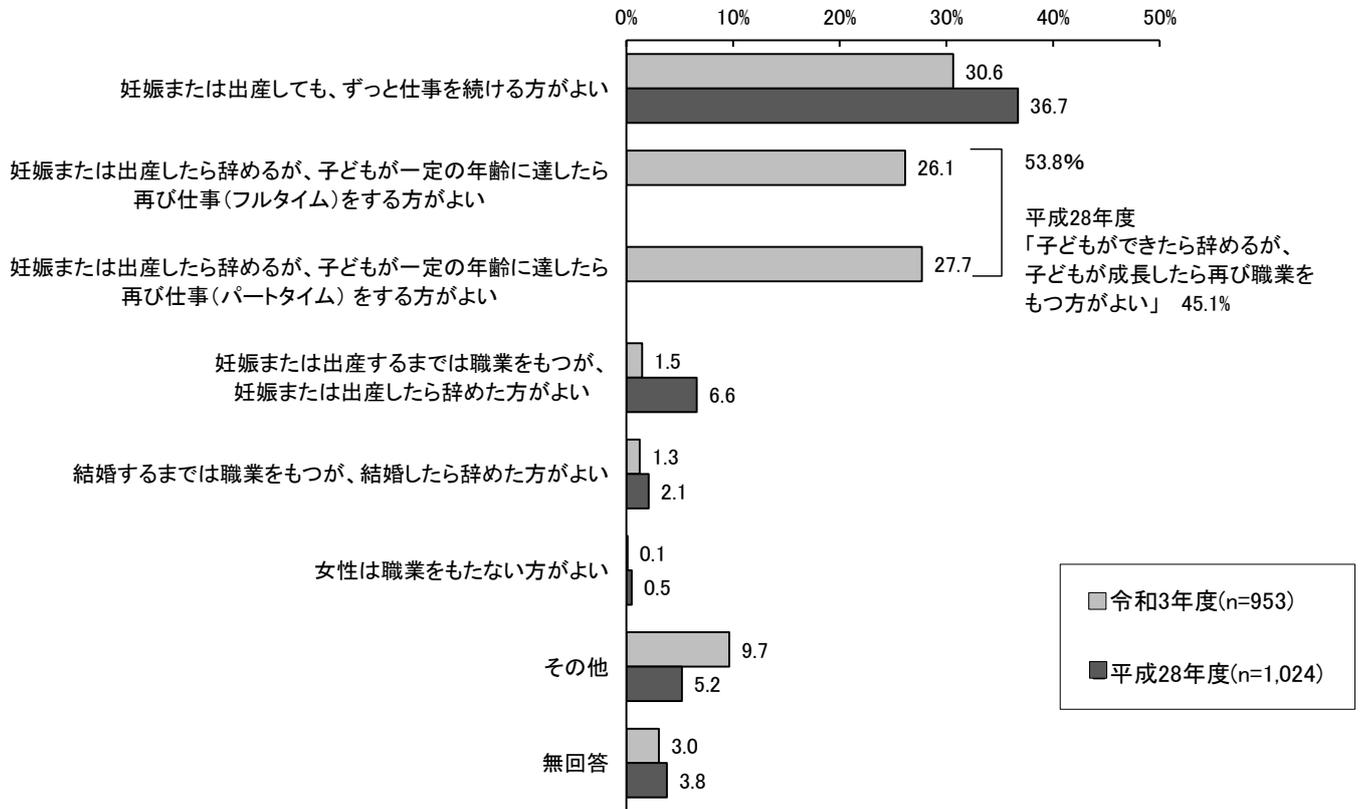
表 12-2 女性の働き方に対する考え【全体・性別・性／年齢別】

	合計(人)	女性の働き方に対する考え (％)							
		妊娠または出産しても、ずっと仕事を続ける方がよい	妊娠または出産したら辞めるが、子どもが一定の年齢に達したら再び仕事（フルタイム）をする方がよい	妊娠または出産したら辞めるが、子どもが一定の年齢に達したら再び仕事（パートタイム）をする方がよい	妊娠または出産するまでは職業をもつが、妊娠または出産したら辞めた方がよい	結婚するまでは職業をもつが、結婚したら辞めた方がよい	女性は職業をもたない方がよい	その他	無回答
全体	953	30.6	26.1	27.7	1.5	1.3	0.1	9.7	3.0
性別									
女性	521	32.6	24.0	29.6	1.0	0.4	0.2	8.8	3.5
男性	417	29.0	29.0	25.7	2.2	2.2	0.0	9.6	2.4
性／年齢別									
女性・10・20歳代	40	37.5	27.5	30.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0
30歳代	56	44.6	8.9	32.1	1.8	0.0	0.0	12.5	0.0
40歳代	93	28.0	18.3	40.9	0.0	0.0	0.0	9.7	3.2
50歳代	100	33.0	30.0	22.0	3.0	0.0	0.0	11.0	1.0
60歳代	105	36.2	23.8	27.6	0.0	0.0	0.0	8.6	3.8
70歳以上	127	26.0	29.1	27.6	0.8	1.6	0.8	6.3	7.9
男性・10・20歳代	30	23.3	23.3	16.7	10.0	3.3	0.0	23.3	0.0
30歳代	30	43.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	23.3	0.0
40歳代	70	35.7	31.4	25.7	0.0	0.0	0.0	5.7	1.4
50歳代	75	36.0	22.7	24.0	4.0	4.0	0.0	9.3	0.0
60歳代	98	26.5	27.6	35.7	0.0	2.0	0.0	6.1	2.0
70歳以上	113	19.5	38.1	23.0	2.7	2.7	0.0	8.0	6.2

【経年比較】

前回調査と比較すると、「妊娠または出産しても、ずっと仕事を続ける方がよい」は低下しています（6.1ポイント差）。

図 12-3 女性の働き方に対する考え【経年比較】



(2) 職場で男女平等ではないと思うこと

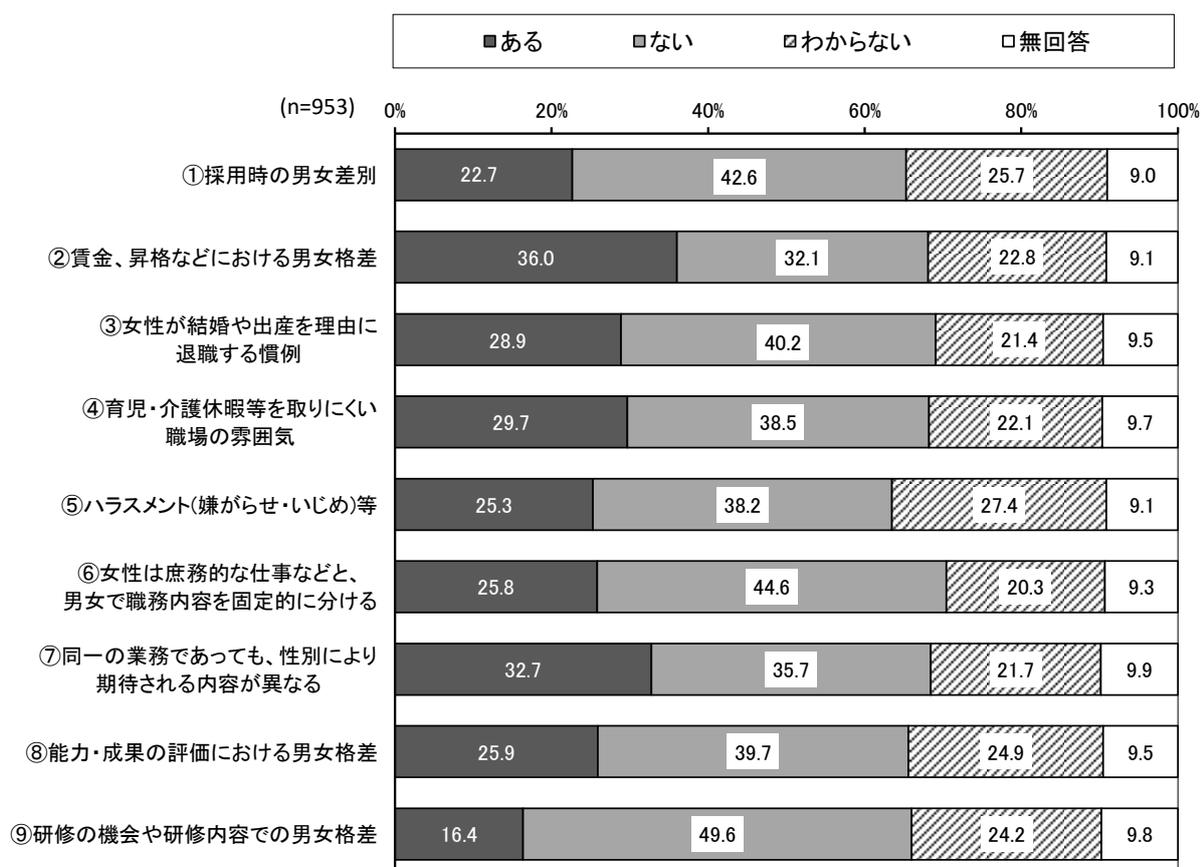
【問 13 は、就労経験のある方にうかがいます。】

問 13 あなたの職場では、次のような慣例や格差等がありますか（ありましたか）。

（項目ごとに、あてはまる番号 1 つに○）

職場で男女平等ではないと思うことについて、「ある」との回答は〔②賃金、昇格などにおける男女格差〕や〔⑦同一の業務であっても、性別により期待される内容が異なる〕で 3 割台と他の項目に比べて高くなっています。

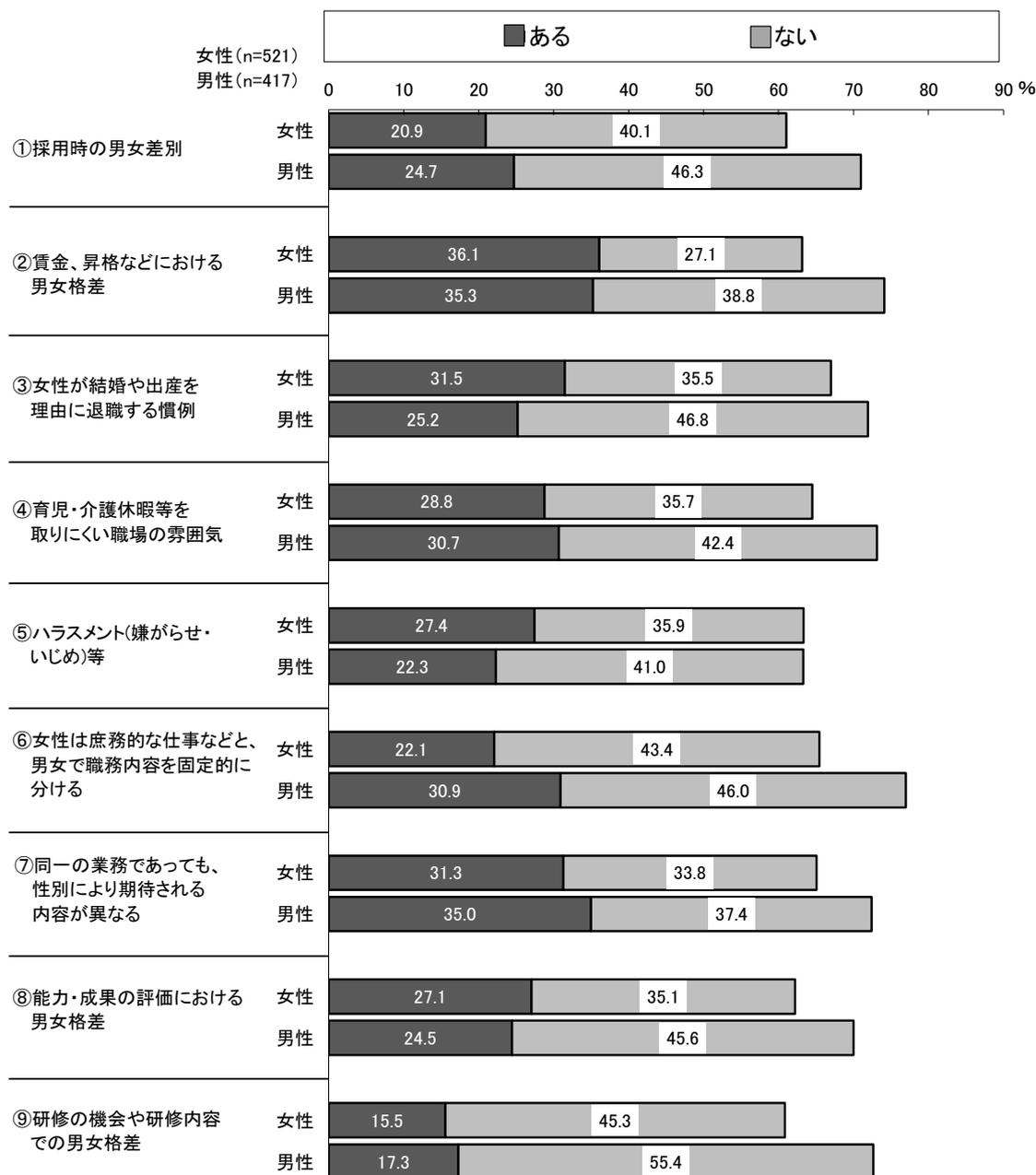
図 13-1 職場で男女平等ではないと思うこと【全体】



【性別】

性別でみると、「ある」は、特に、〔③女性が結婚や出産を理由に退職する慣例〕や〔⑤セクハラ、パワハラ、マタハラ等のハラスメント等〕で、女性が男性を上回り（各 6.3/5.1 ポイント差）、〔⑥女性は庶務的な仕事などと、男女で職務内容を固定的に分ける〕では男性が女性を上回っています（8.8 ポイント差）。

図 13-2 職場で男女平等ではないと思うこと【性別】



(3) 女性が働き続けるうえでの障壁

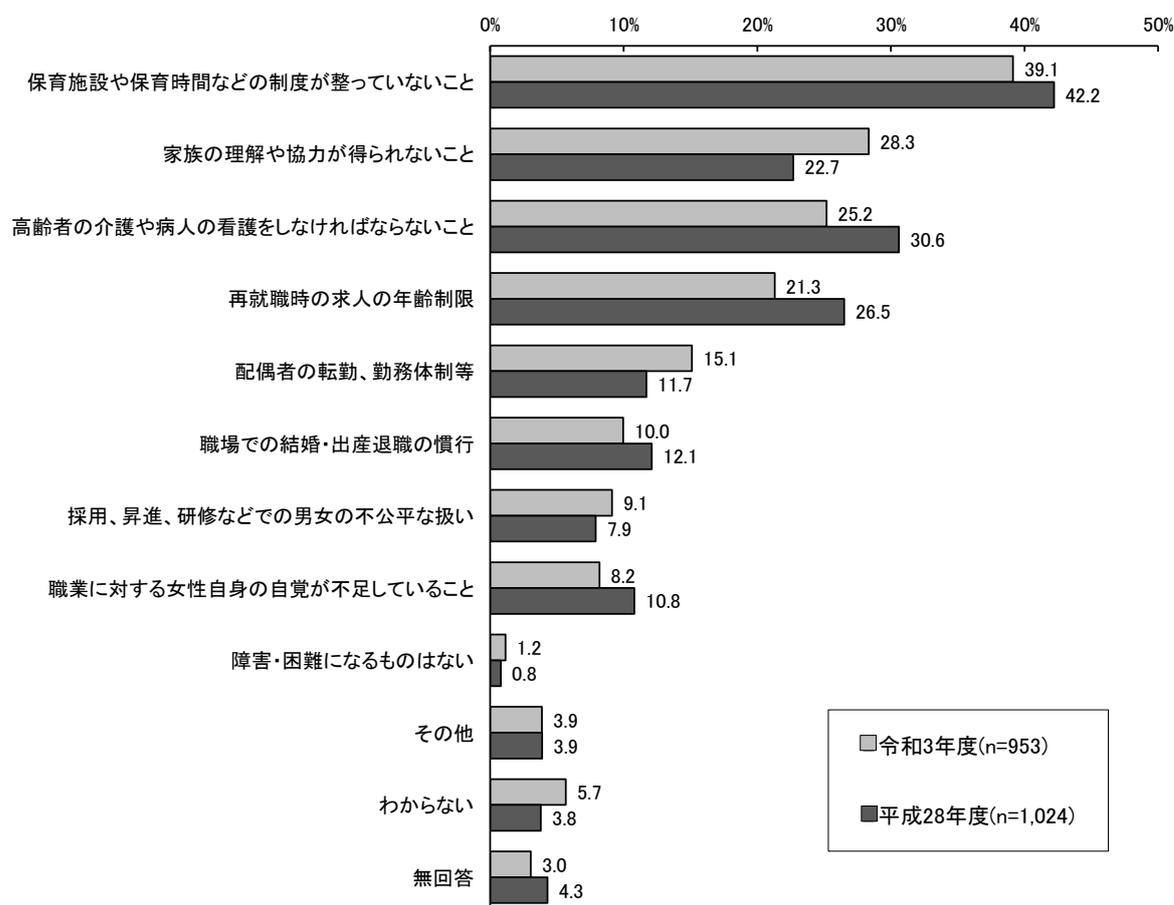
問 14 女性が働き続けるうえで障壁になっていることは何だと思えますか。(あてはまる番号2つまでに○)

女性が働き続けるうえで障壁となっていることについては、「保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと」が39.1%と最も高く、次いで「家族の理解や協力を得られないこと」が28.3%、「高齢者の介護や病人の看護をしなければならないこと」が25.2%、「再就職時の求人の年齢制」が21.3%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、特に、「高齢者の介護や病人の看護をしなければならないこと」や「再就職時の求人の年齢制限」は低下し（各5.4/5.2ポイント差）、「家族の理解や協力が得られないこと」は上昇しています（5.6ポイント差）。

図 14-1 女性が働き続けるうえで障壁となっていること【全体・経年比較】



●その他回答

- ・妊娠・出産による身体の変化（体力が低下したり、ホルモンバランスが崩れる事）
- ・制度があってもそれを利用しづらい雰囲気職場にあること
- ・出産、育児の間に社会から取り残され、自信喪失し、現状で我慢してしまう状況 等

【性別】

性別でみると、「再就職時の求人の年齢制限」や「家族の理解や協力が得られないこと」、「高齢者の介護や病人の看護をしなければならないこと」は女性が男性を上回り（各 10.7 / 9.8 / 7.7 ポイント差）、「保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと」や「配偶者の転勤、勤務体制等」は男性が女性を上回っています（各 13.2 / 5.8 ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別でみると、「保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと」は女性の30歳代及び男性の40～60歳代で特に高くなっています。また、「高齢者の介護や病人の看護をしなければならないこと」と「再就職時の求人の年齢制限」は女性50歳代で高くなっています。

表 14-2 女性が働き続けるうえで障壁となっていること【全体・性別・性／年齢別】

	合計(人)	女性が働き続けるうえで障壁となっていること (%)						
		家族の理解や協力が得られないこと	保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと	高齢者の介護や病人の看護をしなければならないこと	配偶者の転勤、勤務体制等	採用、昇進、研修などでの男女の不公平な扱い	職場での結婚・出産退職の慣行	
全体	953	28.3	39.1	25.2	15.1	9.1	10.0	
性別								
女性	521	32.6	33.8	28.8	12.7	8.1	8.6	
男性	417	22.8	47.0	21.1	18.5	10.1	11.8	
性／年齢別								
女性・10・20歳代	40	27.5	37.5	10.0	22.5	22.5	30.0	
30歳代	56	32.1	51.8	14.3	16.1	10.7	12.5	
40歳代	93	34.4	33.3	25.8	10.8	7.5	8.6	
50歳代	100	36.0	24.0	40.0	15.0	4.0	6.0	
60歳代	105	31.4	35.2	34.3	14.3	7.6	5.7	
70歳以上	127	31.5	31.5	29.9	6.3	6.3	4.7	
男性・10・20歳代	30	33.3	36.7	6.7	13.3	16.7	23.3	
30歳代	30	30.0	36.7	10.0	20.0	10.0	20.0	
40歳代	70	18.6	50.0	11.4	22.9	7.1	14.3	
50歳代	75	26.7	45.3	17.3	17.3	9.3	10.7	
60歳代	98	19.4	57.1	33.7	18.4	10.2	11.2	
70歳以上	113	21.2	43.4	25.7	17.7	9.7	6.2	

	合計(人)	女性が働き続けるうえで障壁となっていること (%)					
		再就職時の求人の年齢制限	職業に対する女性の自身が不足していること	障害・困難になるものはない	その他	わからない	無回答
全体	953	21.3	8.2	1.2	3.9	5.7	3.0
性別							
女性	521	26.3	5.4	0.8	3.6	5.4	3.5
男性	417	15.6	12.0	1.7	4.1	5.3	2.4
性／年齢別							
女性・10・20歳代	40	15.0	2.5	0.0	0.0	0.0	2.5
30歳代	56	8.9	1.8	3.6	10.7	1.8	1.8
40歳代	93	20.4	3.2	2.2	6.5	11.8	1.1
50歳代	100	36.0	6.0	0.0	4.0	3.0	1.0
60歳代	105	29.5	6.7	0.0	1.9	3.8	2.9
70歳以上	127	31.5	7.9	0.0	0.8	7.1	8.7
男性・10・20歳代	30	20.0	6.7	0.0	3.3	6.7	3.3
30歳代	30	10.0	16.7	0.0	13.3	3.3	0.0
40歳代	70	11.4	18.6	4.3	5.7	5.7	1.4
50歳代	75	18.7	9.3	0.0	6.7	5.3	0.0
60歳代	98	16.3	11.2	1.0	0.0	3.1	1.0
70歳以上	113	15.9	9.7	2.7	2.7	7.1	6.2

(4) 管理職や政策・方針決定の場への女性の進出について

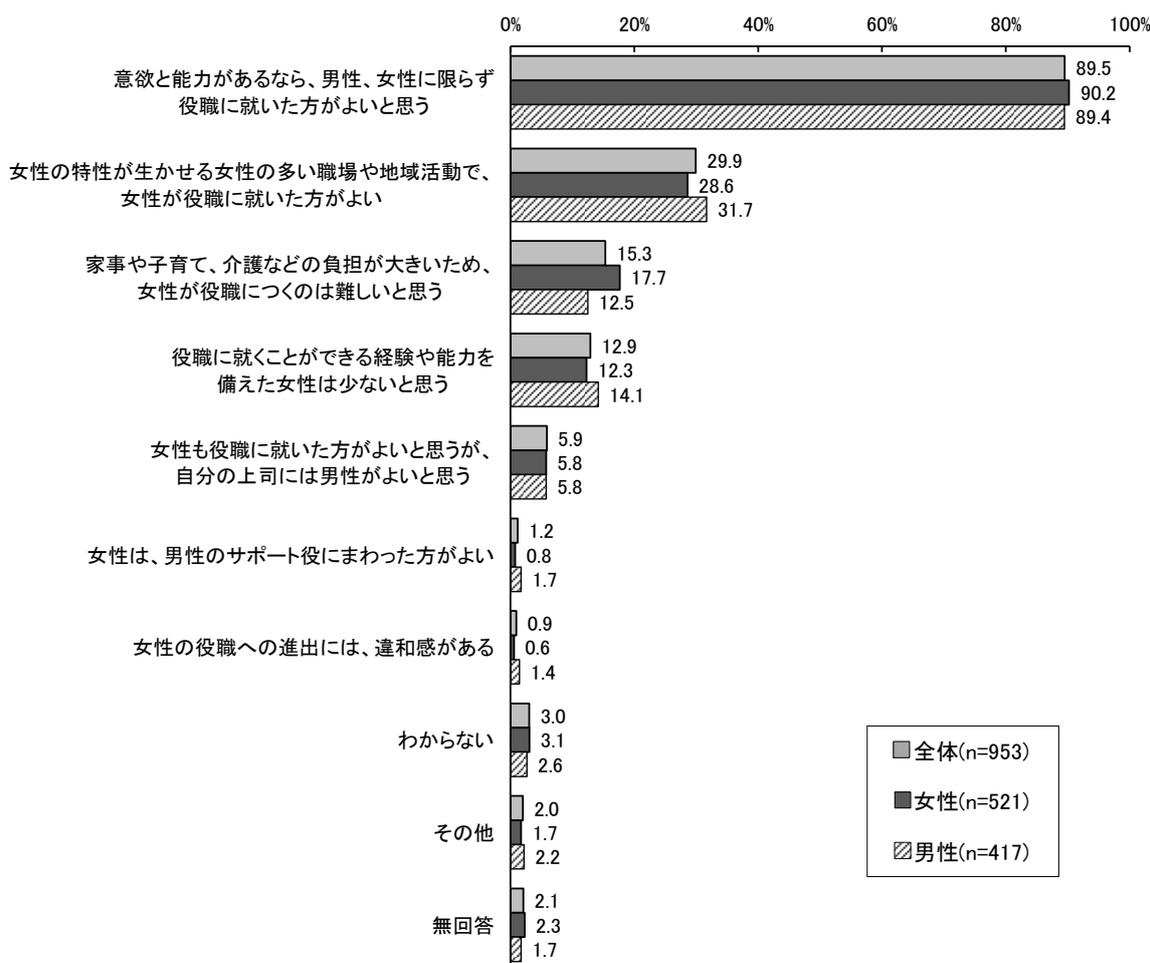
問 15 行政や企業の管理職や、政治家など政策・方針を決定する場に占める女性の割合は依然として低い状態です。あなたは、こうした場に女性が進出することについて、どのようなと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

管理職や政策・方針決定の場への女性の進出については、「意欲と能力があるなら、男性、女性に限らず役職に就いた方がよいと思う」が 89.5%で群を抜いて高くなっています。次いで、「女性の特性を生かせる女性の多い職場や地域活動で、女性が役職に就いた方がよい」が 29.9%、「家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職につくのは難しいと思う」が 15.3%、「役職に就くことができる経験や能力を備えた女性は少ないと思う」が 12.9%となっています。

【性別】

性別でみると、「家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職につくのは難しいと思う」は女性が男性を上回ります（5.2ポイント差）。

図 15-1 管理職や政策・方針決定の場への女性の進出について【全体・性別】



●その他回答

- ・ただ単に男女の数を合わせれば（同数にすれば）良いのでしょうか？
- ・女性がリーダーシップをとった方が世の中が上手くいくと思う 等

(5) 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

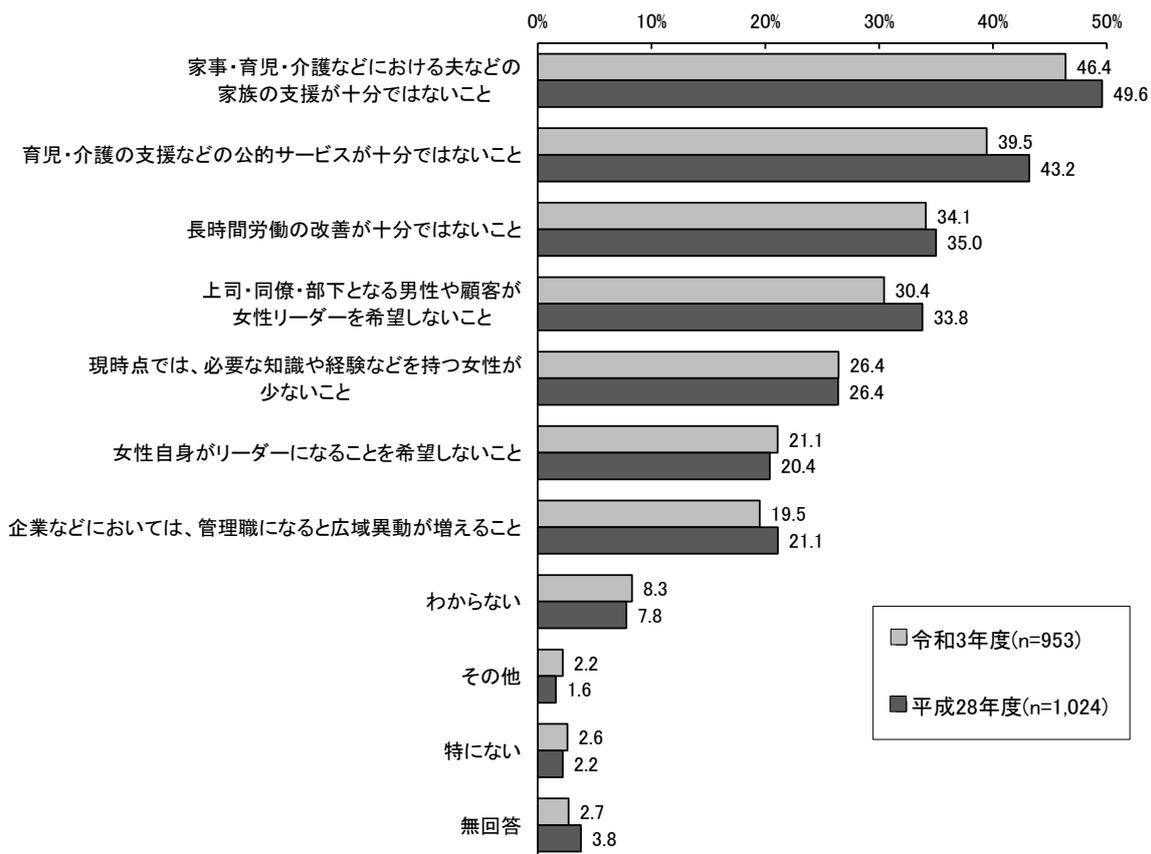
問 16 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、「家事・育児・介護などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が46.4%で最も高く、次いで「育児・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が39.5%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が34.1%、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が30.4%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「育児・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」や「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」「家事・育児・介護などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」はいずれも低下しています。(各3.7/3.4/3.2ポイント差)

図 16-1 政策・方針決定の場へ女性が進出するために必要なこと【全体・経年比較】



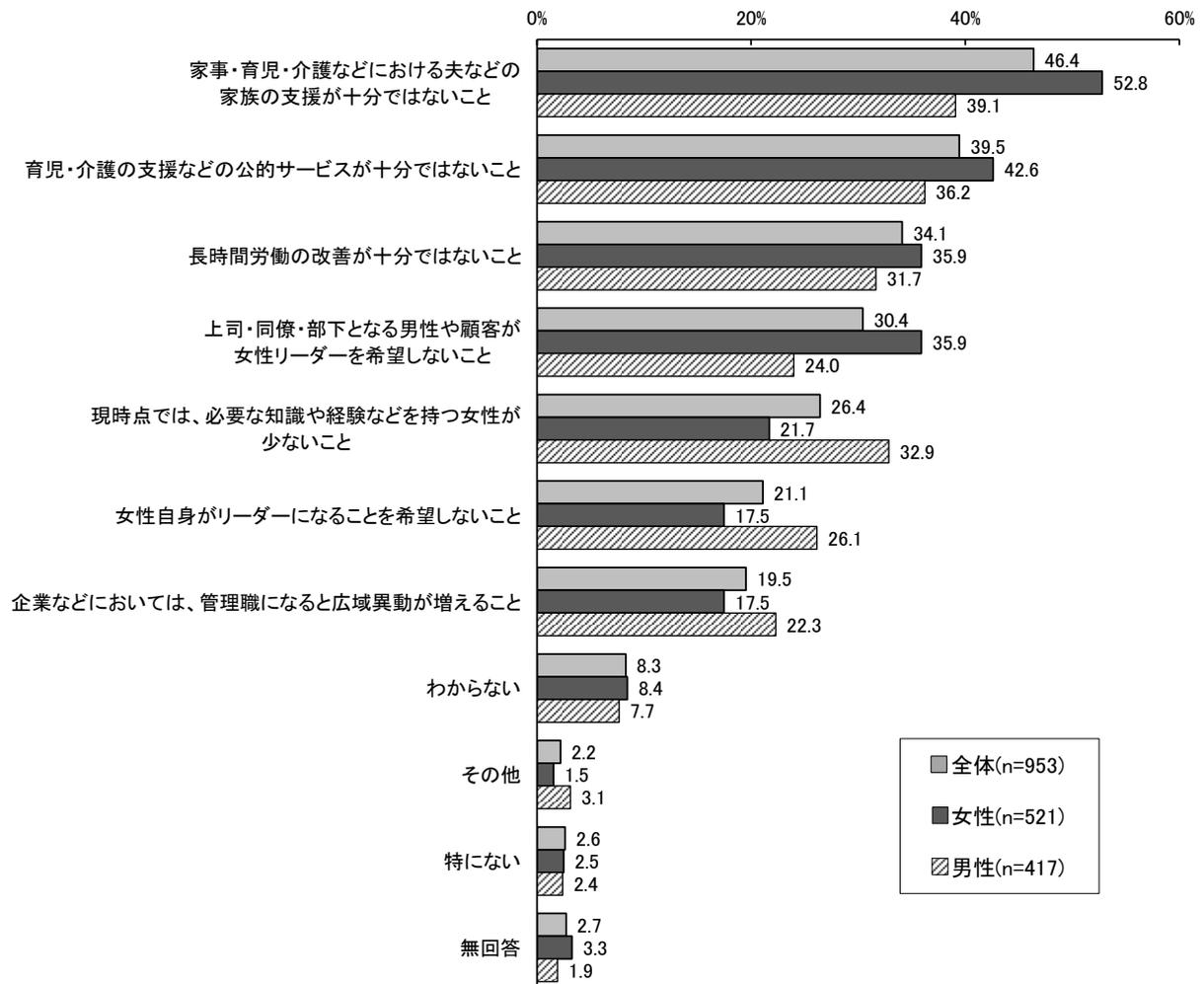
●その他回答

- ・女性特有の体調の問題への配慮
- ・テレワークの活用で女性のリーダーとして障壁がなくなる職種もあるが、職業分野における障壁が、現実的になくなり難い分野もあるのではと思う 等

【性別】

性別でみると、特に、「家事・育児・介護などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」や「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」では女性が男性を上回り（各 13.7/11.9 ポイント差）、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」や「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」、「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」では男性が女性を上回ります（各 11.2/8.6/4.8 ポイント差）。

図 16-2 政策・方針決定の場へ女性が進出するために必要なこと【全体・経年比較】



(6) 育児休業の取得意向

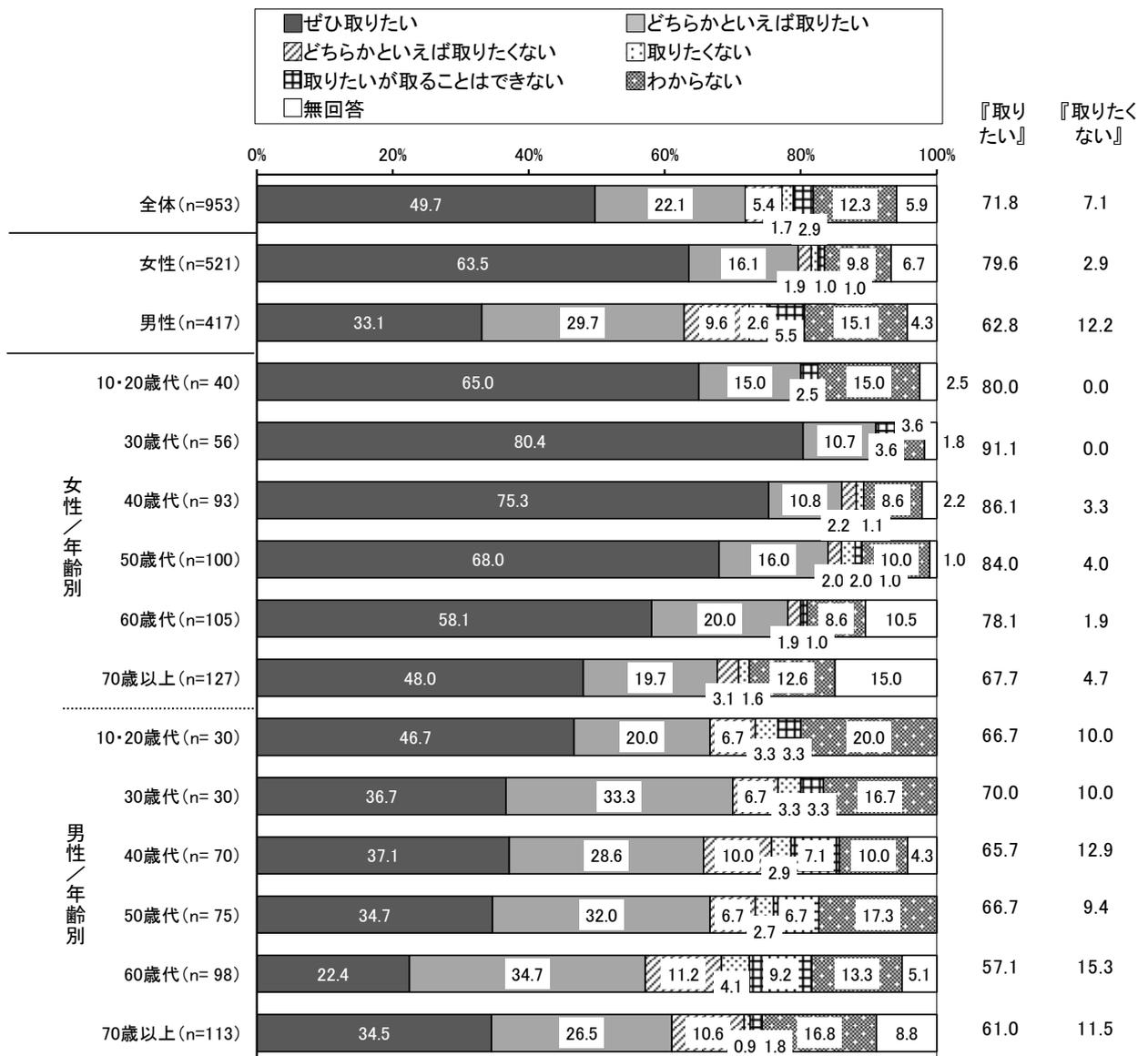
問 17 育児・介護休業法（育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律）により、1歳未満の子どもをもつ労働者は子どもが1歳に達するまでの1年間、育児のための育児休業を取ることができます。あなたは、必要が生じたら育児休業を取りますか。自分が育児期の子どものもっているとして、お答えください。（あてはまる番号1つに○）

育児休業の取得意向については、「ぜひ取りたい」が49.7%が最も高くなっています。「ぜひ取りたい」と「どちらかといえば取りたい」を合わせた『取りたい』は71.8%と大半を占め、「取りたくない」と「どちらかといえば取りたくない」を合わせた『取りたくない』は7.1%となっています。「取りたいが取ることはできない」は2.9%にとどまります。

【性別】

性別で見ると、「ぜひ取りたい」は女性が男性を大きく上回ります（30.4ポイント差）。一方で、『取りたくない』は男性が女性を上回ります（9.3ポイント差）。

図 17-1 育児休業の取得意向【全体・性別・性／年齢別】



【性／年齢別】

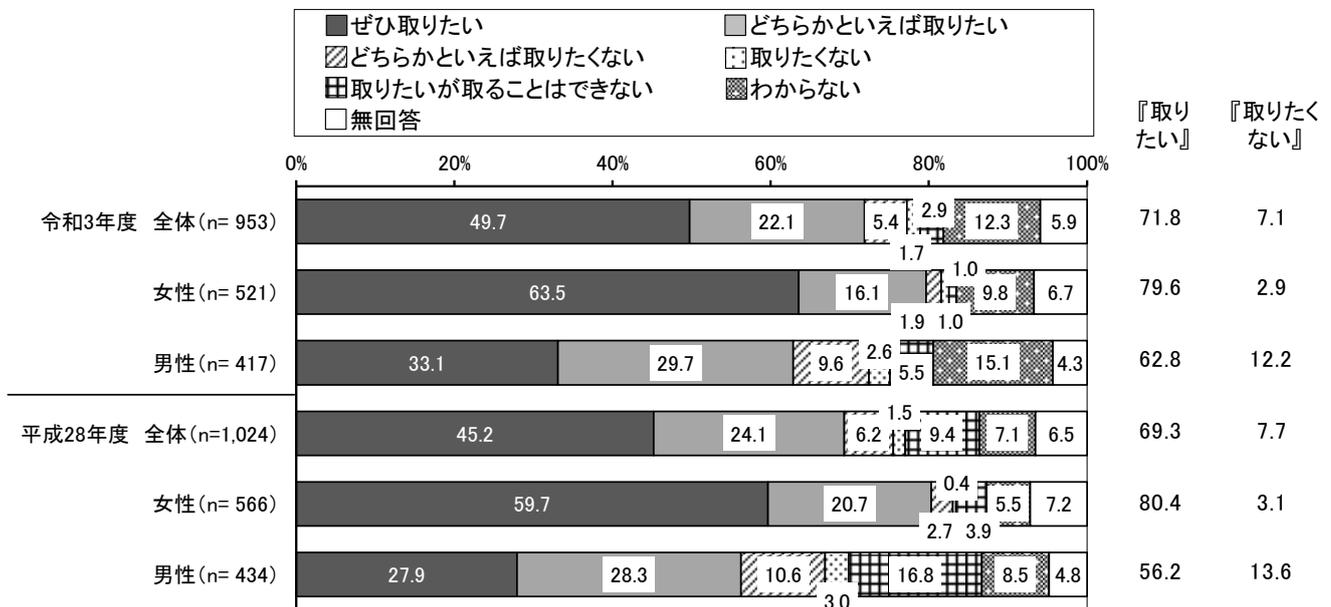
性・年齢別でみると、「ぜひ取りたい」は女性の30歳代で80.4%、40歳代で75.3%と特に高い傾向にあります。男性は若いほど「ぜひ取りたい」が高い傾向にあり、10・20歳代で46.7%となっています。(図17-1)

【経年比較】

前回調査と比較すると、全体では、「ぜひ取りたい」は上昇し(4.5ポイント差)、「取りたいが取ることはできない」は低下しています(6.5ポイント差)。

性別でみると、「ぜひ取りたい」は男女ともに上昇し(各3.8/5.2ポイント差)、『取りたい』についても、女性で約8割、男性で6割台と上昇しています。「取りたいが取ることはできない」については、男女ともに低下しています(各2.9/11.3ポイント差)。

図17-2 育児休業の取得意向【経年比較・性別】



(7) 育児休業の取得期間

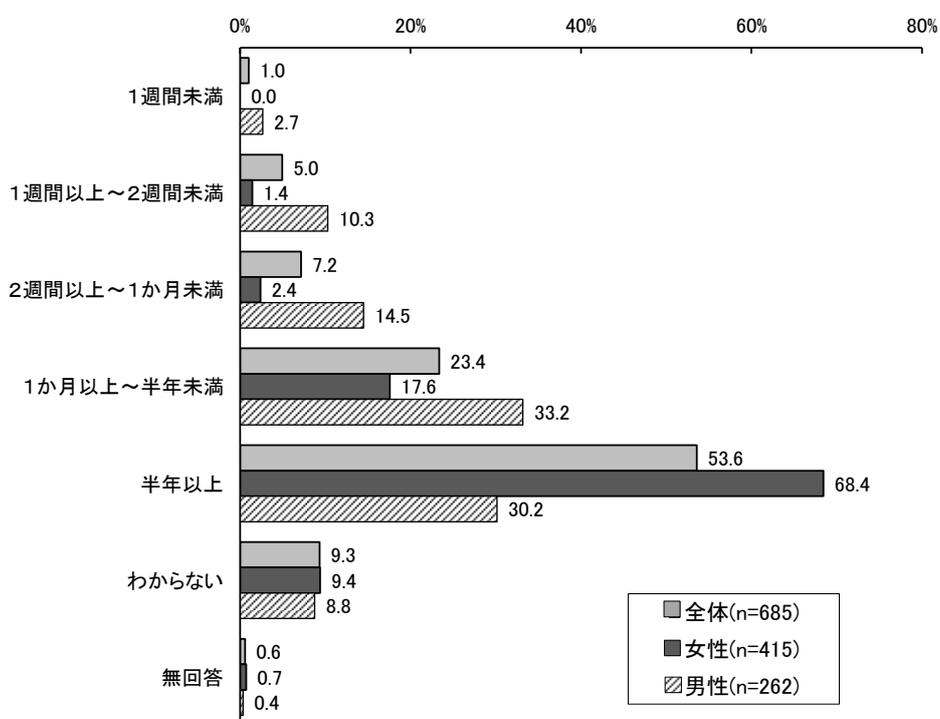
【問17で「1. ぜひ取りたい」「2. どちらかといえば取りたい」とお答えの方にかがいます。】
 問17-1 あなたは、どのくらいの期間、育児休業を取得すると思いますか。(あてはまる番号
 1つに○)

育児休業の取得期間については、「半年以上」が53.6%で最も高く、次いで「1か月以上～半年未満」が23.4%となっています。

【性別】

性別で見ると、女性は「半年以上」が68.4%と大半を占めています。一方、男性は「1か月以上～半年未満」が33.2%で最も高く、次いで「半年以上」が30.2%、「2週間以上～1か月未満」が14.5%となっています。

図17-1-1 育児休業の取得期間【全体・性別】



(8) 育児休業を取得できない理由

【問17で「3. 2週間以上～1か月未満」「4. 1か月以上～半年未満」「5. 半年以上」とお答えの方にかがいます。】

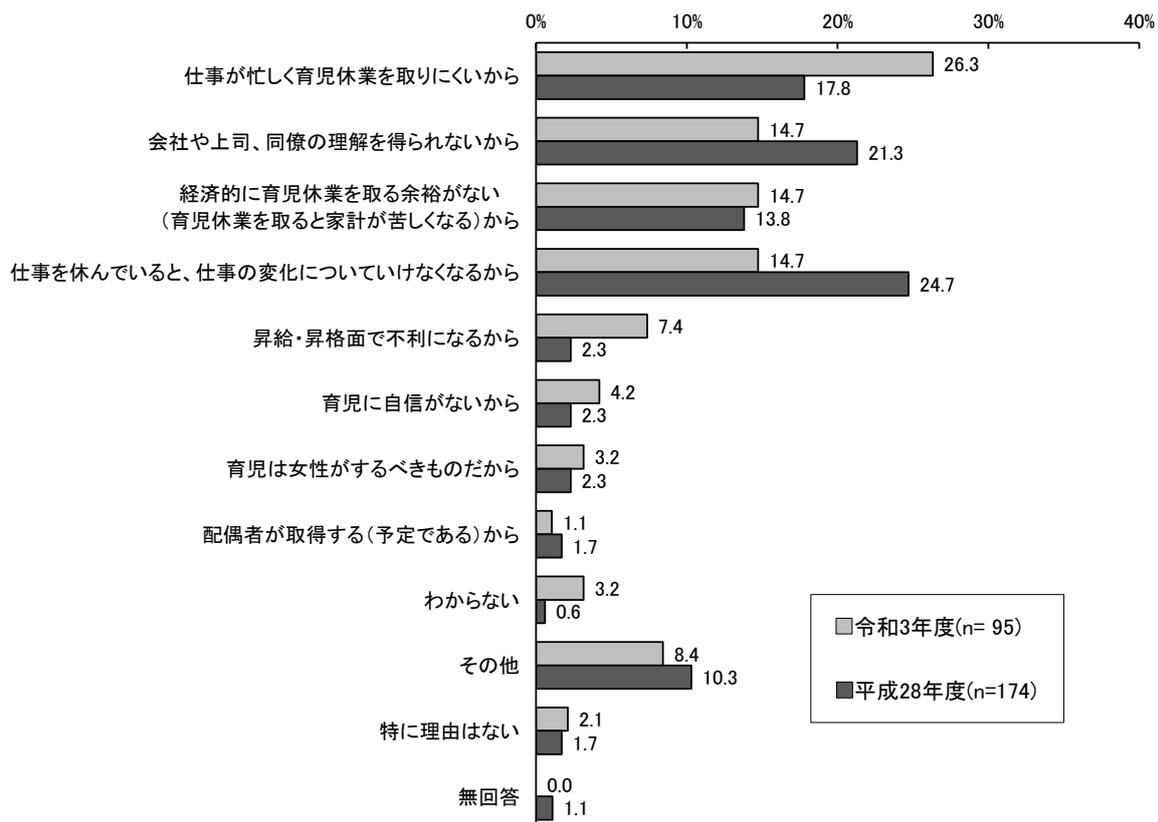
問17-2 育児休業を取りたくない、取ることができないと思う一番の理由は何ですか。
(あてはまる番号1つに○)

育児休業を取得できない理由については、「仕事が忙しく育児休業を取りにくいから」が26.3%と最も高く、「会社や上司、同僚の理解を得られないから」「経済的に育児休業を取る余裕がない(育児休業を取ると家計が苦しくなる)から」「仕事を休んでいると、仕事の変化についていけなくなるから」がともに14.7%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、特に、「仕事を休んでいると、仕事の変化についていけなくなるから」や「会社や上司、同僚の理解を得られないから」は低下し(各10.0/6.6ポイント差)、「仕事が忙しく育児休業を取りにくいから」は上昇しています(8.5ポイント差)。

図17-2-1 育児休業を取得できない理由【全体・経年比較】



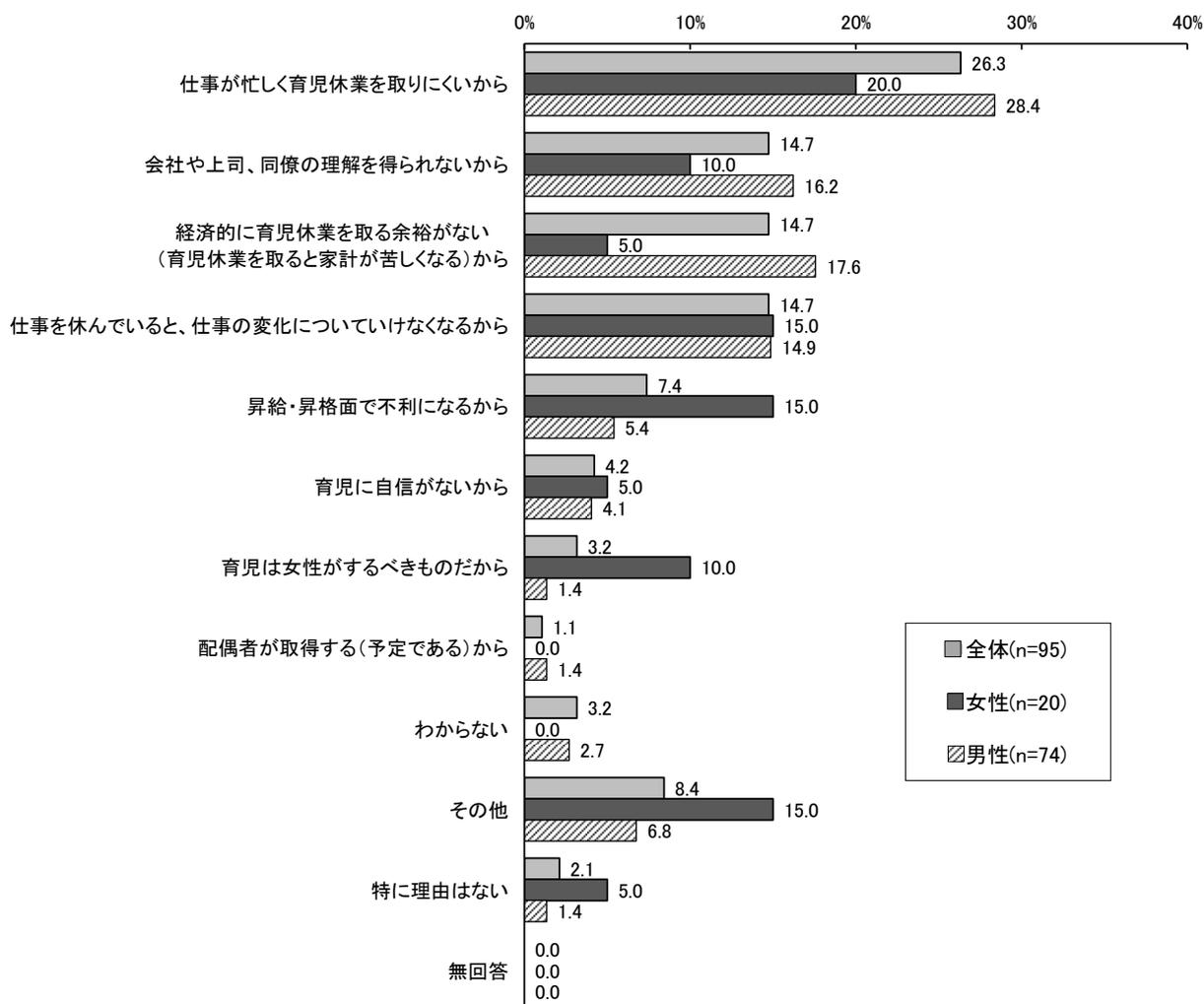
●その他回答

- ・権利なので取ればいいと思うが、復職に対しての不安がある
- ・戻った時に仕事がなくなる不安
- ・もう少し長く子どもをみたいので、一旦退職したい 等

【性別】

性別でみると、「経済的に育児休業を取る余裕がない（育児休業を取ると家計が苦しくなる）から」や「仕事が忙しく育児休業を取りにくいから」、「会社や上司、同僚の理解を得られないから」は男性が女性を上回ります（各 12.6/8.4/6.2 ポイント差）。

図 17—2—2 育児休業を取得できない理由【全体・性別】



(9) 男性が育児・介護休業を取得することについて

問 18 育児休業や介護休業を取得できる制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどう思いますか。(項目ごとに、あてはまる番号1つに○)

男性が育児・介護休業を取得することについては、育児・介護休業ともに「積極的に取得した方がよい」が約5割となっており、「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『取得した方がよい』はともに8割を超えています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、『育児休業』については「積極的に取得した方がよい」が上昇しています(16.6ポイント差)。

『介護休業』についても「積極的に取得した方がよい」が上昇しています(10.2ポイント差)。

図 18-1 男性の育児休業の取得について【全体・経年比較】

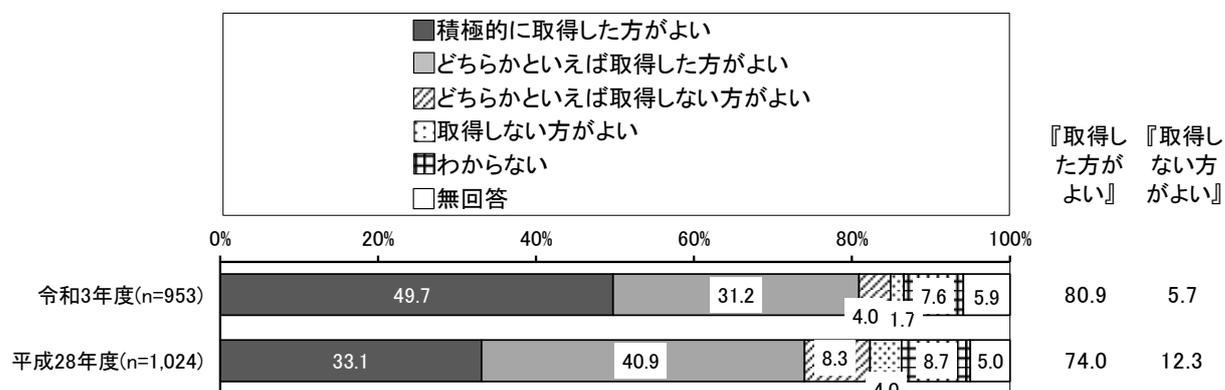
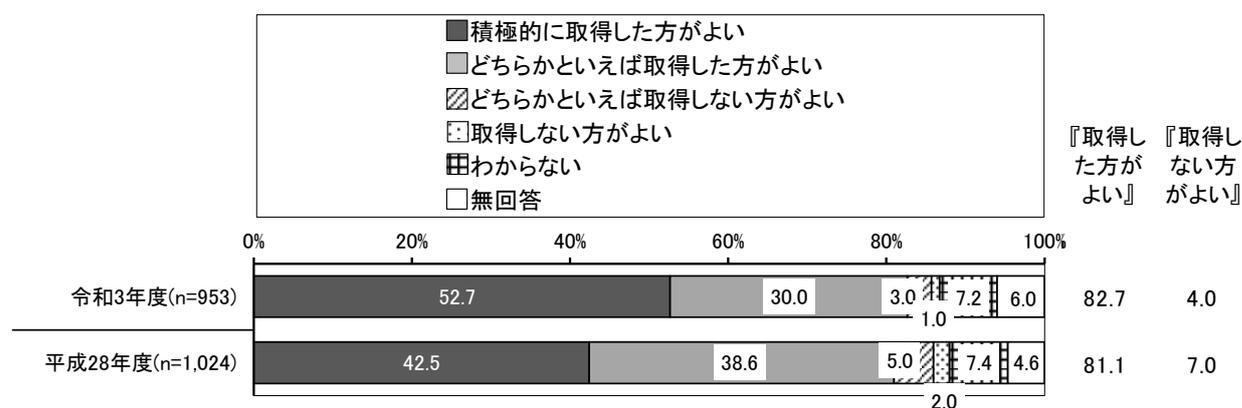


図 18-2 男性の介護休業の取得について【全体・経年比較】



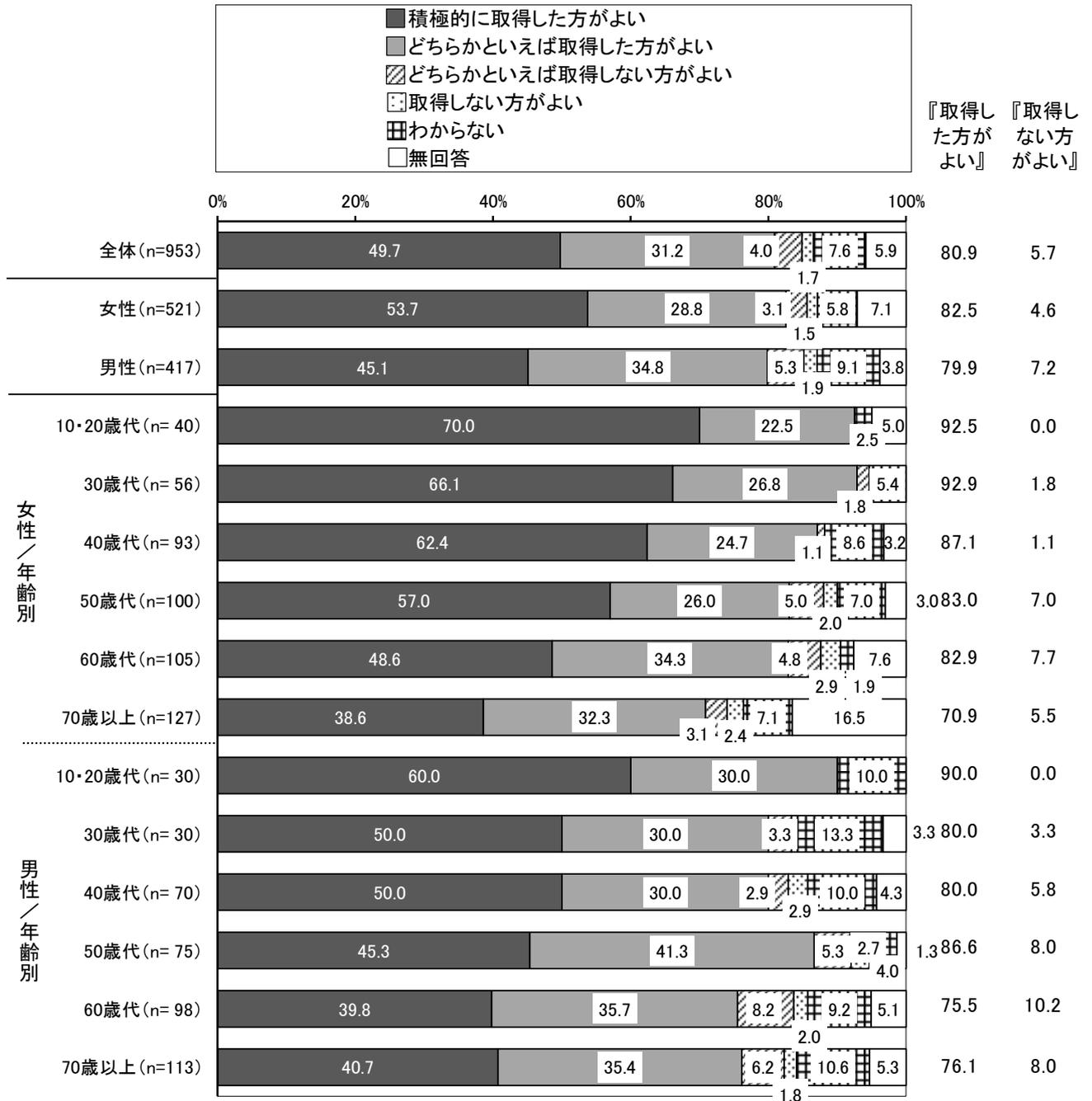
【性別】

《育児休業》について、性別で見ると、「積極的に取得した方がよい」は女性が男性を上回ります（8.6ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別で見ると、「積極的に取得した方がよい」は男女ともに若い世代ほど高く、10・20歳代の女性では70.0%、男性では60.0%となっています。

図 18-3 男性の育児休業の取得について【全体・性別・性／年齢別】



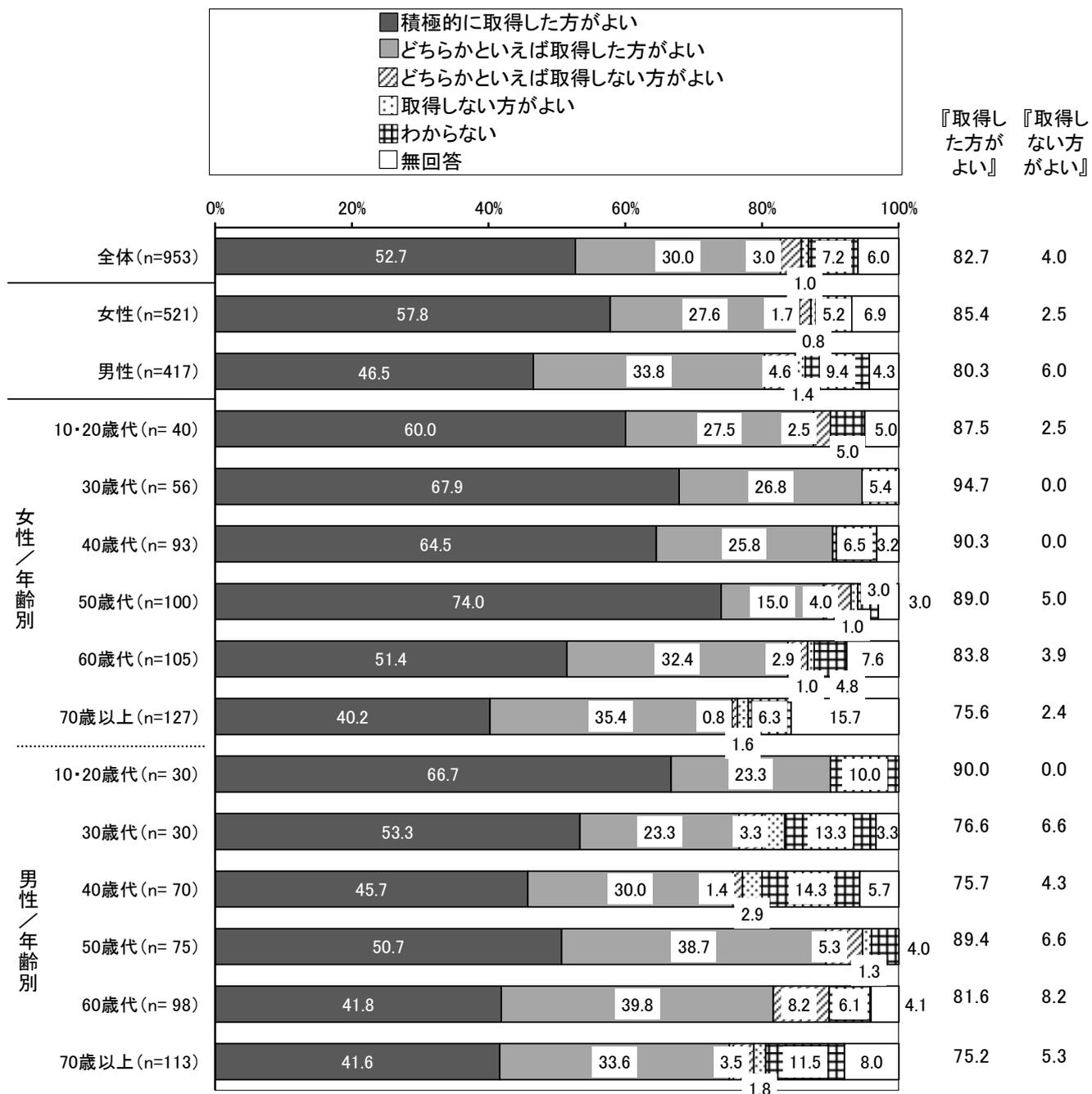
【性別】

《介護休業》について、性別でみると、「積極的に取得した方がよい」は女性が男性を上回ります（11.3ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別でみると、「積極的に取得した方がよい」は女性の50歳代で74.0%と最も高くなっています。

図 18-4 男性の介護休業の取得について【全体・性別・性／年齢別】



(10) 女性が働き続けるために必要なこと

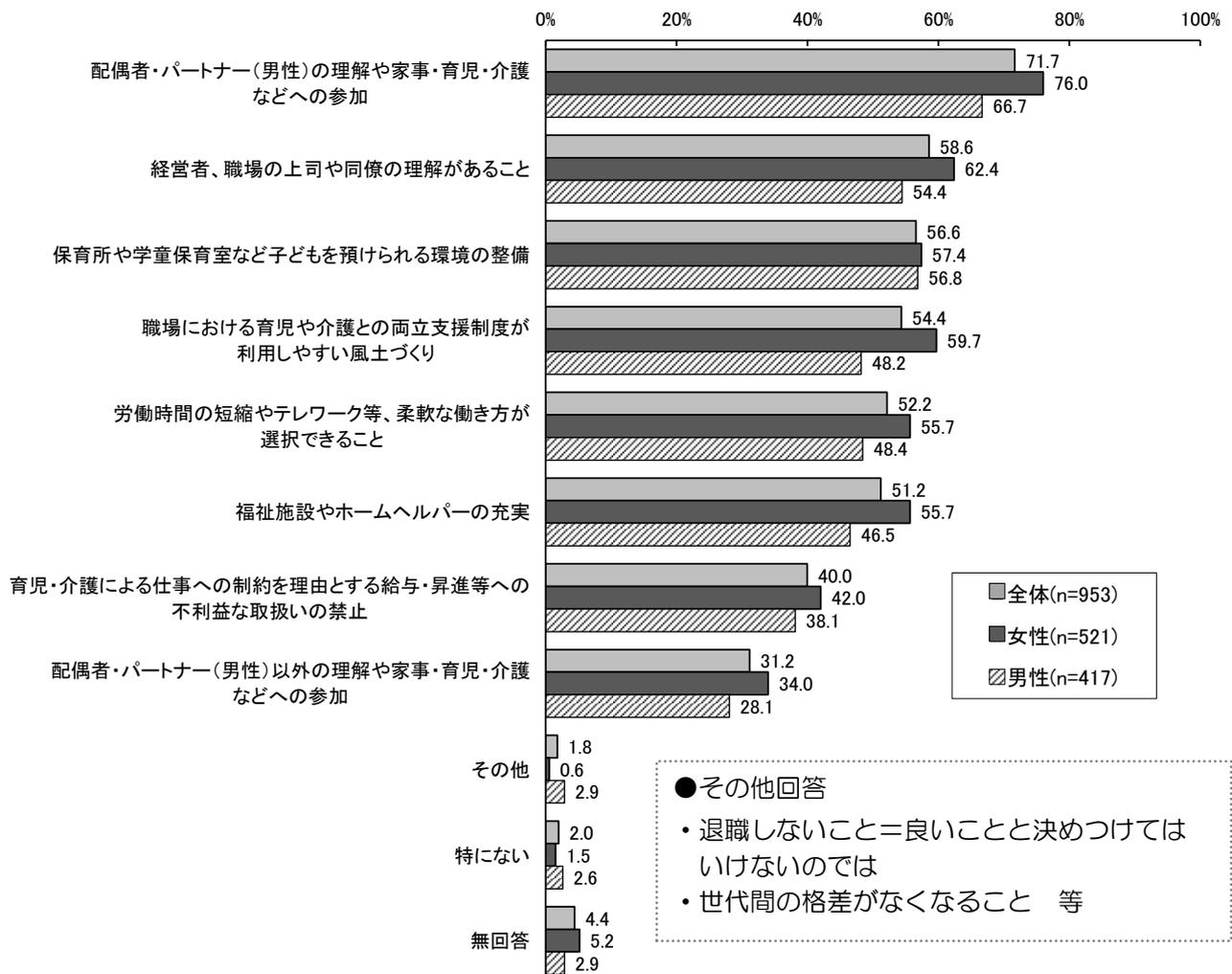
問 19 あなたは、女性が結婚後もしくは出産後、または家族を介護する必要が生じた後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

女性が働き続けるために必要なことについては、「配偶者・パートナー（男性）の理解や家事・育児・介護などへの参加」が71.7%で最も高く、次いで「経営者、職場の上司や同僚の理解があること」が58.6%、「保育所や学童保育室など子どもを預けられる環境の整備」が56.6%、「職場における育児や介護との両立支援制度が利用しやすい風土づくり」が54.4%となっています。

【性別】

性別で見ると、多くの項目で女性の割合が男性を上回りますが、特に、「職場における育児や介護との両立支援制度が利用しやすい風土づくり」や「配偶者・パートナー（男性）の理解や家事・育児・介護などへの参加」「福祉施設やホームヘルパーの充実」で差が見られます（各11.5/9.3/9.2ポイント差）。

図 19-1 女性が働き続けるために必要なこと【全体・性別】



6. 配偶者等からの暴力などについて

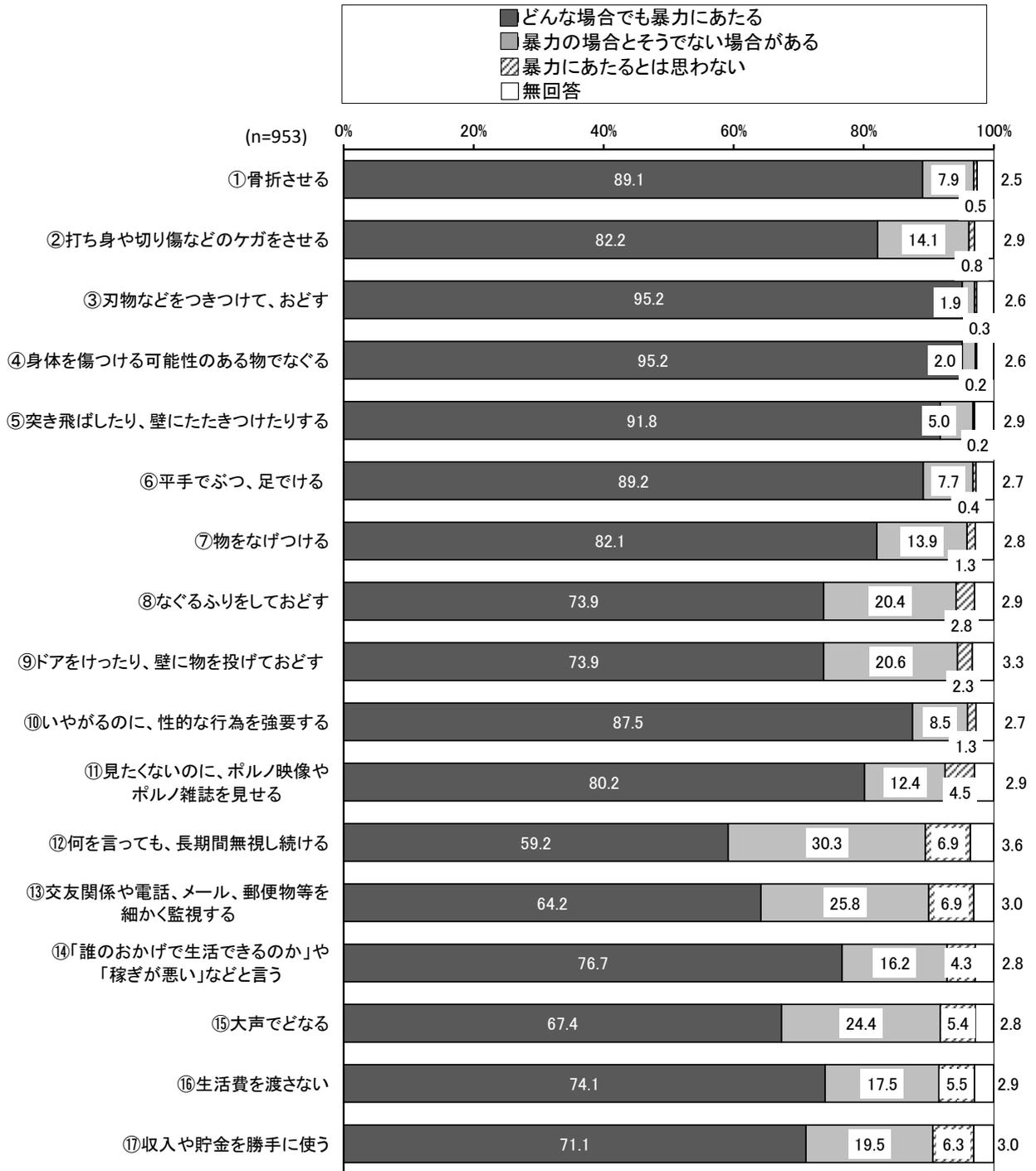
(1) DVと認識される行為

問 20 次のようなことが配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人同士の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（項目ごとに、あてはまる番号1つに○）

さまざまな行為について配偶者や恋人同士の間で行われた場合に暴力にあたるかをたずねたところ、全ての分野で「どんな場合でも暴力にあたる」が半数以上を占めており、特に〔③刃物などをつきつけて、おどす〕〔④身体を傷つける可能性のある物でなぐる〕〔⑤突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする〕〔⑥平手でぶつ、足でける〕〔①骨折させる〕〔⑩いやがるのに、性的な行為を強要する〕は8割台後半～9割台となっています。

また、「暴力の場合とそうでない場合がある」は、〔⑫何を言っても、長時間無視し続ける〕〔⑬交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視する〕〔⑭大声でどなる〕〔⑨ドアをけったり、壁に物を投げておどす〕〔⑧なぐるふりをしておどす〕などで2～3割台となっています。（図 20-1）

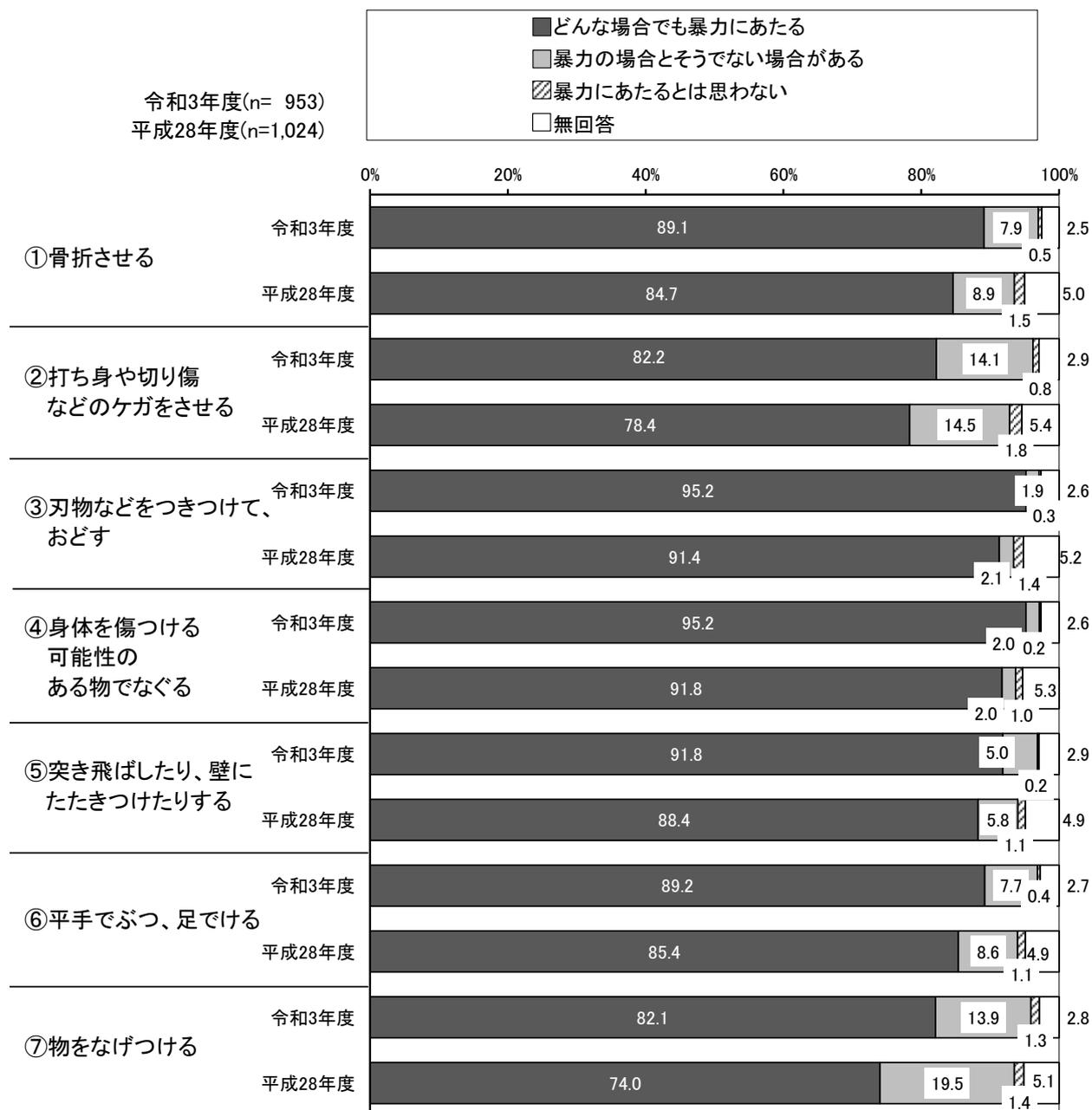
図 20-1 DVと認識される行為【全体】

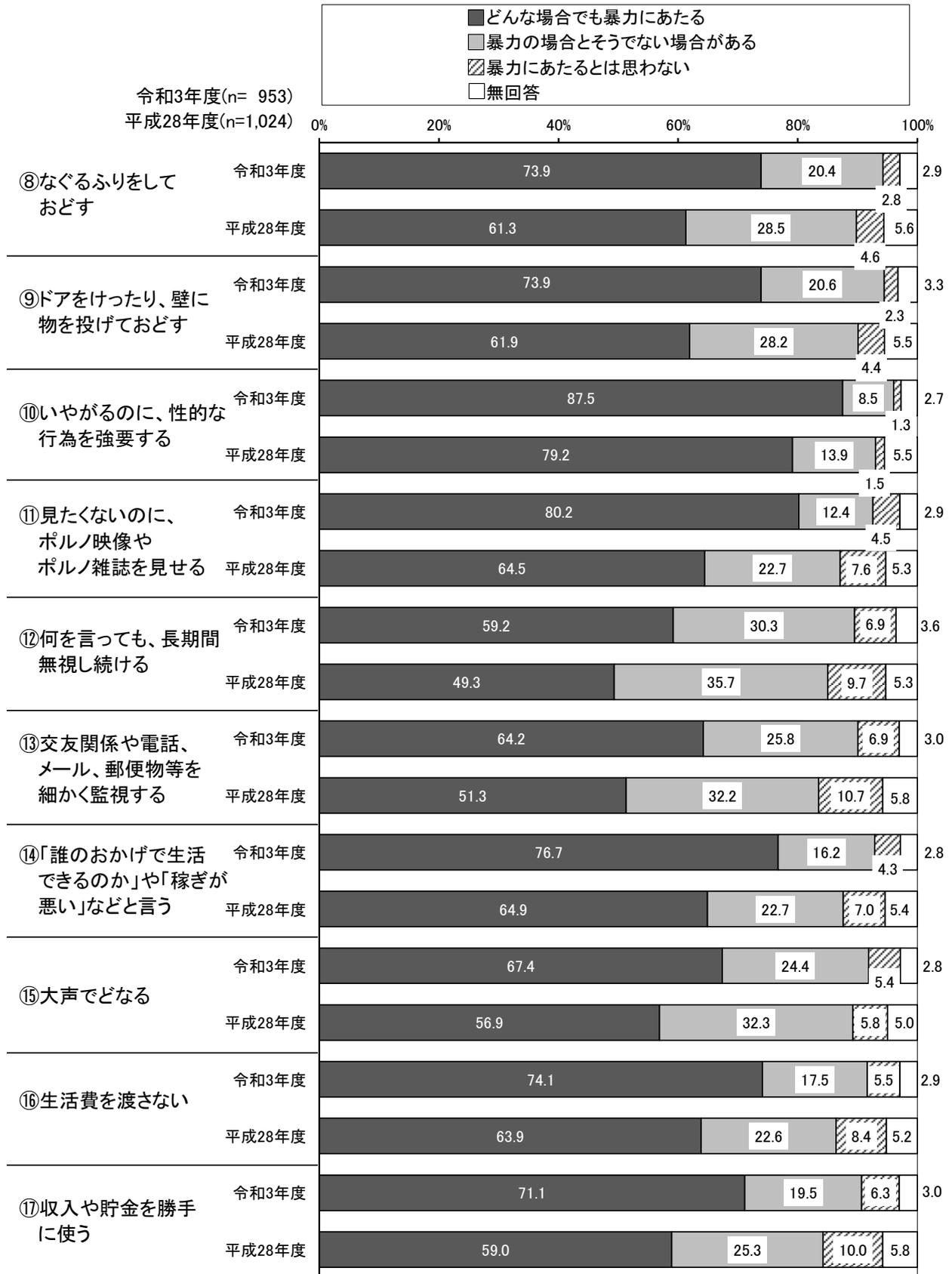


【経年比較】

前回調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、すべての項目で上昇しています。特に、「⑪見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せる」〔⑬交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視する〕〔⑧なぐるふりをしておどす〕〔⑰収入や貯金を勝手に使う〕〔⑭「誰のおかげで生活できるのか」や「稼ぎが悪い」などと言う〕〔⑮大声でどなる〕〔⑯生活費を渡さない〕では、今回調査が10ポイント以上高くなっています。

図 20-2 DVと認識される行為【経年比較】

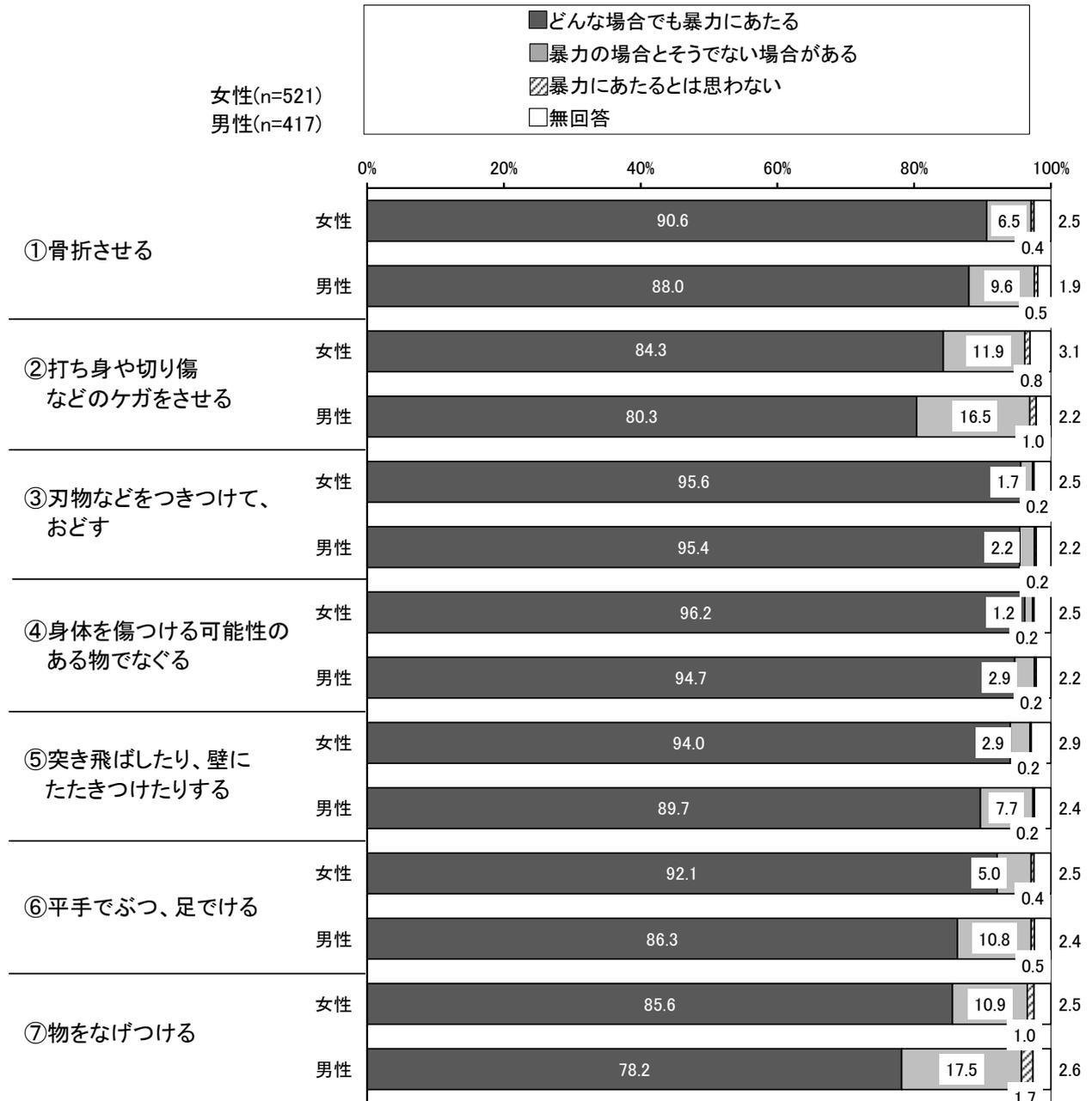


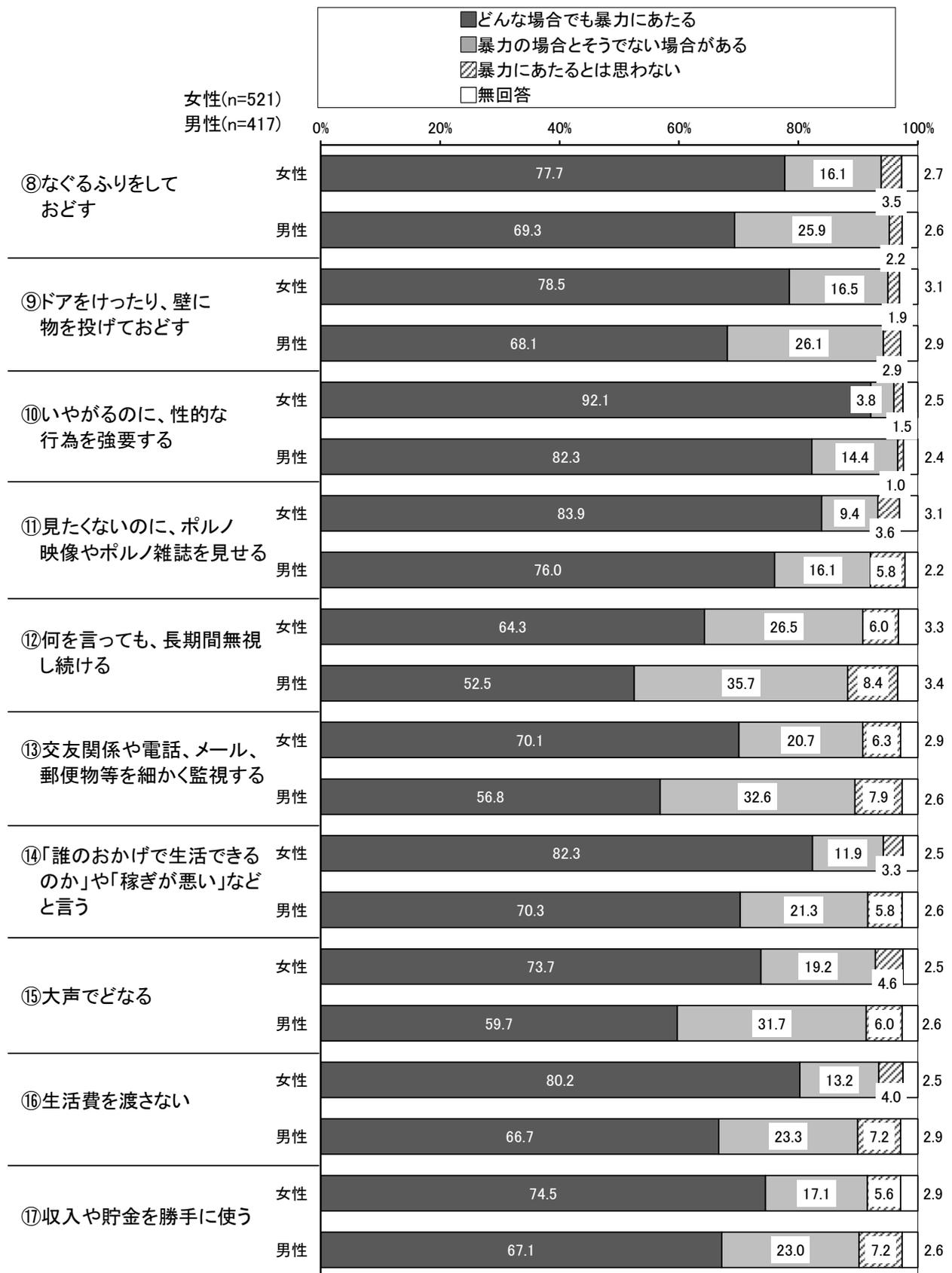


【性別】

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、特に、〔15大声でどなる〕〔16生活費を渡さない〕〔13交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視する〕〔14「誰のおかげで生活できるのか」や「稼ぎが悪い」などと言う〕〔12何を言っても、長期間無視し続ける〕〔9ドアをけったり、壁に物を投げておどす〕などの項目で、男性に比べ女性の割合が10ポイント以上高くなっています。

図 20-3 DVと認識される行為【性別】





(2) DVについての相談窓口の認知

問 21 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。(あてはまる番号1つに○)

DVについて相談できる窓口を知っているかについては、「知らない」の63.0%が「知っている」の33.7%を大きく上回ります。

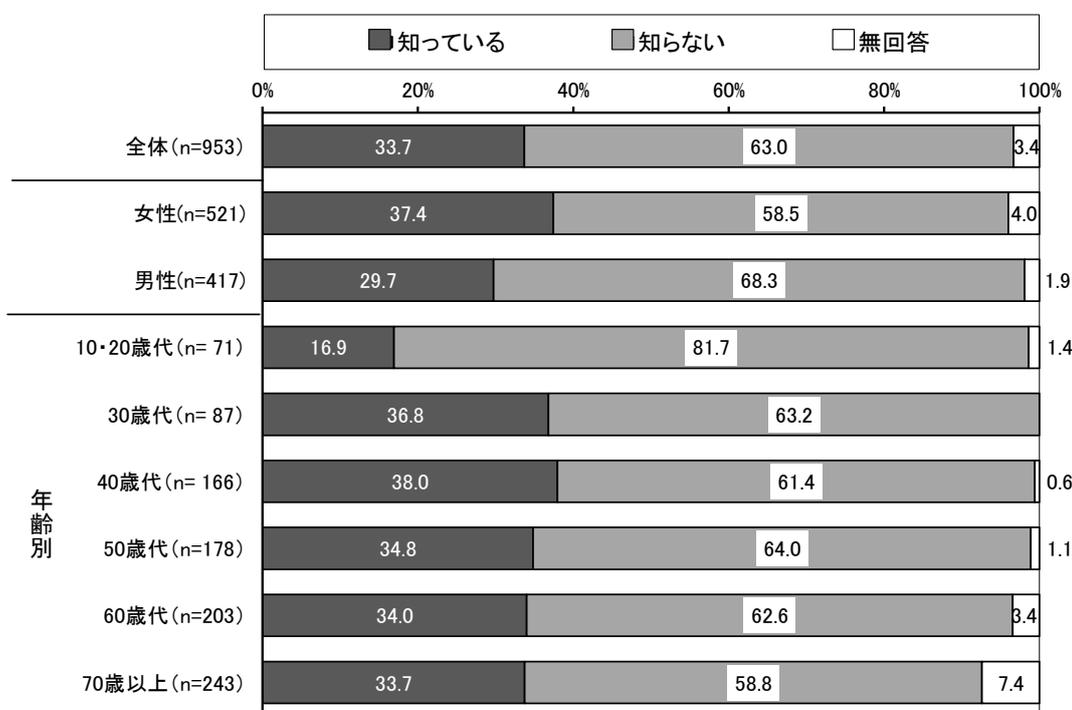
【性別】

性別で見ると、「知っている」は、女性が男性を上回ります(7.7ポイント差)。

【年齢別】

年齢別で見ると、「知っている」は、10・20歳代のみ16.9%と他の年代に比べて低くなっています。

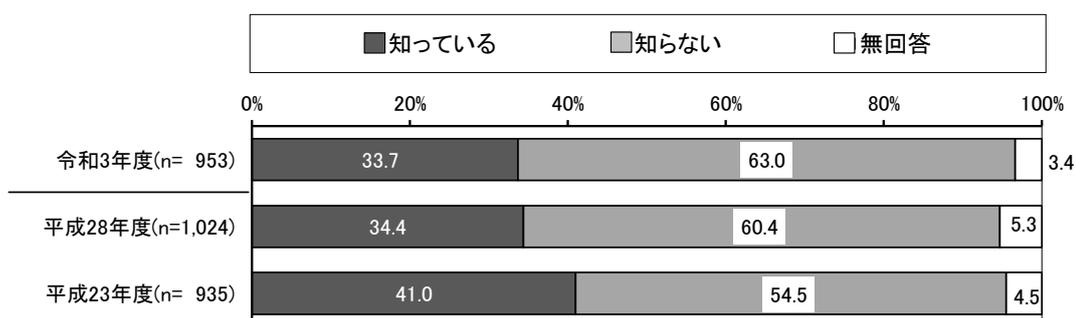
図 21-1 DVについての相談窓口の認知【全体・性別】



【経年比較】

経年で比較すると、「知っている」割合は徐々に低下し、平成23年度と比べ7.3ポイント減となっています。

図 21-2 DVについての相談窓口の認知【経年比較】



(3) DVを受けた経験

問 22 あなたはこれまでに、配偶者*や恋人など親密な関係にある、またはあった者から、①～④のような行為をされたことはありますか。また、経験がある方は、そうした行為を受けた時期についてもお答えください。(項目ごとに、あてはまる番号1つに○)
 ※ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦等、元配偶者(離別・死別した相手、事実婚を解消した相手)も含まれます。

DVと考えられる行為を受けた経験の有無について、全ての項目において「まったくない」は約6割～6割台となっているものの、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『経験あり』は、〔①身体的暴行〕と〔③心理的攻撃〕で約1割となっています。

また、DVと考えられる行為を受けた時期について、「この1年にあった」は〔③心理的攻撃〕が13.5%、〔④経済的圧迫〕が10.0%となっています。

図 22-1 DVを受けた経験の有無【全体】

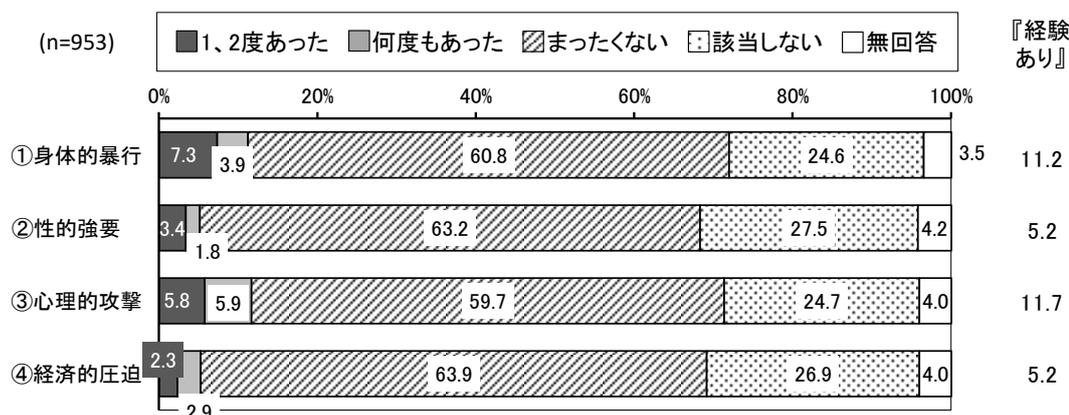
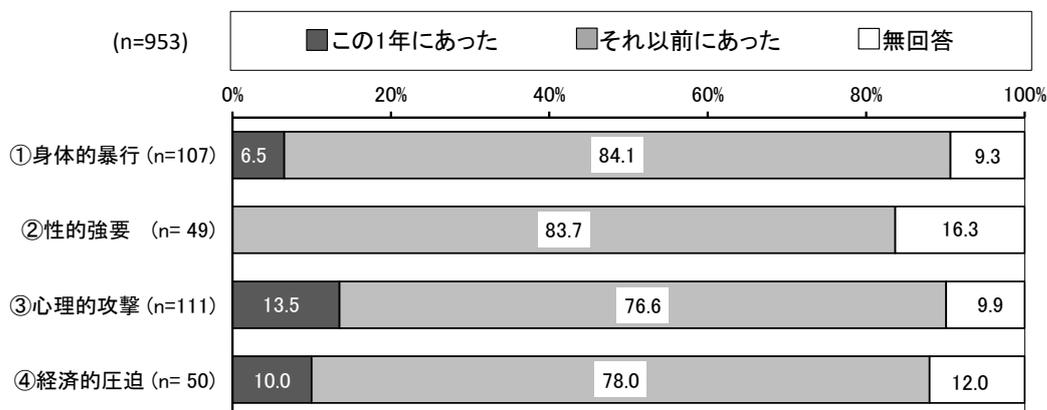


図 22-2 DVを受けた時期【全体】



【性別】

性別でみると、DVと考えられる行為を受けた経験について、『経験あり』はいずれの項目も女性が男性を上回り、〔③心理的攻撃〕の15.7%と〔①身体的暴行〕の13.8%で1割を超えています。

また、DVと考えられる行為を受けた時期について、「この1年にあった」は〔①身体的暴行〕では性別による差は見られませんが、〔③心理的攻撃〕では男性が女性を上回ります（13.3ポイント差）。

図 22-3 DVを受けた経験の有無【性別】

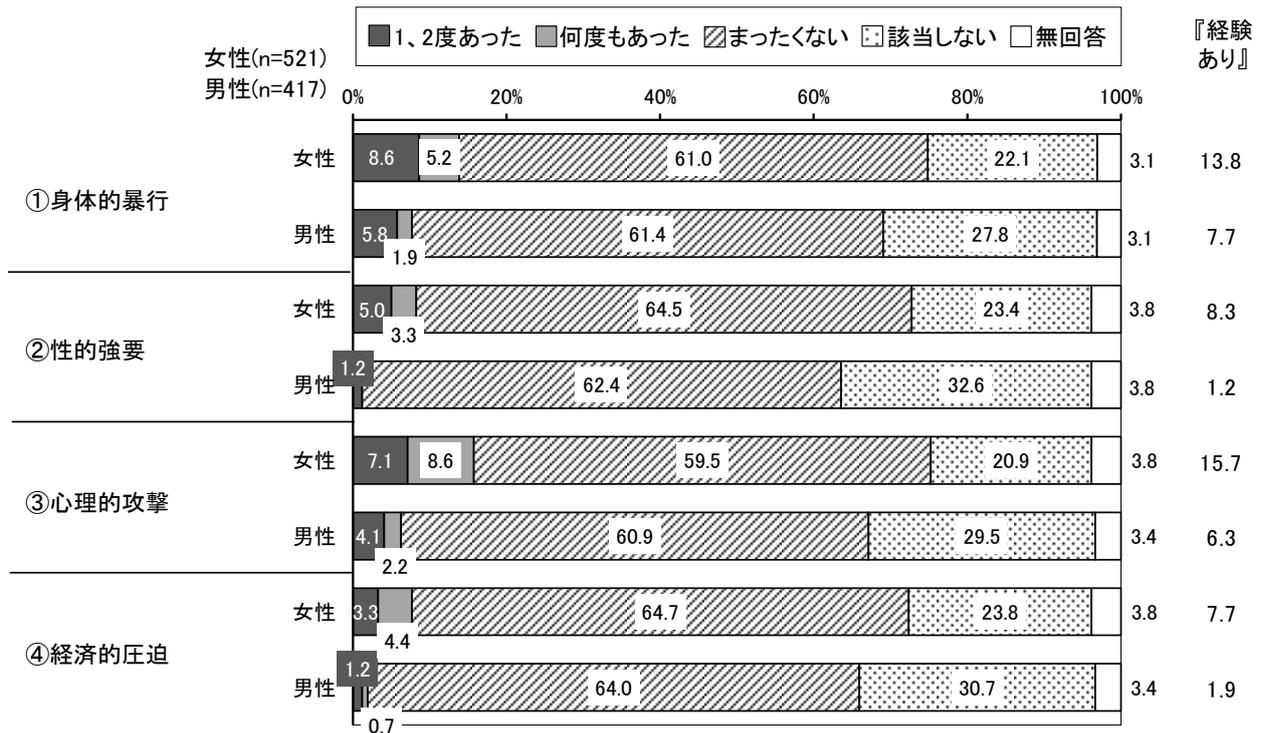
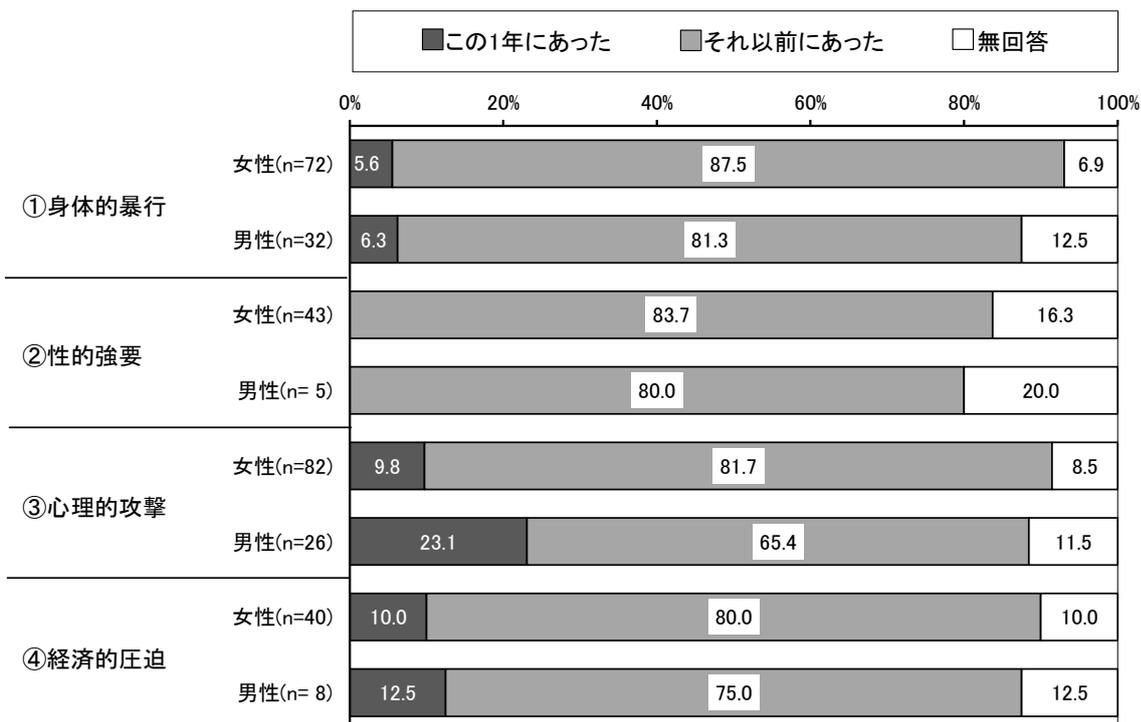


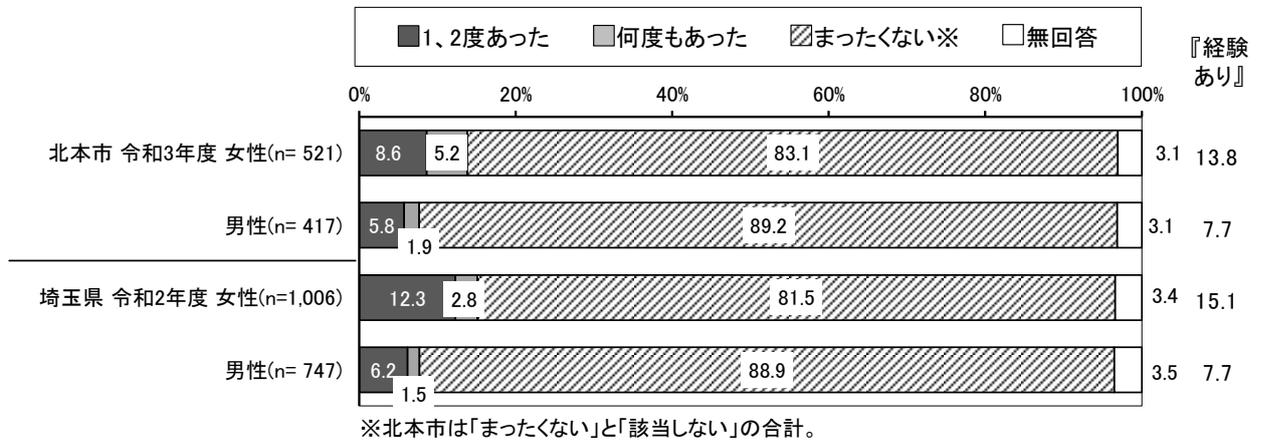
図 22-4 DVを受けた時期【性別】



【県調査との比較】

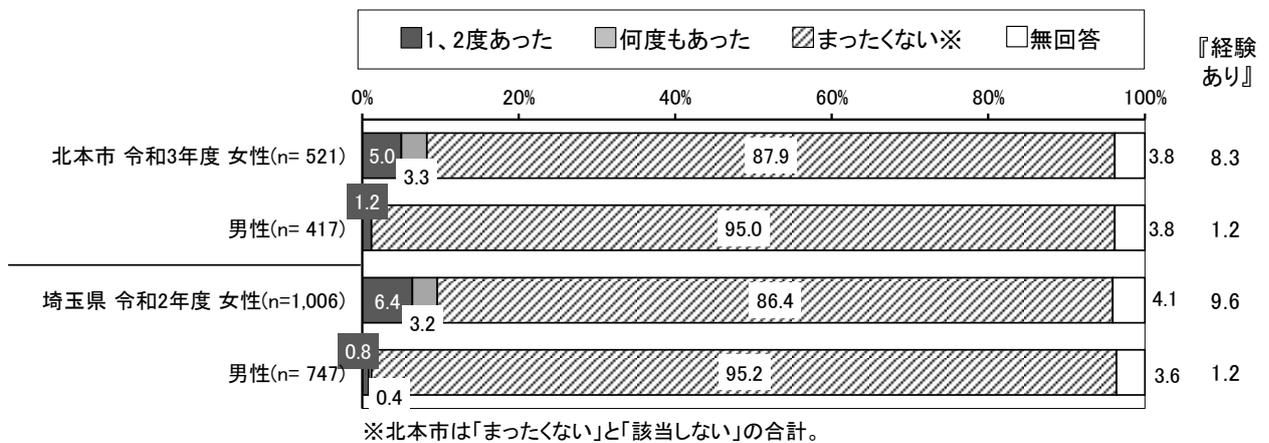
埼玉県調査と比較すると、《身体的暴行》の『経験あり』は女性で県調査をやや下回る（1.3ポイント差）ものの、女性の「何度もあった」は県を上回ります（2.4ポイント差）。

図 22-5 DVを受けた経験の有無《身体的暴行》【埼玉県調査との比較】



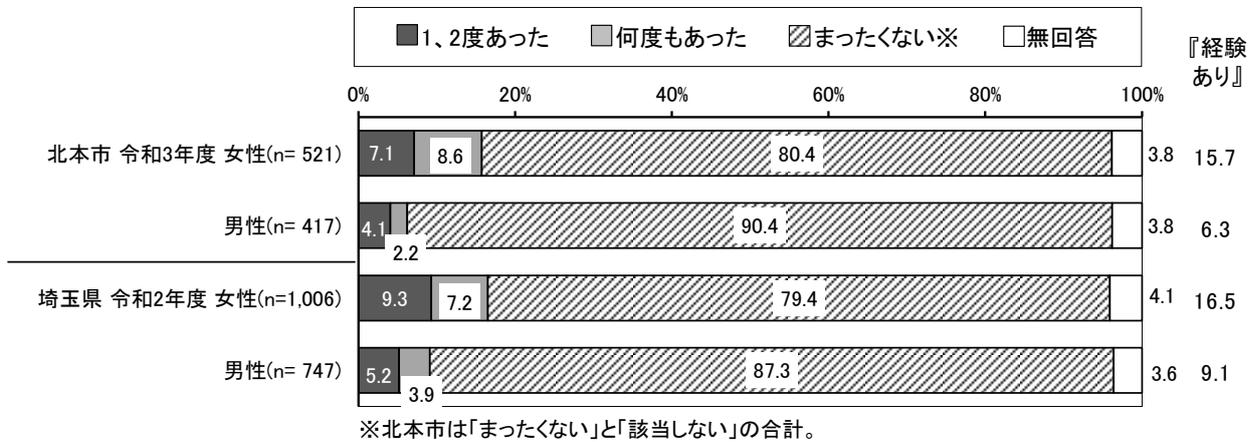
埼玉県調査と比較すると、《性的強要》の『経験あり』は女性で県調査をやや下回ります（1.3ポイント差）。

図 22-6 DVを受けた経験の有無《性的強要》【埼玉県調査との比較】



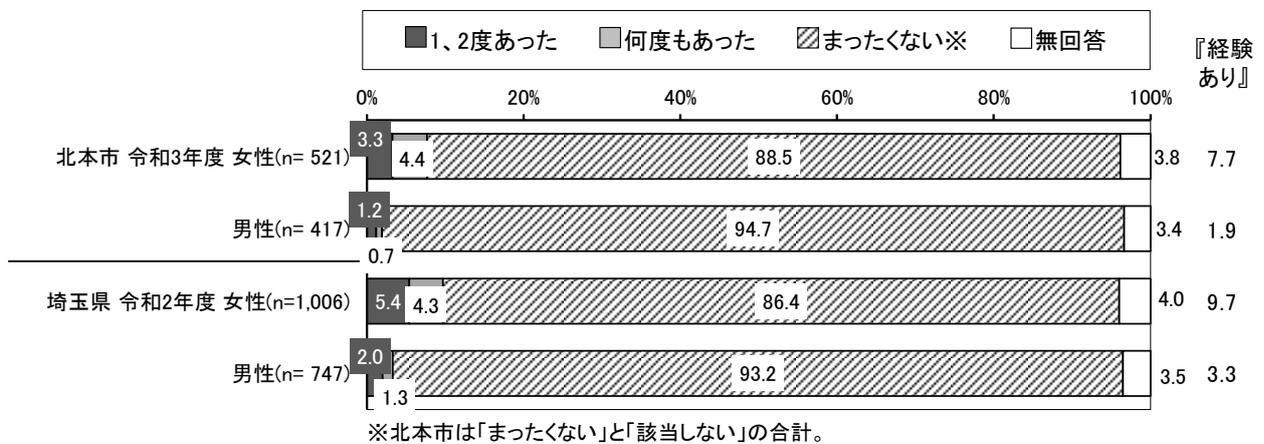
埼玉県調査と比較すると、《心理的攻撃》の『経験あり』は女性は県調査とほぼ同様の結果であり、男性は県調査をやや下回ります（2.8ポイント差）。

図 22-7 DVを受けた経験の有無《心理的攻撃》【埼玉県調査との比較】



埼玉県調査と比較すると、《経済的圧迫》の『経験あり』は男女ともに県調査をやや下回ります（各 2.0/1.4 ポイント差）。

図 22-8 DVを受けた経験の有無《経済的圧迫》【埼玉県調査との比較】



(4) DVにより命の危険を感じたことの有無

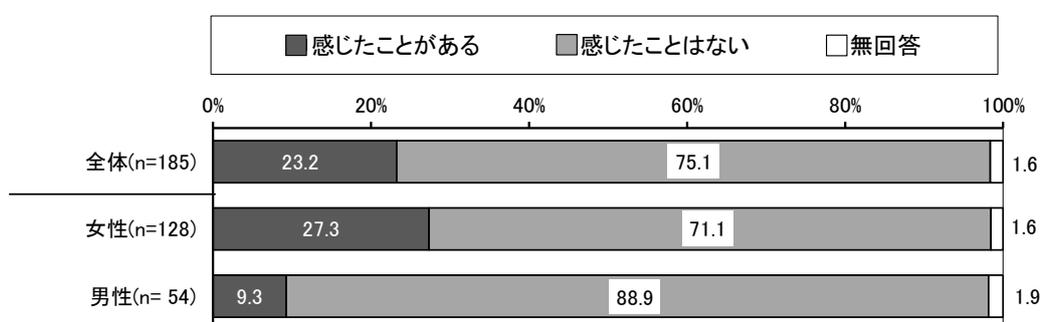
問 22-1 あなたは、これまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

DVと考えられる行為を受けた経験のある人に、相手の行為により命の危険を感じたことがあるかをたずねたところ、「感じたことがある」が23.2%、「感じたことはない」が75.1%となっています。

【性別】

性別でみると、「感じたことがある」は女性が27.3%に対し男性が9.3%と、女性が男性を大きく上回ります(18.0ポイント差)。

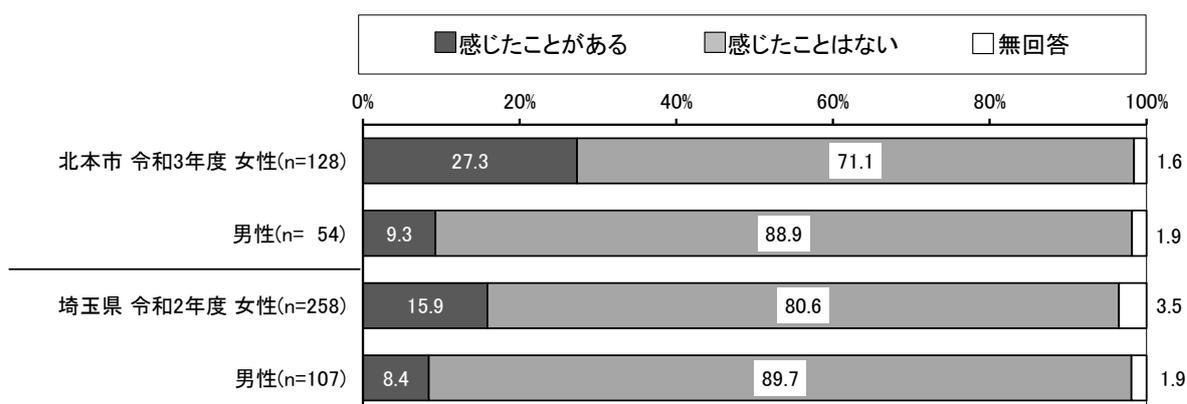
図 22-1-1 DVにより命の危険を感じたことの有無【全体・性別】



【県調査との比較】

埼玉県調査と比較すると、「感じたことがある」は、女性で県調査を上回ります(11.4ポイント差)。男性は県調査とほぼ同様の結果となっています。

図 22-1-2 DVにより命の危険を感じたことの有無【埼玉県調査との比較・性別】



(5) DVを受けた際の対処

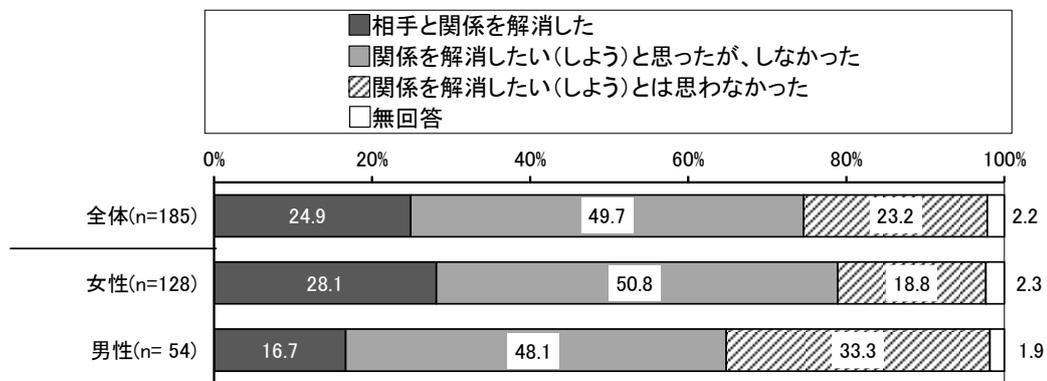
問 22-2 あなたは、その相手の行為を受けたとき、どうしましたか。(あてはまる番号1つに○)

DVと考えられる行為を受けた際の対処については、「関係を解消したい(しよう)と思ったが、しなかった」が49.7%、「相手と関係を解消した」が24.9%、「関係を解消したい(しよう)とは思わなかった」が23.2%となっています。

【性別】

性別でみると、「相手と関係を解消した」は女性が男性を上回り(11.4ポイント差)、「関係を解消したい(しよう)とは思わなかった」は男性が女性を上回っています(14.5ポイント差)。

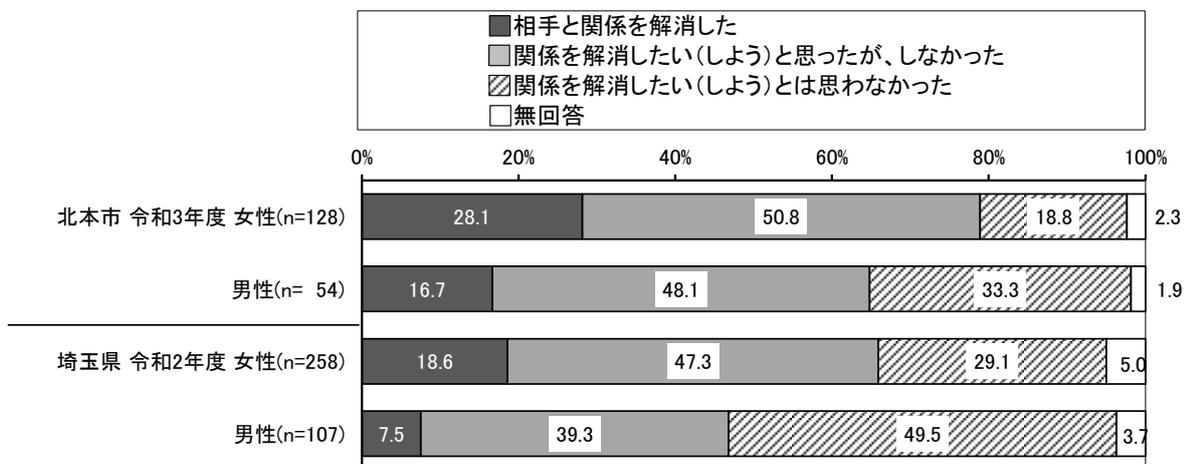
図 22-2-1 DVを受けた際の対処【全体・性別】



【県調査との比較】

埼玉県調査と比較すると、「相手と関係を解消した」は、女性・男性いずれも県調査を上回ります(各9.5/9.2ポイント差)。

図 22-1-2 DVを受けた際の対処【埼玉県調査との比較・性別】



※県調査の選択肢は、「相手と別れた」「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」「別れたい(別れよう)とは思わなかった」であり、表現が異なる。

(6) DVの相談状況

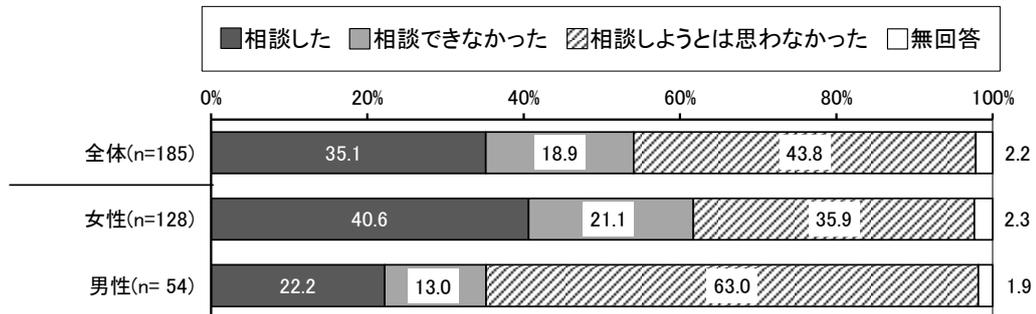
問 22-3 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(あてはまる番号1つに○)

DVと考えられる行為についての相談状況については、「相談しようとは思わなかった」が43.8%、「相談した」35.1%、「相談できなかった」が18.9%となっています。

【性別】

性別で見ると、女性は「相談した」が40.6%で最も高く、男性は「相談しようとは思わなかった」が63.0%と最も高くなっています。

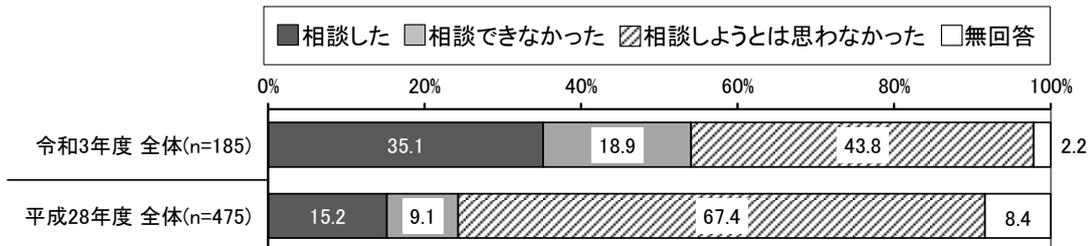
図 22-3-1 DVの相談状況【全体・性別】



【経年比較】

前回調査と比較すると、「相談した」は上昇していますが(19.9ポイント差)、「相談できなかった」についても上昇しています(9.8ポイント差)。

図 22-3-2 DVの相談状況【経年比較】

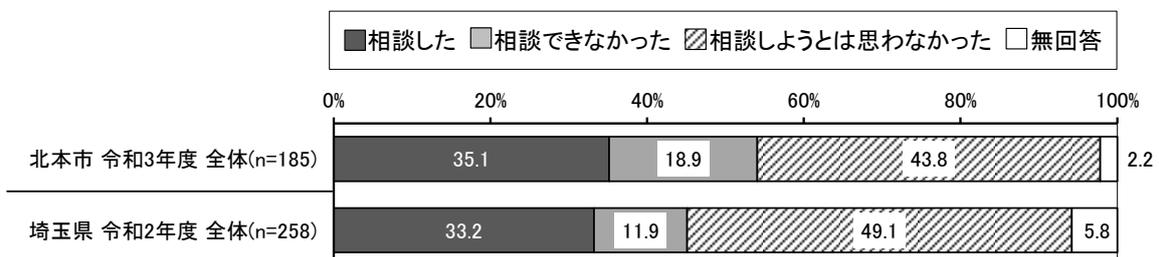


※前回調査は、「骨折させる」から「収入や貯金を勝手に使う」までの17項目のうち1つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した人に対し相談状況をたずねたもの。

【県調査との比較】

埼玉県調査と比較すると、「相談した」は県調査をやや上回る(1.9ポイント差)ものの、「相談できなかった」についても、北本市が県を上回ります(7.0ポイント差)。

図 22-3-3 DVの相談状況【埼玉県調査との比較】



(7) DVの相談ができなかった理由

【問 22-3 で「2」「3」とお答えの方にはうかがいます。】

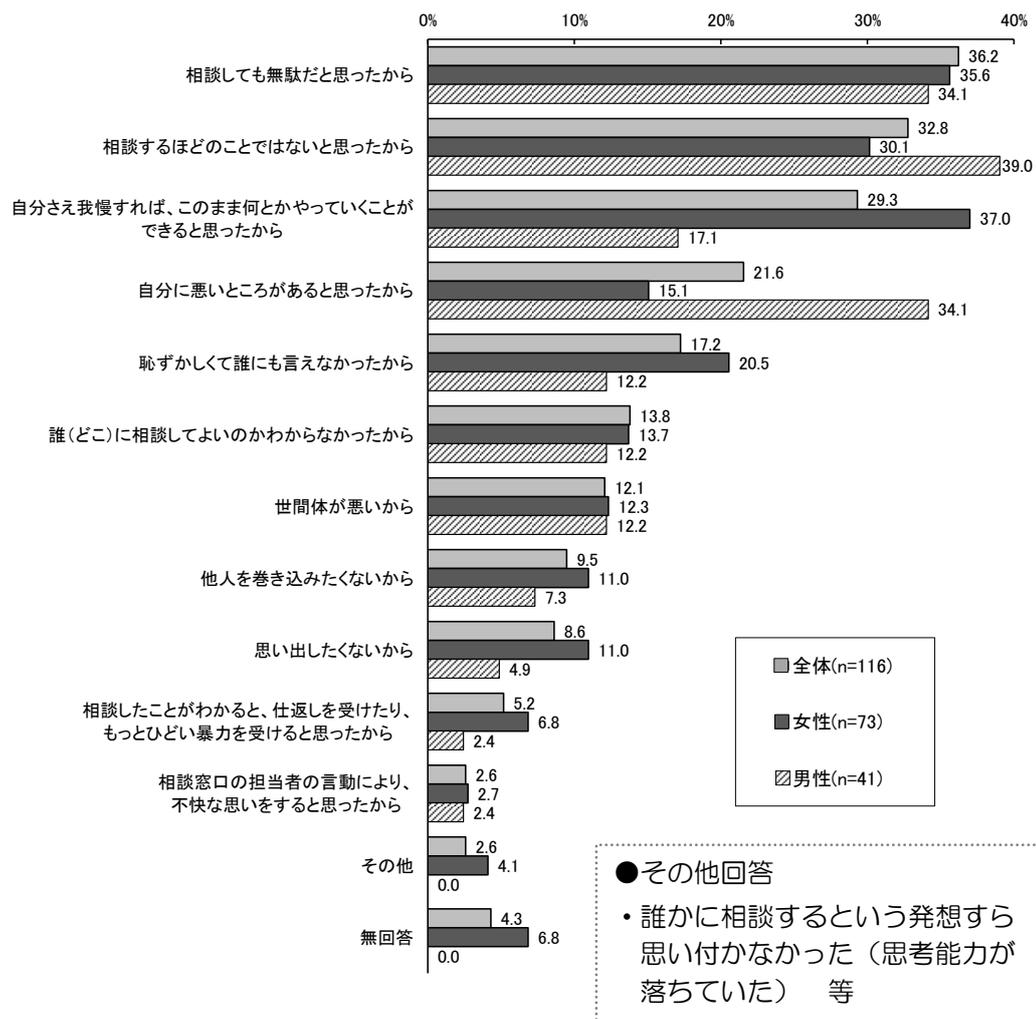
問 22-4 あなたが、誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

DVの相談ができなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」が36.2%、「相談するほどのことではないと思ったから」が32.8%、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が29.3%、「自分に悪いところがあると思ったから」が21.6%となっています。

【性別】

性別でみると、特に、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」では、女性が男性を上回り(19.9ポイント差)、「自分に悪いところがあると思ったから」や「相談するほどのことではないと思ったから」では、男性が女性を上回る(各19.0/8.9ポイント差)など、大きな差が見られます。

図 22-4-1 DVの相談ができなかった・相談しようとは思わなかった理由【全体・性別】



(8) DVの相談先

【問 22-3で「1. 相談した」とお答えの方にかがいます。】

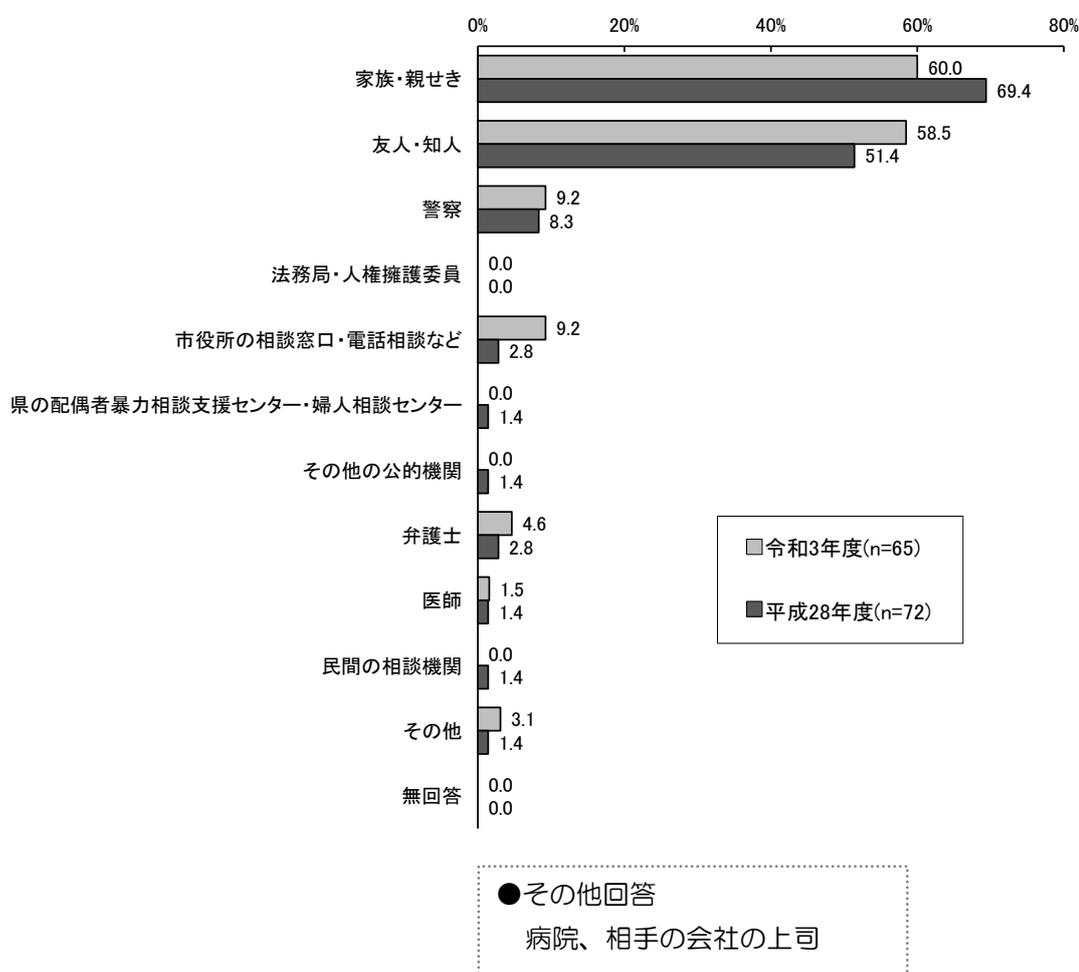
問 22-5 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

DVの相談先については、「家族・親せき」が60.0%と最も高く、次いで「友人・知人」が58.5%となっており、その他の相談先はいずれも1割未満となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「家族・親せき」の割合が低下し（9.4ポイント差）、「友人・知人」が上昇しています（7.1ポイント差）。

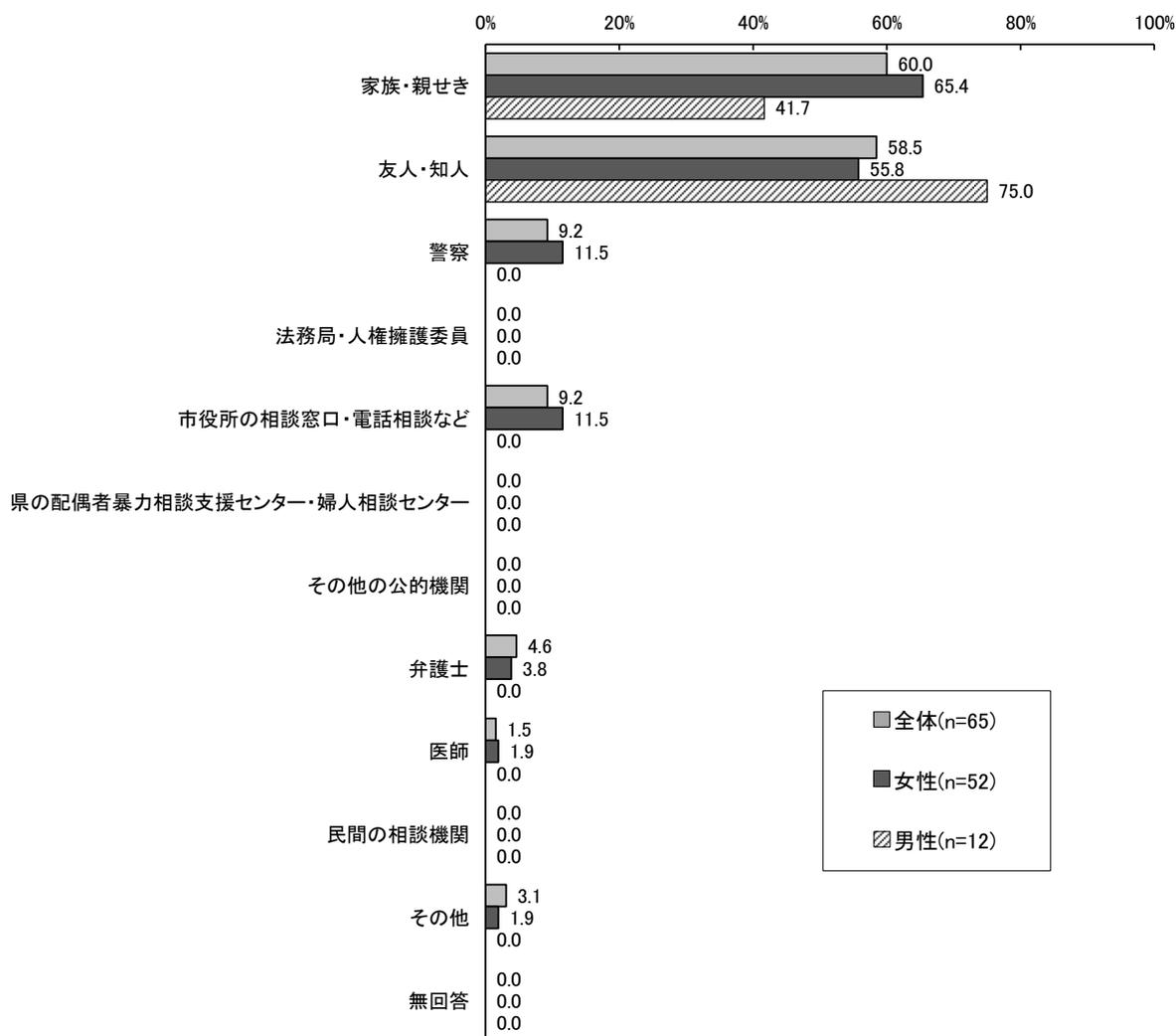
図 22-5-1 DVの相談先【経年比較】



【性別】

性別でみると、「家族・親せき」は女性が男性を上回り（23.7ポイント差）、「友人・知人」は男性が女性を上回っています（19.2ポイント差）。また、その他の相談先については男性の回答は見られません。

図 22-5-2 DVの相談先【経年比較】



(9) 女性の性と生殖に関する健康の保障について

問 23 女性の性と生殖に関して、妊娠・出産・中絶・更年期など生涯を通じた健康が保障されていると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

女性の性と生殖に関する生涯の健康の保障については、「わからない」が29.6%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」と「どちらかといえばそう思わない」がいずれも18.4%となっています。

また、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は24.0%で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』の34.5%を下回ります(10.5ポイント差)。

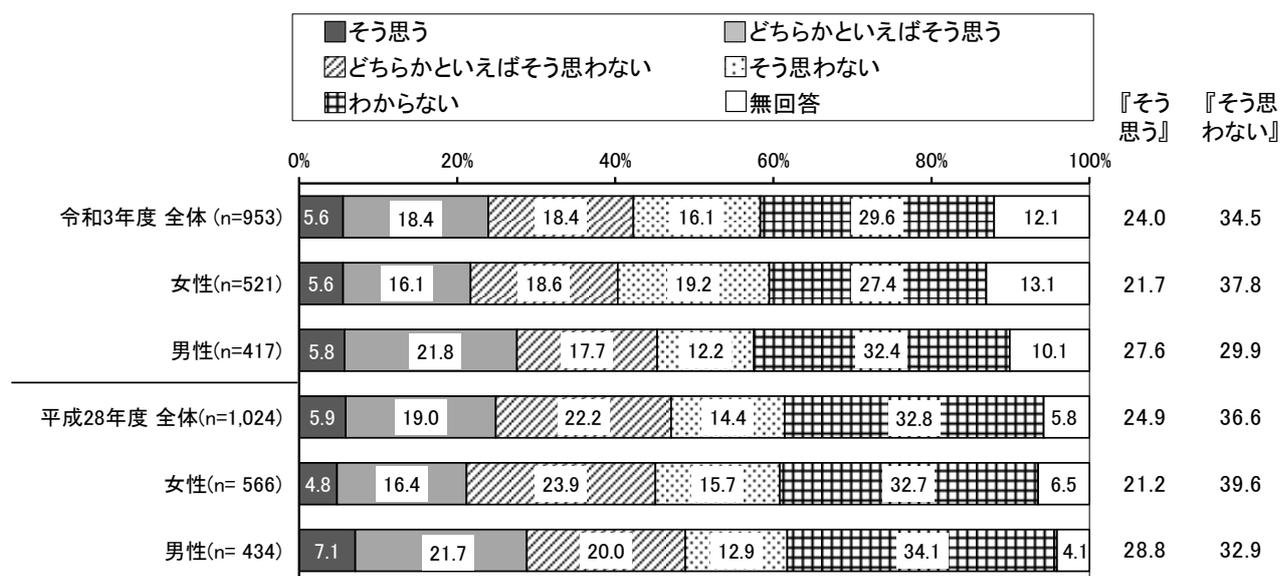
【性別】

性別にみると、『そう思う』は、男性が女性を上回ります(5.9ポイント差)。

【経年比較】

経年で比較すると、全体では『そう思わない』については、大きな変化はありません。性別にみても、『そう思う』は、女性・男性いずれも大きな変化は見られません。

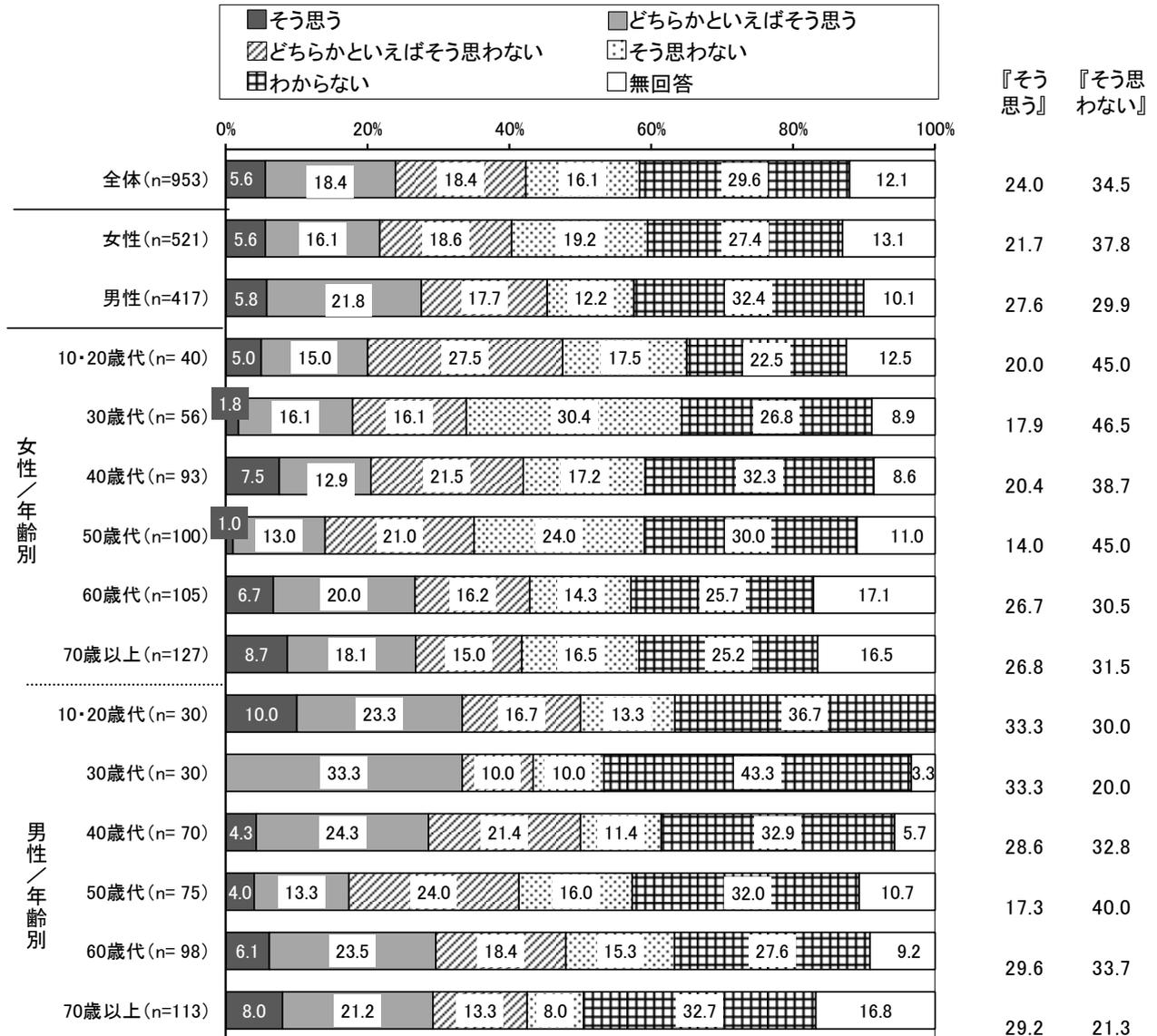
図 23-1 女性の性と生殖に関する健康の保障について【経年比較】



【性／年齢別】

性／年齢別にみると、『そう思わない』は女性の10・20歳代と30歳代、50歳代で4割台半ばと、特に高くなっています。

図 23-2 女性の性と生殖に関する健康の保障について【全体・性別・性／年齢別】



7. 防災・災害対応における男女共同参画について

(1) 防災・災害対応における女性の意見の反映

問 24 災害が発生した場合の対応には、自主防災会^{*}や自治会による協力が不可欠です。あなたのお住まいの地区の自主防災会等についておうかがいします。^{*}自主防災会とは、自分たちの地域で自分たちでできる防災活動を行うために、各自治会で結成される組織です。

(1) あなたのお住まいの地区の自主防災会または自治会には、女性の役員がいますか。(あてはまる番号1つに○)

① 居住地区の女性役員の有無

居住地区の女性役員の有無については、「わからない」が6割以上を占めており、「いる」が28.4%、「いない」が6.6%となっています。

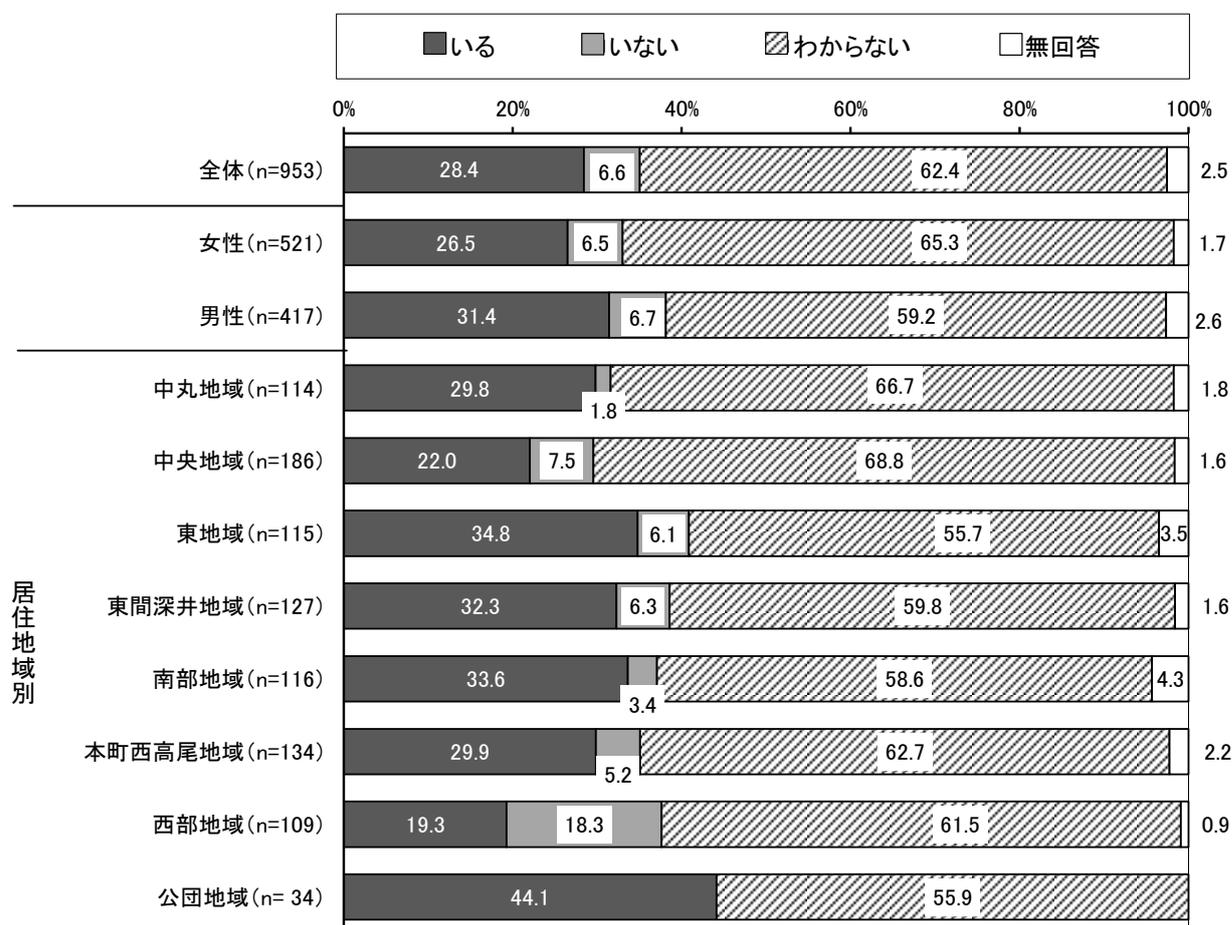
【性別】

性別にみると、「いる」は男性が女性を上回ります(4.9ポイント差)。

【居住地域別】

居住地域別にみると、いずれの地域も「わからない」が最も高くなっています。また、「いる」は公団地域の44.1%が最も高く、「いない」は西部地域の19.3%が最も高くなっています。

図 24-1-1 自主防災会等の女性役員の有無【全体・性別・居住地域別】



② 女性の意見の反映

(2) あなたのお住まいの地区の自主防災会または自治会では、女性の意見が反映されていると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

女性の意見が反映されているかについては、「わからない」が71.1%と7割近くを占めており、「思う」が20.6%、「思わない」が5.7%となっています。

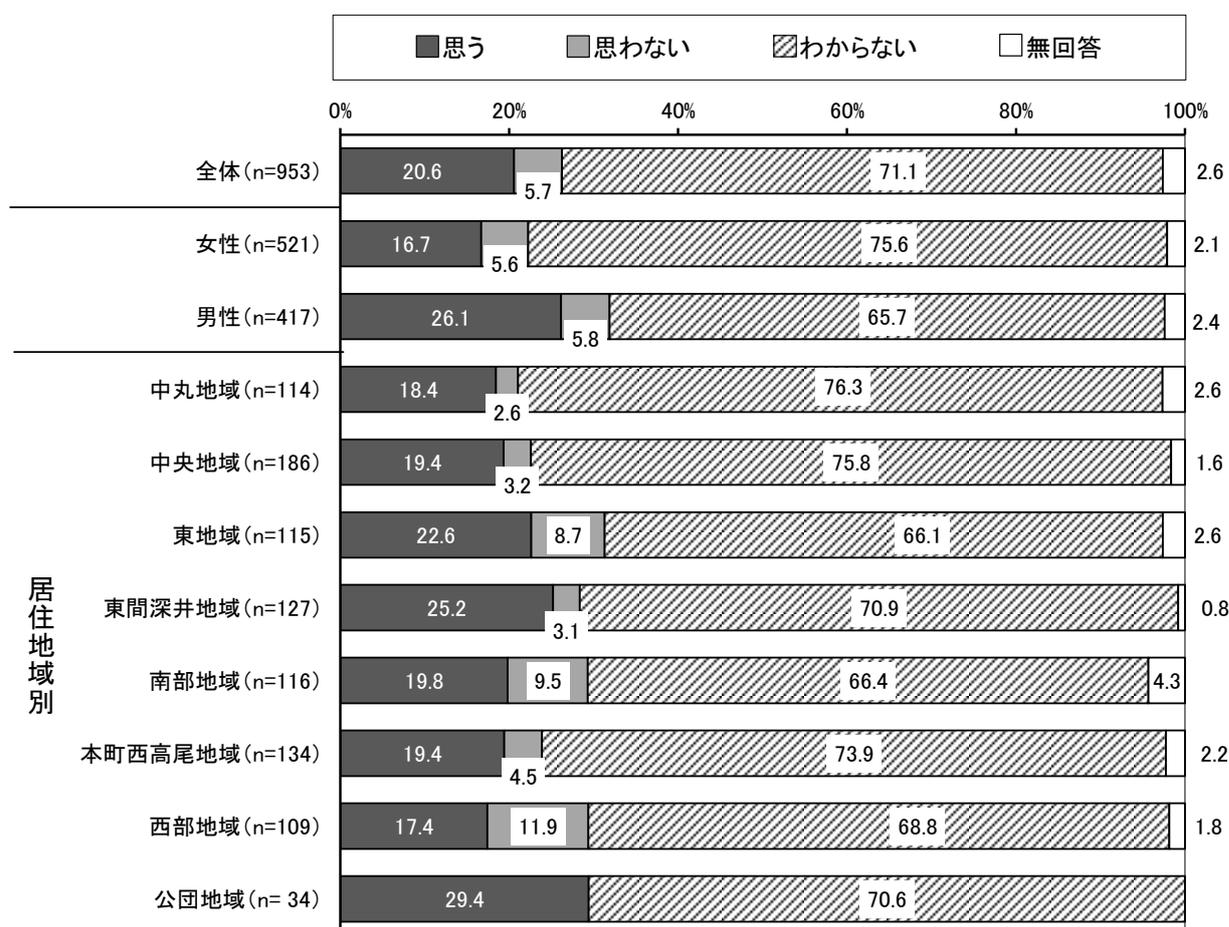
【性別】

性別にみると、「思う」は男性が女性を上回ります（9.4ポイント差）。

【居住地域別】

居住地域別にみると、「思う」は公団地域の29.4%が最も高く、「思わない」は西部地域の11.9%が最も高くなっています。

図 24-2-1 自主防災会等の女性役員の有無【全体・性別・居住地域別】



8. 性の多様性について

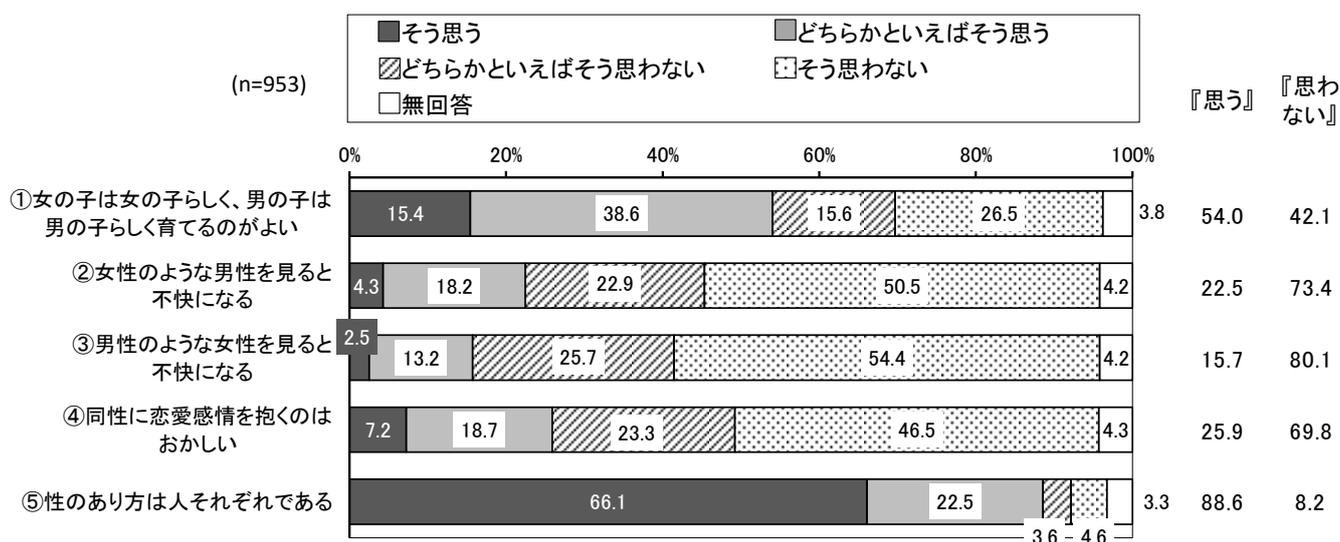
(1) 性のあり方について

問 25 性のあり方などについて、あなたの考えにもっとも近いものはどれですか。(項目ごとに、あてはまる番号1つに○)

〔⑤性のあり方は人それぞれである〕については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』は9割近くに達しています。また、〔②女性のような男性を見ると不快になる〕や〔③男性のような女性を見ると不快になる〕〔④同性に恋愛感情を抱くのはおかしい〕などの考え方については、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『思わない』が約7割～8割となっています。

〔①女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい〕では、『思う』が54.0%であり、『思わない』の42.1%を11.9ポイント上回ります。

図 25-1 性のあり方に関する考えについて【全体】

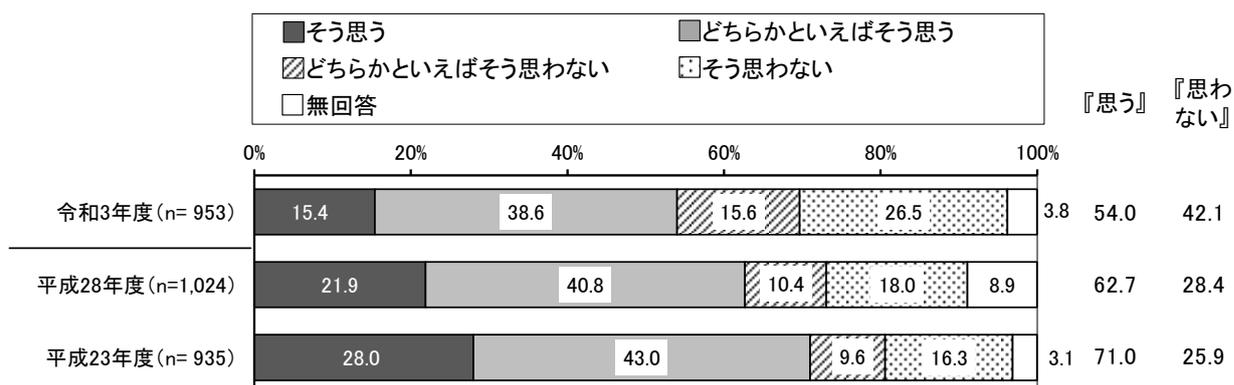


【経年比較】

《女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい》について、経年で比較すると、『思う』は年々低下しており、『思わない』が大きく上昇しています。

図 25-2 性のあり方に関する考えについて

《女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい》【経年比較】



【性別】

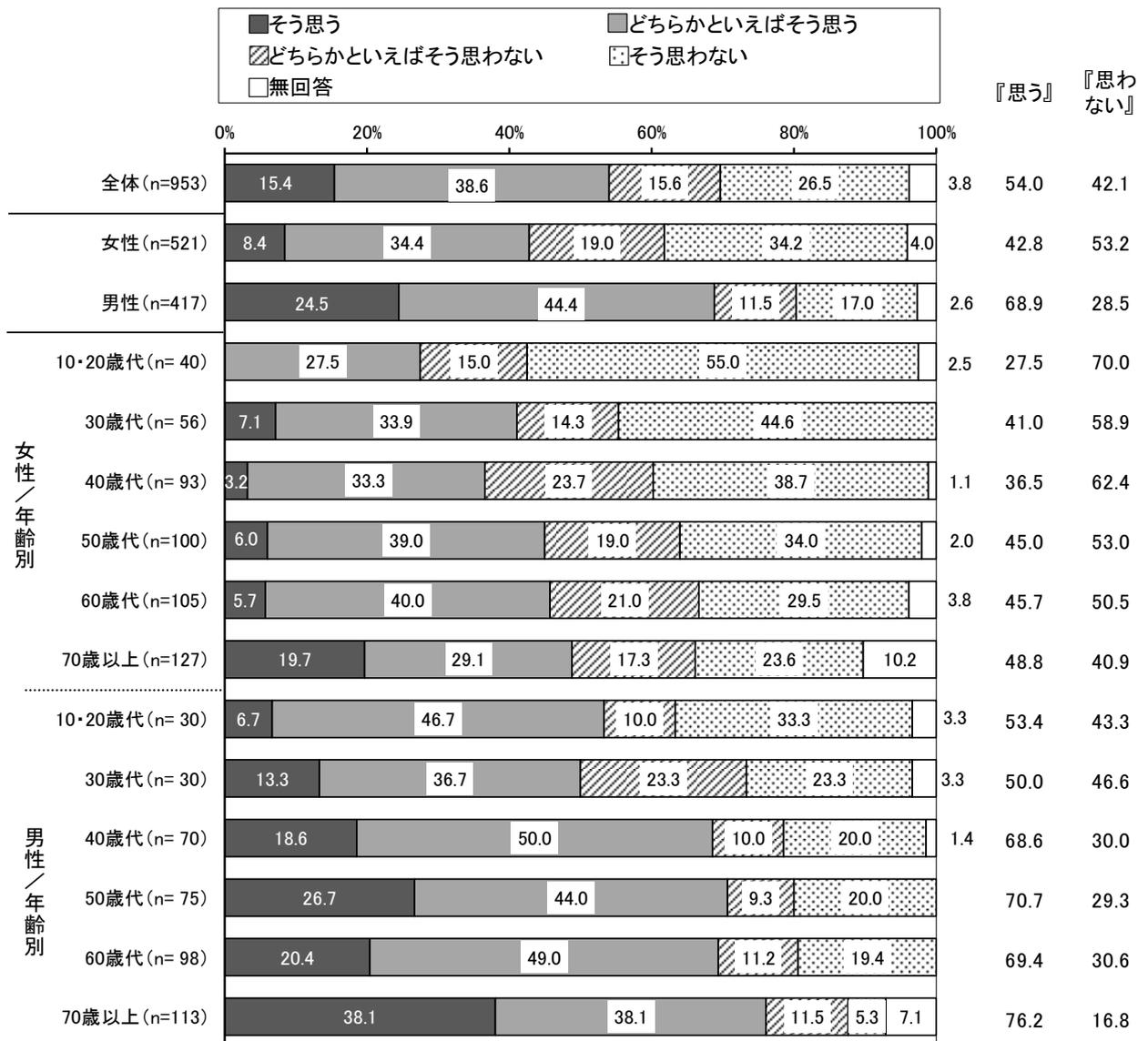
《女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい》について性別で見ると、『思う』は男性が女性を大きく上回ります（26.1ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別で見ると、女性では70歳以上を除き『思わない』が『思う』を上回ります。男性はすべての年代で『思う』が『思わない』を上回り、『思う』割合は40歳以上で6割を超え高くなっています。

図 25-3 性のあり方に関する考えについて

《女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい》【全体・性別・性／年齢別】



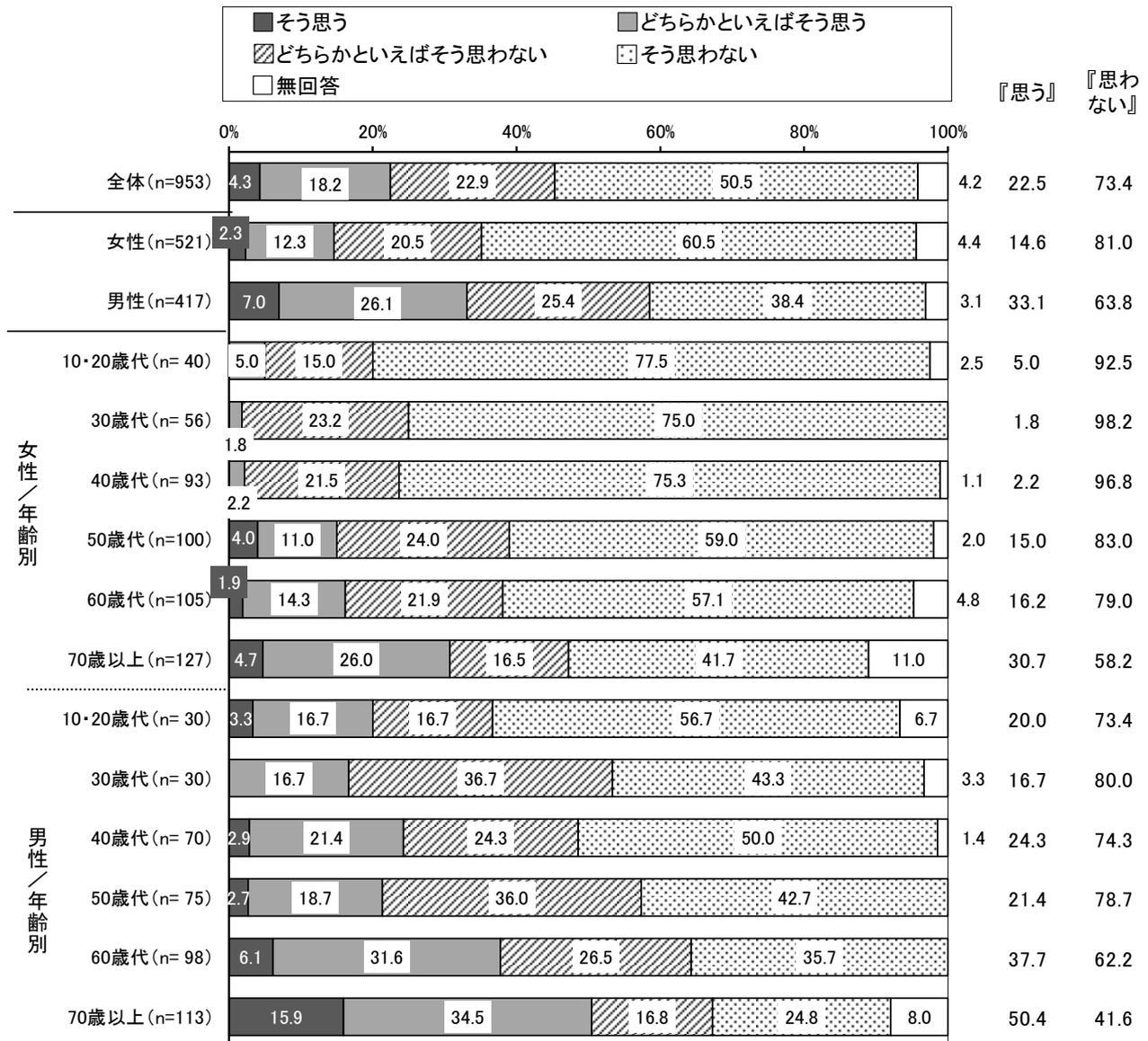
【性別】

《女性のような男性を見ると不快になる》について性別でみると、『思わない』は女性が男性を上回ります（17.2ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別でみると、男性の70歳以上を除き、いずれの年代も『思わない』が『思う』を上回っています。女性の10・20歳代から40歳代で『思わない』が9割台と特に高くなっています。

図 25-4 性のあり方に関する考えについて
《女性のような男性を見ると不快になる》【全体・性別・性／年齢別】



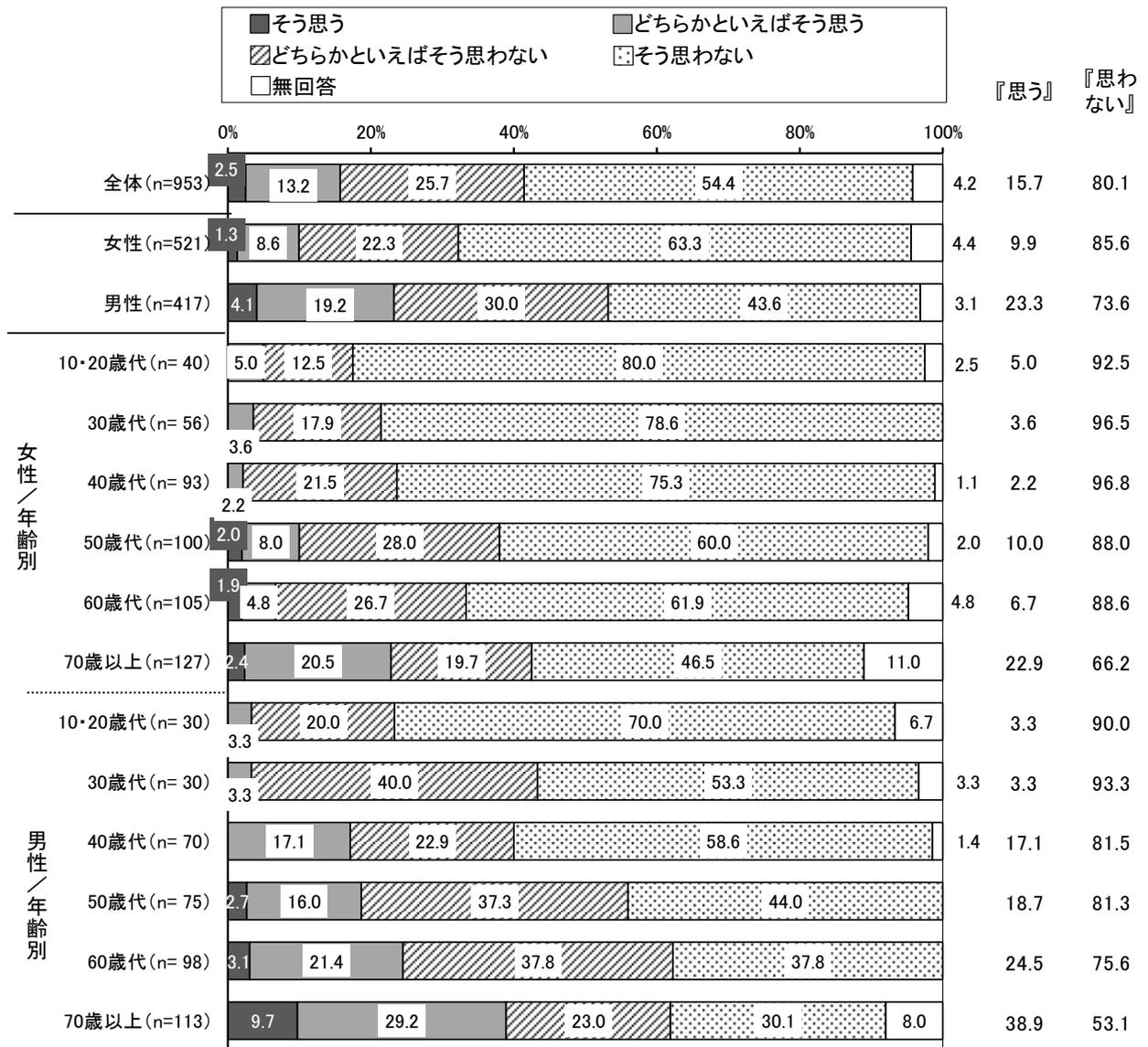
【性別】

《男性のような女性を見ると不快になる》について性別で見ると、『思わない』は女性が男性を上回ります（12.0ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別で見ると、いずれの年代も『思わない』が『思う』を上回っています。男女ともに10・20歳代から30歳代、女性の40歳代で『思わない』が9割台と特に高くなっています。

図 25-5 性のあり方に関する考えについて
《男性のような女性を見ると不快になる》【全体・性別・性／年齢別】



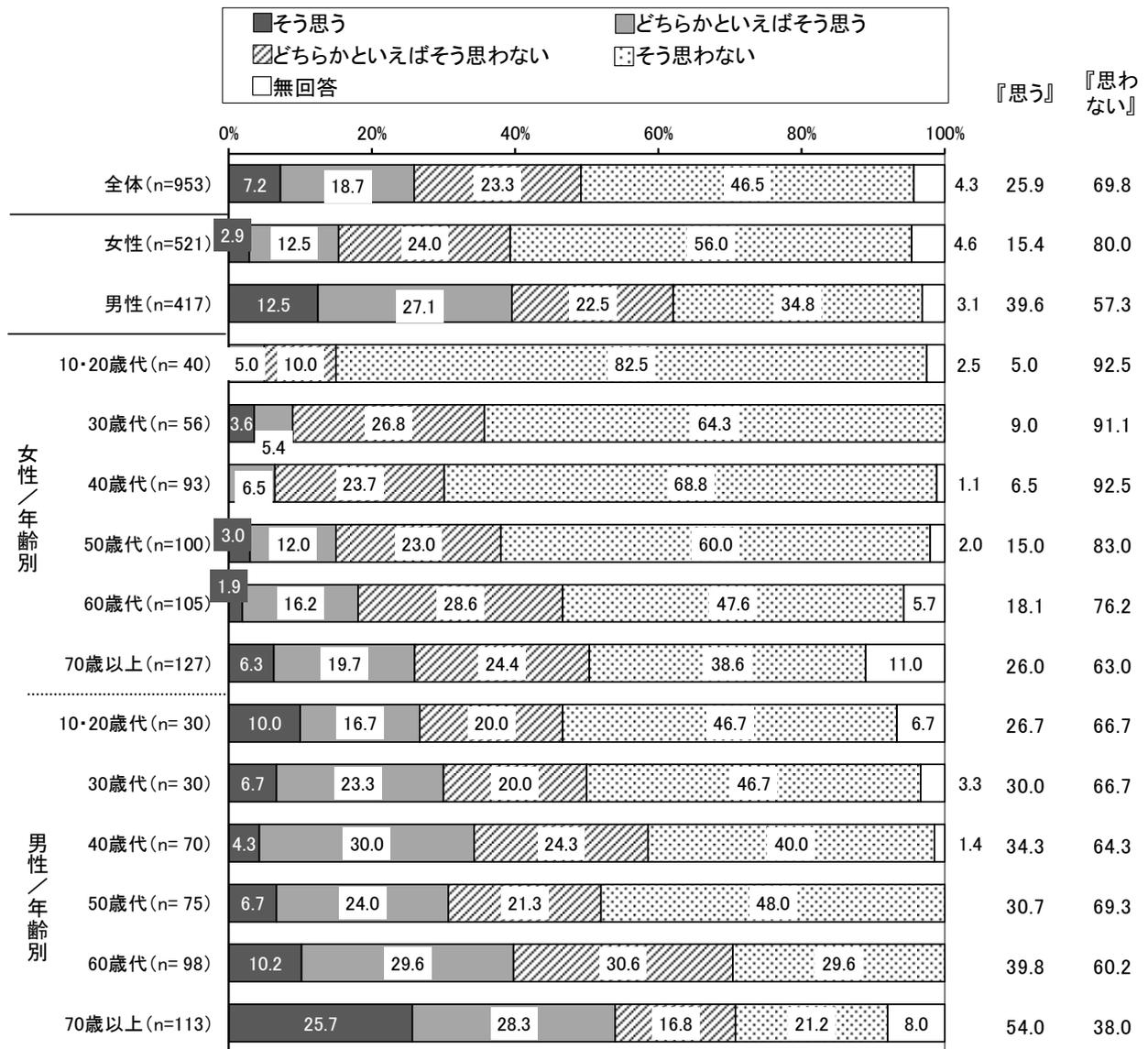
【性別】

《同性に恋愛感情を抱くのはおかしい》について性別で見ると、『思わない』は女性が男性を大きく上回ります（22.7ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別で見ると、男性の70歳以上を除き、いずれの年代も『思わない』が『思う』を上回っています。女性の10・20歳代から40歳代で『思わない』が9割台と特に高くなっています。

図 25-6 性のあり方に関する考えについて
《同性に恋愛感情を抱くのはおかしい》【全体・性別・性／年齢別】



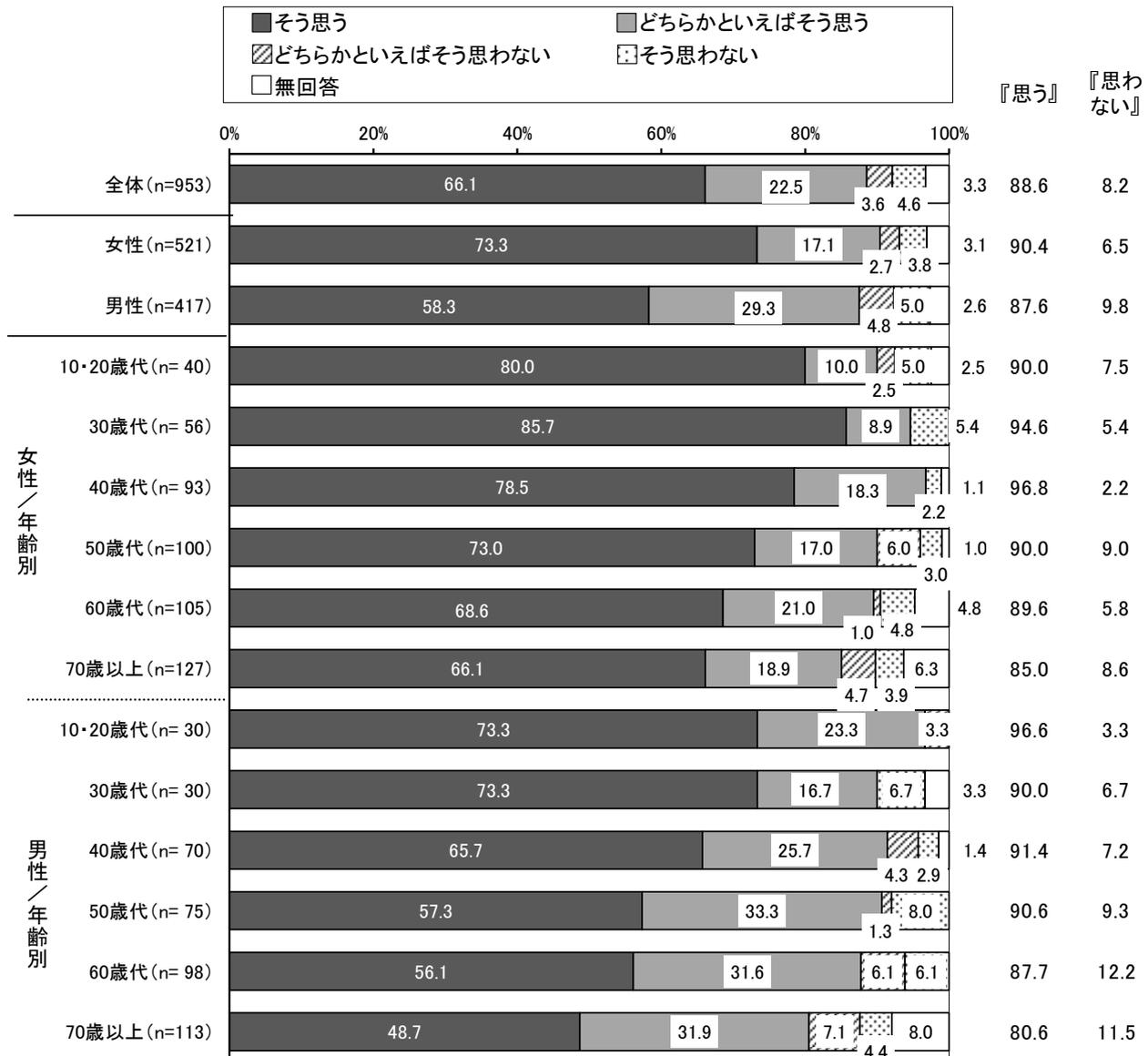
【性別】

《性のあり方は人それぞれである》について性別でみると、『思う』は男女ともに9割前後と大きな差は見られませんが、「そう思う」は女性が男性を大きく上回ります（15.0ポイント差）。

【性／年齢別】

性／年齢別でみると、いずれの年代も『思う』が『思わない』を上回っています。男女ともに10・20歳代から50歳代で『思う』が9割台と特に高くなっています。

図 25-7 性のあり方に関する考えについて
《性のあり方は人それぞれである》【全体・性別・性／年齢別】

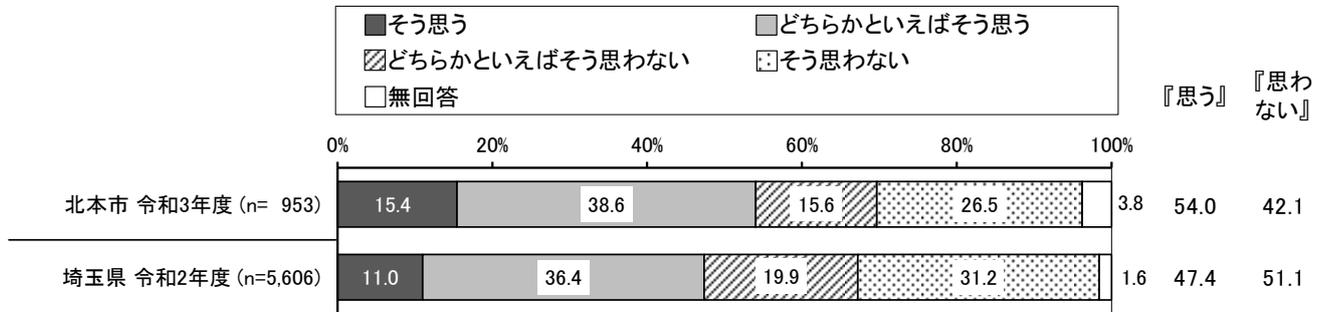


【県調査との比較】

《女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい》について埼玉県調査と比較すると、『思わない』は北本市が県を下回ります（9.0ポイント差）。

図 25-8 性のあり方に関する考えについて

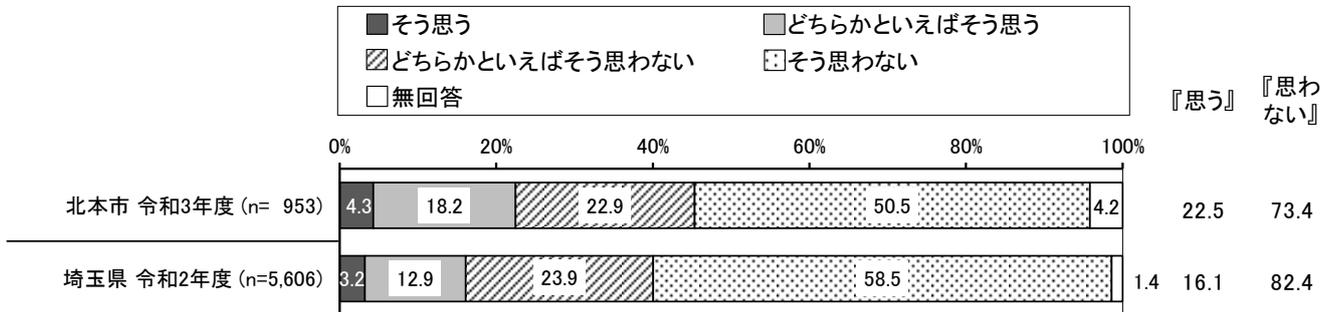
《女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい》【埼玉県調査との比較】



《女性のような男性を見ると不快になる》について埼玉県調査と比較すると、『思わない』は北本市が県を下回ります（9.0ポイント差）。

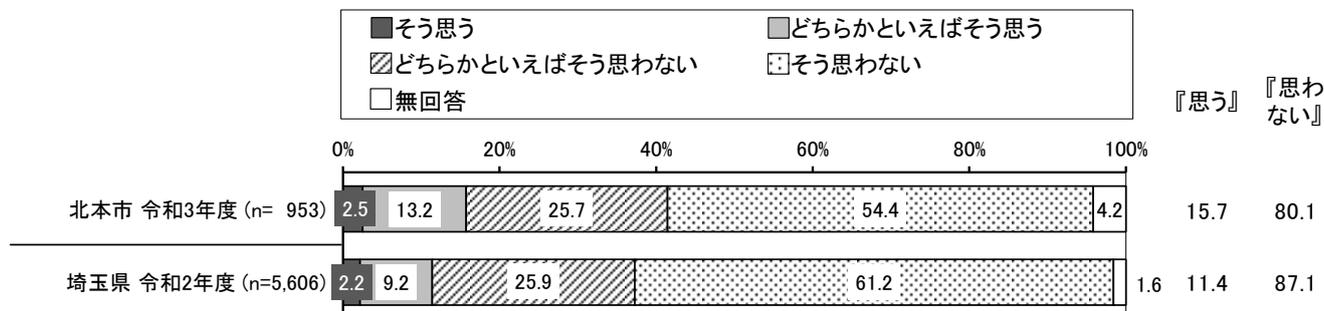
図 25-9 性のあり方に関する考えについて

《女性のような男性を見ると不快になる》【埼玉県調査との比較】



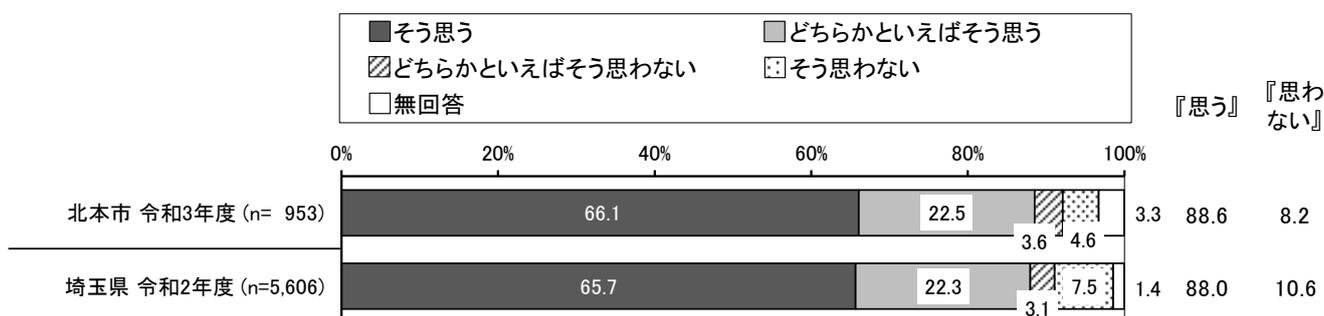
《男性のような女性を見ると不快になる》について埼玉県調査と比較すると、『思わない』は北本市が県を下回ります（7.0ポイント差）。

図 25-10 性のあり方に関する考えについて
《男性のような女性を見ると不快になる》【埼玉県調査との比較】



《性のあり方は人それぞれである》について埼玉県調査と比較すると、『思う』は県と同程度となっています。

図 25-11 性のあり方に関する考えについて
《性のあり方は人それぞれである》【埼玉県調査との比較】



(2) 性的少数者に対する差別的言動を見聞きした場所

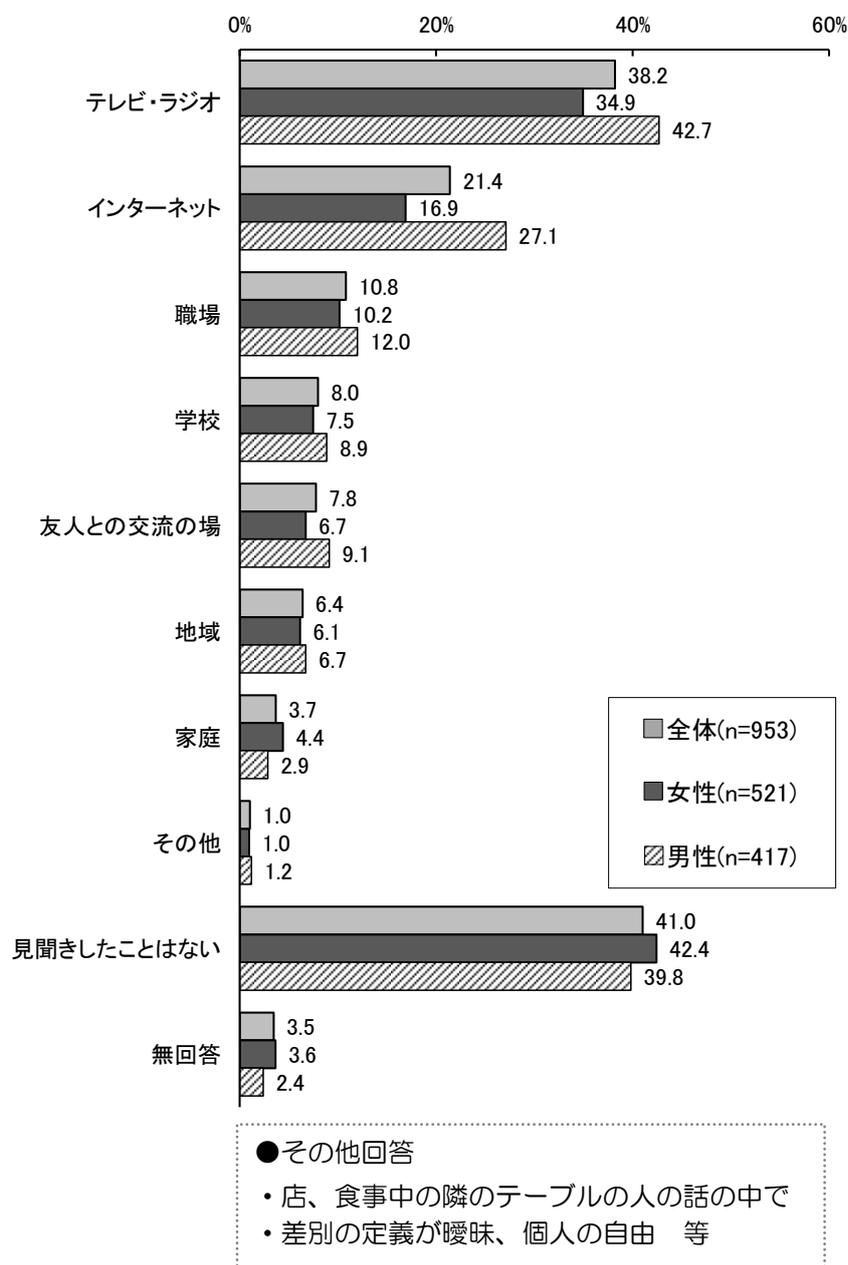
問 26 あなたはLGBTQ等の性的少数者に対する差別的な言動を、次の場所で見聞きしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

性的少数者に対する差別的な言動を見聞きした場所について、「見聞きしたことはない」が41.0%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」が38.2%、「インターネット」が21.4%となっています。

【性別】

性別でみると、男女ともに「テレビ・ラジオ」が女性34.9%、男性42.7%と最も高く、次いで「インターネット」が女性16.9%、男性27.1%となっています。また、「テレビ・ラジオ」と「インターネット」については、男性が女性を上回ります(7.8/10.2ポイント差)。

図 26-1 性的少数者に対する差別的言動を見聞きした場所【全体・性別】



(3) 性的少数者への理解の促進・支援に必要なこと

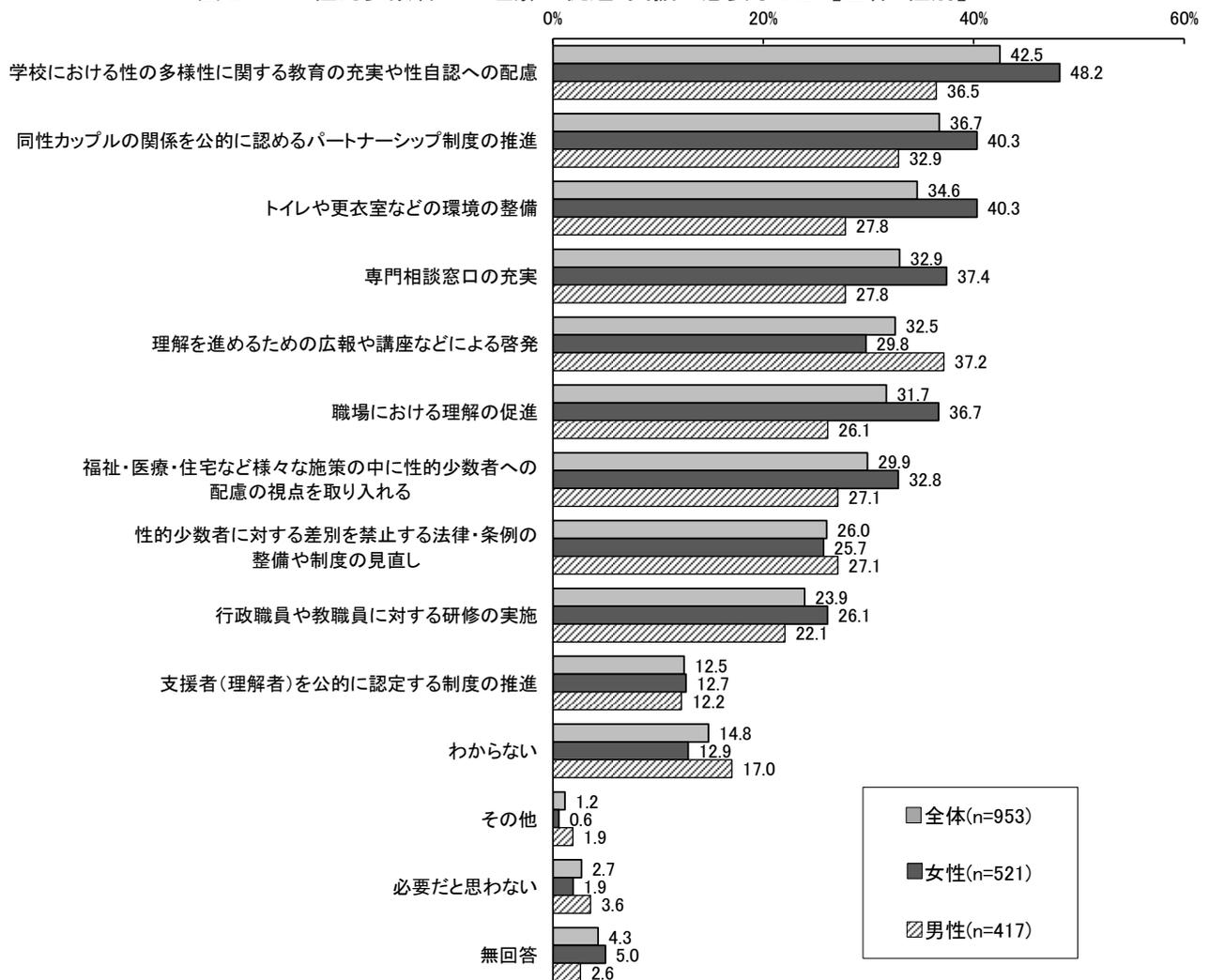
問 27 あなたはLGBTQ等の性的少数者に対する理解の促進や支援にはどのようなものが必要であると思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

性的少数者への理解の促進・支援に必要なことについては、「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」が42.5%で最も高く、次いで「同性カップルの関係を公的に認めるパートナーシップ制度の推進」が36.7%、「トイレや更衣室などの環境の整備」が34.6%、「専門相談窓口の充実」「理解を進めるための広報や講座などによる啓発」「職場における理解の促進」がいずれも3割台となっています。

【性別】

性別でみると、多くの項目で女性の割合が男性を上回ります。特に、「トイレや更衣室などの環境の整備」や「学校における性の多様性に関する教育の充実や性自認への配慮」、「職場における理解の促進」は、女性が男性を上回っています(各12.5/11.7/10.6ポイント差)。一方で、「理解を進めるための広報や講座などによる啓発」は男性が女性を上回っています(7.4ポイント差)。

図 27-1 性的少数者への理解の促進・支援に必要なこと【全体・性別】



●その他回答

- ・理解の推進や支援をその人たちが本当に求めているのかが疑問
- ・デリケートな問題なのでとても難しい 等

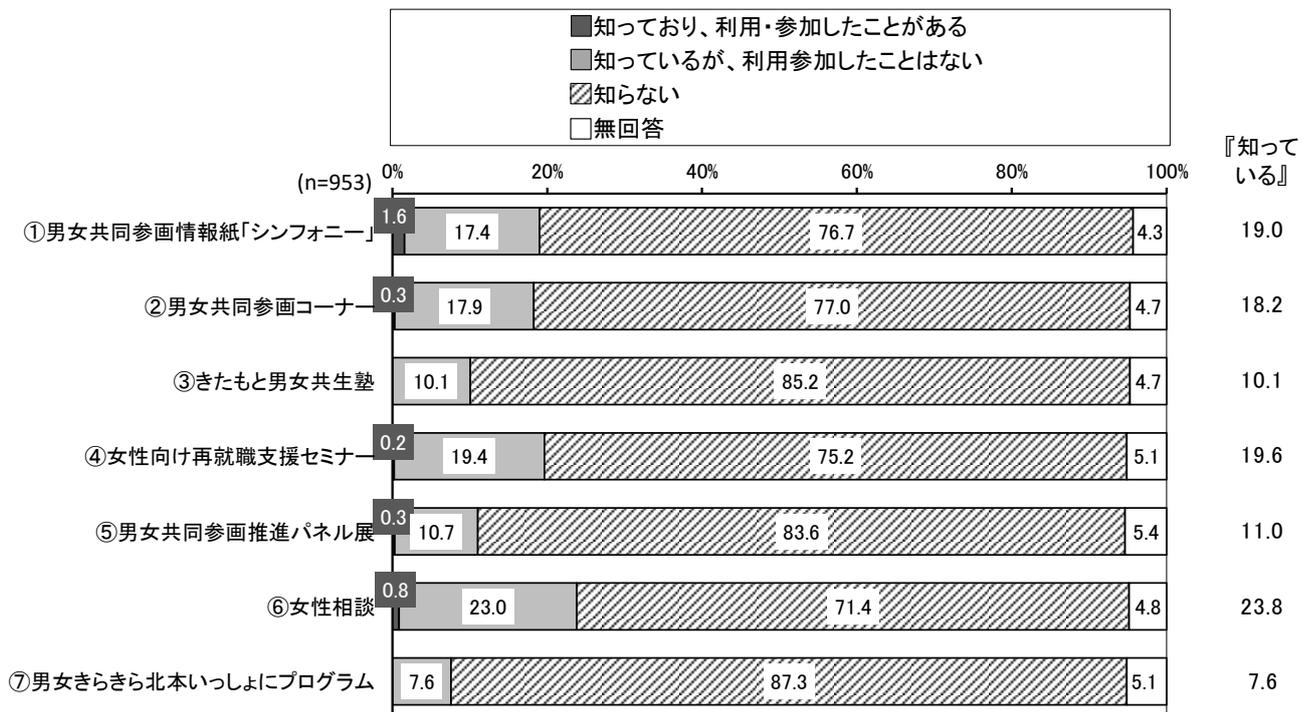
9. 北本市の男女共同参画の取組について

(1) 北本市の取組・事業の認知度

問 28 北本市で行われている男女共同参画に関する取組や事業について、知っているものがありますか。(項目ごとに、あてはまる番号1つに○)

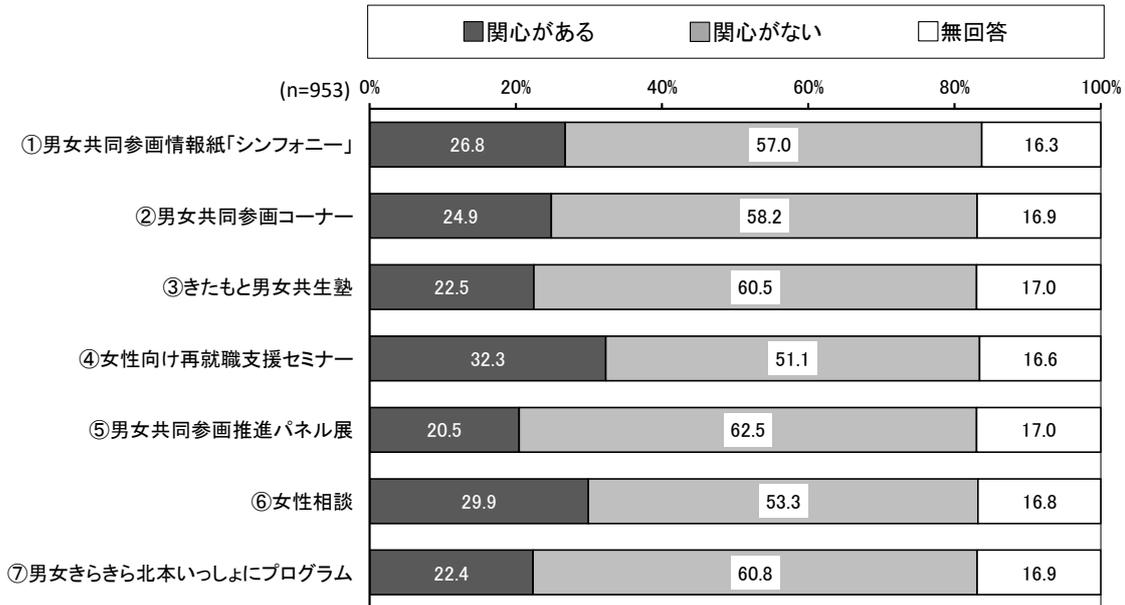
北本市の取組・事業の認知度については、いずれの項目でも「知らない」が最も高く、「知っており、利用・参加したことがある」と「知っているが、利用参加したことはない」を合わせた『知っている』は、〔⑥女性相談〕を除き2割未満となっています。

図 28-1 北本市の取組・事業の認知度【全体】



取組・事業の関心度については、「関心がある」は、〔③女性向け再就職支援セミナー〕や〔⑥女性相談〕で約3割と最も高くなっています。

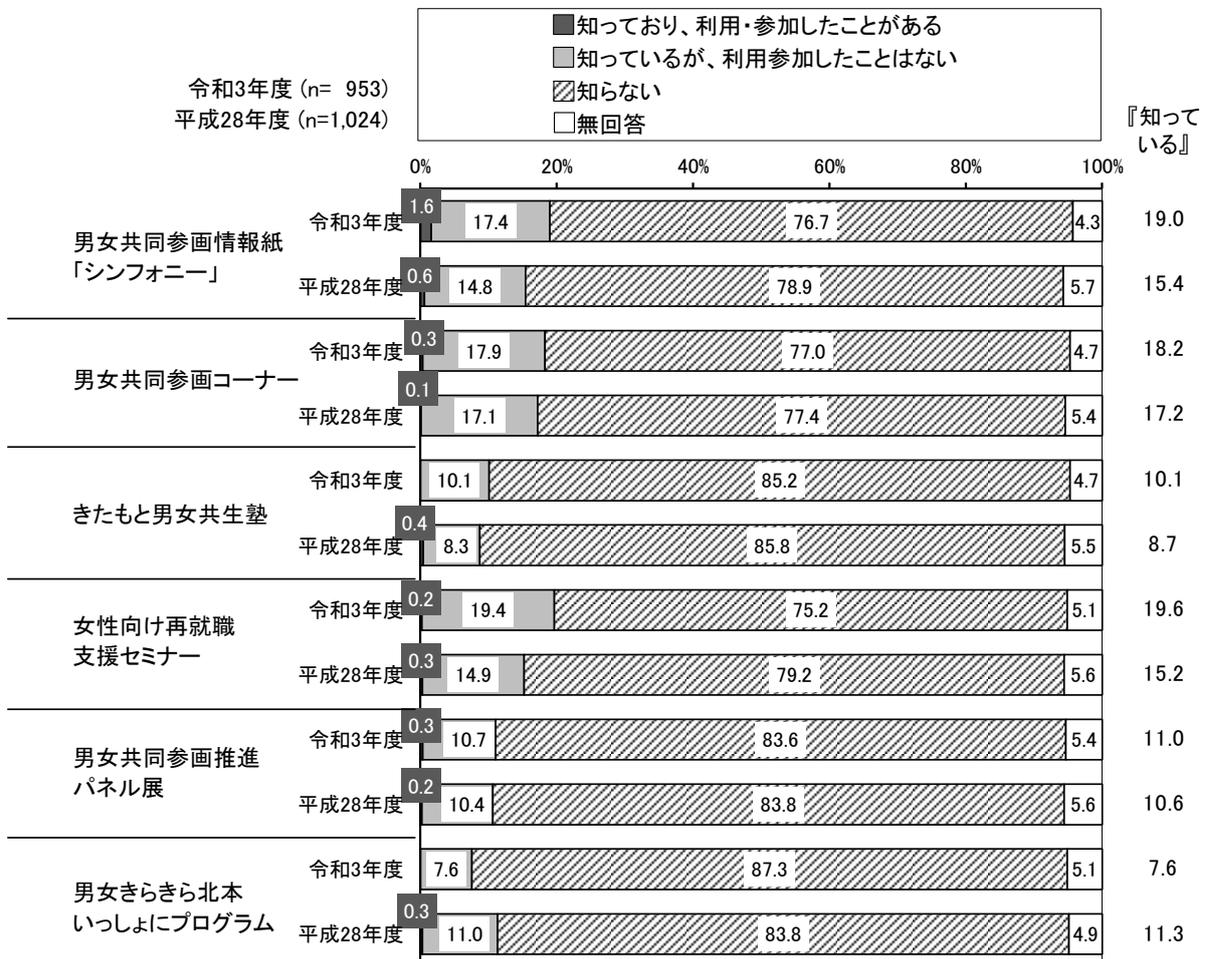
図 28-3 北本市の取組・事業の関心度【全体】



【経年比較】

前回調査と比較すると、『知っている』は〔女性向け再就職支援セミナー〕と〔男女共同参画情報紙「シンフォニー」〕で上昇しています（各 4.4/3.6 ポイント差）。

図 28-2 北本市の取組・事業の認知度【経年比較】



(2) 「シンフォニー」に掲載してほしい内容

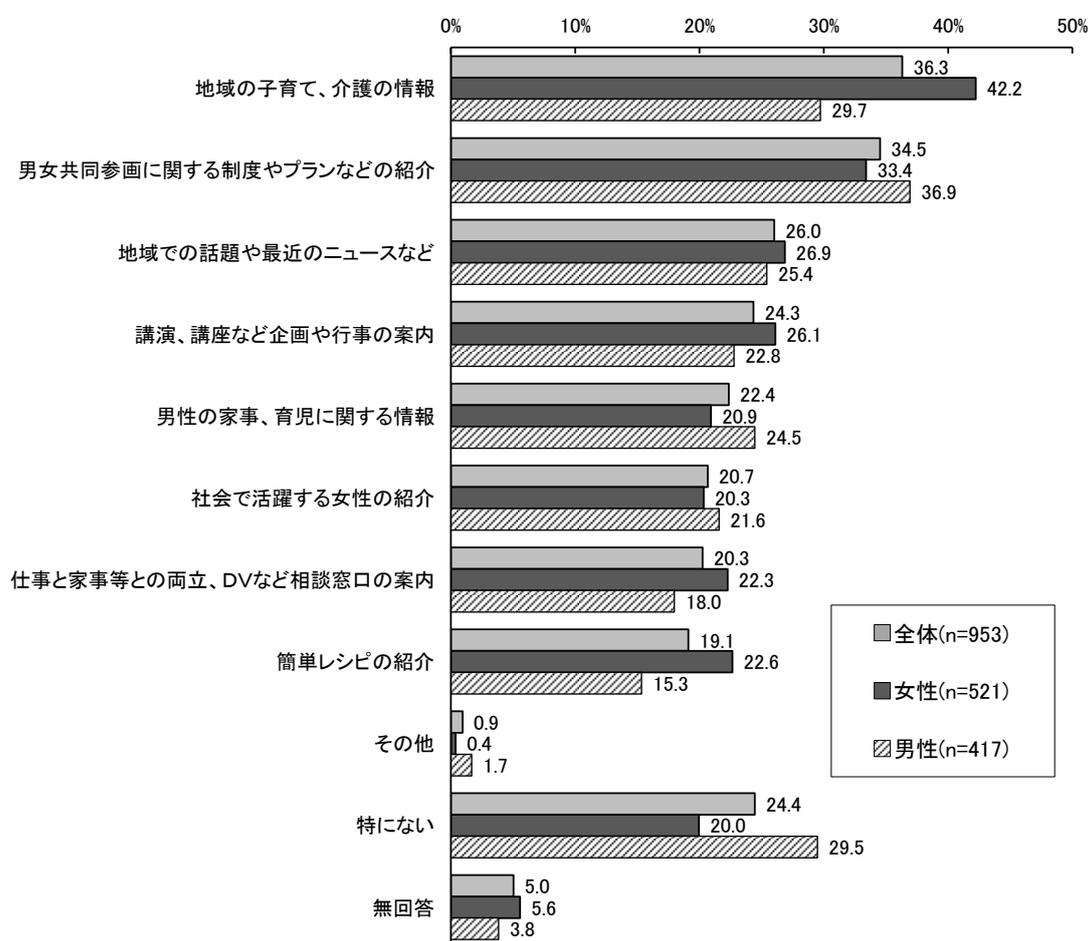
問 29 北本市では市民編集協力員と職員が協働して作成を行う男女共同参画情報紙「シンフォニー」を年1回発行しています。あなたは、掲載する内容としてどのようなものを希望されますか。(あてはまる番号すべてに○)

「シンフォニー」に掲載してほしい内容については、「地域の子育て、介護の情報」が36.3%と最も高く、次いで「男女共同に関する制度などの紹介」が34.5%、「地域での話題や最近のニュースなど」が26.0%などの順となっています。

【性別】

性別でみると、「地域の子育て、介護の情報」は女性が男性を上回ります(12.5ポイント差)。

図 29-1 男女共同参画情報紙「シンフォニー」に掲載してほしい内容【全体・性別】

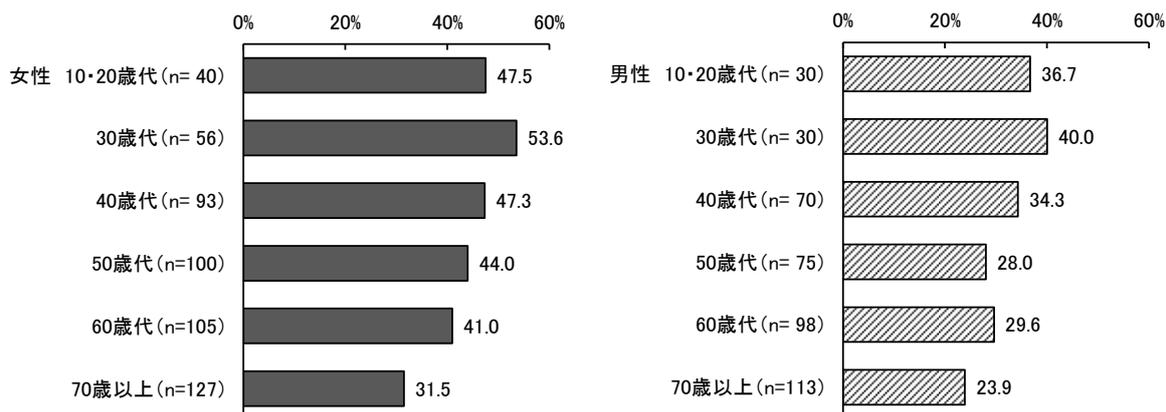


【性／年齢別】

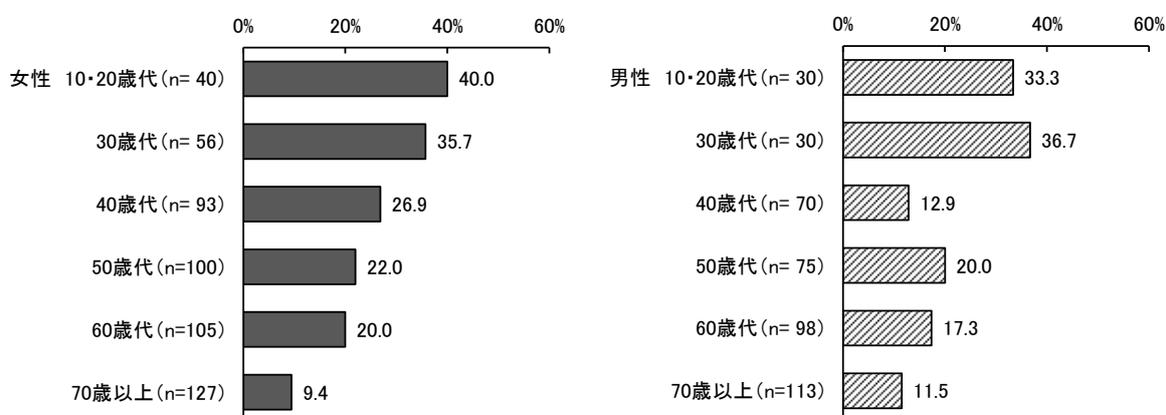
性／年齢別でみると、「地域の子育て、介護の情報」は女性の10・20歳代から40歳代で5割前後と高くなっています。また、「仕事と家事等との両立、DVなど相談窓口の案内」は男女ともに10・20歳代と30歳代で3割台～4割となっています。そのほか、「簡単レシピの紹介」は女性の30歳代のみ3割を超えています。

図 29-2 男女共同参画情報紙「シンフォニー」に掲載してほしい内容(抜粋)【性／年齢別】

■ 地域の子育て、介護の情報



■ 仕事と家事等との両立、DVなど相談窓口の案内



■ 簡単レシピの紹介

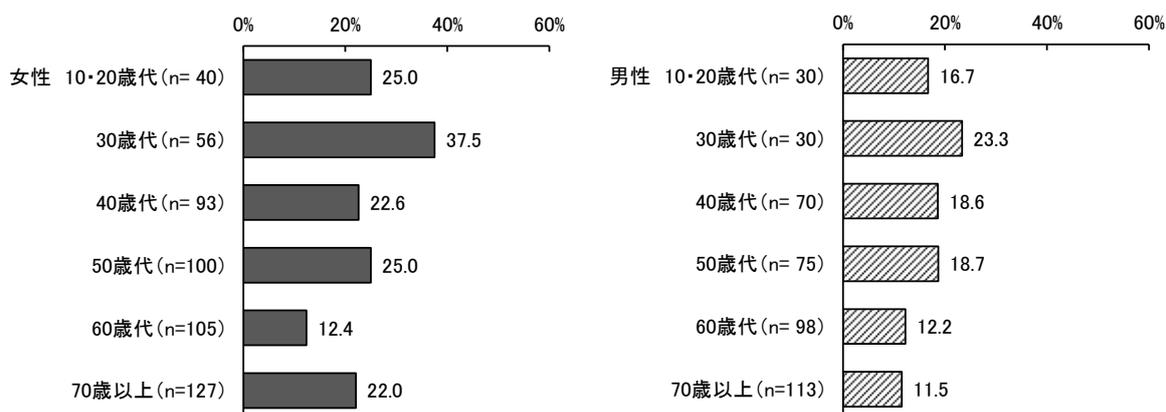


表 29-3 男女共同参画情報紙「シンフォニー」に掲載してほしい内容

【全体・性別・性／年齢別】

	合計(人)	男女共同参画情報紙「シンフォニー」に掲載してほしい内容 (%)					
		男女共同参画に関する制度やプランなどの紹介	講演、講座など企画や行事の案内	社会で活躍する女性の紹介	地域の子育て、介護の情報	男性の家事、育児に関する情報	簡単レシピの紹介
全体	953	34.5	24.3	20.7	36.3	22.4	19.1
性別							
女性	521	33.4	26.1	20.3	42.2	20.9	22.6
男性	417	36.9	22.8	21.6	29.7	24.5	15.3
性／年齢別							
女性・10・20歳代	40	37.5	15.0	30.0	47.5	35.0	25.0
30歳代	56	19.6	5.4	17.9	53.6	33.9	37.5
40歳代	93	33.3	26.9	16.1	47.3	25.8	22.6
50歳代	100	34.0	28.0	16.0	44.0	19.0	25.0
60歳代	105	43.8	34.3	22.9	41.0	18.1	12.4
70歳以上	127	29.1	29.9	22.8	31.5	11.0	22.0
男性・10・20歳代	30	30.0	13.3	16.7	36.7	30.0	16.7
30歳代	30	40.0	23.3	23.3	40.0	43.3	23.3
40歳代	70	27.1	15.7	21.4	34.3	28.6	18.6
50歳代	75	34.7	21.3	25.3	28.0	18.7	18.7
60歳代	98	49.0	32.7	24.5	29.6	30.6	12.2
70歳以上	113	35.4	22.1	17.7	23.9	14.2	11.5

	合計(人)	男女共同参画情報紙「シンフォニー」に掲載してほしい内容 (%)				
		地域での話題や最近のニュースなど	仕事と家事等との両立、DVなど相談窓口の案内	その他	特にない	無回答
全体	953	26.0	20.3	0.9	24.4	5.0
性別						
女性	521	26.9	22.3	0.4	20.0	5.6
男性	417	25.4	18.0	1.7	29.5	3.8
性／年齢別						
女性・10・20歳代	40	7.5	40.0	2.5	17.5	2.5
30歳代	56	28.6	35.7	0.0	17.9	0.0
40歳代	93	31.2	26.9	0.0	21.5	1.1
50歳代	100	26.0	22.0	0.0	21.0	1.0
60歳代	105	30.5	20.0	0.0	16.2	9.5
70歳以上	127	26.8	9.4	0.8	22.8	12.6
男性・10・20歳代	30	16.7	33.3	0.0	40.0	0.0
30歳代	30	26.7	36.7	6.7	23.3	0.0
40歳代	70	28.6	12.9	0.0	30.0	0.0
50歳代	75	26.7	20.0	1.3	29.3	1.3
60歳代	98	30.6	17.3	1.0	23.5	1.0
70歳以上	113	20.4	11.5	2.7	33.6	11.5

●その他回答

- ・誰の為に、何の為にやっているのか？意味はあるのか？与えられた予算を消費する為にやっている感じだけならやめれば良い。もっと他に困っている人にできる事はあるのでは？
- ・経済的に豊かになれる具体的情報 等

(3) 男女共同参画社会の実現に向けた市の重点施策

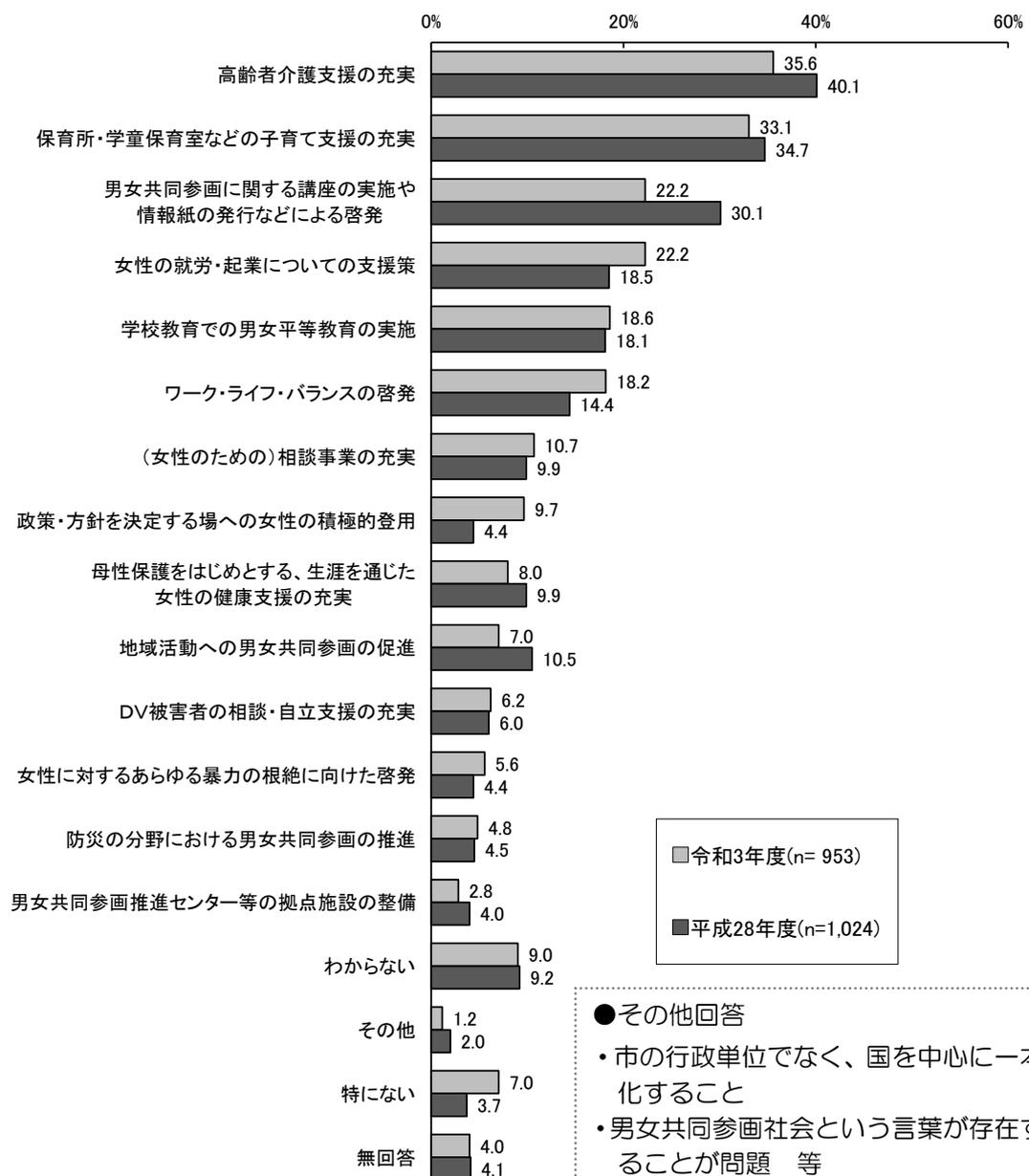
問 30 男女共同参画社会の実現をめざして、市では、今後どのようなことに重点を置いて取り組んだらよいと思いますか。(あてはまる番号3つまでに○)

男女共同参画社会の実現に向けた市の重点施策については、「高齢者介護支援の充実」が35.6%で最も高く、次いで「保育所・学童保育室などの子育て支援の充実」が33.1%、「男女共同参画に関する講座の実施や情報誌の発行などによる啓発」と「女性の就労・起業についての支援策」がともに22.2%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、特に、「男女共同参画に関する講座の実施や情報紙の発行などによる啓発」や「高齢者介護支援の充実」は、低下しています(各7.9/4.5ポイント差)。また、「政策・方針を決定する場への女性の積極的登用」や「ワーク・ライフ・バランスの啓発」は、上昇しています(各5.3/3.8ポイント差)。

図 30-1 男女共同参画社会の実現に向けた市の重点施策 【経年比較】



【性別】

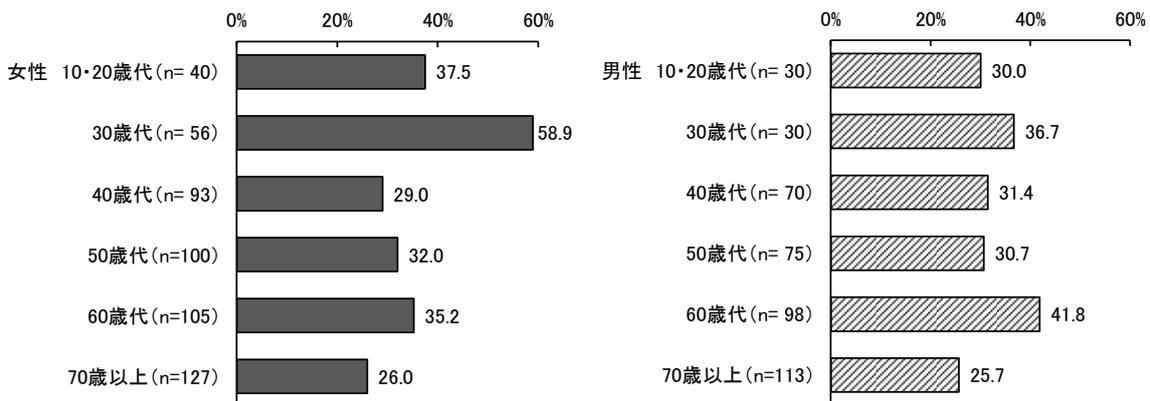
性別にみると、「高齢者介護支援の充実」では女性が男性を上回り(8.1ポイント差)、「ワーク・ライフ・バランスの啓発」では男性が女性を上回ります(5.0ポイント差)。

【性／年齢別】

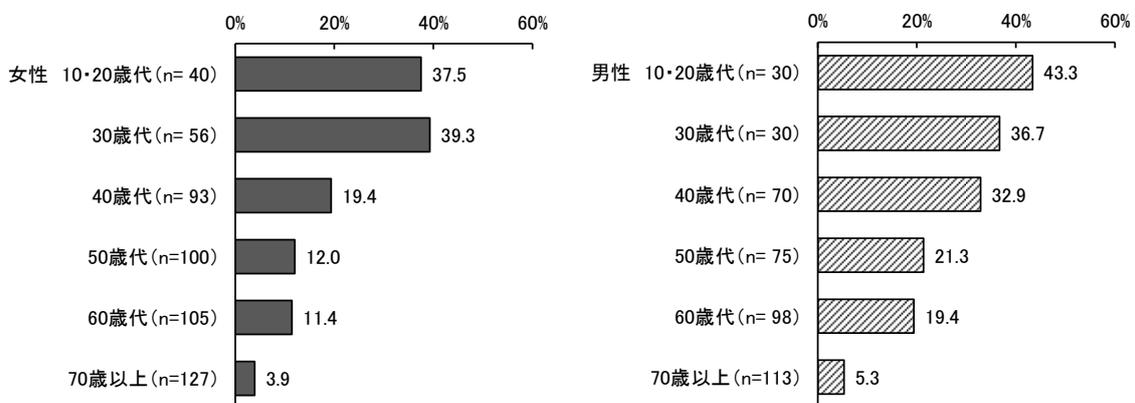
性／年齢別にみると、「保育所・学童保育室などの子育て支援の充実」は女性30歳代で約6割と突出して高くなっています。また、男女ともに「ワーク・ライフ・バランスの啓発」は若い世代ほど、「高齢者介護支援の充実」は年代が上がるほど高い傾向にあります。

図 30-2 男女共同参画社会の実現に向けた市の重点施策(抜粋)【性／年齢別】

■保育所・学童保育室などの子育て支援の充実



■ワーク・ライフ・バランスの啓発



■高齢者介護支援の充実

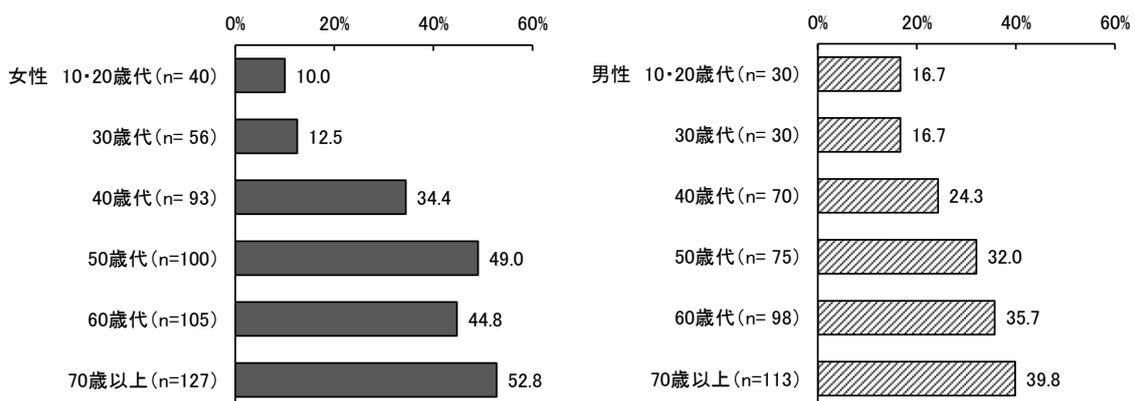


表 30-3 男女共同参画社会の実現に向けた市の重点施策【全体・性別・性／年齢別】

	合計(人)	男女共同参画社会の実現に向けた市の重点施策 (％)									
		男女共同参画に関する講座の実施や情報紙の発行などによる啓発	女性の就労・起業についての支援策	ワーク・ライフ・バランスの啓発	保育所・学童保育室などの子育て支援の充実	高齢者介護支援の充実	母性保護をはじめとする、生涯を通じた女性の健康支援の充実	相談事業の充実	女性に対するあらゆる暴力の根絶に向けた啓発	DV被害者の相談・自立支援の充実	
全体	953	22.2	22.2	18.2	33.1	35.6	8.0	10.7	5.6	6.2	
性別											
女性	521	20.7	24.2	16.1	34.0	39.5	10.2	12.3	6.0	6.3	
男性	417	24.7	20.1	21.1	32.4	31.4	5.3	8.6	4.8	5.8	
性／年齢別											
女性・10・20歳代	40	17.5	27.5	37.5	37.5	10.0	12.5	12.5	5.0	7.5	
30歳代	56	8.9	33.9	39.3	58.9	12.5	12.5	1.8	1.8	8.9	
40歳代	93	20.4	30.1	19.4	29.0	34.4	8.6	19.4	9.7	7.5	
50歳代	100	18.0	27.0	12.0	32.0	49.0	17.0	22.0	4.0	7.0	
60歳代	105	30.5	24.8	11.4	35.2	44.8	6.7	6.7	9.5	6.7	
70歳以上	127	21.3	11.8	3.9	26.0	52.8	7.1	8.7	3.9	3.1	
男性・10・20歳代	30	20.0	13.3	43.3	30.0	16.7	3.3	16.7	6.7	13.3	
30歳代	30	10.0	30.0	36.7	36.7	16.7	10.0	6.7	6.7	6.7	
40歳代	70	21.4	18.6	32.9	31.4	24.3	8.6	7.1	1.4	5.7	
50歳代	75	22.7	32.0	21.3	30.7	32.0	6.7	12.0	2.7	5.3	
60歳代	98	33.7	18.4	19.4	41.8	35.7	2.0	11.2	6.1	6.1	
70歳以上	113	25.7	14.2	5.3	25.7	39.8	4.4	3.5	6.2	3.5	

	合計(人)	男女共同参画社会の実現に向けた市の重点施策 (％)									
		学校教育での男女平等教育の実施	地域活動への男女共同参画の促進	防災の分野における男女共同参画の推進	政策・方針を決定する場への女性の積極的登用	男女共同参画推進センター等の拠点施設の整備	わからない	その他	特になし	無回答	
全体	953	18.6	7.0	4.8	9.7	2.8	9.0	1.2	7.0	4.0	
性別											
女性	521	19.2	6.1	4.4	9.4	2.5	7.5	0.4	5.8	4.6	
男性	417	18.2	8.4	5.5	10.3	3.4	11.3	2.2	8.2	2.6	
性／年齢別											
女性・10・20歳代	40	30.0	5.0	7.5	5.0	0.0	0.0	0.0	12.5	2.5	
30歳代	56	23.2	5.4	1.8	3.6	1.8	8.9	0.0	7.1	0.0	
40歳代	93	16.1	4.3	2.2	5.4	0.0	10.8	1.1	4.3	1.1	
50歳代	100	16.0	4.0	5.0	8.0	2.0	10.0	1.0	2.0	1.0	
60歳代	105	21.0	5.7	5.7	15.2	1.9	5.7	0.0	4.8	6.7	
70歳以上	127	17.3	10.2	4.7	12.6	6.3	6.3	0.0	7.9	11.0	
男性・10・20歳代	30	10.0	3.3	3.3	13.3	6.7	20.0	6.7	6.7	0.0	
30歳代	30	20.0	6.7	3.3	10.0	10.0	6.7	3.3	10.0	0.0	
40歳代	70	12.9	7.1	1.4	17.1	5.7	7.1	0.0	11.4	0.0	
50歳代	75	16.0	4.0	5.3	2.7	1.3	16.0	2.7	8.0	0.0	
60歳代	98	20.4	7.1	9.2	12.2	2.0	9.2	2.0	4.1	0.0	
70歳以上	113	23.0	15.0	6.2	8.8	1.8	11.5	1.8	9.7	8.8	

(4) 男女平等のために最も重要なこと

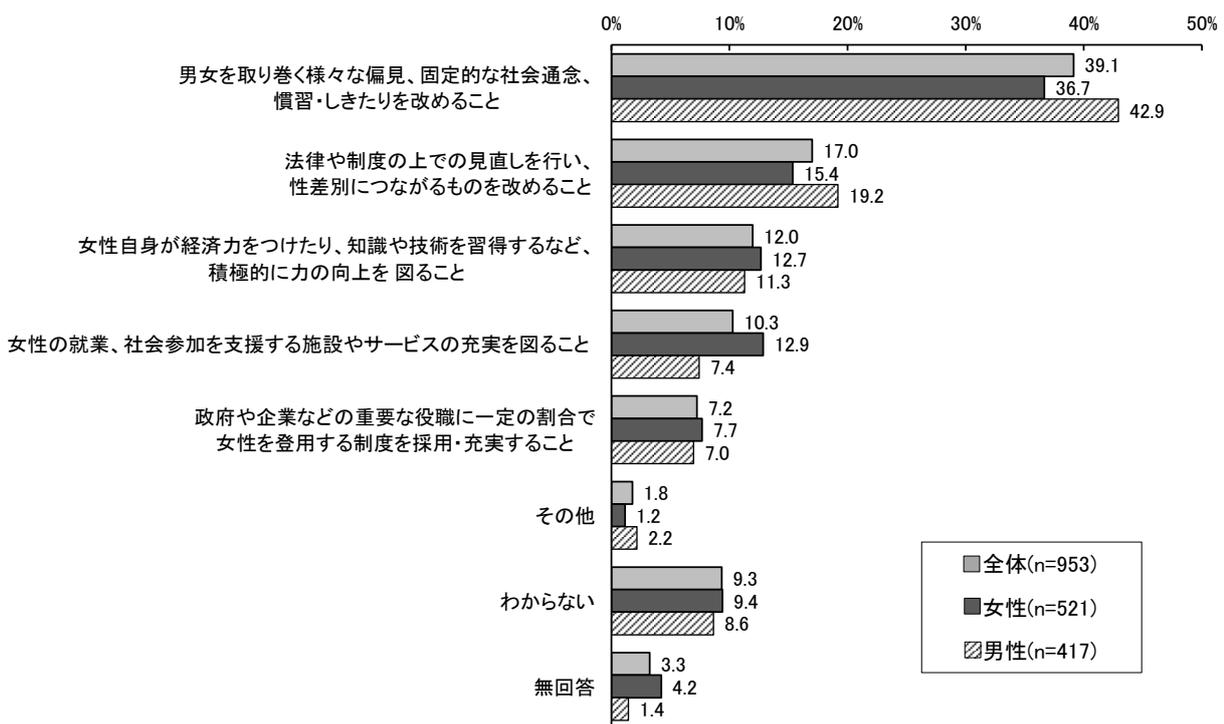
問 31 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思うことは何ですか。(あてはまる番号1つに○)

男女平等のために最も重要と思うことについては、「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が 39.1%と最も高く、次いで「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が 17.0%、「女性自身が経済力をつけたり、知識や技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が 12.0%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」が 10.3%となっています。

【性別】

性別にみると、特に、「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」では、男性が女性を上回り（各 6.2/3.8 ポイント差）、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」では、女性が男性を上回ります（5.5 ポイント差）。

図 31-1 男女平等のために最も重要と思うこと【全体・性別】



●その他回答

- ・性別ではなく個人の能力の問題
- ・早期の教育が重要
- ・本当に困っている人の声を聞く努力、最後まで責任を持って対応する姿勢 等

10. 自由回答

市民へ男女平等や男女共同参画などについて、普段感じていること、市への意見・要望等を自由記入方式でたずねたところ、103人から回答がありました。

以下の表はその内容を分類したものです。

	項目	件数(件)
1	男女平等意識、男女共同参画社会について	30
2	アンケートについて・感想等	16
3	行政への意見・要望	15
4	性別による役割分担や特性	14
5	「男女共同参画社会」の周知・啓発	11
6	子育てへの支援	6
7	その他	11
	合計	103

■男女平等意識、男女共同社会について(30件)

回答	性別	年齢
大企業などであれば、女性の進出は進んでいると思うが、中小では活発ではないと思う。重役などの上に立つ者にまだ男尊女卑の考えを持つ者が多くいる。特に政治家などは、高齢者ばかり。また、女性も専業主婦になりたいと思っている人は多いと思う。	男性	10・20歳代
お金を沢山稼げるから偉いわじゃない。家の事をできる能力を認める人が増えれば、女性の尊厳をUPさせる事ができる。お互いに違いを認め合えば良いのに。得意な事が違っただけで、差別じゃなくする、人々の意識を変えて行く。どうぞ宜しくお願い致します。	女性	30歳代
ある程度の年齢以上では男女平等を推進すると利得があると感じられると受け入れやすいのではないかと思う。中年や高齢者への教育は効果が薄い。若年層へは教育の推進。中年以上は表向きにでも男女共同参画すると利得がある(行政サービスの優遇、減税)と受け入れやすいのではないかと思う。	男性	30歳代
声なき人の叫び声を聞いてあげてください。苦しんでいる方がたくさんいます。男だから、女だからの前に1人の人間なのです。期待しています!!	女性	40歳代
男性側の意識の問題。男性が変わらなくてはいけない。年齢層が上(日本社会の構造からみて40代以上のことをいう)の男性は特に。昔ながらの風潮というか変なプライドみたいなのが抜けきっていない、はびこっている。だからハラスメントが(パワハラとか)なくならないのだと思う。(例えばバブル経済の絶頂の頃に入社した人とか)これはどこかの市だけではなく全国的に。人の意識を変えるのは難しい。結局は当人の問題、意識でしかない。私が会社の社長であるなら積極的に女性の登用を押し進める。いかにして社会に貢献してもらうか。とにかくまずは男女の比率が平等に半々くらいになる必要がある。そこから始めるべき。日本の社会は、世間は、旧態依然なのでいつまでたっても変わらない。今変わらないと本当に世界から相手にされなくなると思う。	男性	40歳代
闇雲に女性だけに光を当てても意味がないと感じる。男女平等で同賃金ならば、能力や労働時間等が同じでなければ男性からみて不平等…残念ながら、男女平等の言葉が先行してそれに甘えている女性もいると感じる。男性の意識改革も必要だが、女性の意識も変えないと平等は遠いと思う。	男性	40歳代
なんか考え方を押し付けられている感じしかありませんでした。正しい考え方と、現実の社会や家庭の正解は違うと思う。	男性	40歳代
男女共同参画ではなく、女性・男性の共同参画ぐらいの名称になぜ出来ないのか、本当に疑問です。	女性	40歳代

回答	性別	年齢
自分のまわりでは男女平等の社会であるが、テレビなどで政治のトップの方々が見え、偏見や固定的な社会通念などを持っている方がまだ多い様に見られる。社会を動かすリーダーのこのような考えは改める事だと思う。	男性	50 歳代
関わる機会があるのは高齢者の方が多いと感じる。若い世代が積極的に関わられるような工夫が必要かなと思う。	女性	50 歳代
男女共同参画や男女雇用均等という言葉が冠とした表現が、公的機関や法律名としていく時点で、男女という性差別的な考え方が社会通念として認められていることを認識すべきと考える。社会進出にすれば、学校教育の画一化になじめなかったり、いじめ被害による「ひきこもり」などの問題もあり、教育機関の不適切な対応により、社会的不適応者として社会生活からふり落とされた人々も社会参画が必要である。目に視える性別や性的指向だけが問題ではなく、個々人の人格を尊重する社会環境を整える教育や制度の行政や学校教育を整えれば、性差別や被差別や国籍差別も改善されていくと思う。国民（市民）の一人一人の個性を尊重することがあらゆる差別の解消していく第一歩となるのではと私は思う。	男性	50 歳代
多様性が大切にされる時世になってきてはいると思いますが、理解にはまだまだ個人差があると思います。なぜ多様性が大切なのか、どのようなことが求められていくのか、啓発することが大事だと思います。一方でその個人個人の理解はとも差があると思われませんが、理解のない人へ一方的に押しつけても意味がないと思う。理解が得られない人が一定数いることもわかった上で、どうしていったらよいのかを考えていくことも大切なのではないかと思えます。	女性	50 歳代
日本の風土では結婚をすると主に女性が名字を変えています。他国同様、選択制夫婦別姓導入も法律上認めていく必要がある。女性の間では生まれ親しんだ名前を変えたくなかったという意見も多く、別姓にした事で離婚率が上がるとは考え難い。	男性	50 歳代
日本における政治・企業などトップの役職に女性の割合が少ないのは、家計を支えるために働く女性に生活の余裕(時間的、金銭的、心理的)がないからだと思います。育児・家事への夫の参加は加速しつつありますが、舵取りはやはり女性がメイン。仕事も家事も手を抜かず、他の人へ迷惑をかけずがつつりやろうとすると、トップへの昇進、地域活動(男女参画も含む)等への積極的参加は不可能。共同参画の推進には、専門に職業として人材を登用(採用?)することや、指導者としてのプロの存在などが必要かなと感じています。この参画を推進することで女性のトップ登用を増やし、彼女らの意見が社会全体を変革できることを期待しています。	女性	50 歳代
ケースバイケース、お互いがよく話し合い、家事などを分担すればよい。考え方の押し付けは良くない。	男性	50 歳代
男女共同参画の推進に関しては、これに興味のある人、実際に問題を抱えている人が積極的に情報にアクセスすると思います。特に大きな問題は抱えていないけど「なんとなく」女性としての生きにくさや、一般的な習慣での圧力を感じている程度では、なかなか積極的な行動に繋がらないと思います。男性も「自分には関係ない」と思うと、積極的な行動に繋がらないのでは。もっと普遍的に誰でも情報を共有できる子どものうちから、教育などを通して、固定的な社会通念の改善に力を入れるべきだと思います。	女性	50 歳代
「男女共同参画」について、今ごろ「推進」の段階?という気持ちがあります。オリンピックの女性理事の数や、軽はずみな発言などで世界から呆れられ非難されたことも、さらに「推進」を行動に移す発端となったのかもしれませんが、「男女雇用機会均等法」は30年以上前に施行されたはず。30年以上経っても、世の中ではなぜ男女共同参画が実現できていないのか。ただ理想の推進だけの方向を見るのではなく、土台となる部分(なぜ今までできなかったのか、原因の究明と改善点の洗い出しなど)の分析を伴わなければ、男女共同参画の推進は実現できないのではないかと思います。様々な環境、様々な生活スタイルや考え方があるとは思いますが、どういう社会なら男女が共同参画しているといえるのか、なんでも同じならそれだけで十分達成といえるのか、押し付けるのではなくそれぞれ尊重しあえるものはないのか、あらゆる面で理解が得られ実現できる方向に進むことを期待しています。	女性	50 歳代
女性の管理職を増やし、男社会をなくしてほしい。ありがとうございました。皆様頑張ってください。	男性	50 歳代

回答	性別	年齢
ルールばかりをしっかりと決めても毎日体調に変化があるのが人間、女性です。ヒトとして自分の力を出し切りたくても、それを許さない事情が生まれます。その時に、多少の譲り合いができる、空気、雰囲気、人手、相談場所、等々が身近にある事が地域の安全にも安心にもつながります。お金には限りがありますが、市民、個人個人の経験やアイデアは無限です。子どもにだってたくさんのそれなりの見守りや感じたことがあります。正しいものが多いです。男女ではなく、ヒトとして生きやすい市であって欲しいです。	女性	60 歳代
ニュースに接するたびに、日本の代表は年配の男性ばかりで、がっかりします。北欧など特に若々しくおしゃれな女性が堂々と国の重要な役職についていてカッコいいと思うんです。もっと国会議員に女性が増えて生き生きと活動し、手本となってほしい。議員も 70 才位で定年退職してもよい。	女性	60 歳代
表面上の男女平等によって、女性への負担が増すことの無いよう、社会（会社、家庭）の中でバランスを取るためには法律や制度を基に個々にきめ細かいサポートが必要。近年、メンタルの不調で休職する人が増えていることも鑑みると、ただ決まった人数の女性を登用すれば良いという訳ではないので、個人の能力とモチベーションと環境のマッチングがミスマッチにならないようマネジメントできる人材が必要と思う。	女性	60 歳代
男女の区別なく平等な生活が出来たらと思います。	女性	60 歳代
殆ど「わからない」「関心がない」で終わってしまったが、一番必要なのは男女共に「意識改革」だと思う。男だろうが女だろうが「自分に弊害が無い」「身近にない」状態では「関心がない」で終わってしまうものだと思う。	男性	60 歳代
人の考え方は簡単には変えられないが、自分の考え方は変えられる。一人一人が考える機会が大切と思う。	男性	60 歳代
世の中、男と女、男女平等あたり前、男女共同参画等、もっと早く進めるべきであったと思います。	男性	70 歳以上
○家庭内においては以前より男女ともに協力していく体制になりつつあると思う。女性がパートや人材派遣などで働く人が多くなったこともあると思う。○職場や議決機関においてはまだまだ男女差はあると思う。北本市も、ある市長候補が副市長を女性にしますと公約したが、実現できなかったし、そのことを総括する必要があったと思う。しかし女性活用が難しかったのか…部長や課長は何名いますか。係長まではいると思いますが、北本市の主催する会議や役員もそうだと思います。机上論ではなく、自分の職場から実現して欲しいと思う。女性も意識改革をしなければ、役職や管理職になりたいという気持ちが少ないと思う。気づいた人が本気を出さなければ体制は変わらない!!	女性	70 歳以上
今までの私の男女共同参画事業等の感想としては、男女が平等で対等な作業により、国の GDP を向上させ豊かな社会を構築させること、あるいは男女共同作業により各々の労働時間を減少させ、減少した労働時間を有効に活用し（研鑽、子育て、老後の介助等）充実し、ゆとりのある社会生活を構築するような社会を作ることにあると解釈していた。今回市のホームページを読み、考え方が乖離していることに気づき、考えを新たにしました。	男性	70 歳以上
女性でさえ育児休業を取得する制度があっても、小規模な会社や医院では取得できる状況にないことが多い。代替の人がいないと休めないのが現状です。ましてや男性が取得するなど、「退職したいのか」となるのが現実ではないでしょうか。（公務員や大会社等の替えのきく職場は別）要するに経営者側の仕組みを変えていかなければいけないと思う。	女性	70 歳以上
その仕事や責務を達成するための能力を 3 個ピックアップし、出来る順に男女の差なく任命することが重要です。	男性	70 歳以上
「男女共同参画社会」言葉では聞いた事が有りましたが、では何の事かとなると?? でした。「男女が、社会の対等な構成員として自覚をもってあらゆる分野の活動に参画する」と有りますが、国会の選挙でも北本市議会でも、女性がもっと力をつけてリーダーとなる人が出てほしいですね。今回の企画は一市民として勉強になりました。	女性	70 歳以上

■アンケートについて、感想等（16件）

回答	性別	年齢
これは 2,000 人を対象にするのであれば日にちを決めて集まってもらい、分からない場合その場で質問ができる場を設け、協力者に助成金等が発生するような形でやってもらえると、もっとやりやすいのでは？と思いながらやっていた。	男性	10・20 歳代
未婚男性と選択しているにもかかわらず既婚者及び女性のための設問に答える必要が多すぎる上にアンケートが長い。回答に 20 分もかかるようなアンケートを要求しないでいただきたい。これもハラスメントではないか？	男性	30 歳代
現状が男女不平等とは思わない。そんなに北本市が不平等なんですか？	女性	40 歳代
未だこのようなアンケートが存在するというのが、問題です。良い意味でこのような活動がなくなり、男女共同参画という言葉、昔あったよね、という世の中になればいいと思います。	回答したくない	40 歳代
税金を使って行うアンケートではなかったと思います。作成の費用、企画、集計への時間等々、市民へ”サービス券”的なものを配った方が町への興味が出ると思います。	男性	40 歳代
いろいろな取り組みがある事に驚き自分の無知がわかりました。	女性	40 歳代
迷惑なのでこの様なアンケートを送らないで欲しい。	回答したくない	50 歳代
膨大なアンケートであり、北本市では何が優れているのか、問題かを整理し、今後の取り進め方針、施策、スケジュールを策定し市民に広報して欲しい。勿論、国、県の方針等にならうこと。男女間や組織によって差異はあろうが所謂「弱者」「弱者予備軍」を発見しひとつずつ改善を積み重ねて欲しい。設問数が多すぎる。網羅的にアンケートをとるのは良いが（国や県と協調した項目と思うが）焦点がぼける。以上	男性	60 歳代
わからない部分が多かった。現実的な面はわからない。	女性	60 歳代
まだよく理解しておらず、今のところありません。	男性	60 歳代
かなりの時間を要して疲れました。	男性	70 歳以上
すみませんが意見を一言。今回の企画と関係ないですが、以前も何度か市民アンケートや、何かの調査などで無作為のものがありませんでした。その結果など、どうなったのか、記入者には知らせてほしいです。どうなっていますか？市報にも、出来るだけ見たいですが忙しい時とかその内忘れてしまいます。高齢者には何でも大変です。若い時のようにはなりません。全 31 問の質問は多いですね。男女共同参画は前に住んでいた市で参加していました。	男性	70 歳以上
本アンケートは膨大過ぎる、分かりにくい。独居、高齢者には答えられない、答えにくい問が多く心配がない。	男性	70 歳以上
年寄りには問・項目わかりにくい。	男性	70 歳以上
私は単身世帯ですので、回答できない質問が多々ありました。	男性	70 歳以上
目も理解力も衰えており、抜けているところもあると思います。	男性	70 歳以上

■行政への意見・要望（15件）

回答	性別	年齢
子育て世代や高齢者に対する制度や補償は様々あるが、その中間、単身世帯に対するものは何もないと感じます。	男性	30 歳代
どんなに良い企画でも強制参加だけはイヤ。参加できないとかわいそう、そんな親切心で誘って、断りにくくするのはやめてほしい。	女性	50 歳代
男女間、夫婦間のことを一般論で推進していくことは困難ですが、それでも議論すること、市として具体的な検討や行動を進めることが肝要でしょう。完ぺきを期すると結果的に何もできないかもしれません。ある程度は試行錯誤となるでしょう。	男性	60 歳代
北本市が年齢、性別に関係なく住みやすい街であってほしいと思います。社会の不安定な状況が人間関係にも影を落としている気がするので、男女、若者、高齢者、子どもともに社会にとって不要な人はいないということを、どのような形でも良いので訴えて欲しいと思います。共同参画の根底に”人ありき”だと思います。	女性	60 歳代
全ての人の人権が認められ、守られ、社会参加することができる社会とするため、制度、それを運用する行政職員、並びにサービス等に従事する職員の質的向上を図る。	男性	60 歳代
男女共同参画社会への各施策を通して、子育てしたい永く暮らしたいと思う地域にしてほしい。	男性	60 歳代

回答	性別	年齢
文化の成熟度を増やす必要。個々の自覚。地域、社会の協力貢献。	男性	70歳以上
自助・共助・公助。過度な期待、過度な介入はしない。個々人の力量に見合った適度な距離感、対応が必要か？	男性	70歳以上
若い方の意見をきちんと聞いて欲しい。	女性	70歳以上
40代～50代の方に意見、要望書を積極的に推進するようにお願いしたい。70代については余り効果が期待できないと思います。	男性	70歳以上
努力が報われる社会に。市役所である窓口が、何の問題にも対処してくれるように。難しい事はおまかせします。みなさま、がんばって下さい。期待しています。	女性	70歳以上
市から発信される情報が市民のひとりでも多くの人（1人世帯にも）届く様に検討して頂きたい。	女性	70歳以上
北本市の取組みについてほとんど知らない。北本市民とどう共有してどう改善して行くか、もっと目に見える広報のあり方を考えるべき。市役所の人事・組織から市民に見える形で男女共同参画の取組みを明示できる様にする必要がある。1～5次でどう改善して来たのか？	男性	70歳以上
常に市民が目に触れる利用度の高い場所に提示されてほしい。地区の公民館など、目につきやすい大きなポスターをお願いします!!	女性	70歳以上
市会議員の女性議員数が多くなると良いと思う、また女性市長の登場を望む。	女性	70歳以上

■性別による役割分担や特性（14件）

回答	性別	年齢
男女平等を履き違えている事が多過ぎると思う。女性には女性にしか出来ない事、男性には男性にしか出来ない事がある為、全ての機会における平等は出来ないと思う。上記の様な内容も踏まえた、男女平等を進めて頂きたい。	男性	10・20歳代
男女平等と言っても出来る事出来ない事（男女の身体の違いなど）があると思います。何をするにもお金が必要。個人の能力の差はありますが、パートナーがいる・いない関係なく、自立出来る（しやすい）環境作り、固定概念を無くし差別を無くし自由に生きやすい環境作り、全ての人が1人ひとり違うという理解が必要。	女性	40歳代
母親だからと言って家事（料理、掃除）・育児が得意だとは限らない。苦手ですんどい思いをしている人もいます。逆に父親だって仕事より家事をする事が向いている人もいます。その人それぞれの個性があるのだから、「女性」「男性」とひとくくりにしないで、その人「らしさ」を大切に作る社会であってほしいと思います。	女性	40歳代
仕事によっては男性向け女性向けの区別はあって良いと思う。深夜労働や肉体労働は男性向けだと感じる、またお茶汲みなどは女性でないとお客様に失礼になると感じる人は多い。女性の社会進出に反対ではないが、男女それぞれの得意な分野で活躍できれば良いのではないかと。	男性	40歳代
妊娠・出産は男にはできない。女性にしかできない。そのような性別によってできることとできないことがあるということを忘れてはならない。	男性	40歳代
女性本人がどう考えるかが重要だと思います。活躍したい人は勉強すればいい。なんでもルール化（役所が役所の仕事を増やす）自体が時代遅れのような気がします。女性や少数派が選択しやすいフリーな環境つくりと弱者に対する暴力などの厳罰化が必要だと思います。	男性	40歳代
大学病院に就職し、仕事を続けて良いと言われ結婚しましたが、妊娠したら仕事を辞めると主人の親や祖母・主人も言い出しました。ストレスで喘息発症したほどです。たまたま資格を持っていた職種のため、再就職できましたが、大学病院のほうが仕事内容もお給料も、段違いに良かったので残念でした。大学病院で20年前にマタハラされたので、びっくりしました。（自分も子どもがいる人は、協力的で、マタハラはしませんでした。）小学生の頃から男女共同参画の教育をしてほしいです。	女性	50歳代
相手が悪くないのに離婚と言われて、離婚させられるのは納得いかなかったが、会社もあまり休めなかった（体調が悪く他の事で休むと欠勤が多くなる為）仕方なく離婚しました。なので、結婚しても別性が良いと思います。	その他	50歳代
男女での考え方や体力などに差があるので、全てに平等で同じ機会が与えられるのは良いことであると思う。しかしながら必要ではないことにもそれらを当てはめることはしなくても良いと思う。例えば女性消防団員など。	男性	50歳代

回答	性別	年齢
女性にしかできない出産期が特に問題で、母親の愛情を一番受けなければならない時期に親子を「離す」事は最悪である。しかし、日本の企業の多くは中小企業でこの事をリカバリーする事について人材を補充すれば、返り咲く事が出来なくなる為、企業としてはとても判断が難しい。雇用調整がうまく出来ない時、人材派遣に頼り支出が増え、負のスパイラルで企業存続に響く。言葉では言い表す事は難しい。毎月タイムカードを押すだけの企業は無いので、事実を見極める事を皆さん受けとめて欲しい。市民の苦悩をご存じですか？市民サービスが行き届いていると思いますか？	男性	60 歳代
男女にはそれぞれ特性があると思う。その特性を理解し、お互いを認め合うことから始まると考える。～らしくではなく、人としての力を活かすことが出来るための相互理解が出来てこそ、男女共同参画が活きると思う。	女性	60 歳代
市の行政において女性の感性を活かした政・施策を実行したら良いと思う。特に市の財政面で女性の能力を活用し、市の収入増を目指すべきだ。人口減少が大々的に言われているが、市内には人口減く収入 UP になる要素があります。スポーツの活性化が市のイメージアップになる。北本球場の改修で高校野球だけでなく、新大学リーグの定期戦、独立リーグの定期戦等。また公園内に北本カレー食堂、野菜の売店を設置する。球場使用日だけの営業でも良い。こういう施策には女性の感性が必要です。	男性	70 歳以上
男性女性を問わず、人を人として、互いにいたわり、尊敬し合える事を、基本に考え行動すれば良い。体力的、精神的差異は有るが、男女の差異では無く、人間の差異と捉えるべきで、給与、昇進等の差異は無くすべきで、法律整備も必要。この差異を無くす事が、女性の地位上昇の土台と思う。	男性	70 歳以上
男女がすべて平等でなければならないということには無理があると思う。男女それぞれ特有の性質・性格、生物学的な違いがあることを理解すべきであることを感じます。	男性	70 歳以上

■「男女共同参画社会」の周知・啓発（11件）

回答	性別	年齢
男女共同参画に対する理解を深める活動が大事だと思います。名前は聞いたことがあっても、どうしたものかイマイチ理解できていない方が多いと思います。	女性	10・20 歳代
市がやることも大事だが大勢が変わるとは思えないので、国などに推進の働きかけを継続するのが効果的なのではないか。地域の啓蒙は続けるべきとは考える。	男性	30 歳代
男女共同参画というものを良く知らないし、今のところ関心もあまりありません。私のような人は多いと思います。まずはよく知ってもらい関心を持ってもらうことが大事だと思います。	女性	40 歳代
もっと身近に話題が上がるようになるといいと思う。	男性	40 歳代
広報誌などを読んでいれば何となく理解できますが、全く読まない方々に周知するのは無理があります。小学・中学生の時に学び、議論する授業があったら平等に周知できると思います。	女性	40 歳代
大勢の方に認知してもらうために、もっと積極的な広報が必要だと思う。	男性	50 歳代
幼稚園や小学校など小さいうちからしっかりと基本的な男女平等を教えるべきだと思う。大きくなってから意識を変えるのは大変だから。	女性	60 歳代
法律等で定められた制度であるならばそれに従って具体的に進めて下さい。「共同参画」とは男女平等社会と何か違うのですか？言葉をたくさん作っても、ピンときません。役所仕事でなく、実のあるものに！	男性	60 歳代
このアンケートに答える中で、名称などは知っているのに内容はわからないものが大半である事に気づいた。知ったかぶりをしていた。こういうアンケートが実施されるって事は、私が出産を契機に仕事を辞めた 30 年程前と…あんまり状況は変わっていないんだなと思った。	女性	60 歳代
男女共同参画に関する意識・知識がなさ過ぎました。男女共同参画に関する内容が色々あるので、広報等で連載にて1つずつ案内があると良いと思います。	男性	60 歳代
男女とも互いに尊重し信頼すること。日々の生活が満足できる一日であること。金銭的に余裕のある夢と希望が実現できる環境であること。将来に期待できる子の育成をサポート出来ること etc.以上が出来、時間に余裕があれば誰もが知っているので参画出来る原点だと思う。市の共同参画を推進している人達が、自分自身振り返り、なぜ？と思うことを徹底的に議論すること。ペーパーで、間に合わせで終わる仕事と思わず、自分事と考え、良くディスカッションし、外に発信することである。	男性	70 歳以上

■子育てへの支援（6件）

回答	性別	年齢
何かを選ぶときに女性だから選ぶのではなく、相応しいと思える人を選ぶことが大事だと思います。それを考える時に、女性は家事や育児で男性よりも仕事に参加できないから男性が選ばれることは良くないと思います。同じように仕事に取り組んだ時に起こることを考える必要があります。そういう社会を作るためにはまず、学校での教育、男性が家事・育児に積極的に参加することができる職場の体制、本人の意識改革、が今重要なことだと思います。	女性	10・20歳代
子育てしやすい町にしてください。支援が足りません。老人ホームは沢山できているように思います。教育にはお金がかかりすぎますし、疲弊しているお母さんばかりです。子育てしやすい町になれば男女共同参画は進むはずですよ。	女性	40歳代
女性は、子ども・親・家庭などを見守る時間が必要になることが多い。子どもは高校、大学に高額な教育費がかかるので15歳以上の子どもがいる世帯ほど手厚くしてほしい。	女性	40歳代
終身雇用、年功序列がくずれていく状況で収入が増えず先行きが見えない不安を抱えて共に働き子育てするのは大変な暮らしです。親の収入にかかわらず教育だけでも格差がないように子育てできる社会制度の充実を願います。	女性	50歳代
少子化が進んでいるのは、女性の負担が大きいためだと思うので子育てや仕事をしやすい環境を作っていくべきではないかと思う。あるテレビで見たが家に使わなくなったものを無料で提供して市民の人が必要なものをゆすり合うところがあり、それはいいなと思ったので、年に何回か開催してみるといいのではないかなと思った。何か協力できることあれば高齢者の方も喜んで参加できるのではないかと思います。無駄なものがなくなり出費も少なくなりお互いいいのではないかと思います。	女性	60歳代
未来社会においては、男女共同参画は常識であるべきものだと思う。なかなか推進しないのは、古い社会通念が消えない事と、出産育児に対する支援が不足しているからだろう。女性の多くは、現実社会の中で諦めざるを得ない状況にあると思う。有能な人材が、そのように埋もれて行くのは、社会的損失に違いない。やはり社会制度の充実が急務だろう。	女性	60歳代

■その他（11件）

回答	性別	年齢
私に知人にLGBTQ等について法律・制度化をすることに反対している方がいます。その方は今までの日本のあり方が大きく変化してしまうと考えております。コロナの影響もあり、ストレスもあるせいか、今の日本に対する不満が多い方なので、なるべくそういう人たちの意見も聞き入れながら、新しいことに取り組んで頂き、市民・国民が暮らしやすい環境（生活）に力を入れて下さい。	女性	10・20歳代
みんなが生きやすいと感じられるよう、多様性を認められる社会になってほしい。	女性	30歳代
職業的に高齢者と接することが多いが、年齢が高い人ほど差別意識が強いと日々感じている。柔軟な発想と知見のある方に推進を任せて、北本市の未来と発展が続くように応援しています。	女性	40歳代
これからの社会、家庭においても男女ともに協力すべきだと思いますが、離婚が多いのはなぜなのか？やはりお金の問題なのか？社会でも特に男性には正社員であるべきと思いますが、若者は派遣で働く人が多く、将来が安心して年金とか、もらうことができるのか心配しています。	女性	60歳代
①いわゆる年金生活者（高齢者）の占める人口比が大きくなっている。共同参画推進の中での扱いを全世代一律とせず、工夫が必要に思う。②若い世代の正規雇用の比率は上がらない。このことの改善が共同参画の推進につながると思う。アルバイトでは年金保険も支払えない。公的支援活動は広報などで取りあげて下さい。	男性	70歳以上
共に協力して事業を行うのが一番の目標だと思います。	女性	70歳以上
この時とばかりに書かせて頂きますが少しご近所がうとうとようになってきました。と言うのはあっちでひそひそと人の悪口を言っている様な気がします。その人からよく電話もかかってきます。最近では行きませんがでもよく電話はかかってきます。私にとっては大変迷惑しています。買物に行くのもその家を通って行った方が近いのですがそのうちの庭で5、6人の人が集まって座談会をしているので通りづらいのです。何度かもうお茶飲みは、私はしたくないと断ったのですがそれでも電話はあります。私は行きませんが、何人かの人が言っていました。そこにはいない人の悪口を言っているとの事です。	女性	70歳以上

回答	性別	年齢
生きづらい世の中になってきましたが、私の時代には考えられない出来事が多く起きています。私共はつくづく幸せな時代を送れた事を感謝して居ます。	女性	70歳以上
高齢の為、もう今からでは出来る事が限られているので、健康で生活できれば良いと思っています。	女性	70歳以上
老人なのでよく分からない。	女性	70歳以上
私の様な独居老人に聞くのが間違っている。	男性	70歳以上